

### Ⅲ 調査結果の分析

---

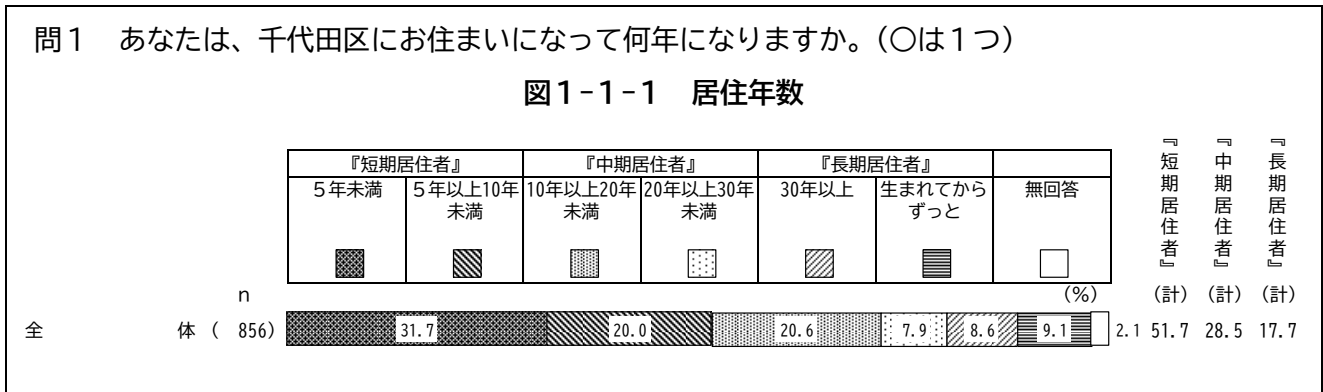


### Ⅲ 調査結果の分析

#### 1. 区民の定住性

##### (1) 居住年数

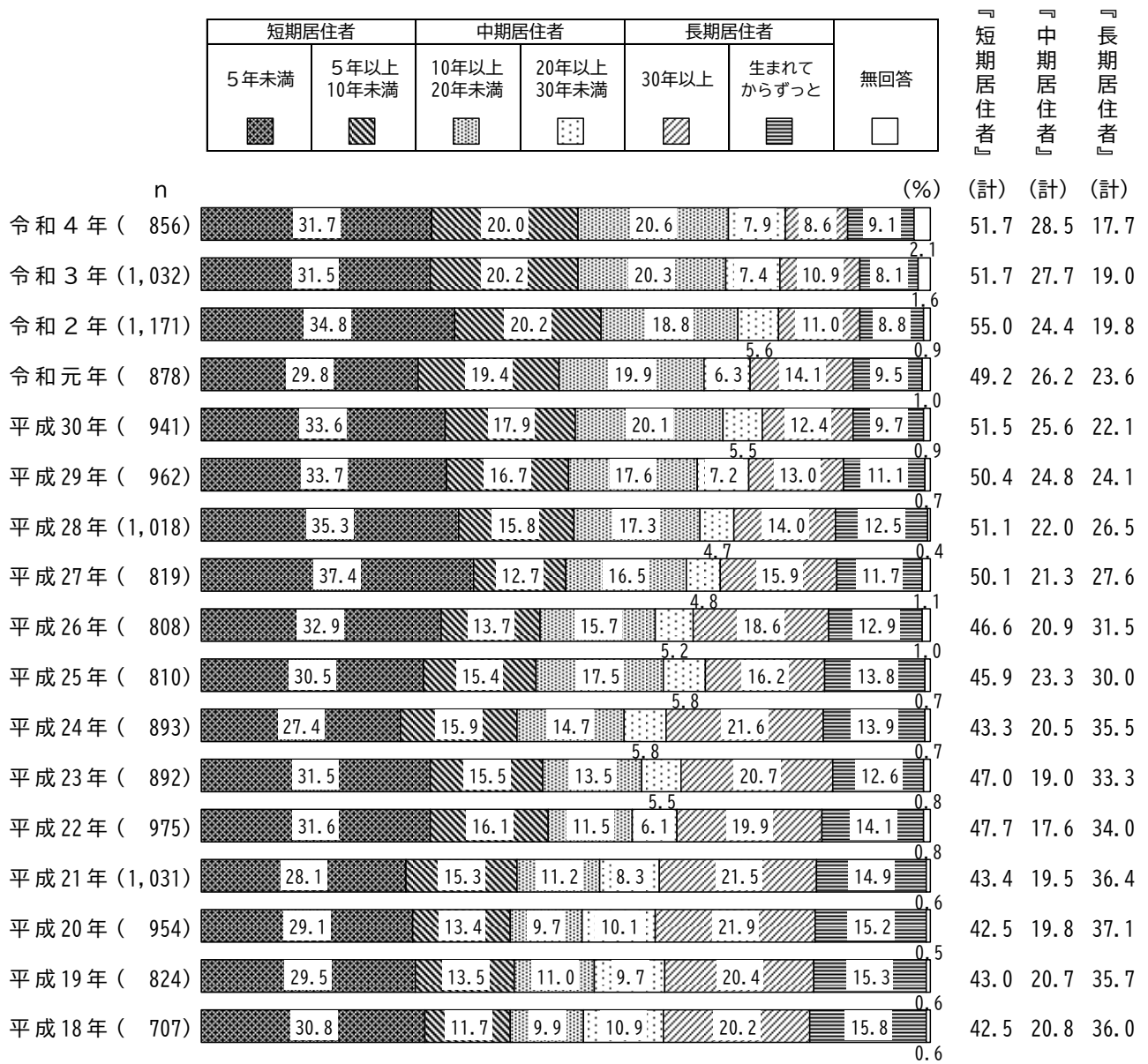
◇「5年未満」と「5年以上10年未満」を合わせた『短期居住者』が5割強



居住年数について聞いたところ、「5年未満」(31.7%)が3割強で最も高く、これに「5年以上10年未満」(20.0%)を合わせた『短期居住者』(51.7%)は5割強となっている。また、「30年以上」(8.6%)と「生まれてからずっと」(9.1%)を合わせた『長期居住者』(17.7%)は1割台半ばを超えている。(図1-1-1)

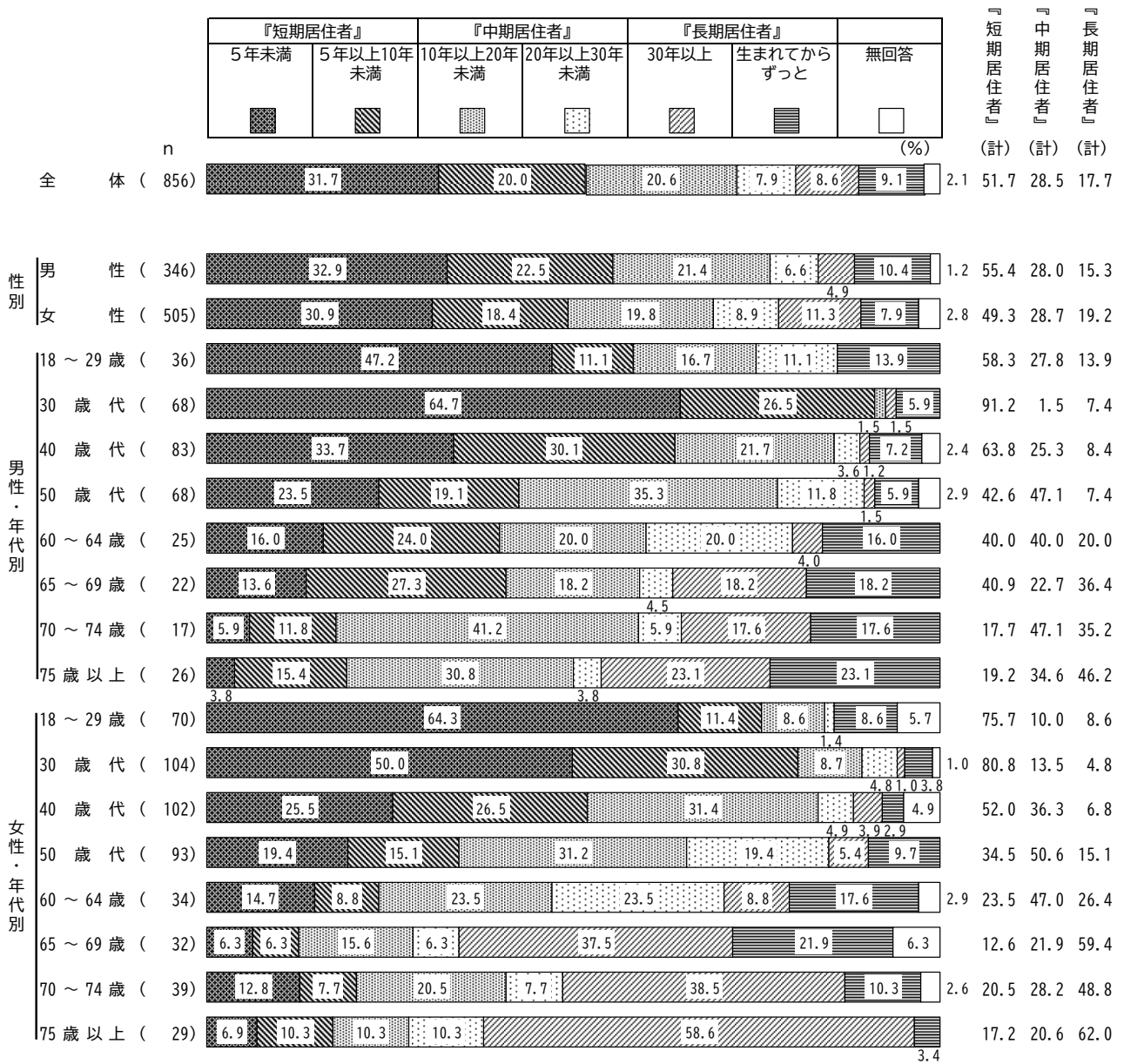
経年比較をみると、『長期居住者』は令和元年から減少傾向が続いている。『中期居住者』は令和2年から増加傾向が続いている。(図1-1-2)

図1-1-2 居住年数(経年比較)



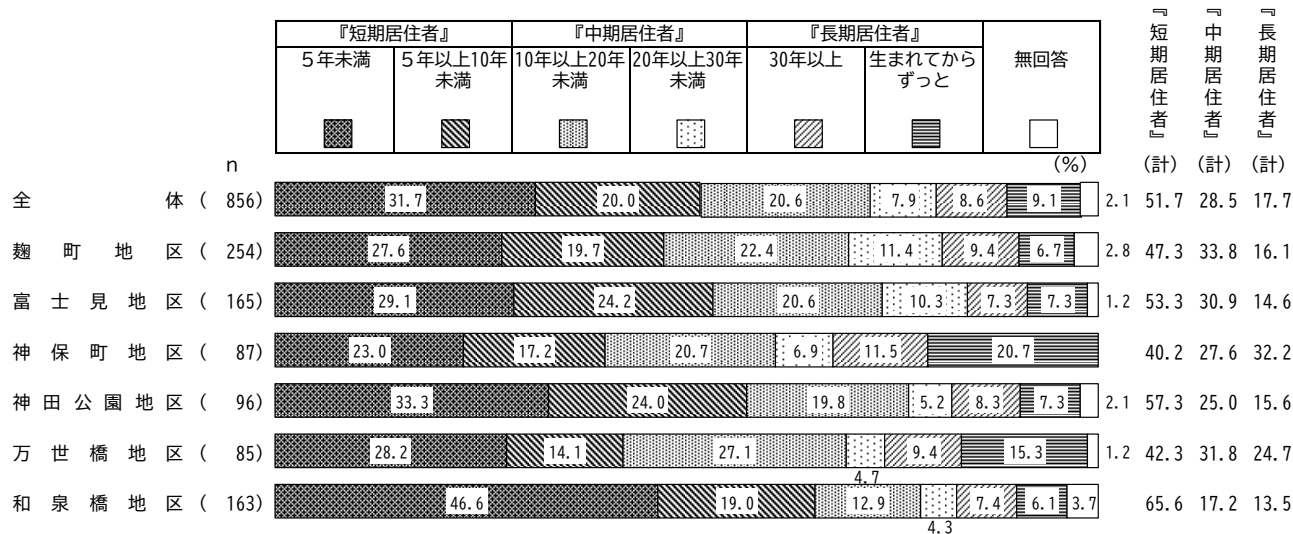
性・年代別にみると、男女ともに『短期居住者』は30歳代で、『長期居住者』は75歳以上で、それぞれ高い割合となっている。(図1-1-3)

図1-1-3 居住年数(性・年代別)



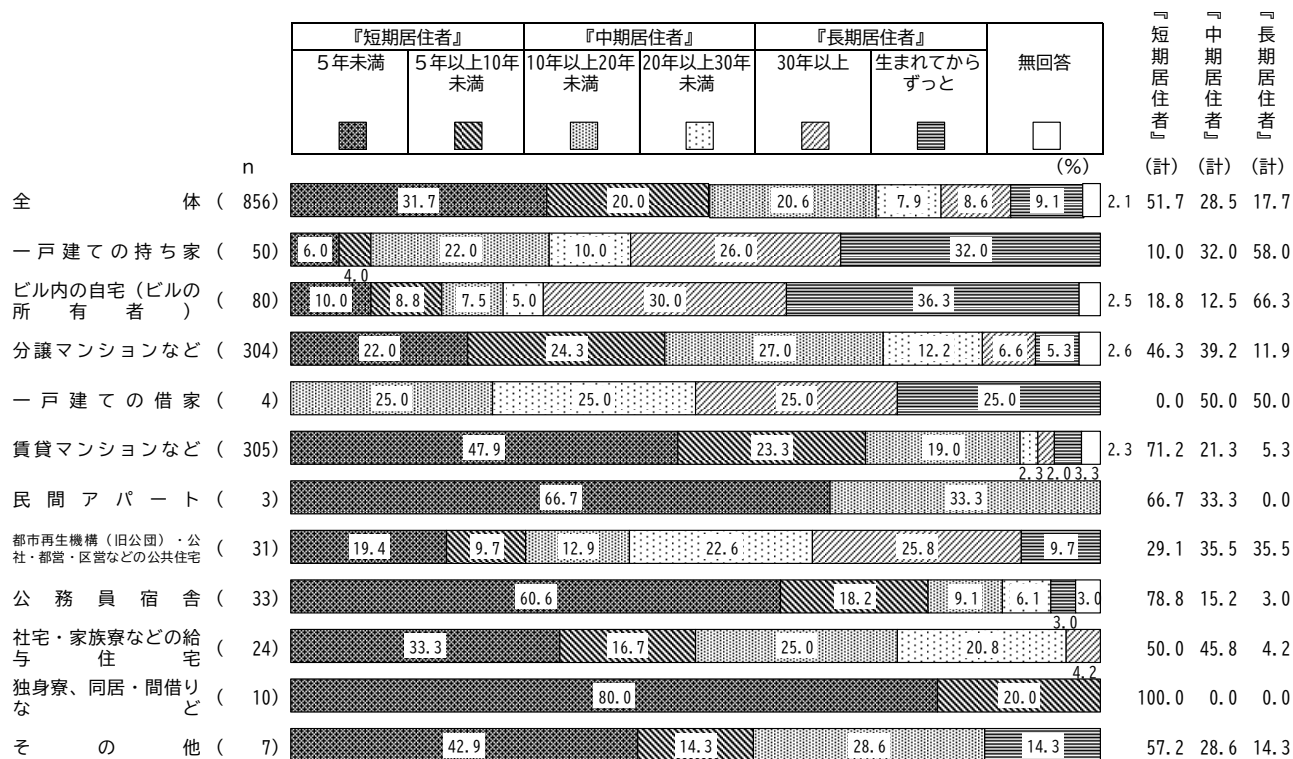
地区別にみると、『短期居住者』は和泉橋地区（65.6%）で、『中期居住者』は麴町地区（33.8%）で、『長期居住者』は神保町地区（32.2%）で、それぞれ高い割合となっている。（図1-1-4）

図1-1-4 居住年数（地区別）



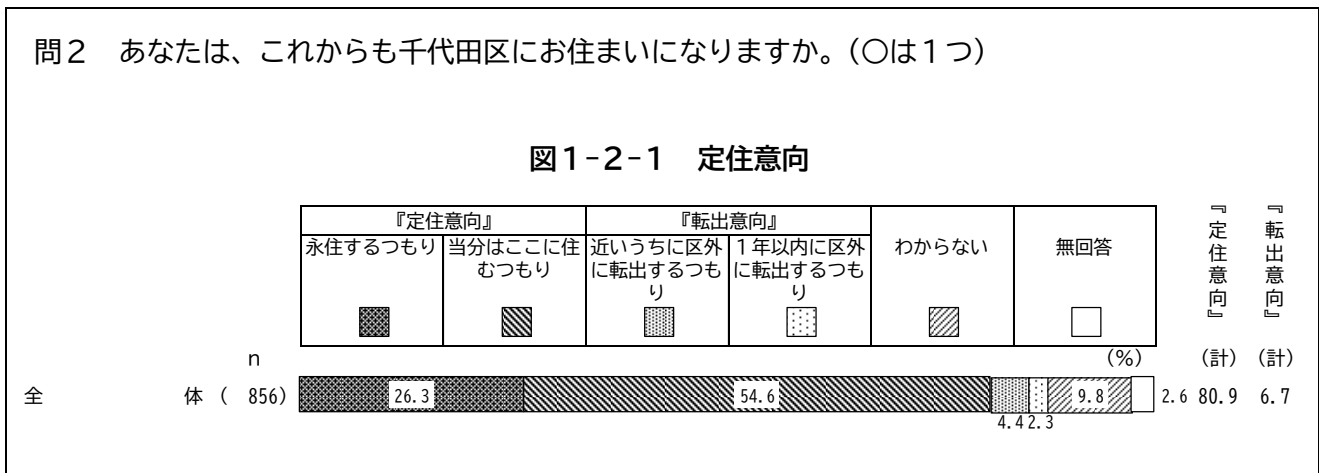
住居形態別にみると、『短期居住者』は公務員宿舎（78.8%）、賃貸マンションなど（71.2%）で、『中期居住者』は社宅・家族寮などの給与住宅（45.8%）で、『長期居住者』はビル内の自宅（ビルの所有者）（66.3%）で、それぞれ高い割合となっている。（図1-1-5）

図1-1-5 居住年数（住居形態別）



(2) 定住意向

◇「永住するつもり」と「当分はここに住むつもり」を合わせた『定住意向』が約8割



定住意向について聞いたところ、「当分はここに住むつもり」(54.6%)が5割台半ば近くで最も高く、これに「永住するつもり」(26.3%)を合わせた『定住意向』(80.9%)は約8割となっている。一方、「近いうちに区外に転出するつもり」(4.4%)と「1年以内に区外に転出するつもり」(2.3%)を合わせた『転出意向』(6.7%)は1割未満となっている。(図1-2-1)

経年比較をみると、平成17年以降「当分はここに住むつもり」が最も高い割合となっている。「永住するつもり」は令和元年以降減少している。(図1-2-2、1-2-3)

図1-2-2 定住意向（経年比較）

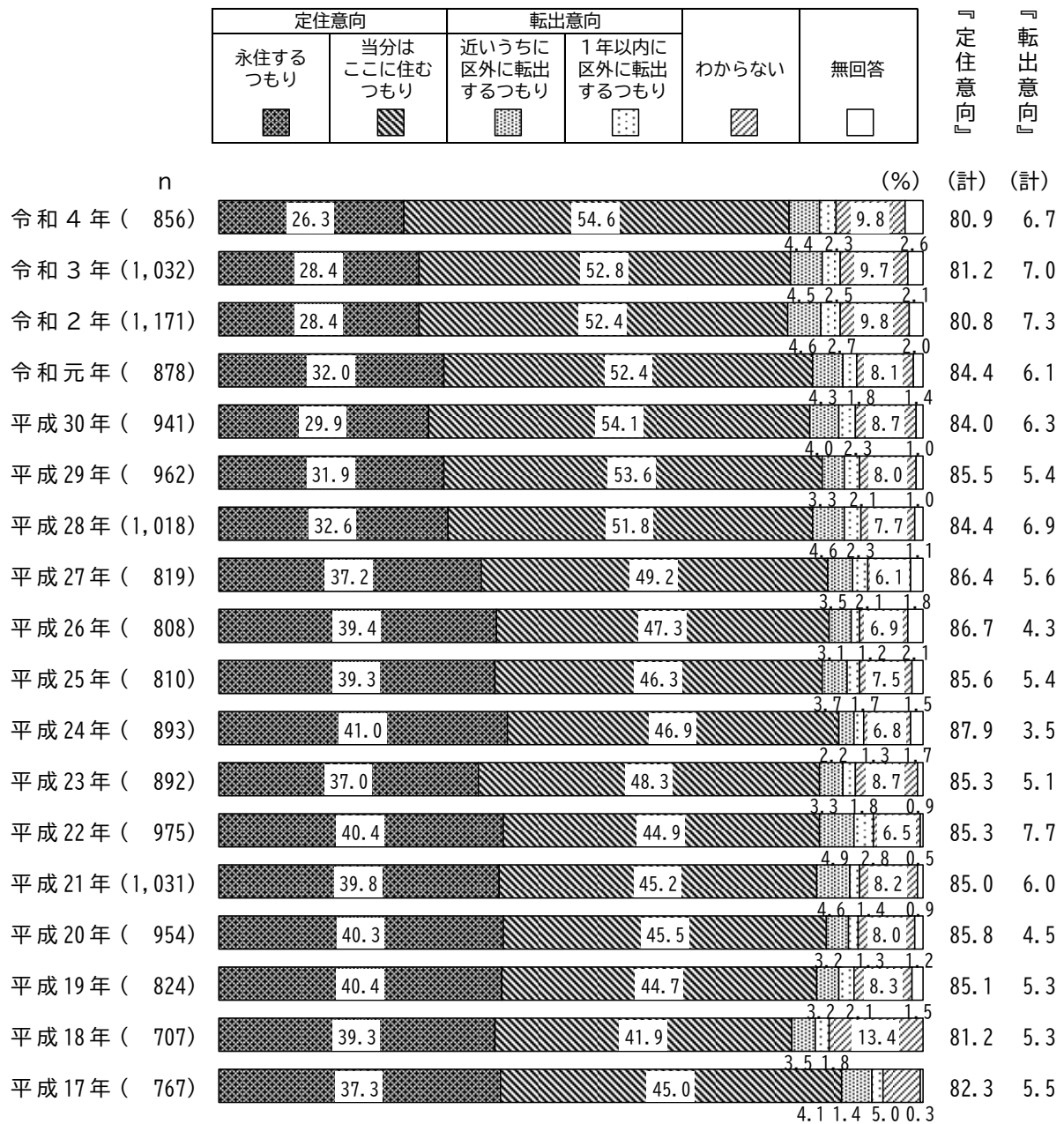
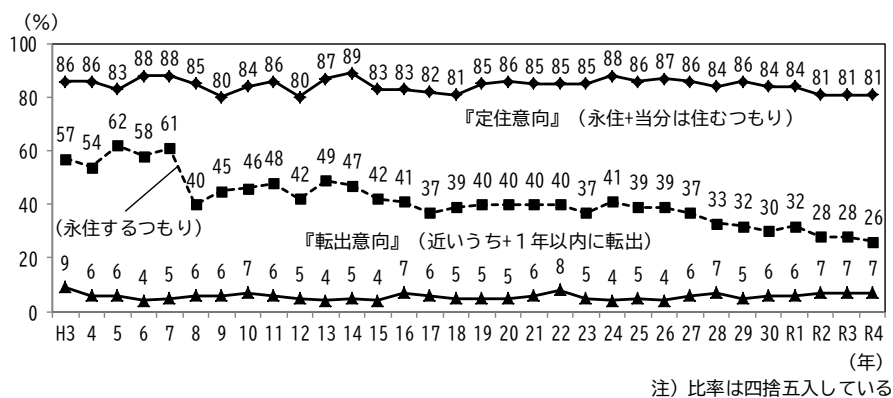


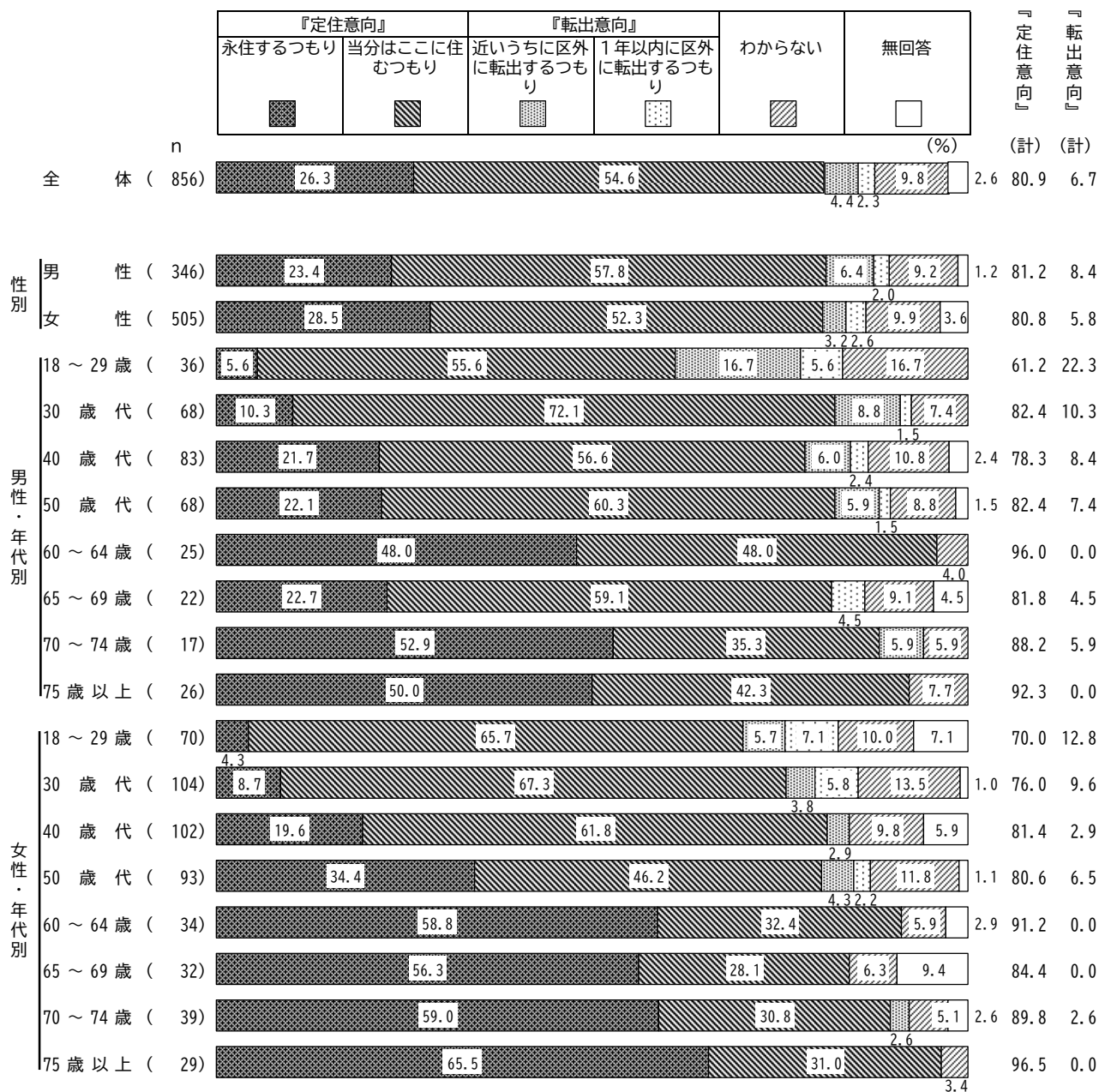
図1-2-3 定住意向（経年比較）





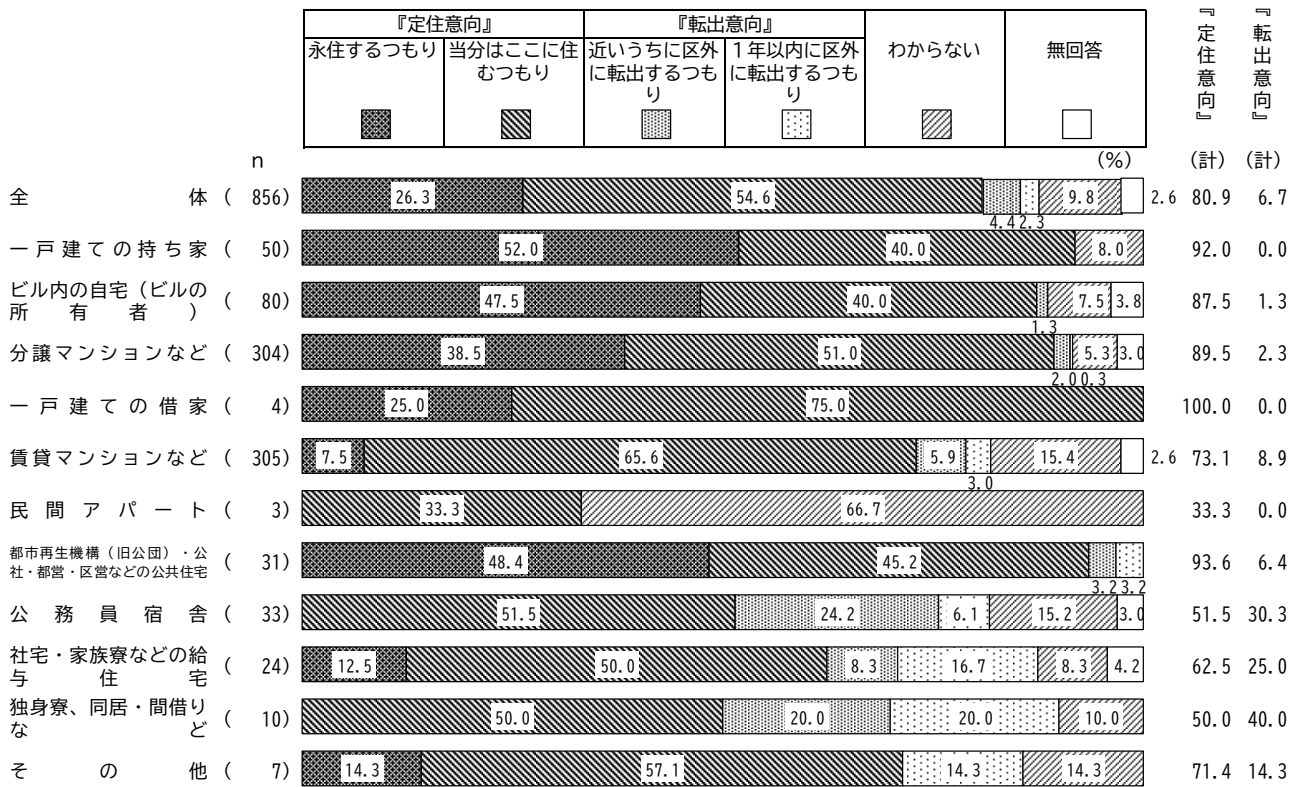
性・年代別にみると、「永住するつもり」は年代が上がるほど女性では割合が高くなる傾向がある。また、『定住意向』は女性75歳以上（96.5%）で、『転出意向』は男性18～29歳（22.3%）で、それぞれ高い割合となっている。（図1-2-4）

図1-2-4 定住意向（性・年代別）



住居形態別にみると、『定住意向』は都市再生機構(旧公団)・公社・都営・区営などの公共住宅(93.6%)で9割台半ば近くとなっている。(図1-2-5)

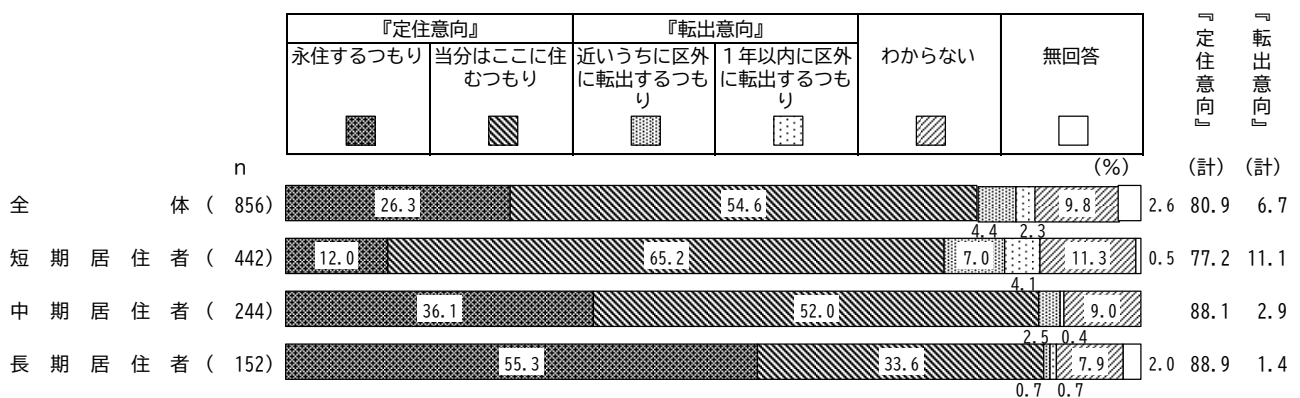
図1-2-5 定住意向(住居形態別)



居住年数別にみると、居住年数が長いほど定住意向の割合が高くなる傾向が見られる。

(図1-2-6)

図1-2-6 定住意向(居住年数別)

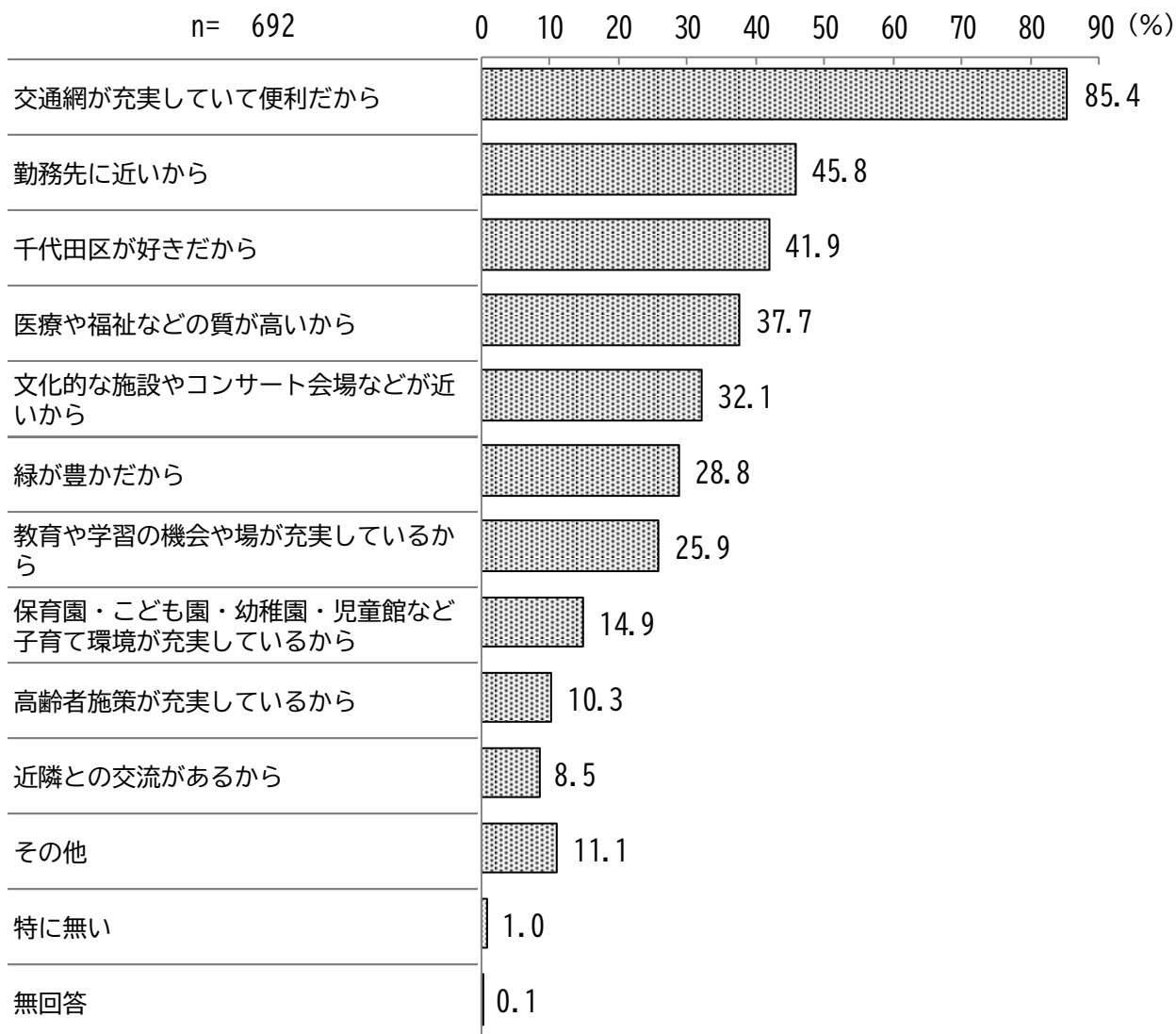


(2-1) 定住意向の理由

◇「交通網が充実していて便利だから」が8割台半ば

(問2で「1. 永住するつもり」か「2. 当分はここに住むつもり」とお答えの方に)  
問2-1 あなたが、そう思う理由は何ですか。(○はいくつでも)

図1-2-7 定住意向の理由

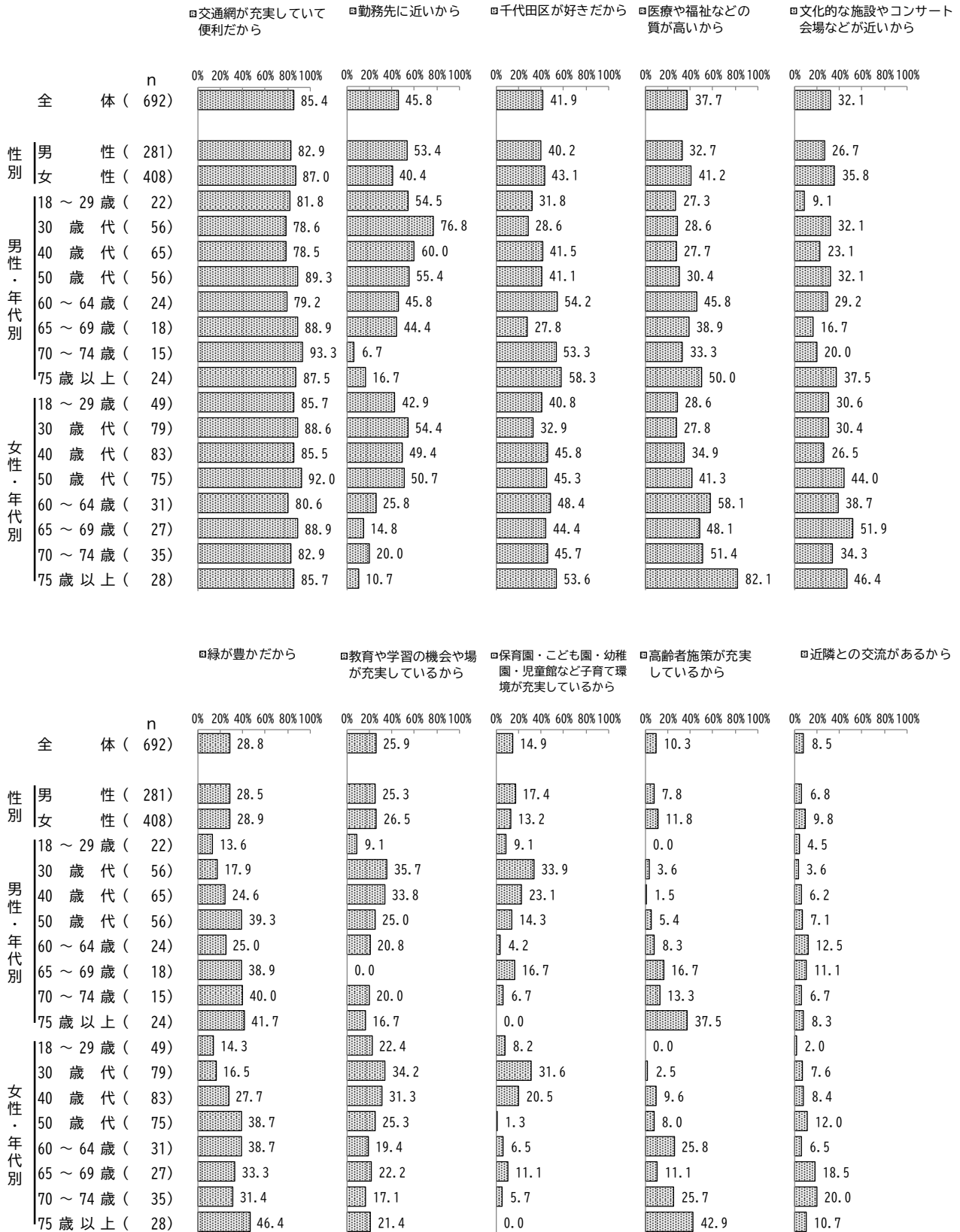


千代田区に「永住するつもり」か「当分はここに住むつもり」と回答した方に、その理由を聞いたところ、「交通網が充実していて便利だから」(85.4%)が8割台半ばで最も高く、次いで「勤務先に近いから」(45.8%)、「千代田区が好きだから」(41.9%)、「医療や福祉などの質が高いから」(37.7%)、「文化的な施設やコンサート会場が近いから」(32.1%)と続いている。(図1-2-7)

その他を回答した方は77人おり、主な意見として「治安がいいから」、「親族が住んでいるから」、「地元だから」、「実家だから」などが挙げられている。

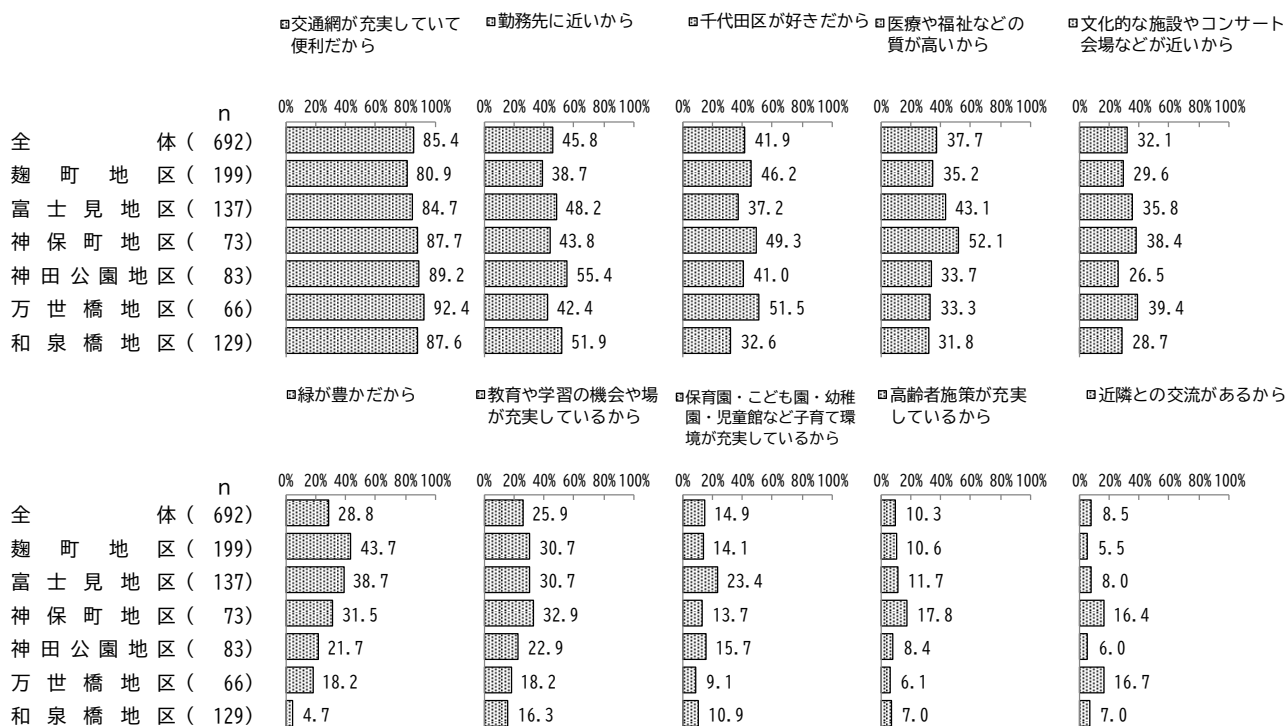
性・年代別にみると、「勤務先に近いから」は男性30歳代（76.8%）で7割台半ばを超えと高く、「千代田区が好きだから」は男性75歳以上（58.3%）が6割近く、「医療や福祉などの質が高いから」は女性75歳以上（82.1%）で8割強と高い割合となっている。（図1-2-8）

図1-2-8 定住意向の理由（性・年代別）上位10項目



地区別にみると、「千代田区が好きだから」は万世橋地区（51.5%）が5割強と高くなっている。また、「医療や福祉などの質が高いから」は神保町地区（52.1%）で、「緑が豊かだから」は麴町地区（43.7%）・富士見地区（38.7%）でそれぞれ高い割合となっている。（図1-2-9）

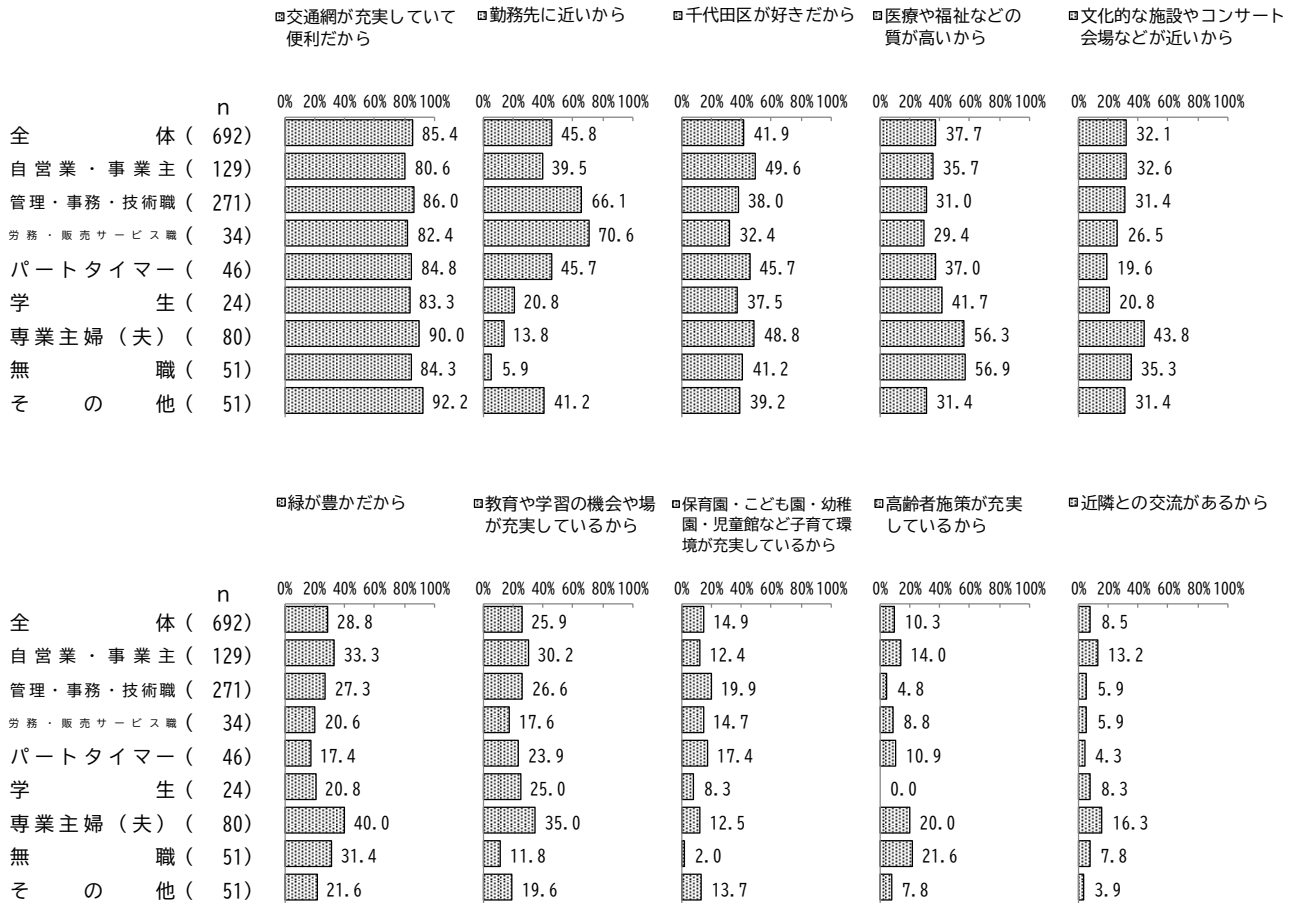
図1-2-9 定住意向の理由（地区別）上位10項目



職業別にみると、「勤務先に近いから」は労務・販売サービス職（70.6%）が約7割、管理・事務・技術職（66.1%）が6割台半ばを超えと高くなっている。また、「医療や福祉などの質が高いから」は無職（56.9%）、専業主婦（夫）（56.3%）でそれぞれ5割台半ばを超え高い割合となっている。

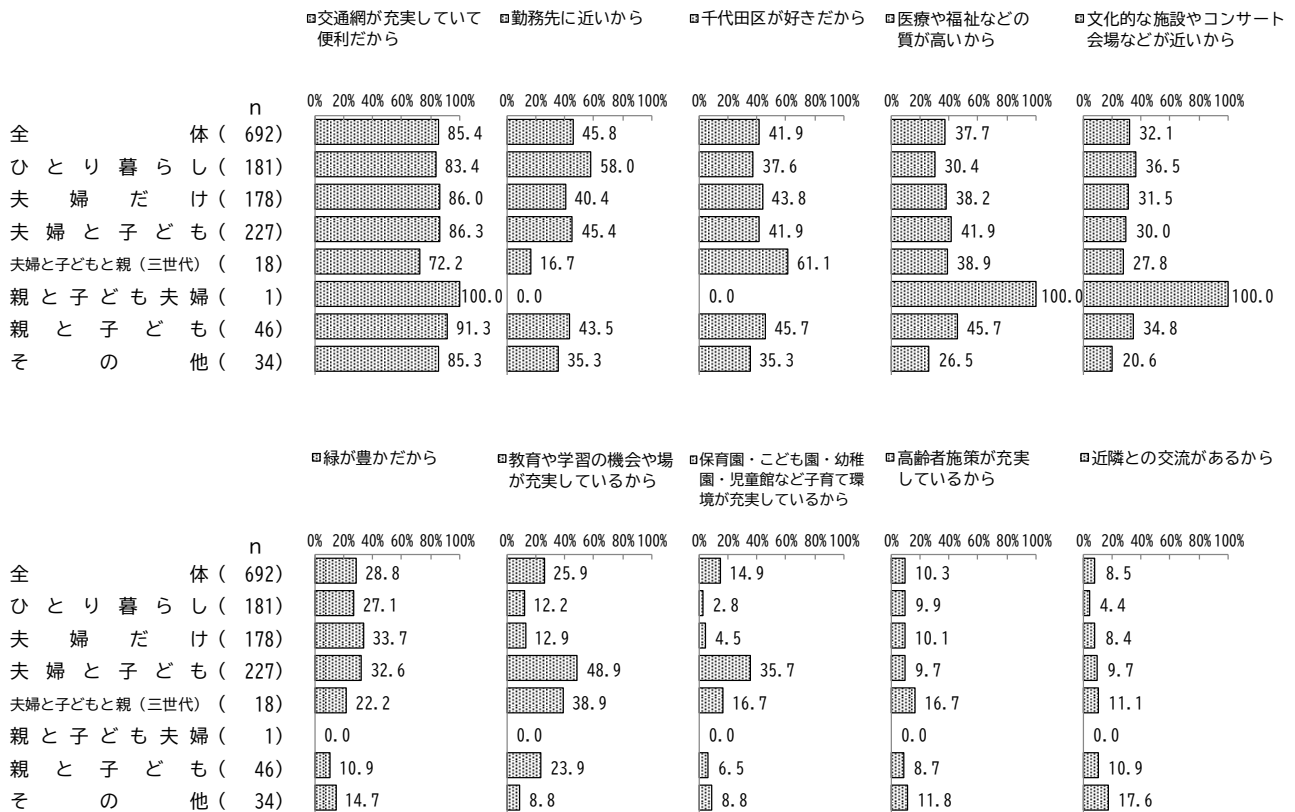
（図1-2-10）

図1-2-10 定住意向の理由（職業別）上位10項目



世帯構成別にみると、「千代田区が好きだから」は夫婦と子どもと親（三世代）の世帯（61.1%）が6割強、「教育や学習の機会や場が充実しているから」は夫婦と子ども（48.9%）の世帯が5割弱とそれぞれ高い割合となっている。（図1-2-11）

図1-2-11 定住意向の理由（世帯構成別）上位10項目



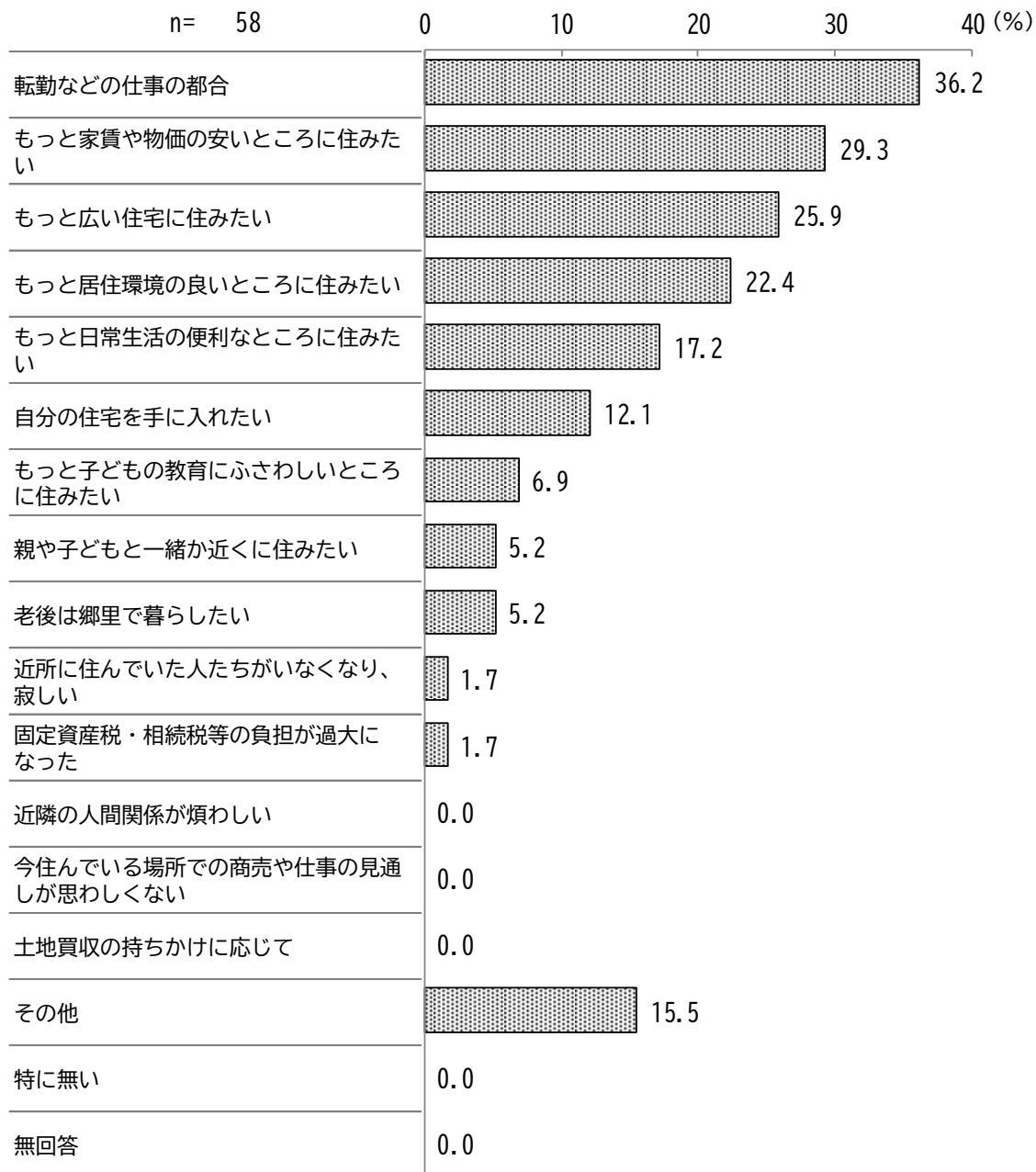
## (2-2) 転出意向の理由

◇「転勤などの仕事の都合」が3割台半ば超え

(問2で「3. 近いうちに区外に転出するつもり」か「4. 1年以内に区外に転出するつもり」とお答えの方に)

問2-2 あなたが、そう思う理由は何ですか。(○はいくつでも)

図1-2-12 転出意向の理由



千代田区から「近いうちに区外に転出するつもり」か「1年以内に区外に転出するつもり」と回答した方に、その理由を聞いたところ、「転勤などの仕事の都合」(36.2%)が3割台半ば超えと最も高く、次いで「もっと家賃や物価の安いところに住みたい」(29.3%)、「もっと広い住宅に住みたい」(25.9%)、「もっと居住環境の良いところに住みたい」(22.4%)、「もっと日常生活の便利なところに住みたい」(17.2%)と続いている。(図1-2-12)



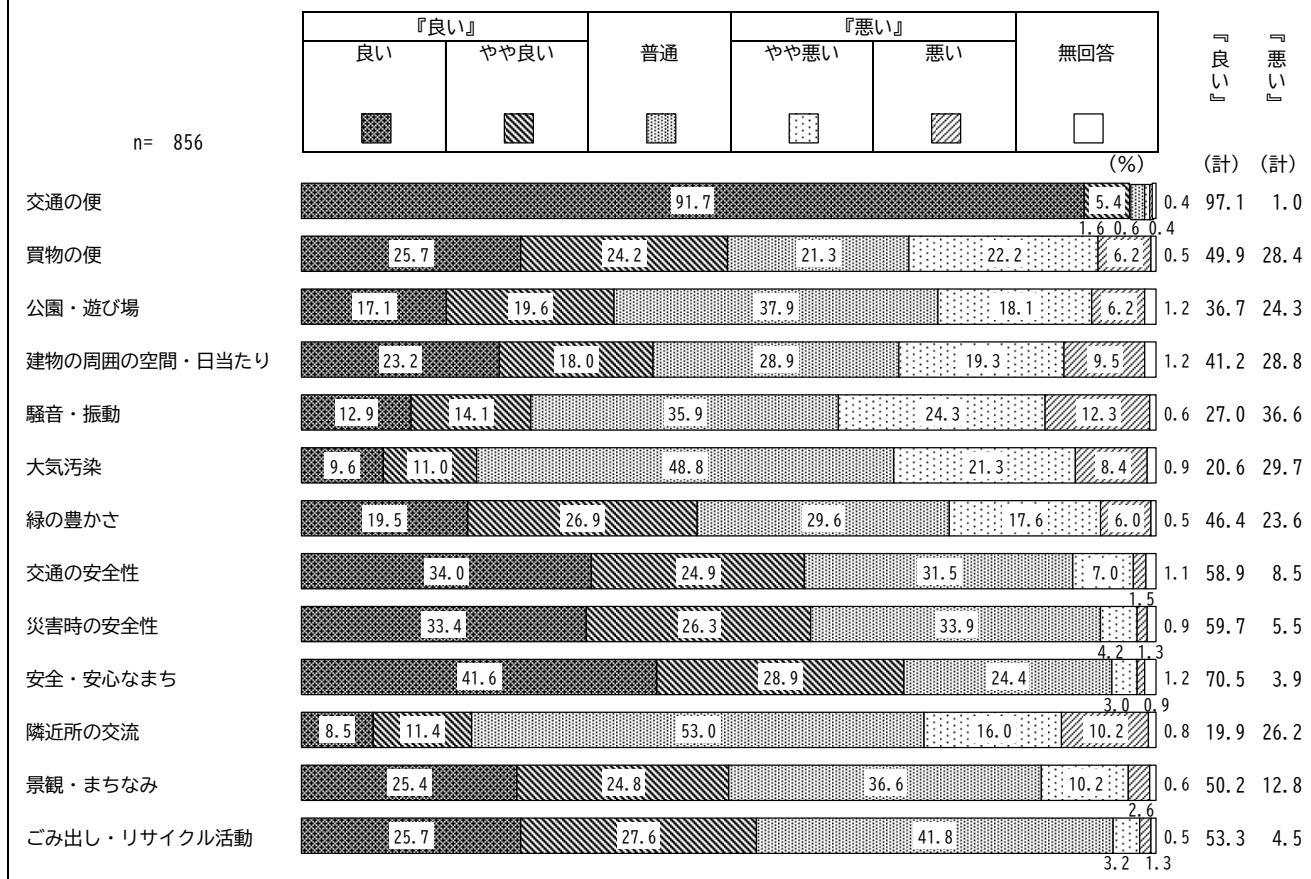
## 2. 居住環境評価

### (1) 周辺の生活環境評価

◇『良い』は“交通の便”で9割台半ば超え、『悪い』は“騒音・振動”で3割台半ば超え

問3 あなたは、ご自宅の周辺の生活環境についてどう思いますか。各項目ごとに5段階で評価してください。(○はそれぞれに1つ)

図2-1-1 周辺の生活環境評価



周辺の生活環境の評価として、『良い』が最も高い項目は“交通の便”（97.1%）で9割台半ば超えと高くなっている。『悪い』が最も高い項目は“騒音・振動”（36.6%）で3割台半ばを超えている。（図2-1-1）

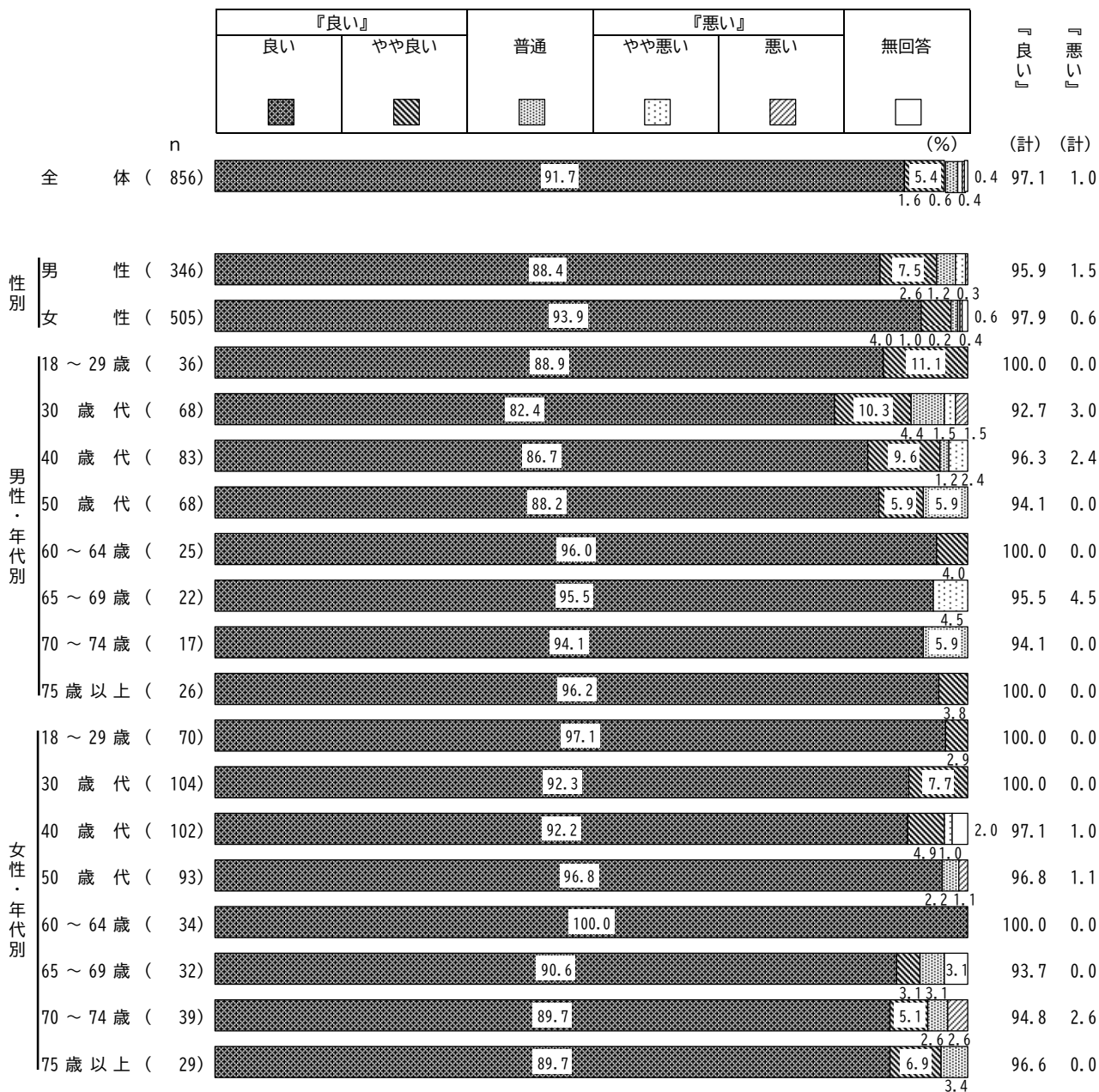
「良い」と「やや良い」を合わせた『良い』と、「やや悪い」と「悪い」を合わせた『悪い』の上位5項目を以下に表した。

『良い』上位5項目			『悪い』上位5項目		
1	交通の便	97.1%	1	騒音・振動	36.6%
2	安全・安心なまち	70.5%	2	大気汚染	29.7%
3	災害時の安全性	59.7%	3	建物の周囲の空間・日当たり	28.8%
4	交通の安全性	58.9%	4	買物の便	28.4%
5	ごみ出し・リサイクル活動	53.3%	5	隣近所の交流	26.2%

“交通の便”について性・年代別にみると、『良い』は男性 18～29 歳、男性 60～64 歳、男性 75 歳以上、女性 18～29 歳、女性 30 歳代、女性 60～64 歳（100.0%）で最も高くなっている。

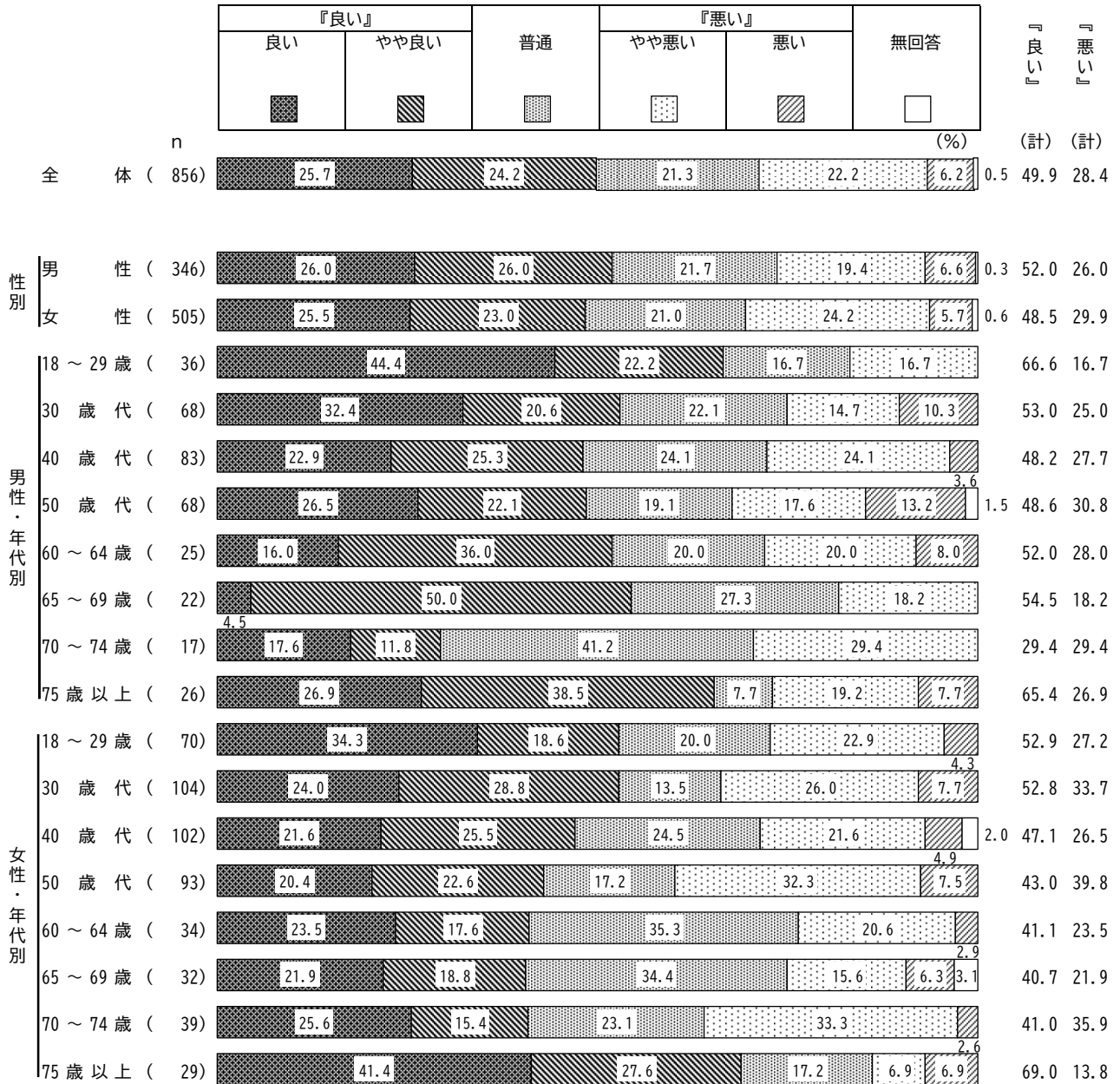
(図 2-1-2)

図 2-1-2 周辺の生活環境評価 1. 交通の便 (性・年代別)



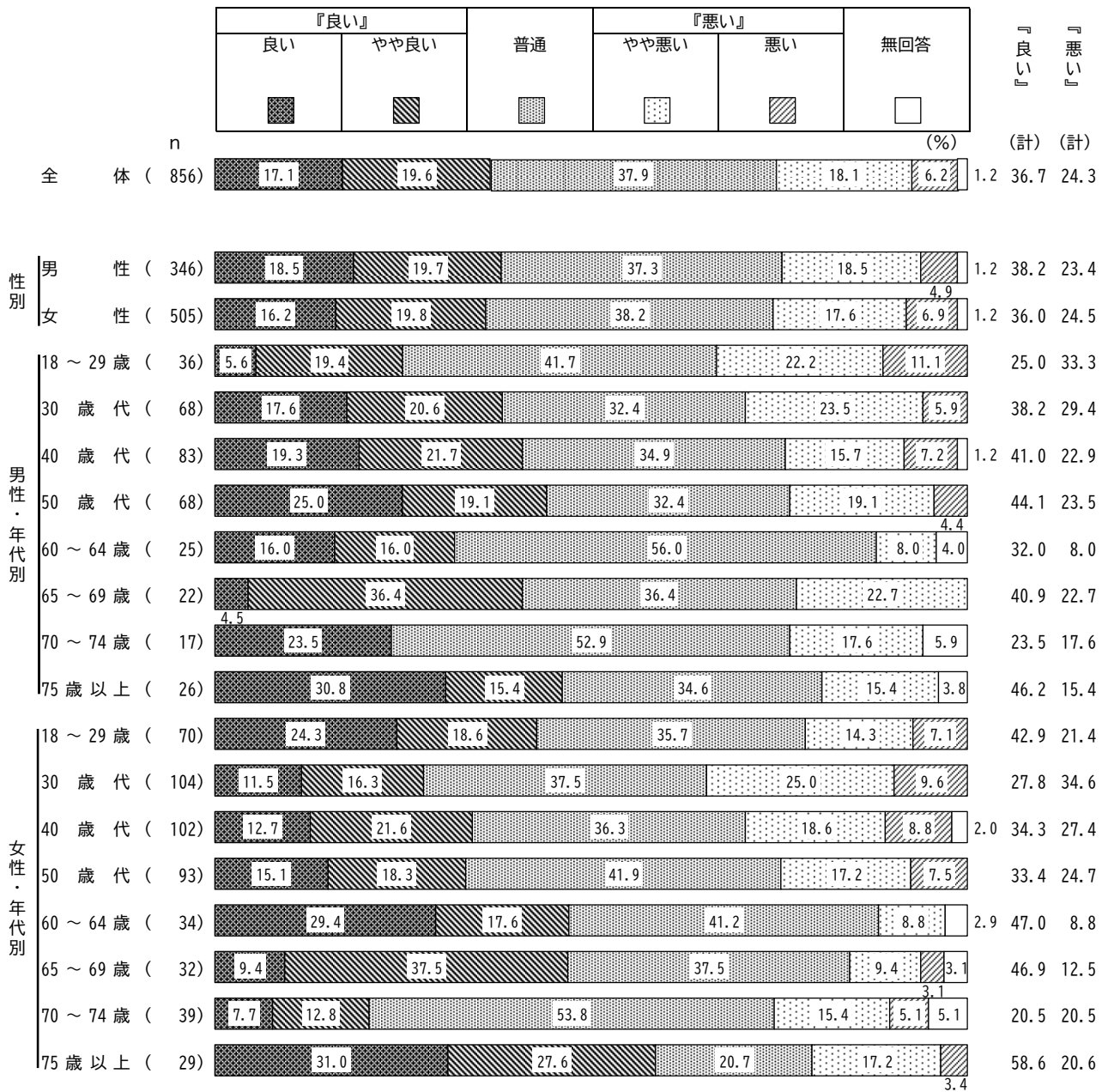
“買物の便”について性・年代別にみると、『良い』は女性 75 歳以上(69.0%)、男性 18~29 歳(66.6%)、男性 75 歳以上 (65.4%) で 6 割台と高くなっている。一方、『悪い』は女性 50 歳代 (39.8%) で 4 割弱となっている。(図 2-1-3)

図 2-1-3 周辺の生活環境評価 2. 買物の便 (性・年代別)



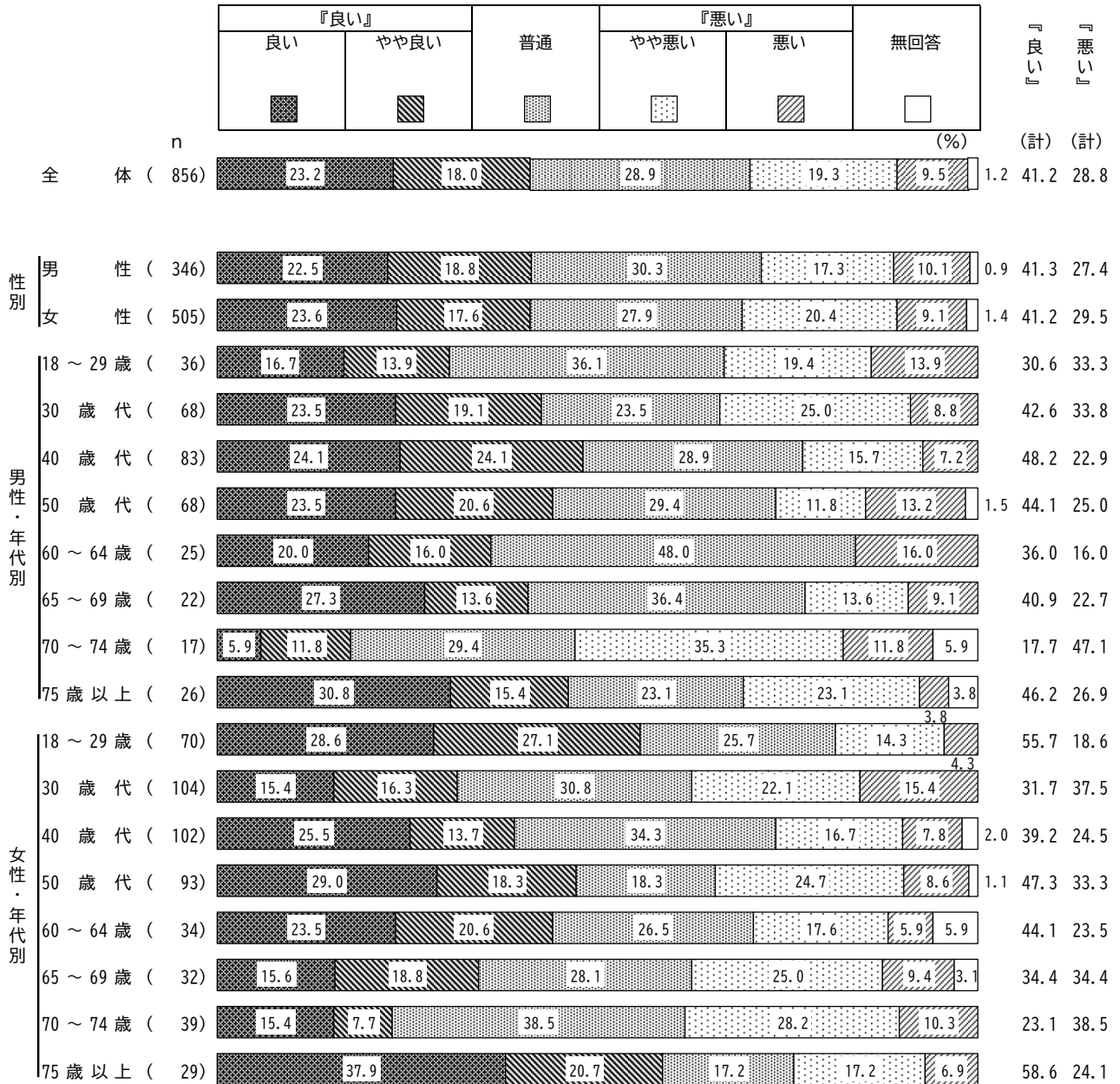
“公園・遊び場”について性・年代別にみると、『良い』は女性75歳以上（58.6%）で6割近くと高くなっている。一方、『悪い』は女性30歳代（34.6%）、男性18～29歳（33.3%）で3割台半ば近くと高くなっている。（図2-1-4）

図2-1-4 周辺の生活環境評価 3. 公園・遊び場（性・年代別）



“建物の周囲の空間・日当たり”について性・年代別にみると、『良い』は女性75歳以上(58.6%)で6割近くと高くなっている。一方、『悪い』は男性70~74歳(47.1%)で4割台半ばを超えと高くなっている。(図2-1-5)

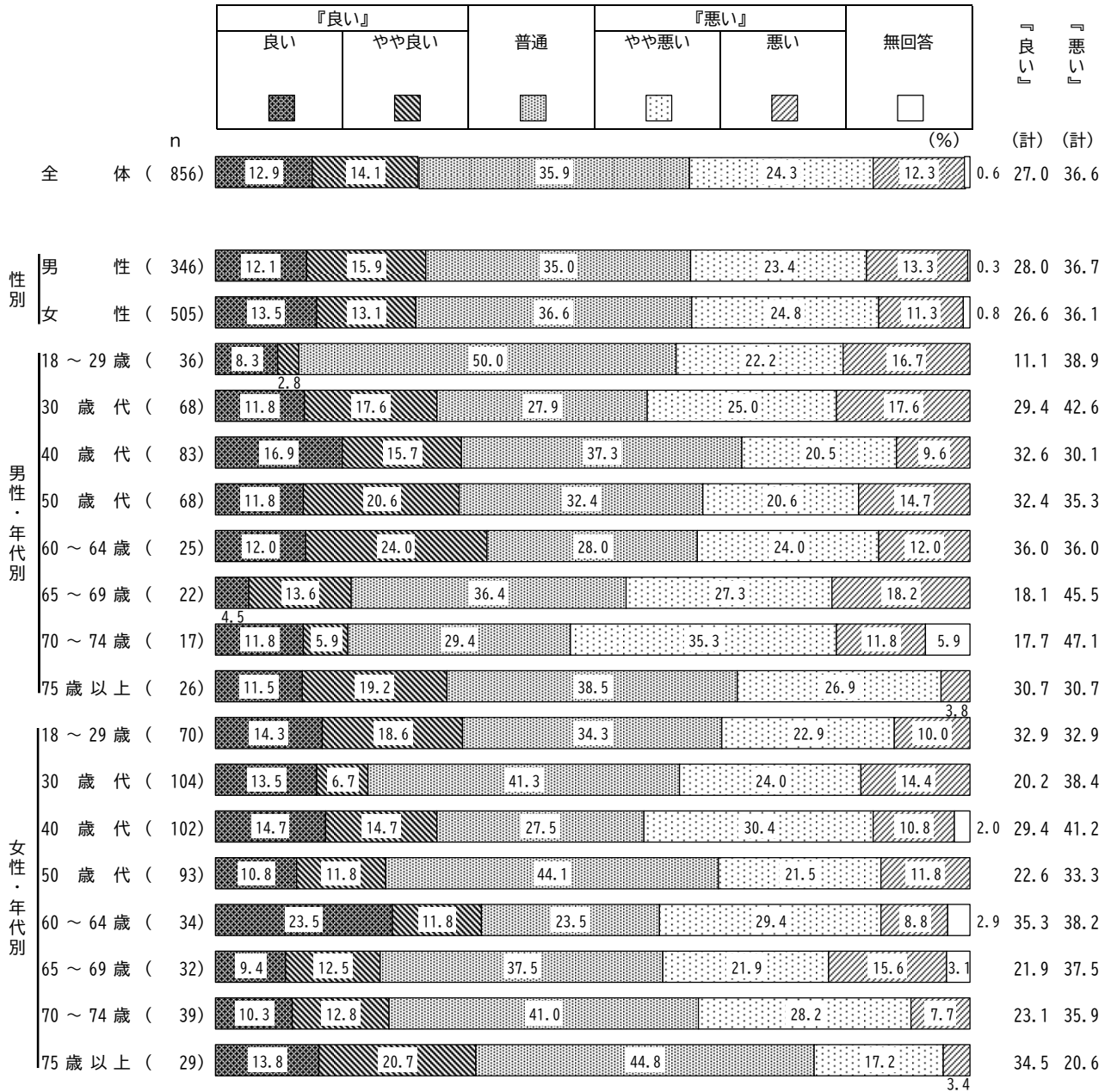
図2-1-5 周辺の生活環境評価 4. 建物の周囲の空間・日当たり(性・年代別)



“騒音・振動”について性・年代別にみると、『良い』は男性60～64歳（36.0%）で3割台半ばを超えと高くなっている。一方、『悪い』は男性70～74歳（47.1%）で4割台半ばを超えと高くなっている。

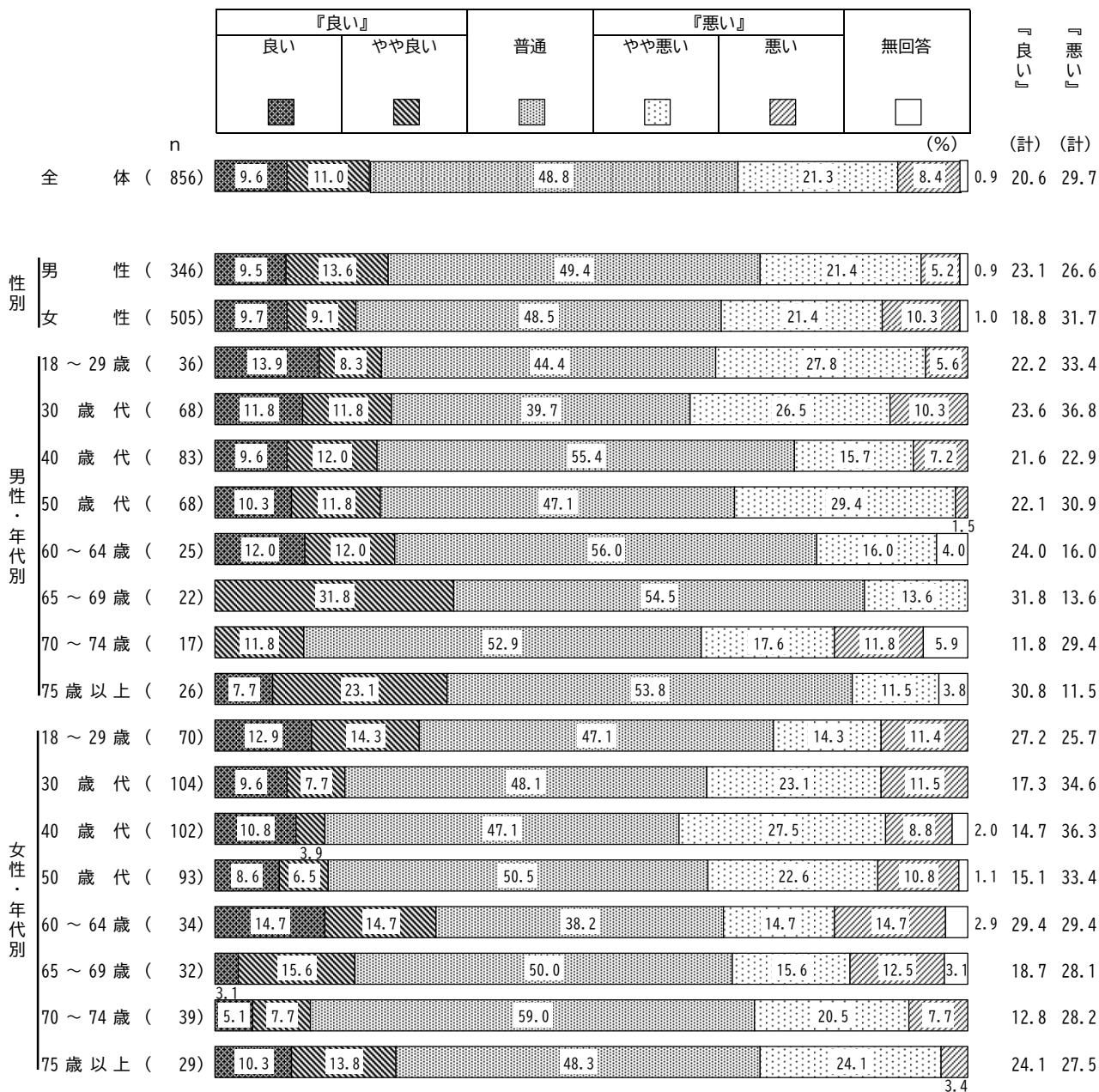
(図2-1-6)

図2-1-6 周辺の生活環境評価 5. 騒音・振動（性・年代別）



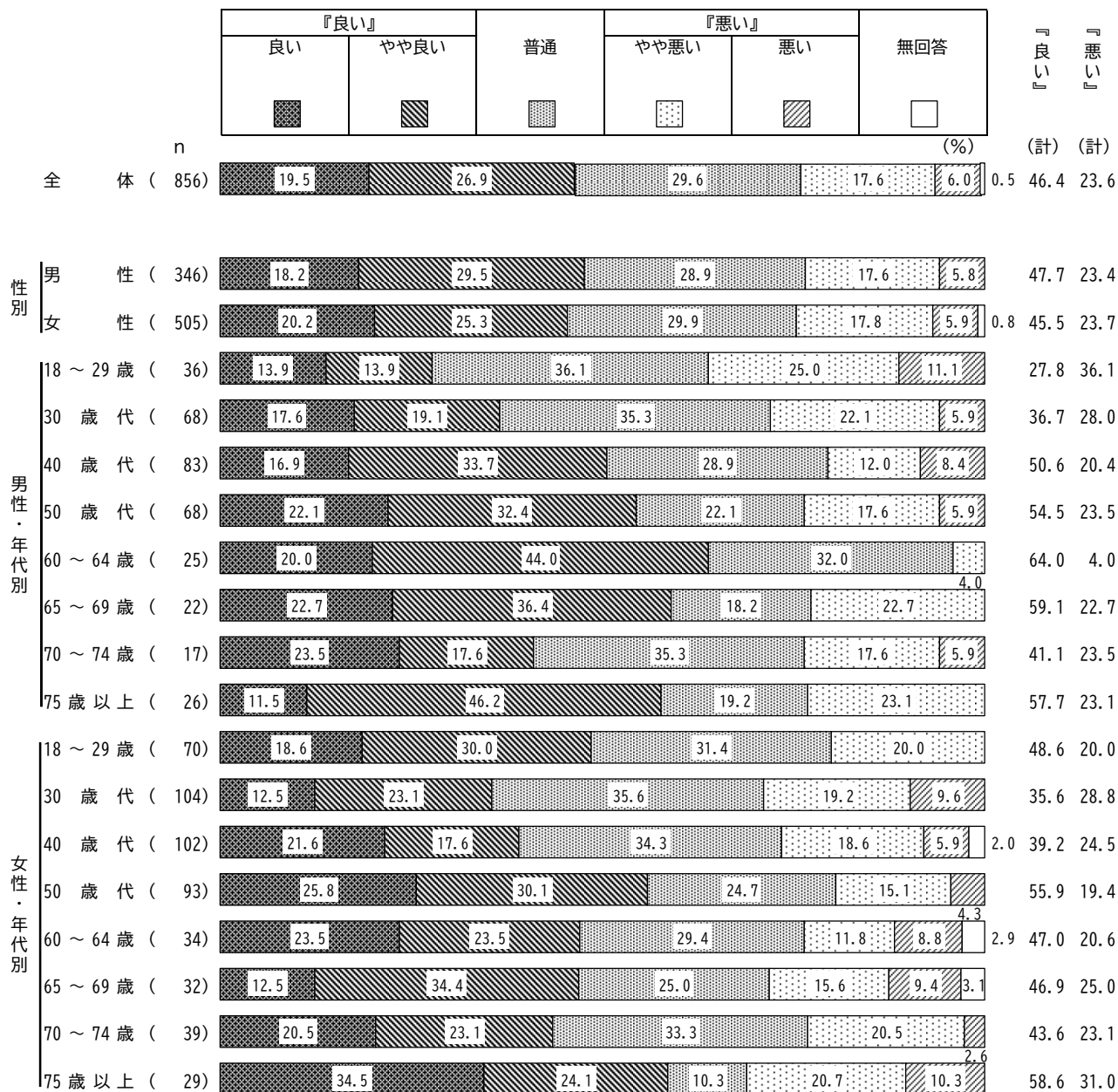
“大気汚染”について性・年代別にみると、『良い』は男性 65～69 歳（31.8%）で 3 割強と高くなっている。一方、『悪い』は男性 30 歳代（36.8%）、女性 40 歳代（36.3%）で 3 割台半ばを超えと高くなっている。（図 2-1-7）

図 2-1-7 周辺の生活環境評価 6. 大気汚染（性・年代別）



“緑の豊かさ”について性・年代別にみると、『良い』は男性60～64歳（64.0%）で6割台半ば近くと高くなっている。一方、『悪い』は男性18～29歳（36.1%）で3割台半ばを超えと高くなっている。  
 (図2-1-8)

図2-1-8 周辺の生活環境評価 7. 緑の豊かさ（性・年代別）

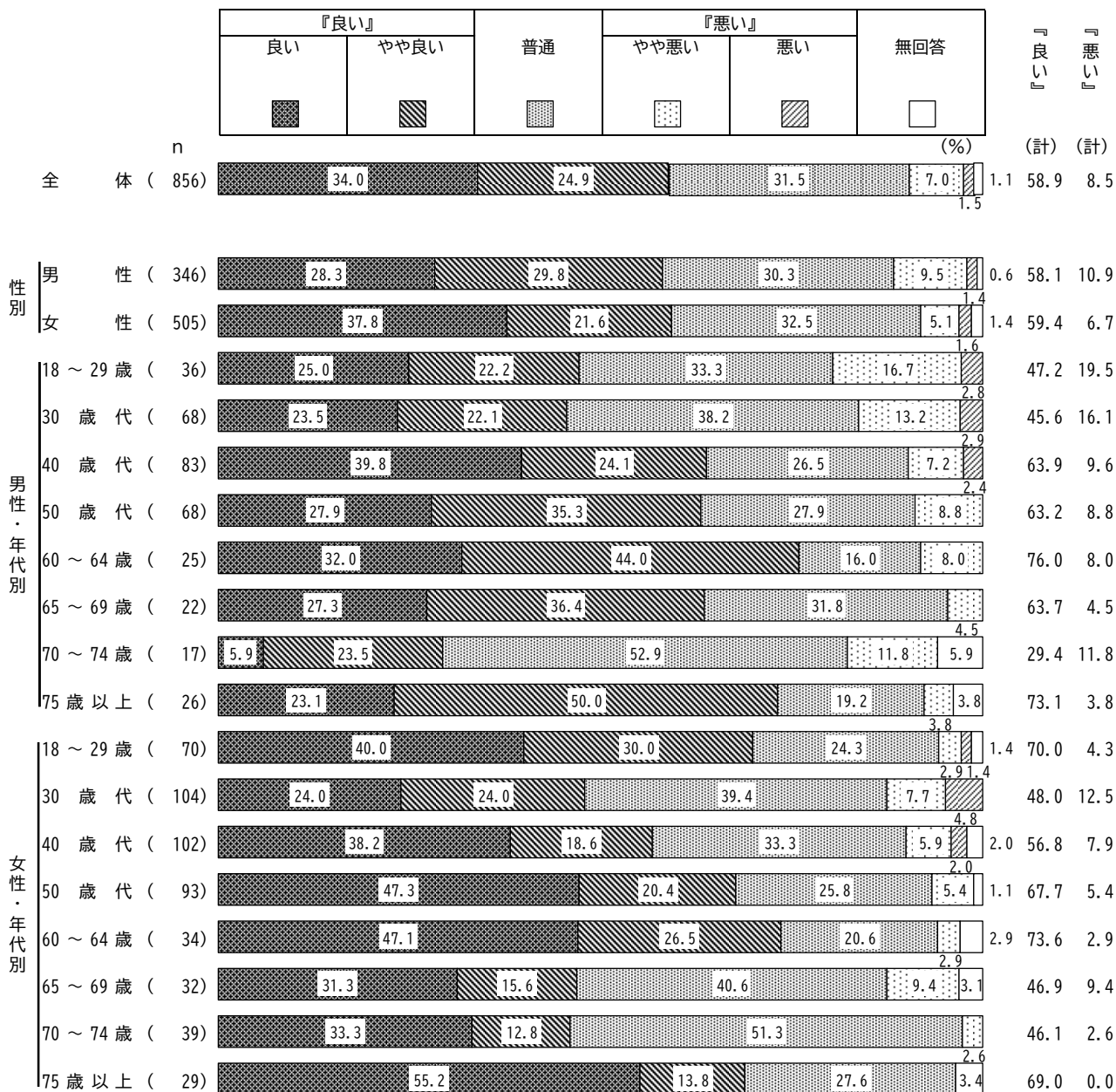




“交通の安全性”について性・年代別にみると、『良い』は男性 60～64 歳（76.0%）で 7 割台半ばを超えと高くなっている。一方、『悪い』は男性 18～29 歳（19.5%）で 2 割弱と高くなっている。

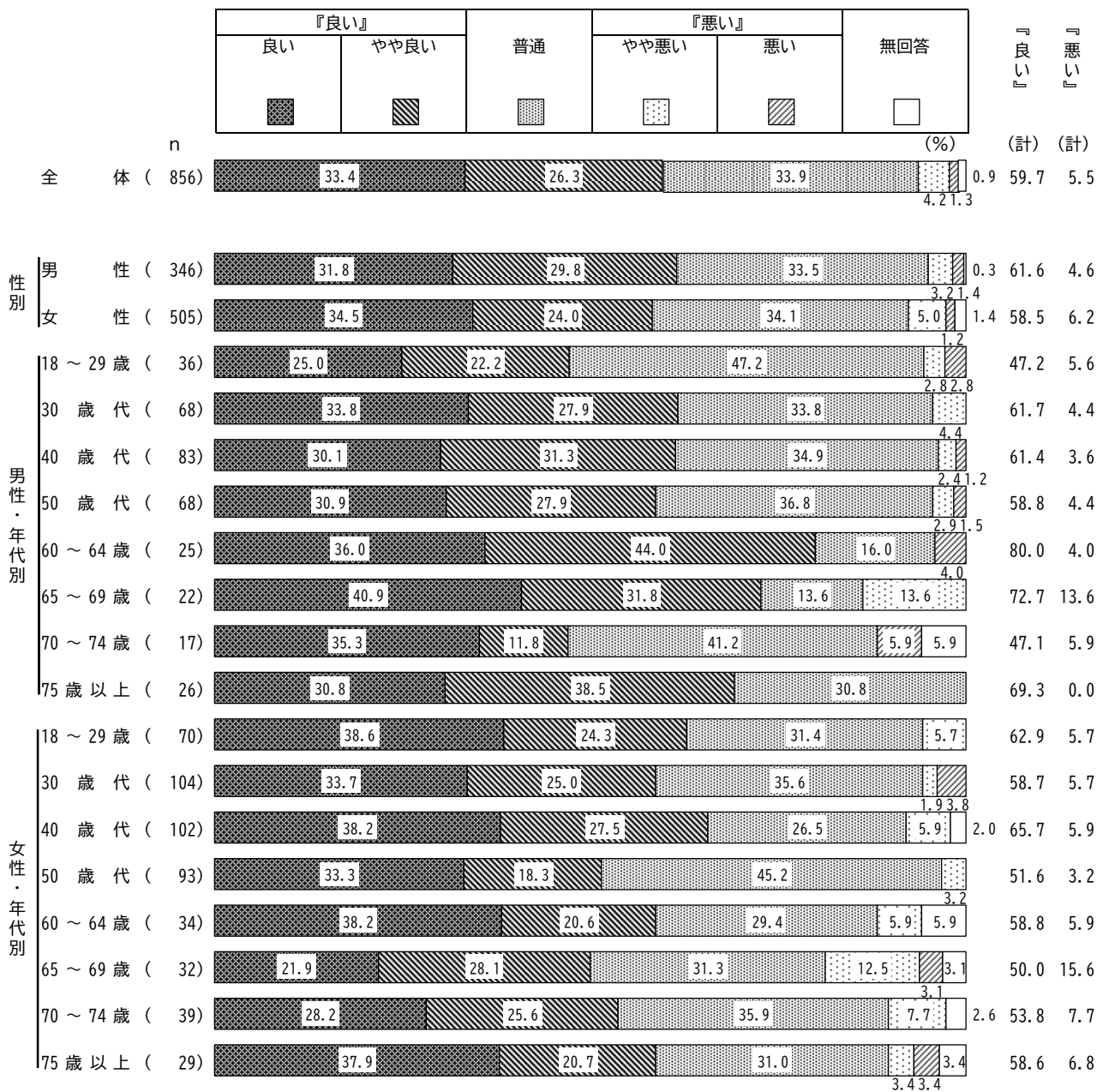
(図 2-1-9)

図 2-1-9 周辺の生活環境評価 8. 交通の安全性 (性・年代別)



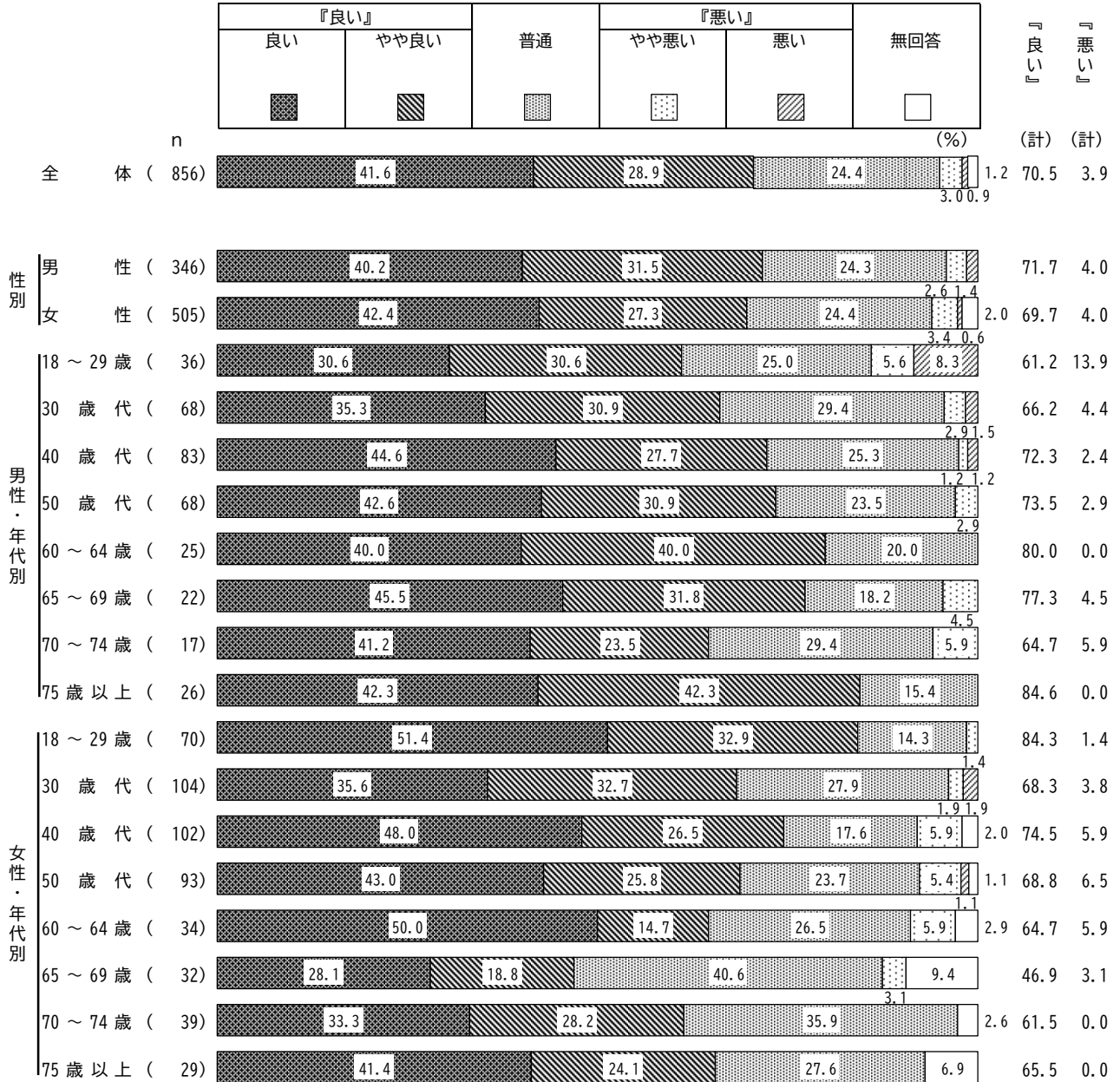
“災害時の安全性”について性・年代別にみると、『良い』は男性60～64歳（80.0%）で8割と高くなっている。一方、『悪い』は女性65～69歳（15.6%）、男性65～69歳（13.6%）が1割台と高くなっている。（図2-1-10）

図2-1-10 周辺の生活環境評価 9. 災害時の安全性（性・年代別）



“安全・安心なまち”について性・年代別にみると、『良い』は男性75歳以上(84.6%)、女性18～29歳(84.3%)で8割台半ば近くと高くなっている。一方、『悪い』は男性18～29歳(13.9%)で1割台半ば近くと高くなっている。(図2-1-11)

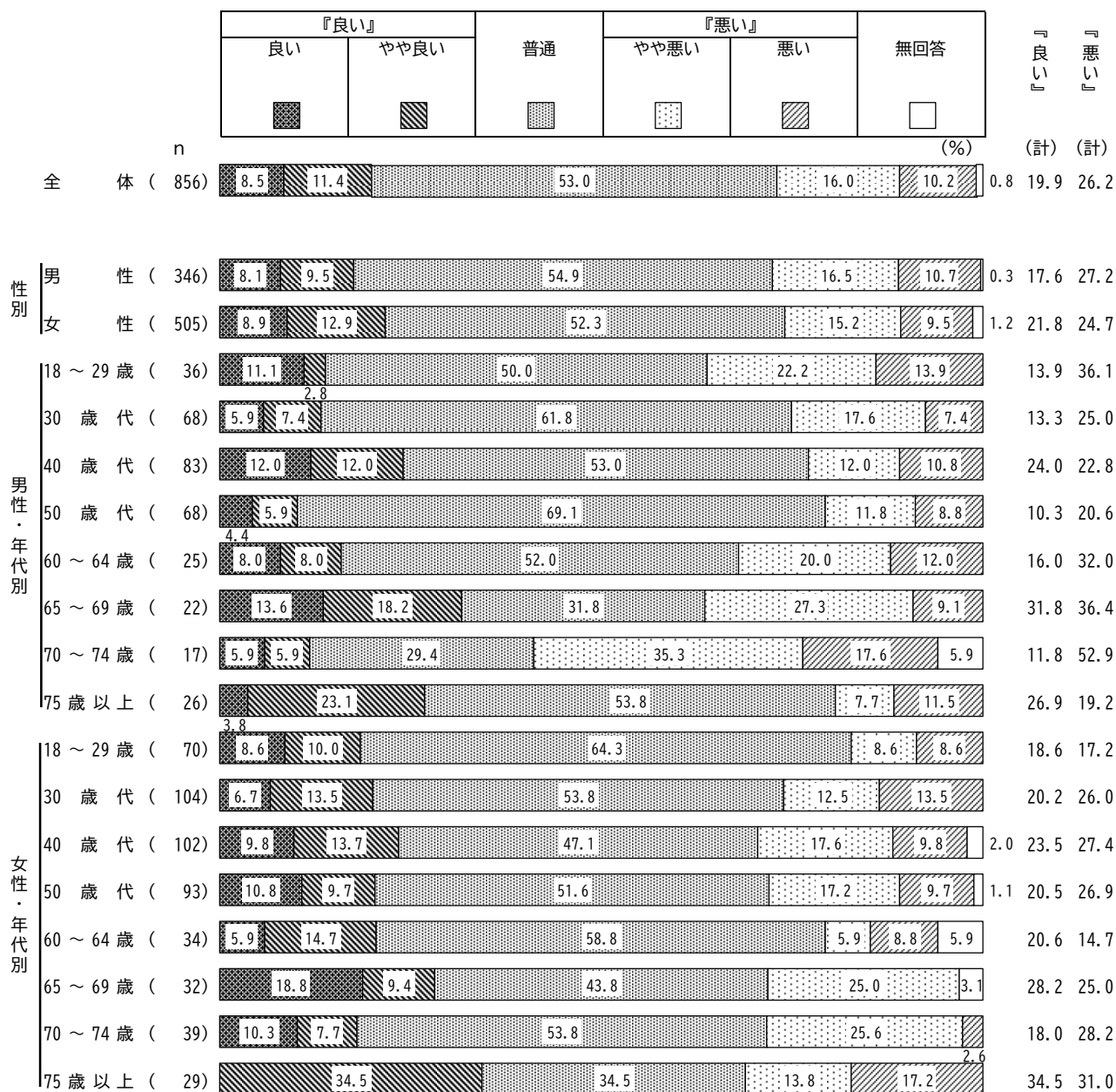
図2-1-11 周辺の生活環境評価 10. 安全・安心なまち(性・年代別)



“隣近所の交流”について性・年代別にみると、『良い』は女性75歳以上（34.5%）で3割台半ば近くと高くなっている。一方、『悪い』は男性70～74歳（52.9%）で5割強と高くなっている。

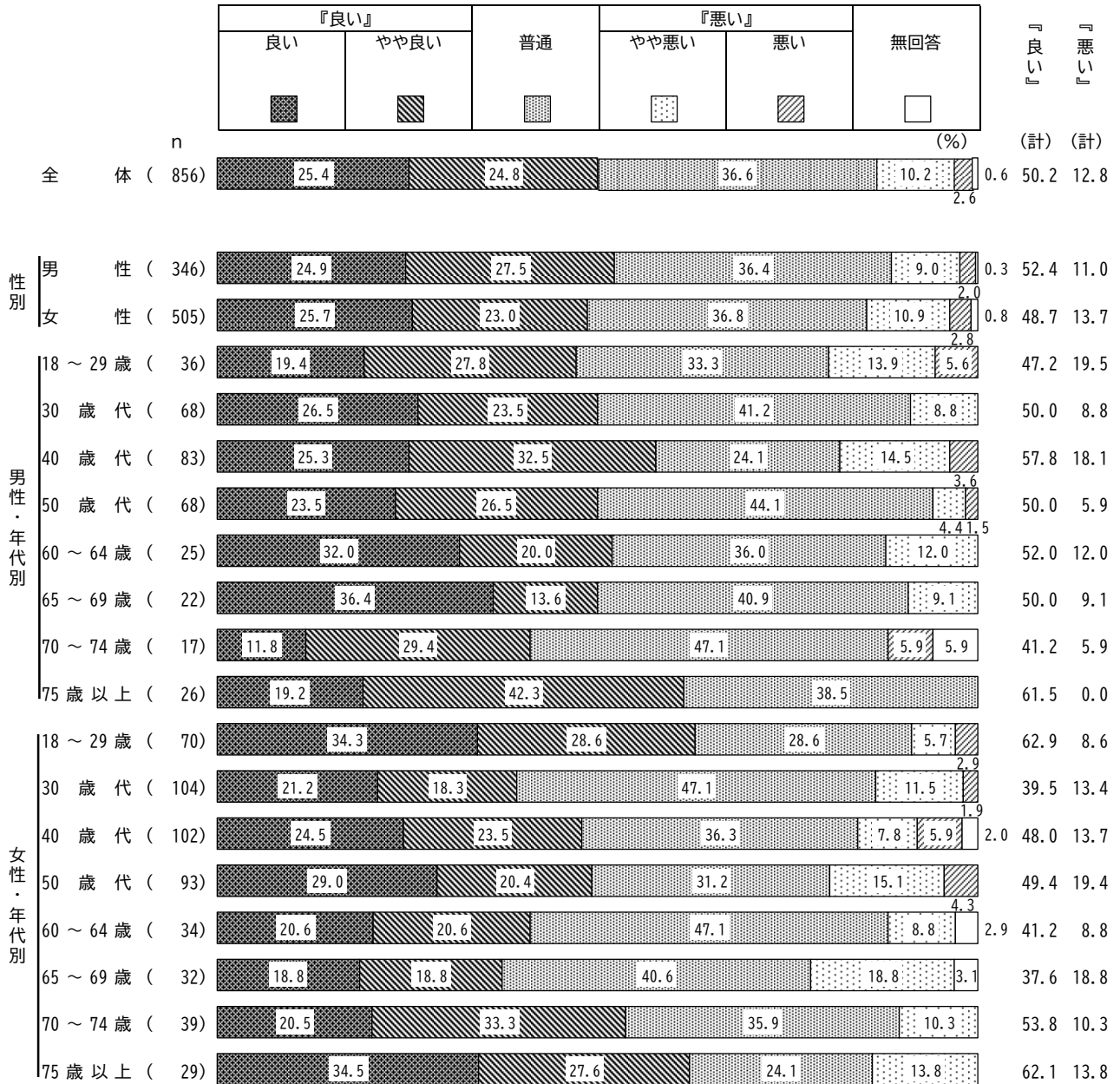
(図2-1-12)

図2-1-12 周辺の生活環境評価 11. 隣近所の交流（性・年代別）



“景観・まちなみ”について性・年代別にみると、『良い』は女性18～29歳(62.9%)、女性75歳以上(62.1%)、男性75歳以上(61.5%)で6割強と高くなっている。一方、『悪い』は男性18～29歳(19.4%)、女性50歳代(19.4%)で2割弱と高くなっている。(図2-1-13)

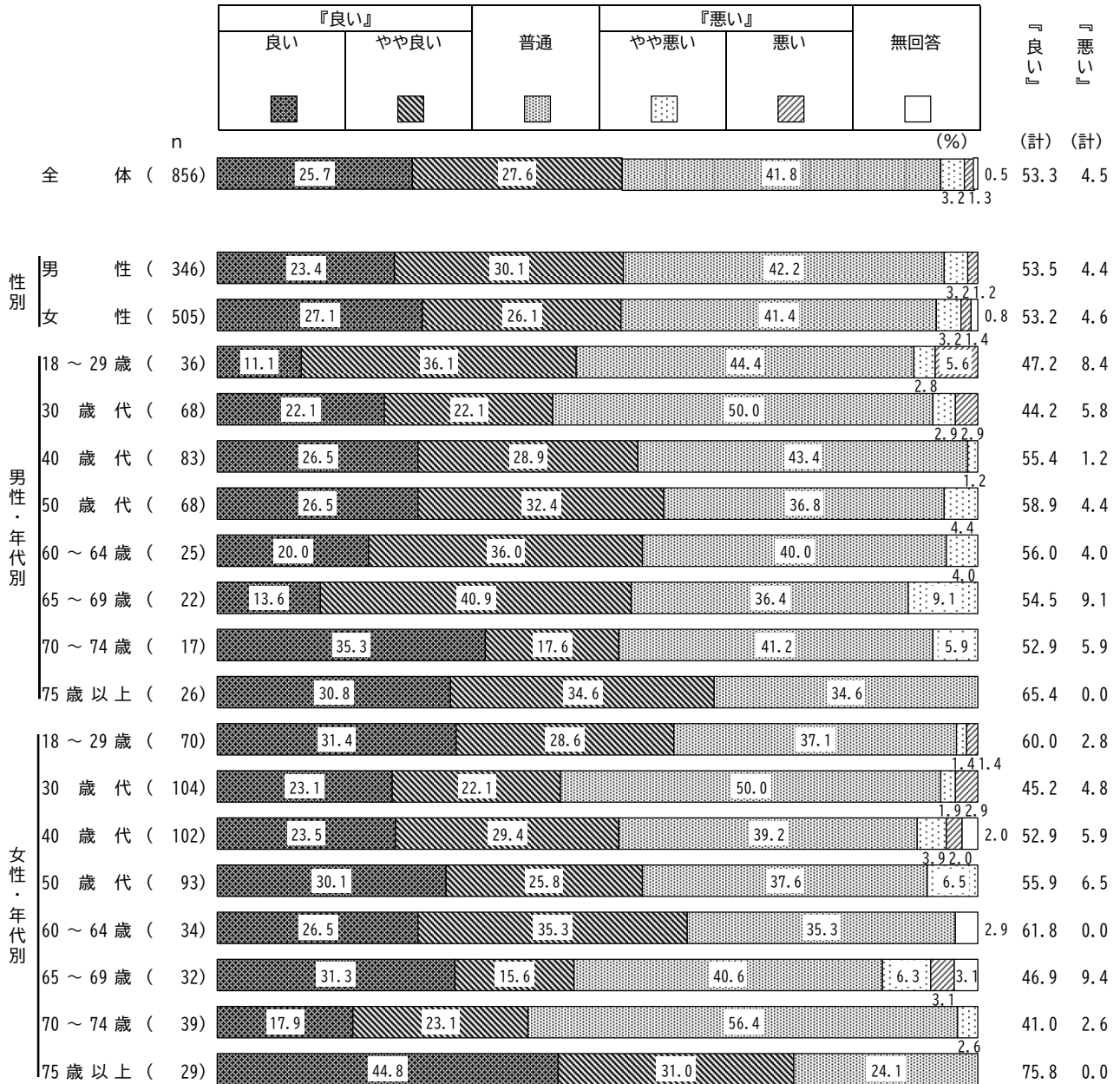
図2-1-13 周辺の生活環境評価 12. 景観・まちなみ(性・年代別)



“ごみ出し・リサイクル活動”について性・年代別にみると、『良い』は女性 75 歳以上（75.8%）で7割台半ばと高くなっている。一方、『悪い』はいずれの性・年代でも1割未満となっている。

(図2-1-14)

図2-1-14 周辺の生活環境評価 13. ごみ出し・リサイクル活動（年代別）



### ◇加重平均値

満足度を比率でみるのとは別に、比較をより明確にするため、加重平均による数量化を行った。下記の計算式のように、5段階の各評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出した。「普通」については0点として扱った。

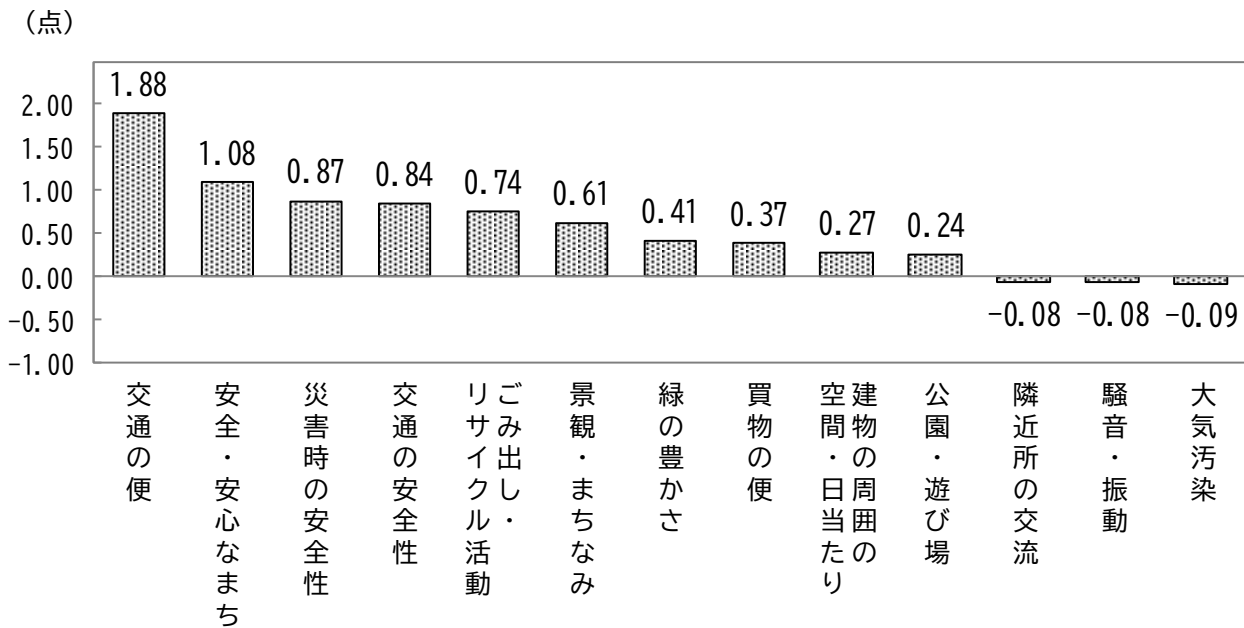
$$\text{評価点} = \frac{\text{「良い」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「やや良い」の回答者数} \times 1 \text{点} + \text{「やや悪い」の回答者数} \times -1 \text{点} + \text{「悪い」の回答者数} \times -2 \text{点}}{\text{回答者数}}$$

注) 回答者数は、無回答を除く。

この算出方法では、評価点はプラス2点からマイナス2点の間に分布し、中点の0点を境に、プラスの値が大きいほど満足度が高くなり、マイナスの値が大きいほど不満度が高くなる。

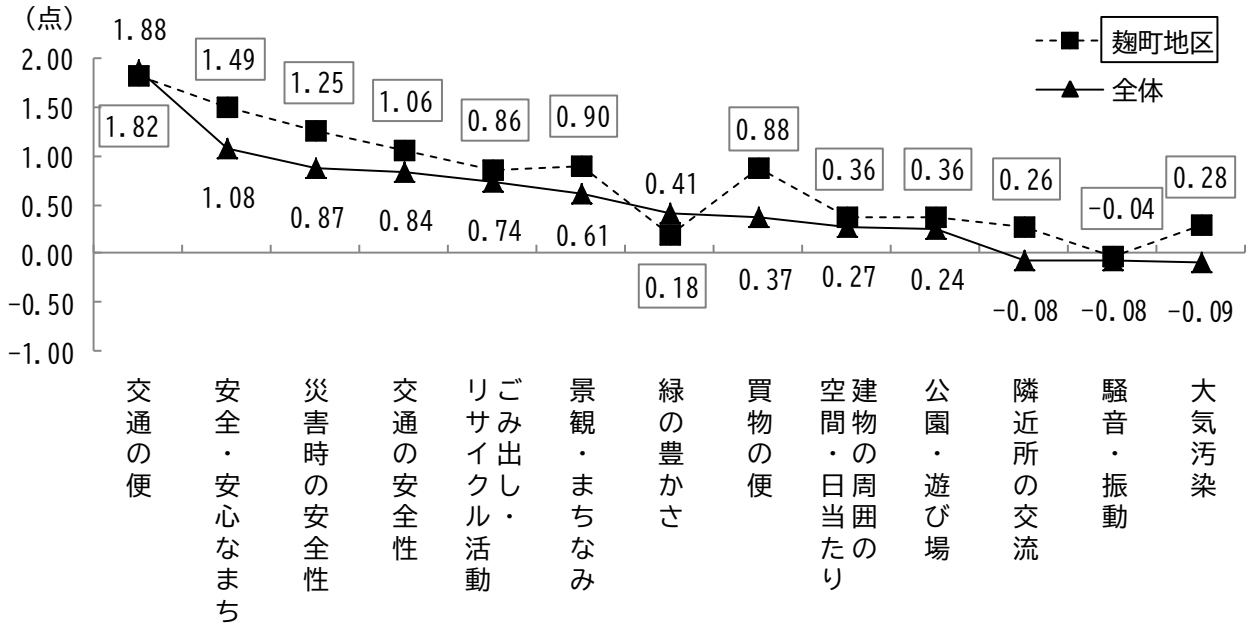
結果をみると、最もプラス評価が高いのは“交通の便” (1.88) で、際立って高くなっている。その他に満足度がプラス評価になっているのは、“安全・安心なまち” (1.08)、“災害時の安全性” (0.87)、“交通の安全性” (0.84)、“ごみ出し・リサイクル活動” (0.74)、“景観・まちなみ” (0.61)、“緑の豊かさ” (0.41)、“買物の便” (0.37)、“建物の周囲の空間・日当たり” (0.27)、“公園・遊び場” (0.24) の計 10 項目である。一方、マイナス評価が最も高いのは“大気汚染” (-0.09) となっており、次いで“騒音・振動”と“隣近所の交流” (-0.08) の順となっている。(図2-1-15)

図2-1-15 周辺の生活環境評価 加重平均



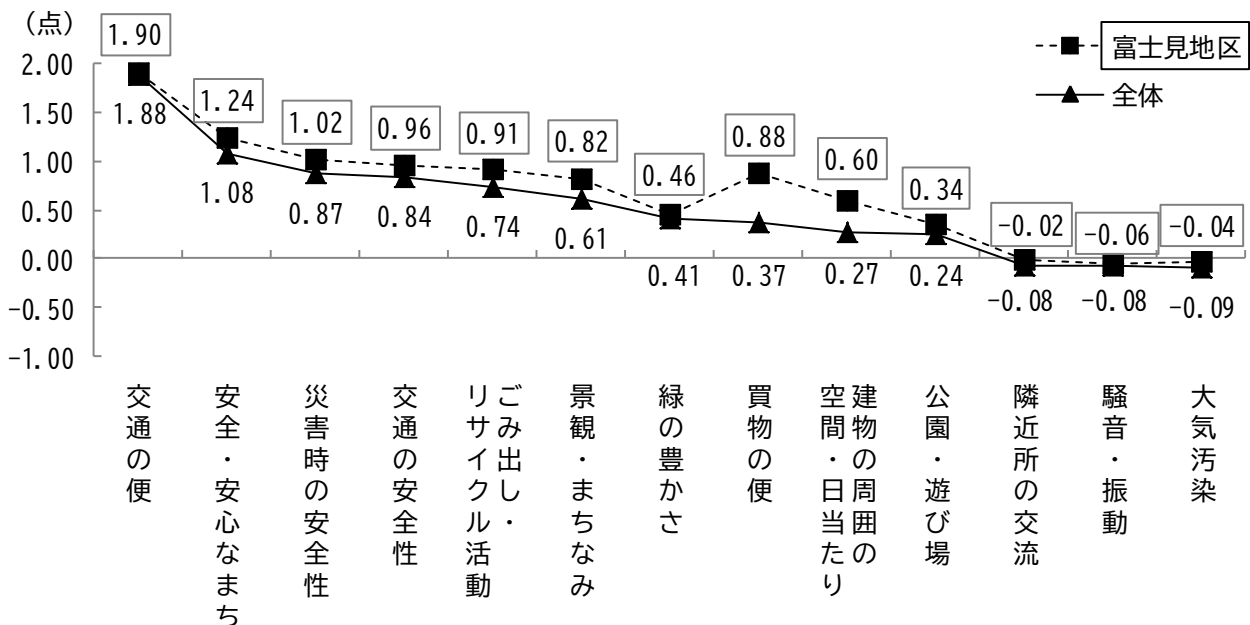
麴町地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は11項目となっており、特に“買物の便”（0.51点差）、“安全・安心なまち”（0.41点差）、“災害時の安全性”（0.38点差）、“大気汚染”（0.37点差）などの評価が高くなっている。一方、全体より評価が低い項目は“緑の豊かさ”（0.23点差）、“交通の便”（0.06点差）の2項目となっている。（図2-1-16）

図2-1-16 周辺の生活環境評価 加重平均（麴町地区）



富士見地区の評価点と区全体の平均を比較すると、すべての項目で全体より評価が高くなっており、特に“買物の便”（0.51点差）、“建物の周囲の空間・日当たり”（0.33点差）、“景観・まちなみ”（0.21点差）、“ごみ出し・リサイクル活動”（0.17点差）、“安全・安心なまち”（0.16点差）などの評価が高くなっている。（図2-1-17）

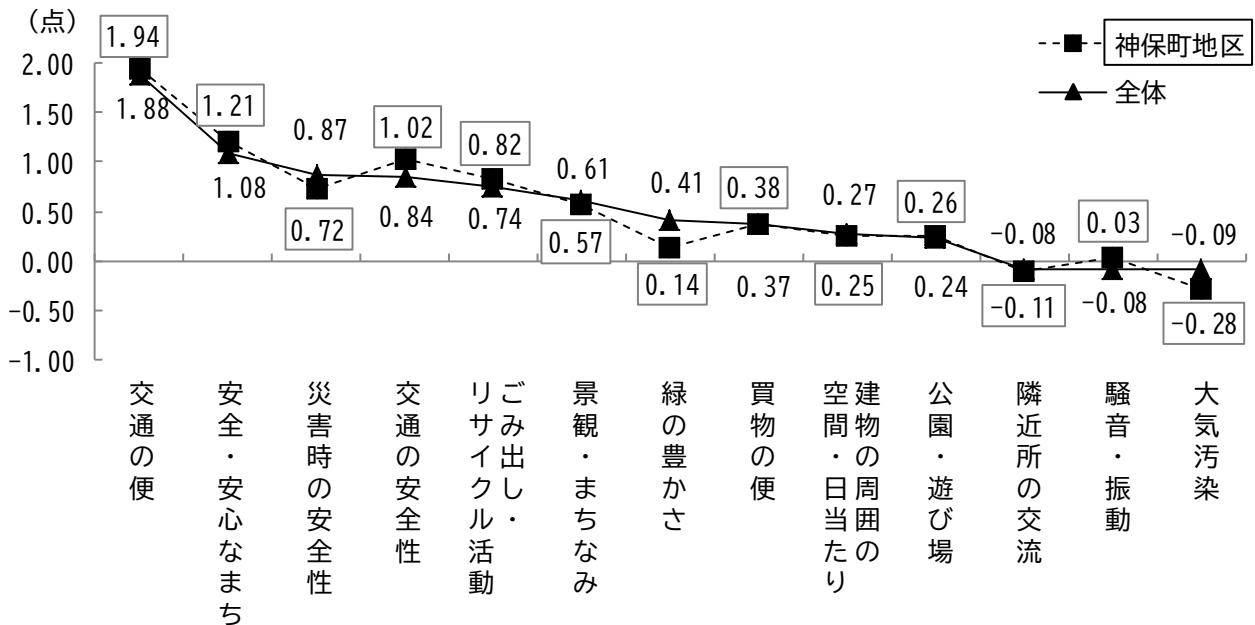
図2-1-17 周辺の生活環境評価 加重平均（富士見地区）





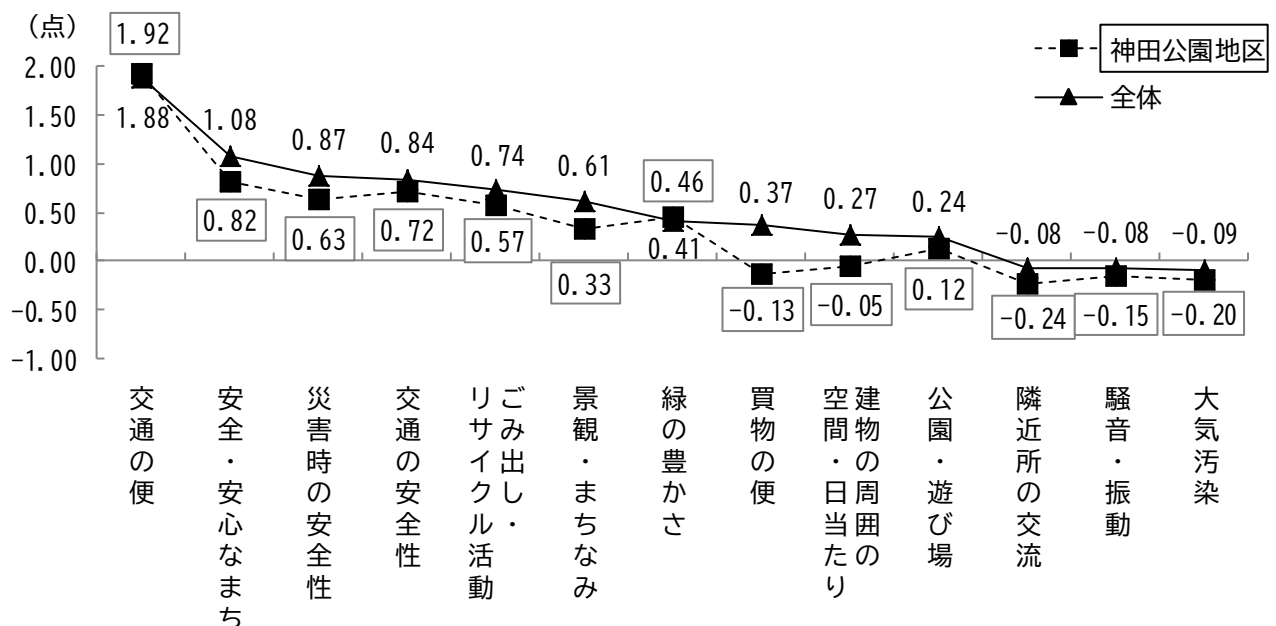
神保町地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は7項目となっており、“交通の安全性”（0.18点差）、“安全・安心なまち”（0.13点差）、“騒音・振動”（0.11点差）、“ゴミ出し・リサイクル”（0.08点差）などの評価が高くなっている。一方、全体より評価が低い項目は6項目となっており、特に“緑の豊かさ”（0.27点差）、“大気汚染”（0.19点差）、“災害時の安全性”（0.15点差）などの評価が低くなっている。（図2-1-18）

図2-1-18 周辺の生活環境評価 加重平均（神保町地区）



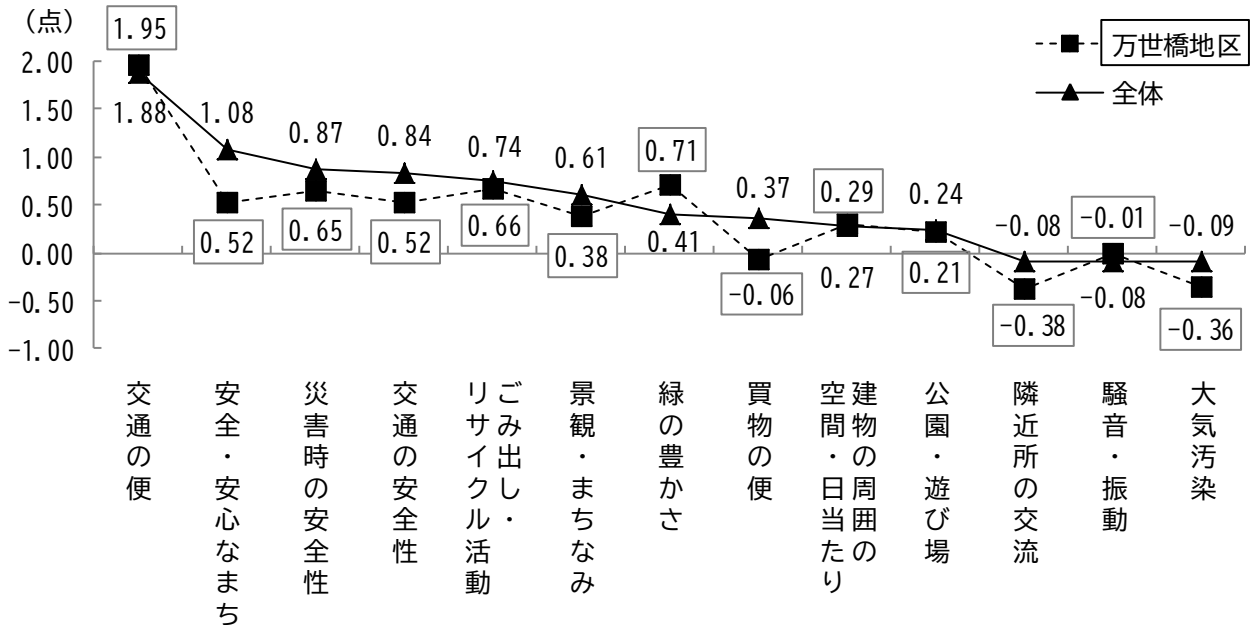
神田公園地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は“緑の豊かさ”（0.05点差）、“交通の便”（0.04点差）の2項目となっている。一方、全体より評価が低い項目は11項目となっており、特に“買物の便”（0.50点差）、“建物の周囲の空間・日当たり”（0.32点差）、“景観・まちなみ”（0.28点差）などの評価が低くなっている。（図2-1-19）

図2-1-19 周辺の生活環境評価 加重平均（神田公園地区）



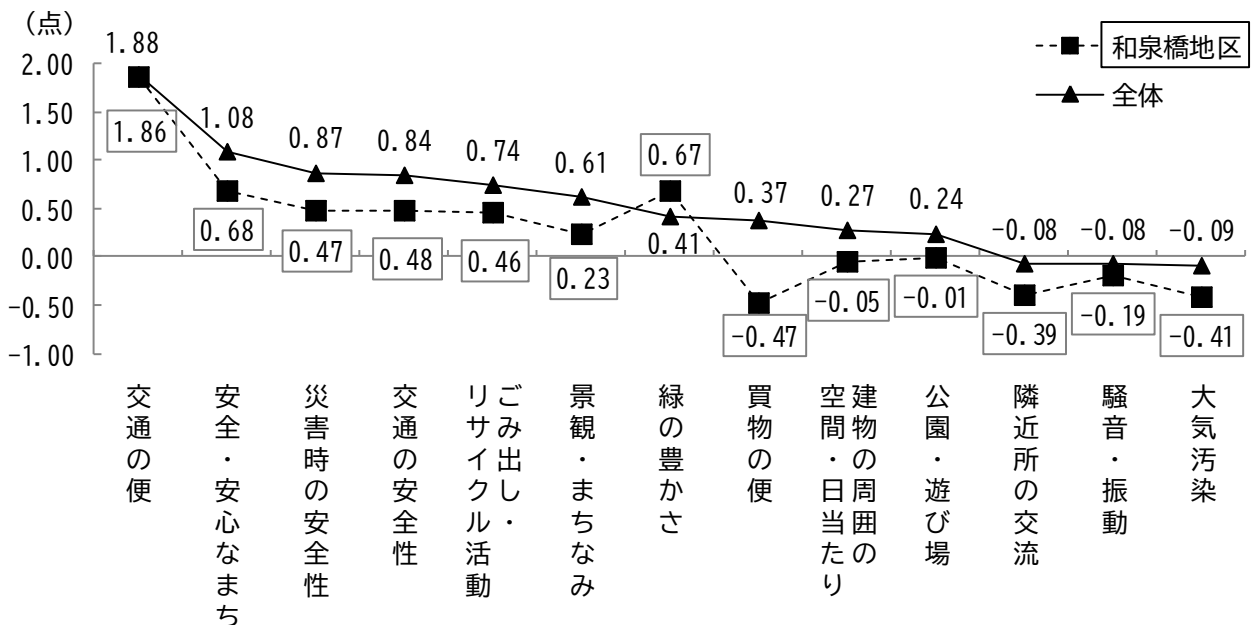
万世橋地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は4項目となっており、特に“緑の豊かさ”（0.30点差）の評価が高くなっている。一方、全体より評価が低い項目は9項目となっており、特に“安全・安心なまち”（0.56点差）、“買物の便”（0.43点差）、“交通の安全性”（0.32点差）などの評価が低くなっている。（図2-1-20）

図2-1-20 周辺の生活環境評価 加重平均（万世橋地区）



和泉橋地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は“緑の豊かさ”（0.26点差）の1項目のみとなっている。一方、全体より評価が低い項目は12項目となっており、特に“買物の便”（0.84点差）、“安全・安心なまち”（0.40点差）、“災害時の安全性”（0.40点差）などの評価が低くなっている。（図2-1-21）

図2-1-21 周辺の生活環境評価 加重平均（和泉橋地区）

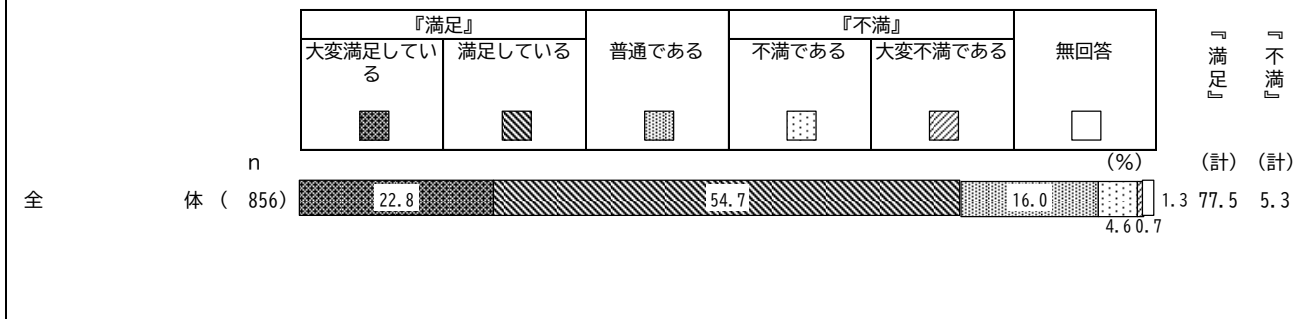


## (2) 周辺の居住環境の満足度

◇「大変満足している」と「満足している」を合わせた『満足』は7割台半ば超え

問4 あなたのお住まいやその居住環境について、当てはまるものを選んでください。(○は1つ)

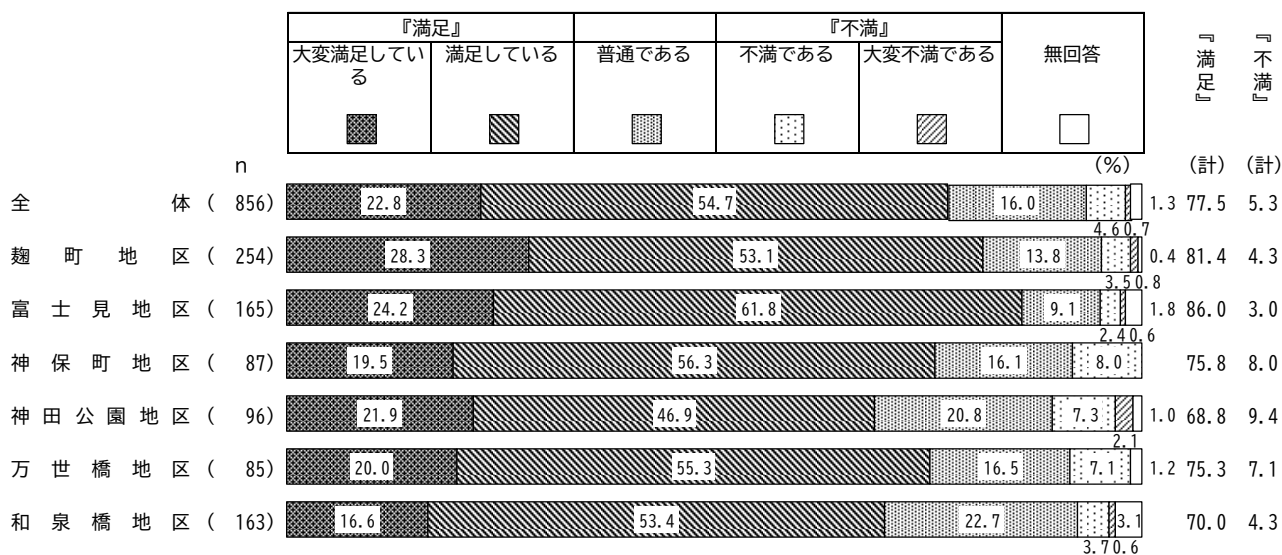
図2-2-1 周辺の居住環境の満足度



周辺の居住環境の満足度について聞いたところ、「満足している」(54.7%)が5割台半ば近くと最も高く、これに「大変満足している」(22.8%)を合わせた『満足』(77.5%)は7割台半ば超えとなっている。一方、「不満である」(4.6%)と「大変不満である」(0.7%)を合わせた『不満』(5.3%)は1割未満となっている。(図2-2-1)

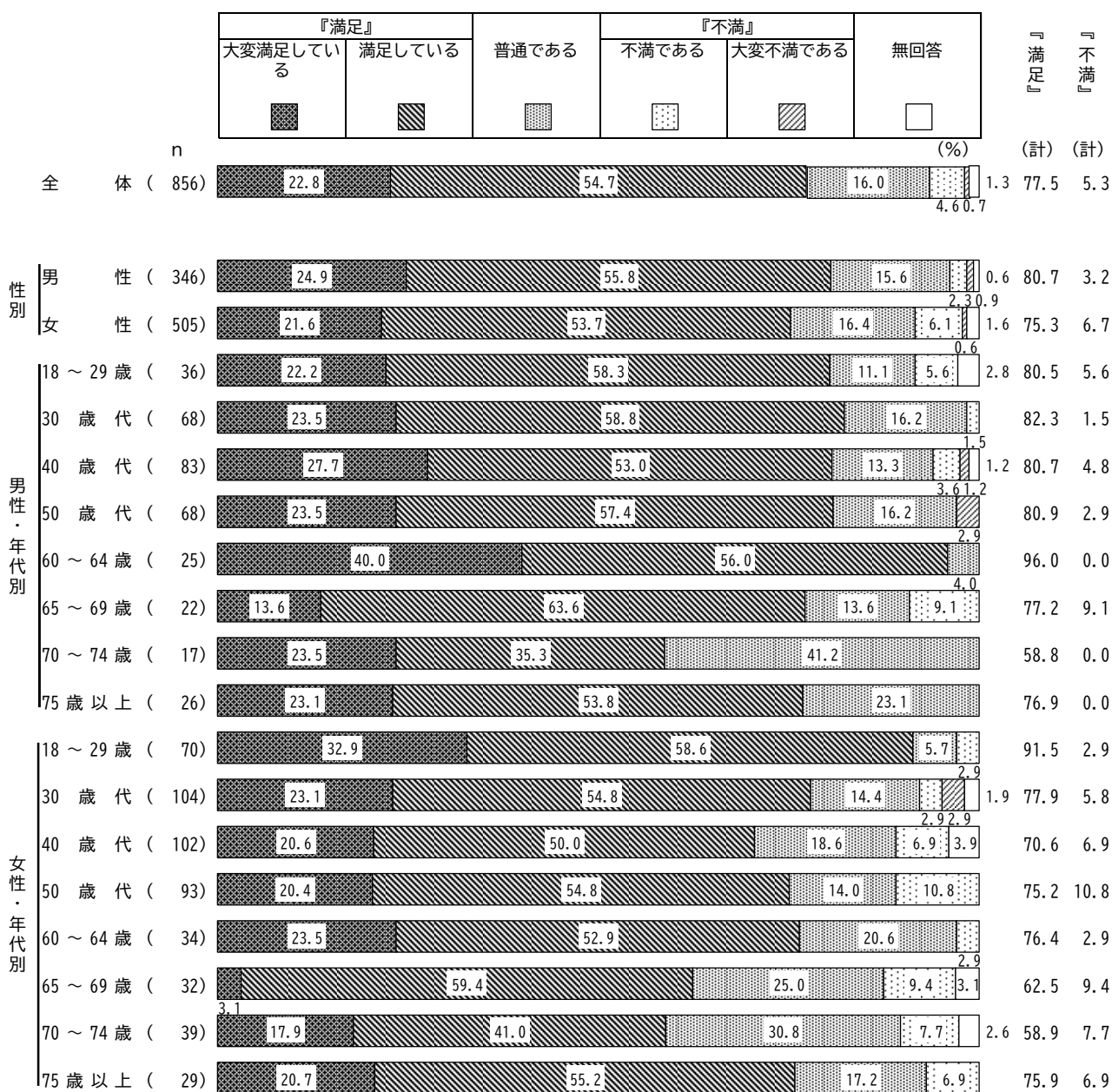
地区別にみると、『満足』は富士見地区(86.0%)で高い割合となっている。(図2-2-2)

図2-2-2 周辺の居住環境の満足度(地区別)



性・年代別にみると、『満足』は男性 60～64 歳（96.0%）で、『不満』は女性 50 歳代（10.8%）で、それぞれ高い割合となっている。（図 2-2-3）

図 2-2-3 周辺の居住環境の満足度（性・年代別）



## (2-1) 「周辺の生活環境評価」と「周辺の居住環境の満足度」の相関分析

「(1) 周辺の生活環境評価」の各項目と「(2) 周辺の居住環境の満足度」から相関係数 (r) を算出し、周辺の生活環境評価と居住環境の満足度の関係を分析した。

### ◇相関係数 (r)

相関係数 (r) とは、2つのデータの関係の強さを数値 (係数) で示したもので、-1 から +1 の間の数値となる。相関係数 (r) の絶対値が1に近づくほど関係が強くなり、関係が低いと0に近くなる。

相関係数(r)	考え方
$0 \leq  r  \leq 0.2$	ほとんど相関がない
$0.2 <  r  \leq 0.4$	弱い相関がある
$0.4 <  r  \leq 0.7$	中程度の相関がある
$0.7 <  r  \leq 1.0$	強い相関がある

### ◇満足度と相関係数 (r)

「周辺の生活環境評価」の各項目について、満足度と相関係数 (r) を一覧にすると以下のようになった。

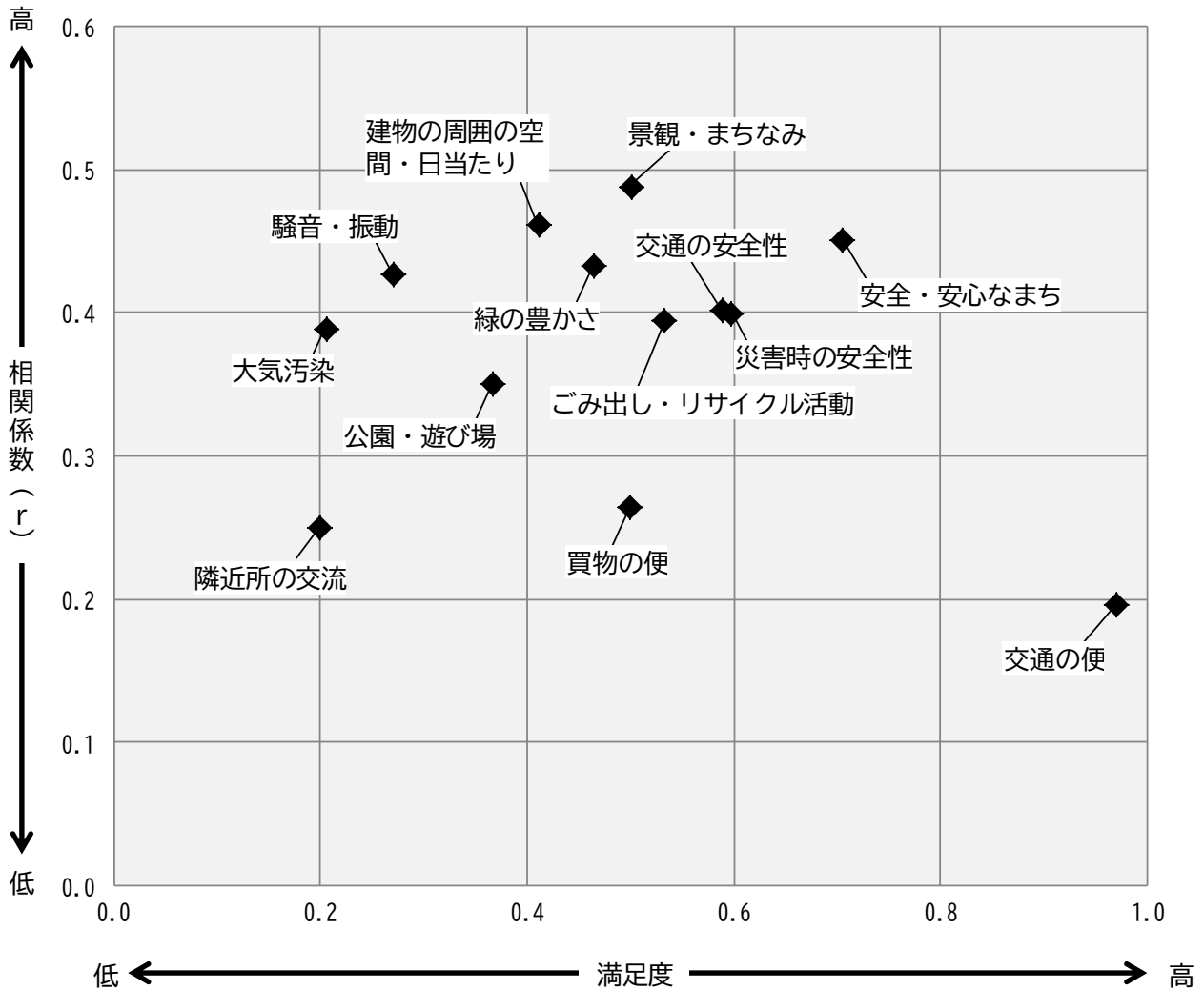
周辺の生活環境評価	満足度	相関係数(r)
交通の便	0.97	0.20
買物の便	0.50	0.26
公園・遊び場	0.37	0.35
建物の周囲の空間・日当たり	0.41	0.46
騒音・振動	0.27	0.43
大気汚染	0.21	0.39
緑の豊かさ	0.46	0.43
交通の安全性	0.59	0.40
災害時の安全性	0.60	0.40
安全・安心なまち	0.71	0.45
隣近所の交流	0.20	0.25
景観・まちなみ	0.50	0.49
ごみ出し・リサイクル活動	0.53	0.39

注) 満足度は、各項目の「良い」・「やや良い」の割合の合計となる。

「周辺の生活環境評価」の各項目について、「周辺の居住環境の満足度」との相関係数（r）、満足度を基に散布図に示した。

“景観・まちなみ”（0.49）・“建物の周囲の空間・日当たり”（0.46）・“安全・安心なまち”（0.45）・“騒音・振動”（0.43）、“緑の豊かさ”（0.43）・“交通の安全性”（0.40）、“災害時の安全性”（0.40）、の7項目は相関係数（r）が0.4を超えており、居住環境の満足度と中程度の相関がみられた。周辺の生活環境の中でも、特にこれらの評価が向上することが、居住環境満足度向上に影響すると考えられる。（図2-2-4）

図2-2-4 「周辺の生活環境評価」と「周辺の居住環境の満足度」の相関分析



### 3. 区の施策への要望

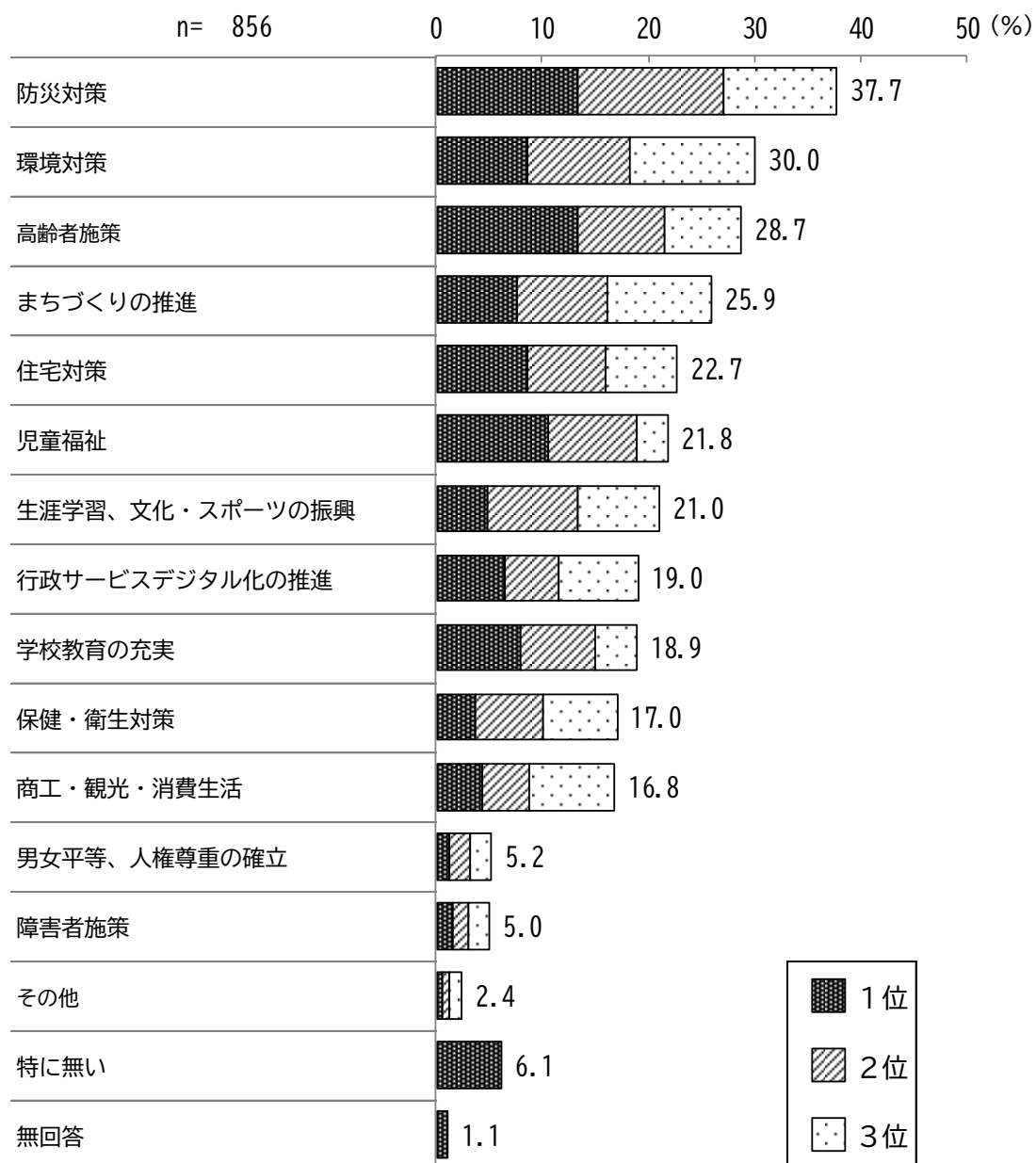
#### (1) 力を入れてほしい施策

◇「防災対策」が3割台半ば超え

問5 これからの区政全体について考えた場合、あなたは、どの分野に力を入れてもらいたいと思いますか。特に力を入れて取り組んでほしい分野について、下記1～14の中から優先順位の高い順に3つ選んで番号を記入してください。ただし、「14. 特に無い」を選んだ方は1位の欄に記入してください。

問5-1 問5で選んだ分野の中の「具体的な要望」で優先度の高い項目を3つ選んでご記入ください。

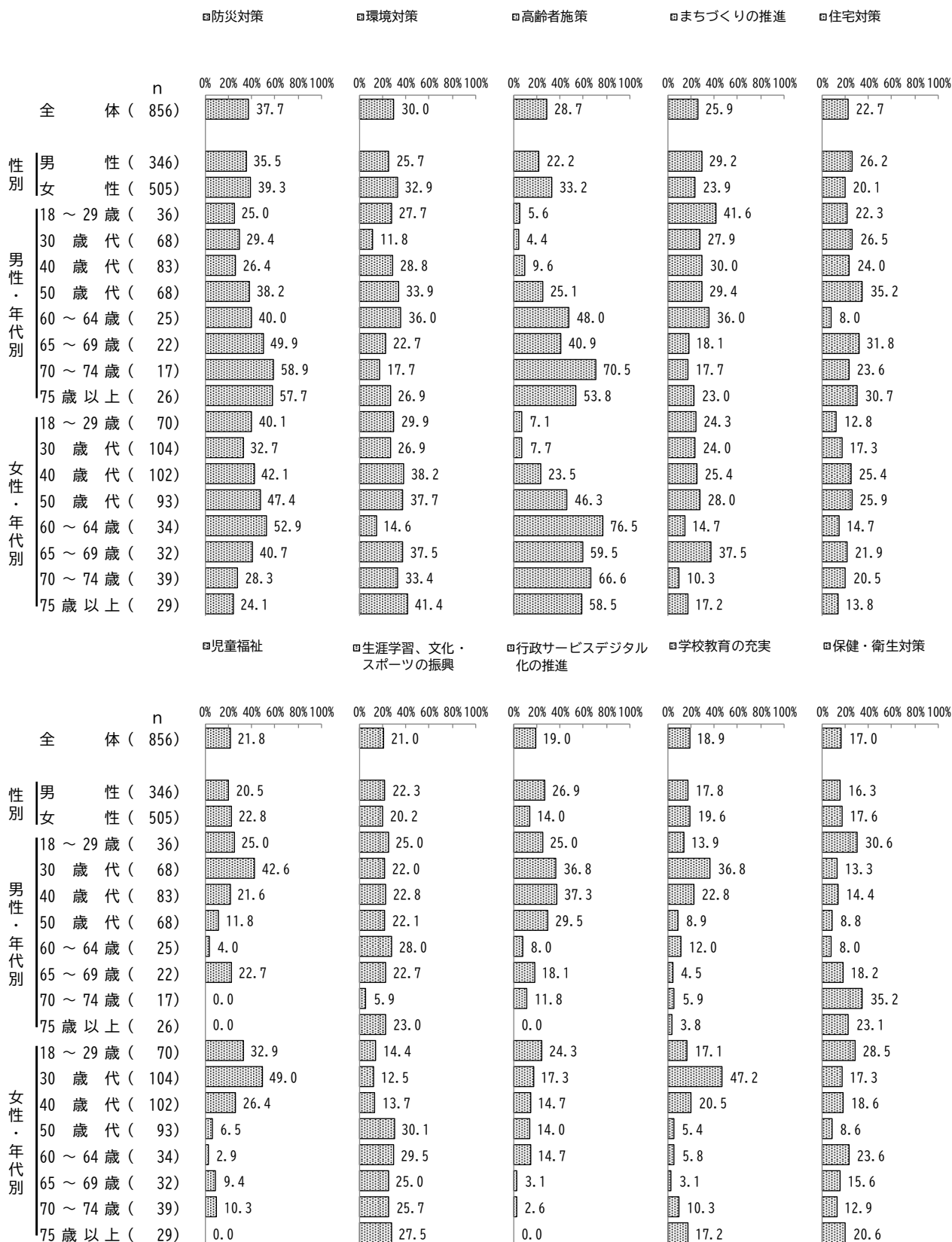
図3-1-1 力を入れてほしい施策



力を入れてほしい施策について聞いたところ、「防災対策」(37.7%)が3割台半ば超えと最も高く、次いで「環境対策」(30.0%)、「高齢者施策」(28.7%)、「まちづくりの推進」(25.9%)と続いている。(図3-1-1)

性・年代別にみると、「防災対策」は男性ではおおむね年齢層が高いほど割合が高くなっている。また、「高齢者施策」は女性60～64歳（76.5%）、男性70～74歳（70.5%）で7割台と高くなっており、「児童福祉」では女性30歳代（49.0%）、男性30歳代（42.6%）で4割台と高くなっている。  
 (図3-1-2)

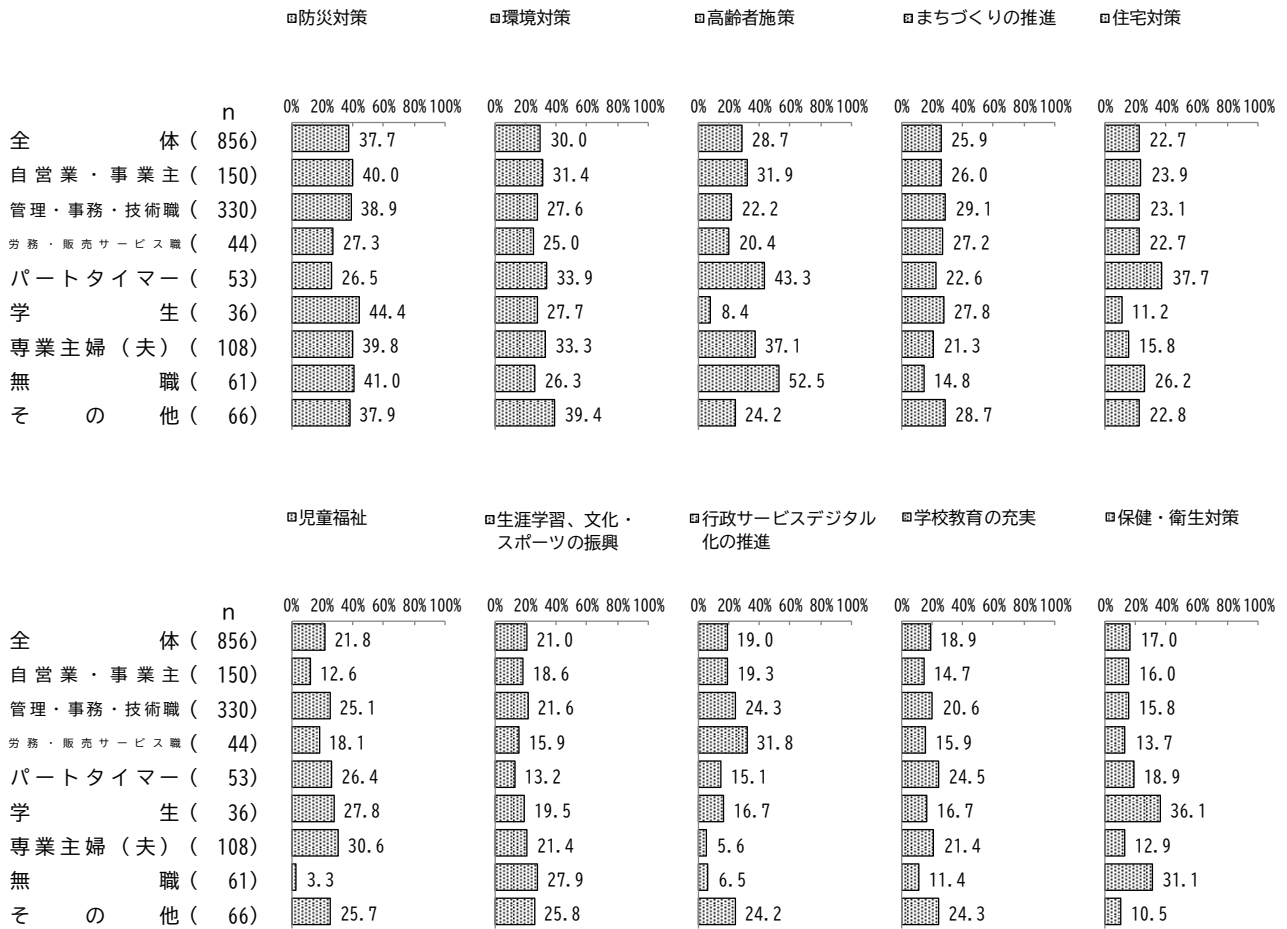
図3-1-2 力を入れてほしい施策（性・年代別）－上位10分野－





職業別にみると、「高齢者施策」は無職（52.5%）で5割強と高くなっている。また、「保健・衛生対策」は学生（36.1%）で3割台半ばを超えと高くなっている。（図3-1-3）

図3-1-3 力を入れてほしい施策（職業別）－上位10分野－



世帯構成別にみると、「防災対策」は夫婦だけの世帯（46.8%）で4割台半ばを超えと高くなっている。また、「まちづくりの推進」は夫婦と子どもと親（三世代）の世帯（38.1%）で4割近く、「学校教育の充実」は夫婦と子どもの世帯（39.2%）で4割弱とそれぞれ高くなっている。（図3-1-4）

図3-1-4 力を入れてほしい施策（世帯構成別）－上位10分野－

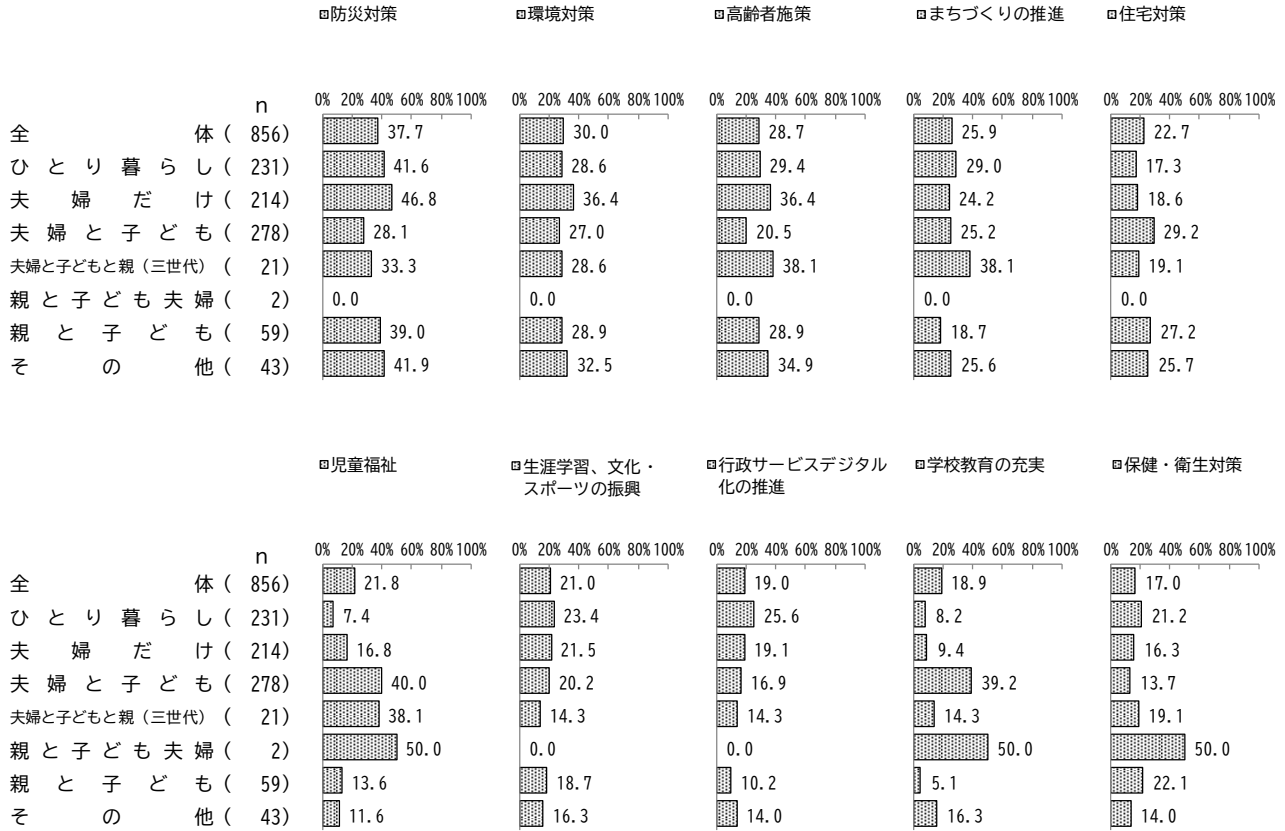
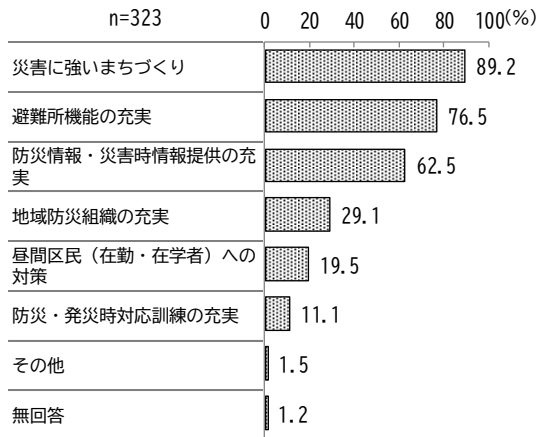
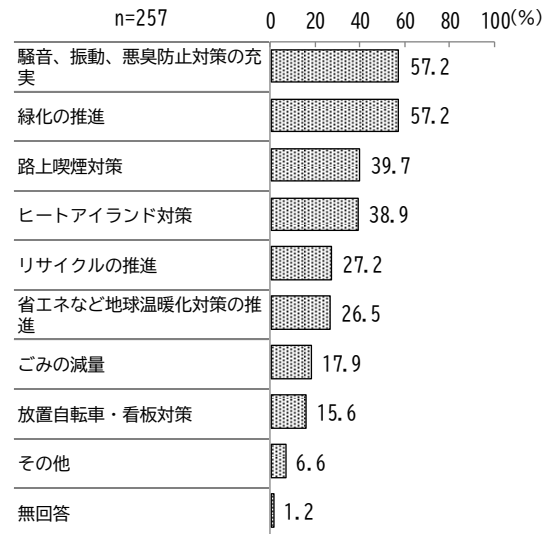


図3-1-5 力を入れてほしい施策－分野別要望－（問5-1）

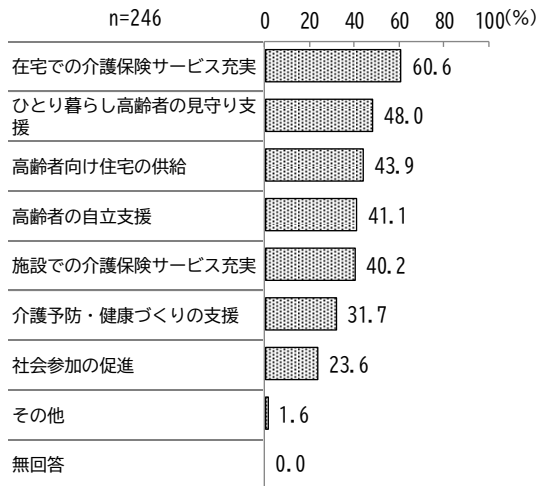
第1位【防災対策】



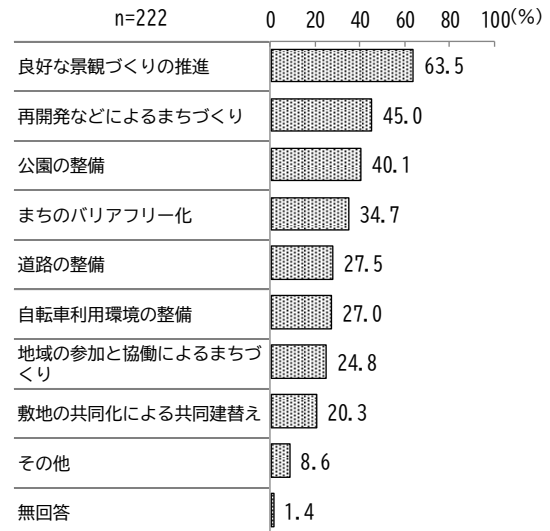
第2位【環境対策】



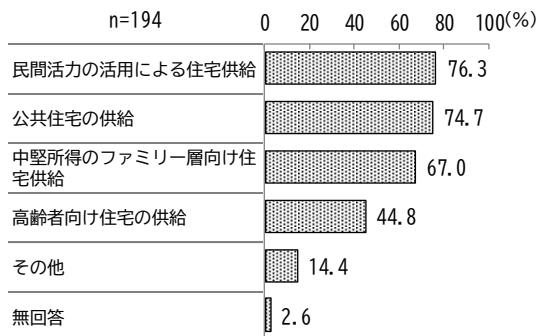
第3位【高齢者施策】



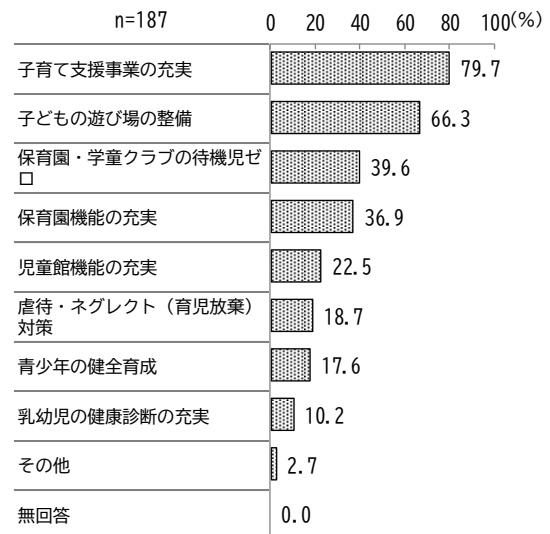
第4位【まちづくりの推進】



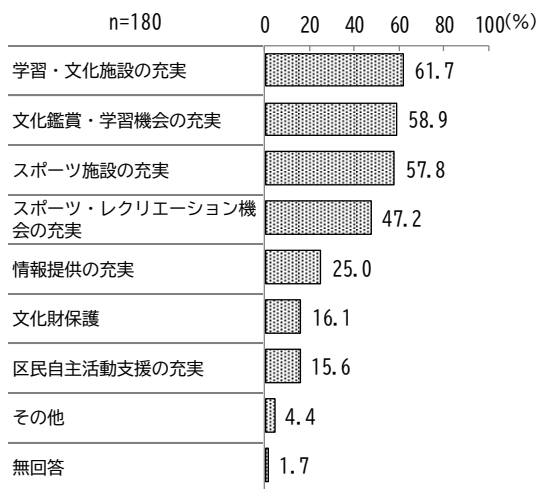
第5位【住宅対策】



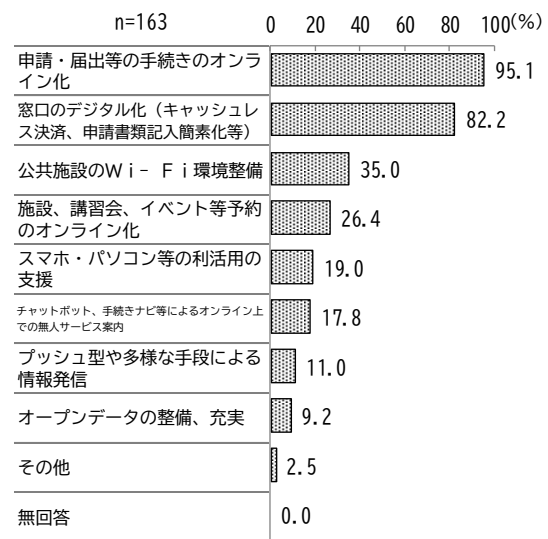
第6位【児童福祉】



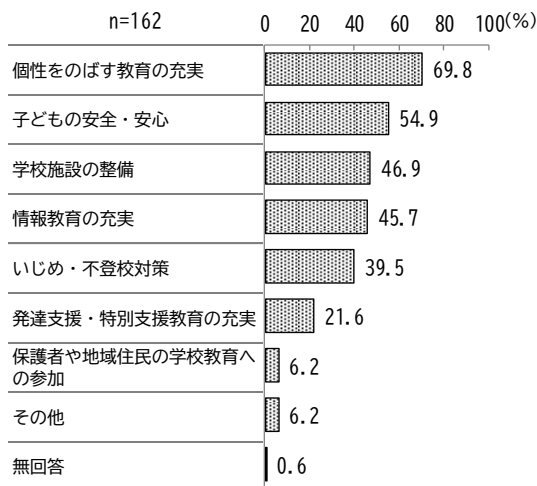
### 第7位【生涯学習、文化・スポーツの振興】



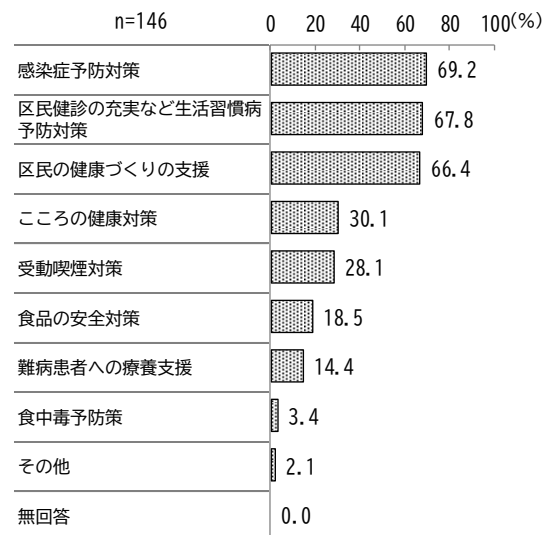
### 第8位【行政サービスデジタル化の推進】



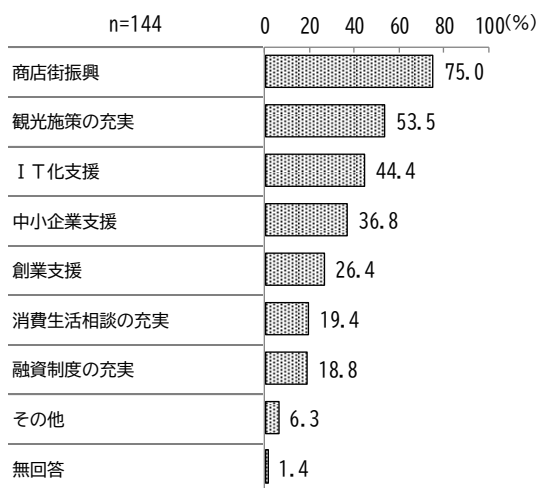
### 第9位【学校教育の充実】



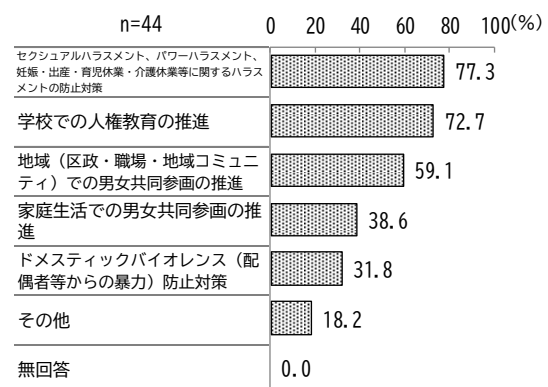
### 第10位【保健・衛生対策】



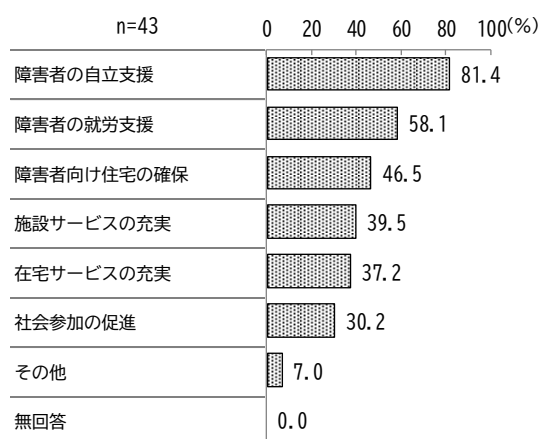
### 第11位第【商工・観光・消費生活】



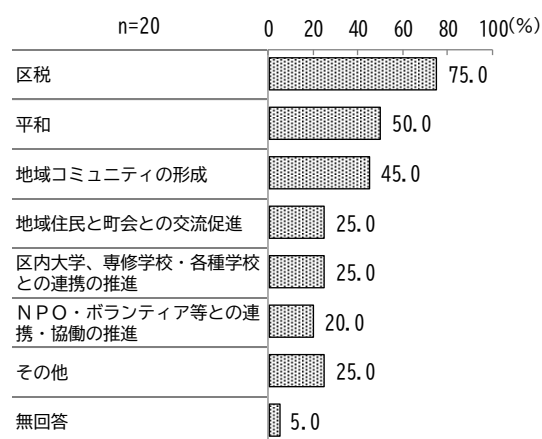
### 第12位【男女平等、人権尊重の確立】



### 第13位【障害者施策】



### 第14位【その他】



具体的な要望についてその他を回答した方の人数と主な意見は以下のとおりである。

#### 【高齢者施策】

4人 「駅のエスカレーター、エレベーター設置」「介護サービスの値段」など

#### 【障害者施策】

3人 「駅のバリアフリー化」「気軽な悩みを相談できるサービスがほしい」など

#### 【保健・衛生対策】

3人 「コロナ検診・受診」「医療施設への保護と拡充」「蚊撲滅の対策」

#### 【児童福祉】

5人 「学校周辺環境、安全・治安整備」「受験における男女の不公平解消」など

#### 【学校教育の充実】

10人 「英語教育」「金融教育」「基礎学力の向上」「ドローンなど新分野との連携」など

#### 【男女平等、人権尊重の確立】

8人 「LGBTへの理解」「給料の男女平等」「同性カップルの権利擁護」など

#### 【生涯学習、文化・スポーツの振興】

8人 「テニスコート増設」「保養施設の充実」「大学、研究機関と社会人学習の連携」など

#### 【住宅対策】

28人 「家賃補助」「防音住宅」「マンションのインターネット設備」「電柱地中化」など

#### 【環境対策】

17人 「排気ガス」「公園の整備」「喫煙所の拡充」「動物保護、殺処分0への取り組み」など

#### 【防災対策】

5人 「防災備蓄をふやす」「ペットとの避難対策」「電柱の地下化」など

#### 【まちづくりの推進】

19人 「街の色彩等を整備」「ネズミ駆除」「ドッグランの設置」「電線類地中化」など

#### 【商工・観光・消費生活】

9人 「大型スーパー」「特徴を持った商業施設の誘致」など

#### 【行政サービスデジタル化の推進】

4人 「区が行う説明会などのオンライン化」など

#### 【その他】

5人 「ペットと快適に過ごせる環境、防災時含む」「公園の遊びやすさ」など

#### 4. 施策の満足度・重要度

##### (1) 施策の満足度・重要度

◇満足度が最も高いのは“保健・衛生対策”、最も低いのは“住宅施策”

◇重要度が最も高いのは“防災対策”、最も低いのは“生涯学習、文化・スポーツの振興”

満足度（重要度）が高い ⇒ 「満足（重要）」と「やや満足（まあ重要）」の合計が高い

満足度（重要度）が低い ⇒ 「不満（重要でない）」と「やや不満（あまり重要でない）」の合計が高い

問6 あなたは、問5のそれぞれの分野についてどれくらい満足していますか。

また、どのくらい重要(大切)だと思いますか。項目ごとに5段階で評価し、該当する番号に○を付けてください。(14分野すべてにご回答ください。)

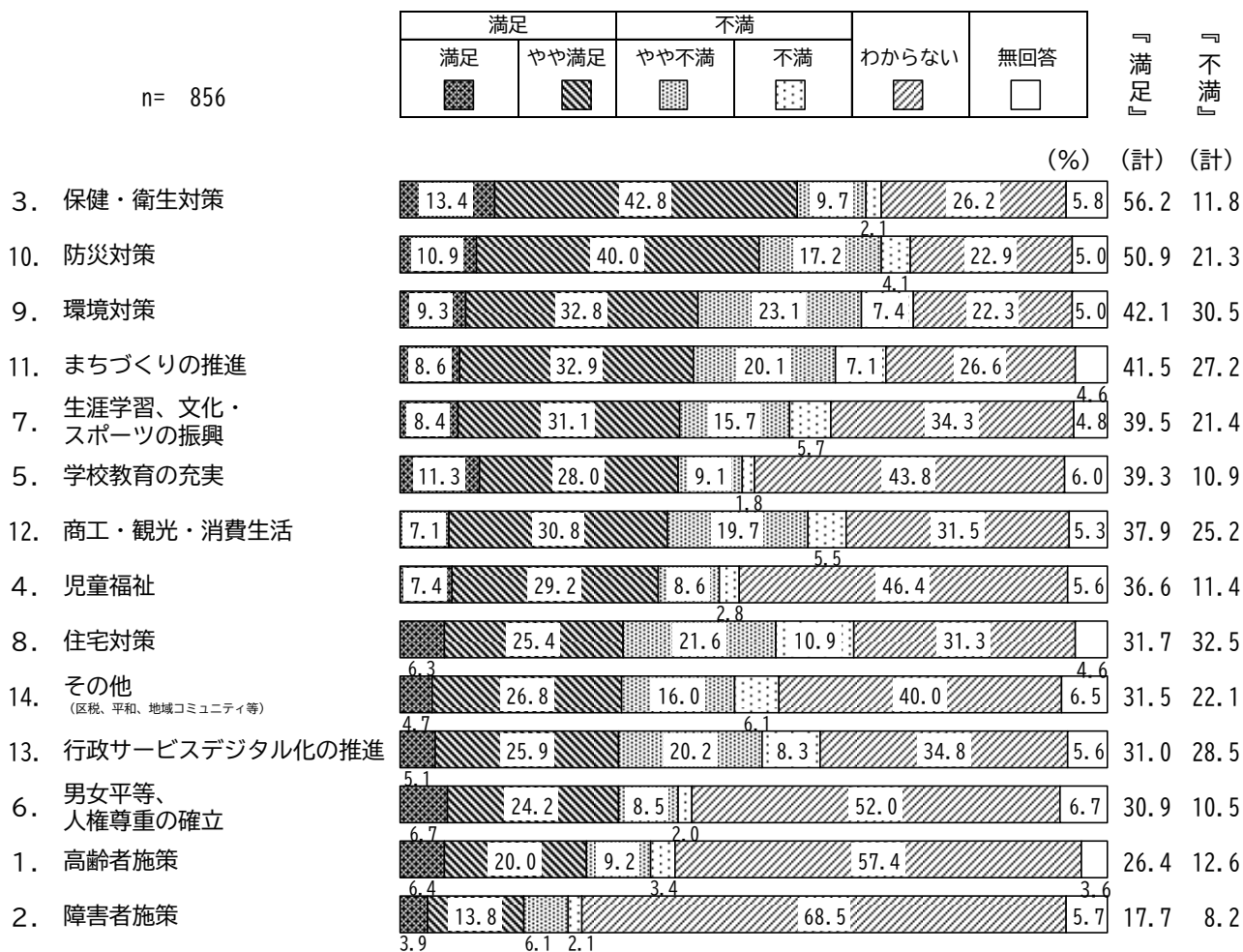
表4-1-1 施策の満足度・重要度

	満足度						重要度						無回答
	1 満足	2 やや満足	3 やや不満	4 不満	5 わからない	無回答	1 重要	2 まあ重要	3 あまり重要でない	4 重要でない	5 わからない	無回答	
n=856													
1. 高齢者施策	6.4	20.0	9.2	3.4	57.4	3.6	40.5	34.1	7.1	5.0	8.8	4.4	
2. 障害者施策	3.9	13.8	6.1	2.1	68.5	5.7	34.8	38.4	4.7	2.7	13.2	6.2	
3. 保健・衛生対策	13.4	42.8	9.7	2.1	26.2	5.8	54.0	32.7	2.8	0.4	4.0	6.2	
4. 児童福祉	7.4	29.2	8.6	2.8	46.4	5.6	49.5	30.8	2.6	1.1	9.9	6.1	
5. 学校教育の充実	11.3	28.0	9.1	1.8	43.8	6.0	54.0	24.9	4.4	0.7	9.5	6.5	
6. 男女平等、 人権尊重の確立	6.7	24.2	8.5	2.0	52.0	6.7	29.8	38.6	10.7	3.7	10.4	6.8	
7. 生涯学習、文化・ スポーツの振興	8.4	31.1	15.7	5.7	34.3	4.8	27.0	43.8	15.3	2.9	5.5	5.5	
8. 住宅対策	6.3	25.4	21.6	10.9	31.3	4.6	42.4	36.6	8.6	1.5	5.8	5.0	
9. 環境対策	9.3	32.8	23.1	7.4	22.3	5.0	54.2	33.5	3.2	0.4	3.3	5.5	
10. 防災対策	10.9	40.0	17.2	4.1	22.9	5.0	69.4	20.9	1.5	0.5	2.7	5.0	
11. まちづくりの推進	8.6	32.9	20.1	7.1	26.6	4.6	39.7	40.3	8.8	1.3	4.9	5.0	
12. 商工・観光・消費生活	7.1	30.8	19.7	5.5	31.5	5.3	29.8	40.3	15.4	1.9	7.2	5.4	
13. 行政サービスデジタル化の推進	5.1	25.9	20.2	8.3	34.8	5.6	38.8	35.4	10.0	1.1	8.8	6.0	
14. その他 (区税、平和、地域コミュニティ等)	4.7	26.8	16.0	6.1	40.0	6.5	25.0	40.9	10.7	1.6	14.8	6.9	

次のグラフは、「満足」と「やや満足」の合算で、高い順に並べたものである。

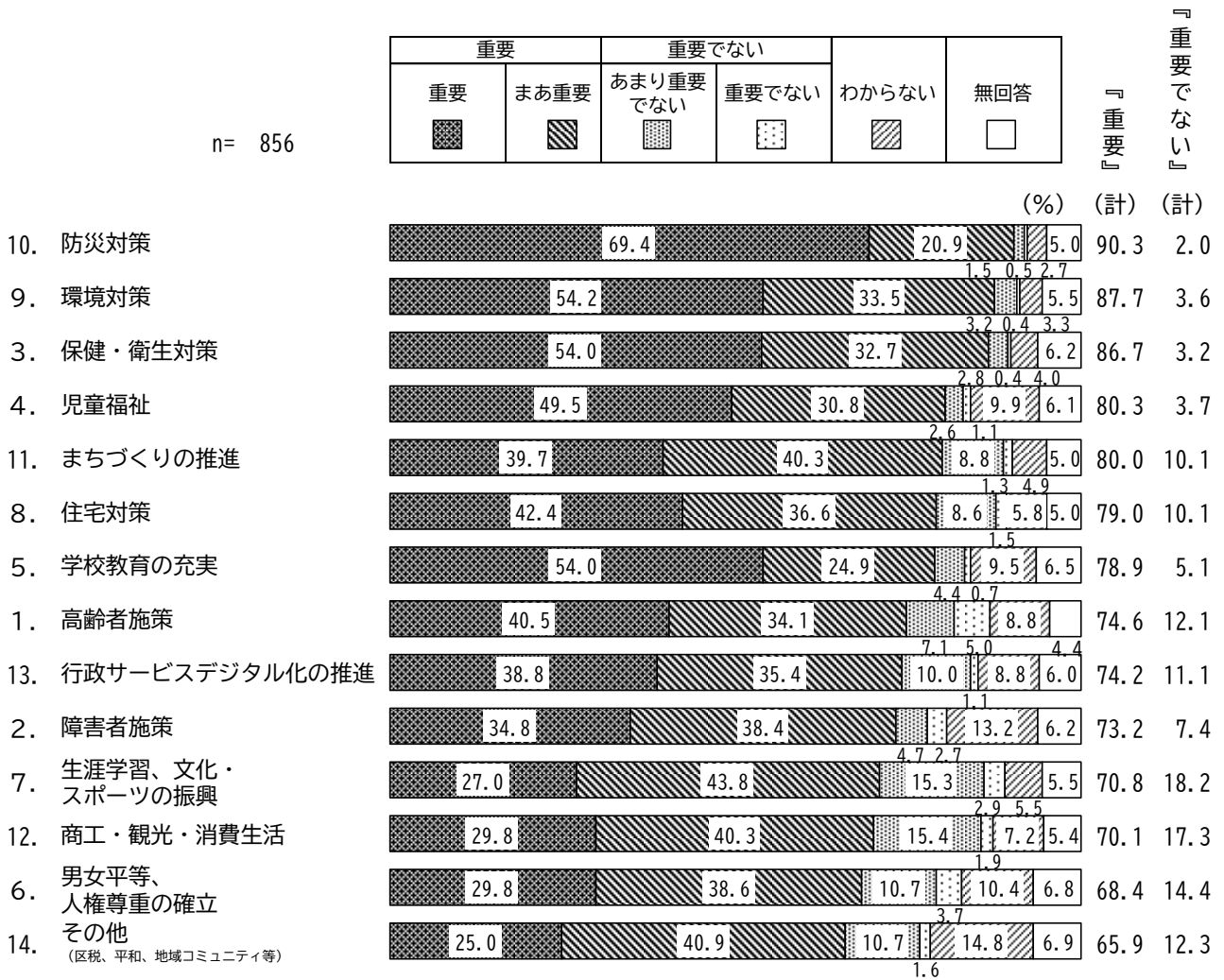
「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』は“保健・衛生対策”（56.2%）が5割台半ば超えと最も高くなっている。一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』は“住宅対策”（32.5%）が3割強と高くなっている。（図4-1-2）

図4-1-2 施策の満足度



「重要」と「まあ重要」を合わせた『重要』は“防災対策”（90.3%）が約9割と最も高くなっている。一方、「あまり重要でない」と「重要でない」を合わせた『重要でない』は“生涯学習、文化・スポーツの振興”（18.2%）が2割近くと高くなっている。（図4-1-3）

図4-1-3 施策の重要度





### ◇加重平均値

満足度・重要度を比率でみるのとは別に、比較をより明確にするため、加重平均による数量化を行った。下記の計算式のように、4段階の各評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出した。

$$\text{満足度評価点} = \frac{\text{「満足」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「やや満足」の回答者数} \times 1 \text{点} + \text{「やや不満」の回答者数} \times -1 \text{点} + \text{「不満」の回答者数} \times -2 \text{点}}{\text{回答者数}}$$

$$\text{重要度評価点} = \frac{\text{「重要」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「まあ重要」の回答者数} \times 1 \text{点} + \text{「あまり重要でない」の回答者数} \times -1 \text{点} + \text{「重要でない」の回答者数} \times -2 \text{点}}{\text{回答者数}}$$

注) 回答者数は、「わからない」と無回答を除く。

この算出方法では、満足度評価点はプラス2点からマイナス2点の間に分布し、中点の0点を境に、プラスの値が大きいほど満足度が高くなり、マイナスの値が大きいほど不満度が高くなる。

また、重要度評価点はプラス2点からマイナス2点の間に分布し、中点の0点を境に、プラスの値が大きいほど重要度が高くなり、マイナスの値が大きいほど重要度が低くなる。

地区別に満足度をみると、麴町地区では、「学校教育の充実」(0.93)、「保健・衛生対策」(0.92)が高くなっている。一方、「住宅対策」(-0.17)が低くなっている。

富士見地区では、「保健・衛生対策」(0.85)、「学校教育の充実」(0.70)が高くなっている。一方、「住宅対策」(-0.08)が低くなっている。

神保町地区では、「保健・衛生対策」(0.80)、「児童福祉」(0.80)が高くなっている。一方、「住宅対策」(-0.29)が低くなっている。

神田公園地区では、「男女平等、人権尊重の確立」(0.92)、「障害者施策」(0.86)が高くなっている。一方、「住宅対策」(-0.05)、「行政サービスデジタル化の推進」(-0.05)が低くなっている。

万世橋地区では、「学校教育の充実」(0.77)、「保健・衛生対策」(0.72)が高くなっている。一方、「環境対策」(-0.23)が低くなっている。

和泉橋地区では、「保健・衛生対策」(0.67)、「男女平等、人権尊重の確立」(0.65)が高くなっている。一方、「行政サービスデジタル化の推進」(-0.02)が低くなっている。(表4-1-4)

地区別に重要度をみると、麴町地区では、「防災対策」(1.76)、「学校教育の充実」(1.60)、「環境対策」(1.56)が高くなっている。

富士見地区では、「防災対策」(1.76)、「学校教育の充実」(1.57)、「保健・衛生対策」(1.54)、「児童福祉」(1.54)、「環境対策」(1.54)が高くなっている。

神保町地区では、「保健・衛生対策」(1.63)、「防災対策」(1.62)、「学校教育の充実」(1.56)が高くなっている。

神田公園地区では、「防災対策」(1.74)、「環境対策」(1.56)、「保健・衛生対策」(1.54)が高くなっている。

万世橋地区では、「保健・衛生対策」(1.68)、「防災対策」(1.55)、「児童福祉」(1.43)が高くなっている。

和泉橋地区では、「防災対策」(1.67)、「保健・衛生対策」(1.45)、「環境対策」(1.45)が高くなっている。(表4-1-4)

表4-1-4 施策の満足度評価点・重要度評価点(地区別)

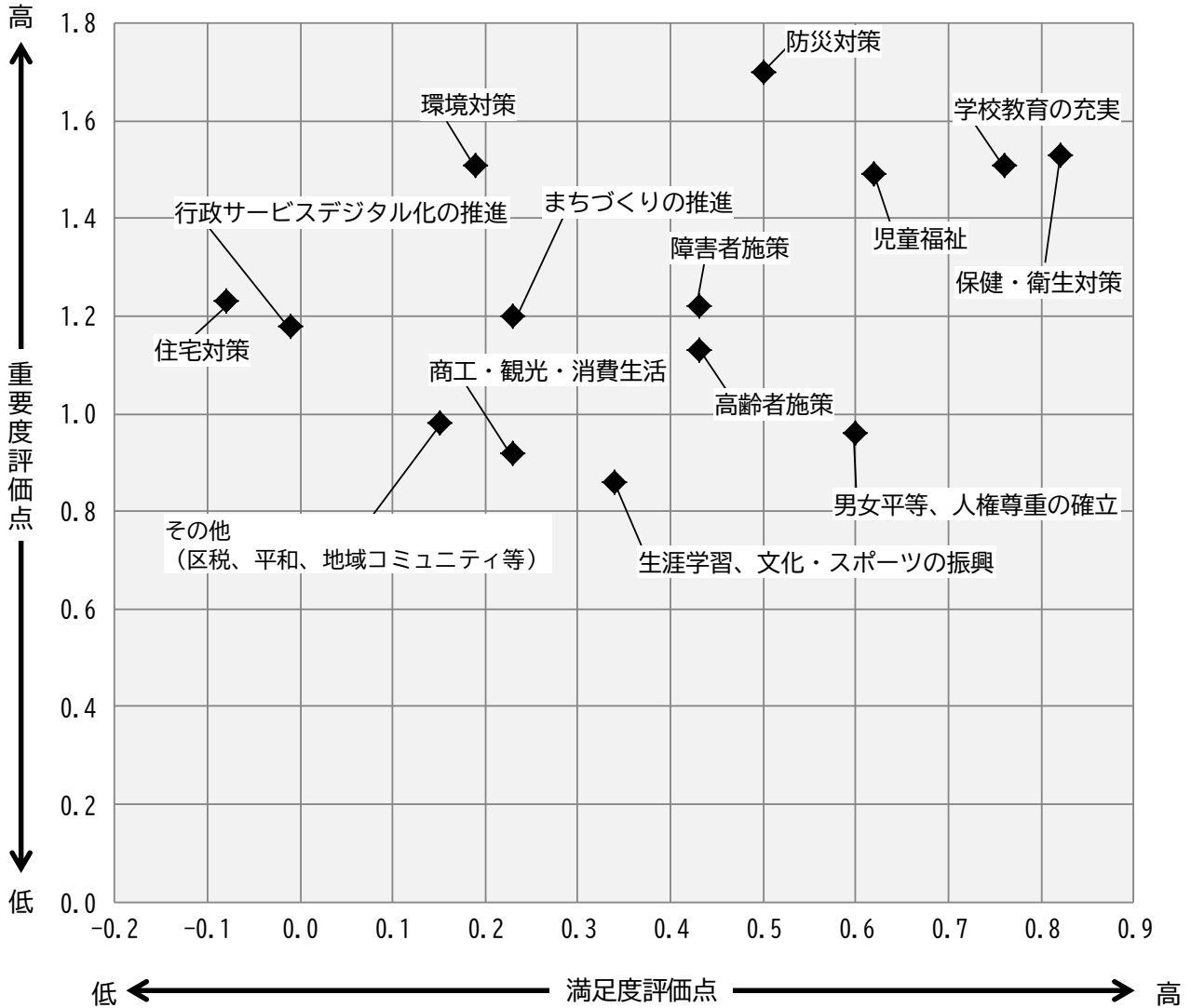
	満足度							重要度						
	全 体	麴 町 地 区	富 士 見 地 区	神 保 町 地 区	神 田 公 園 地 区	万 世 橋 地 区	和 泉 橋 地 区	全 体	麴 町 地 区	富 士 見 地 区	神 保 町 地 区	神 田 公 園 地 区	万 世 橋 地 区	和 泉 橋 地 区
1. 高齢者施策	0.43	0.37	0.51	0.42	0.53	0.55	0.37	1.13	1.27	1.19	1.22	0.94	1.05	0.93
2. 障害者施策	0.43	0.37	0.46	0.29	0.86	0.52	0.27	1.22	1.25	1.33	1.38	1.03	1.13	1.11
3. 保健・衛生対策	0.82	0.92	0.85	0.80	0.83	0.72	0.67	1.53	1.48	1.54	1.63	1.54	1.68	1.45
4. 児童福祉	0.62	0.69	0.45	0.80	0.79	0.64	0.39	1.49	1.55	1.54	1.54	1.42	1.43	1.41
5. 学校教育の充実	0.76	0.93	0.70	0.49	0.78	0.77	0.58	1.51	1.60	1.57	1.56	1.52	1.38	1.37
6. 男女平等、 人権尊重の確立	0.60	0.57	0.57	0.64	0.92	0.28	0.65	0.96	1.07	0.89	0.93	1.14	1.03	0.76
7. 生涯学習、文化・ スポーツの振興	0.34	0.31	0.42	0.23	0.45	0.15	0.37	0.86	0.97	0.89	0.77	0.88	0.71	0.78
8. 住宅対策	-0.08	-0.17	-0.08	-0.29	-0.05	-0.13	0.16	1.23	1.31	1.28	1.21	1.27	1.04	1.14
9. 環境対策	0.19	0.44	0.30	0.11	-0.04	-0.23	0.09	1.51	1.56	1.54	1.53	1.56	1.35	1.45
10. 防災対策	0.50	0.72	0.53	0.55	0.22	0.30	0.38	1.70	1.76	1.76	1.62	1.74	1.55	1.67
11. まちづくりの推進	0.23	0.16	0.43	0.08	0.29	-0.05	0.36	1.20	1.20	1.35	1.24	1.17	1.09	1.12
12. 商工・観光・消費生活	0.23	0.10	0.35	0.14	0.58	0.04	0.25	0.92	0.92	0.98	1.06	0.98	0.58	0.93
13. 行政サービスデジタル化の推進	-0.01	-0.01	0.02	-0.04	-0.05	0.02	-0.02	1.18	1.21	1.20	1.04	1.39	0.88	1.22
14. その他 (区税、平和、地域コミュニティ等)	0.15	0.24	0.06	0.21	0.34	-0.10	0.09	0.98	1.07	0.98	1.04	1.04	0.83	0.87

次の図は、加重平均値による満足度評価と重要度評価を相関させた散布図である。横軸が満足度評価点、縦軸が重要度評価点になっている。

右に位置するほど満足度が高く、上に位置するほど重要度が高いと言える。満足度評価点が低く、重要度評価点が高い領域（左上方）にある項目が、住民ニーズの高いものと考えられる。

(図4-1-5)

図4-1-5 施策の満足度評価点・重要度評価点の相関



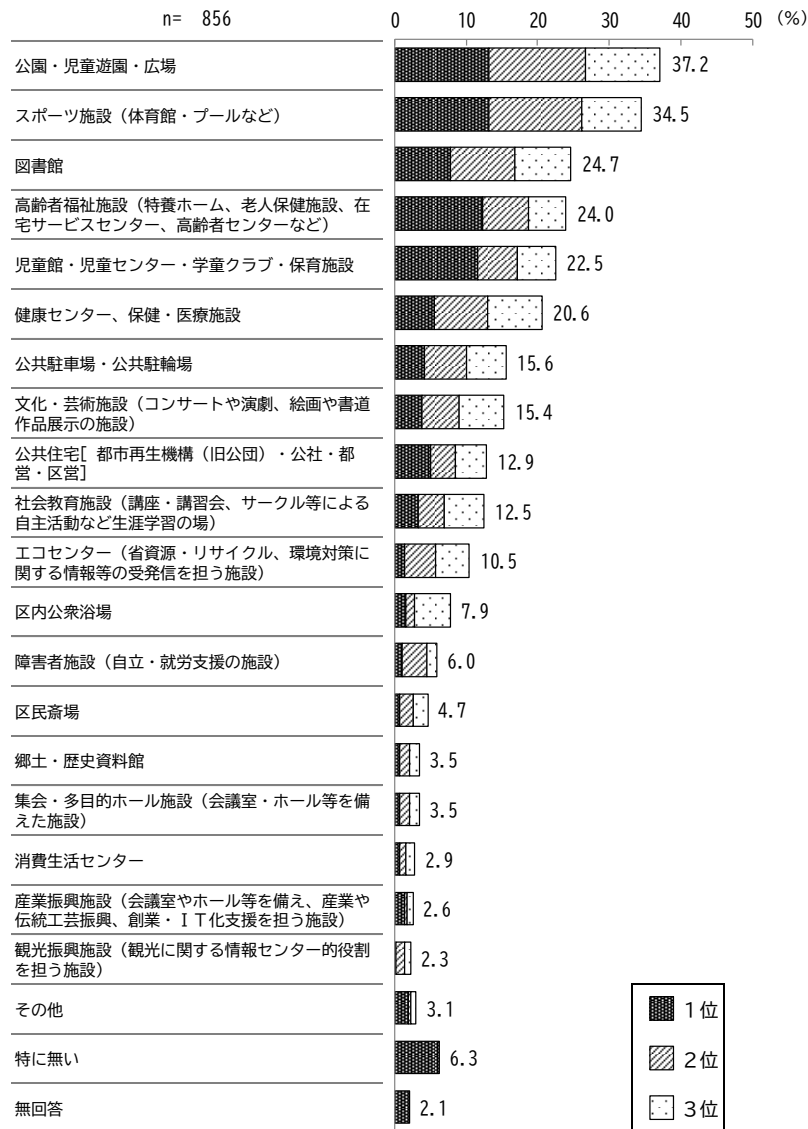
## 5. 区の施設への要望

### (1) 整備・充実すべき施設

◇「公園・児童遊園・広場」が3割台半ば超え

問7 あなたは、区内にどのような施設を整備・充実すべきだと思いますか。下記1～21の施設から優先順位の高い順に3つを選んで番号を記入してください。ただし、「21. 特に無い」を選んだ方は1位の欄に記入してください。

図5-1-1 整備・充実すべき施設



整備・充実すべき施設について聞いたところ、第1位から第3位までの積み上げでみると、「公園・児童遊園・広場」(37.2%)が最も高く、次いで、「スポーツ施設」(34.5%)、「図書館」(24.7%)、「高齢者福祉施設」(24.0%)の順となっている。

また、1位の項目に着目すると、「公園・児童遊園・広場」>「スポーツ施設(体育館・プールなど)」>「高齢者福祉施設(特養ホーム、老人保健施設、在宅サービスセンター、高齢者センターなど)」>「児童館・児童センター・学童クラブ・保育施設」>「図書館」の順に高くなっており、「図書館」を2位、3位で選択している方が多いことがうかがえる。(図5-1-1)

その他を回答した方は26人おり、主な意見として「大型スーパー」、「ドッグラン」、「喫煙所」などが挙げられている。

令和3年度で3位だった「スポーツ施設」が令和4年度で2位、令和3年度で2位だった「高齢者福祉施設」が令和4年度で3位になっている。また、平成29年以降上位5つの施設は変わっていない。(表5-1-2)

表5-1-2 整備・充実すべき施設（経年比較）  
(単位：%)

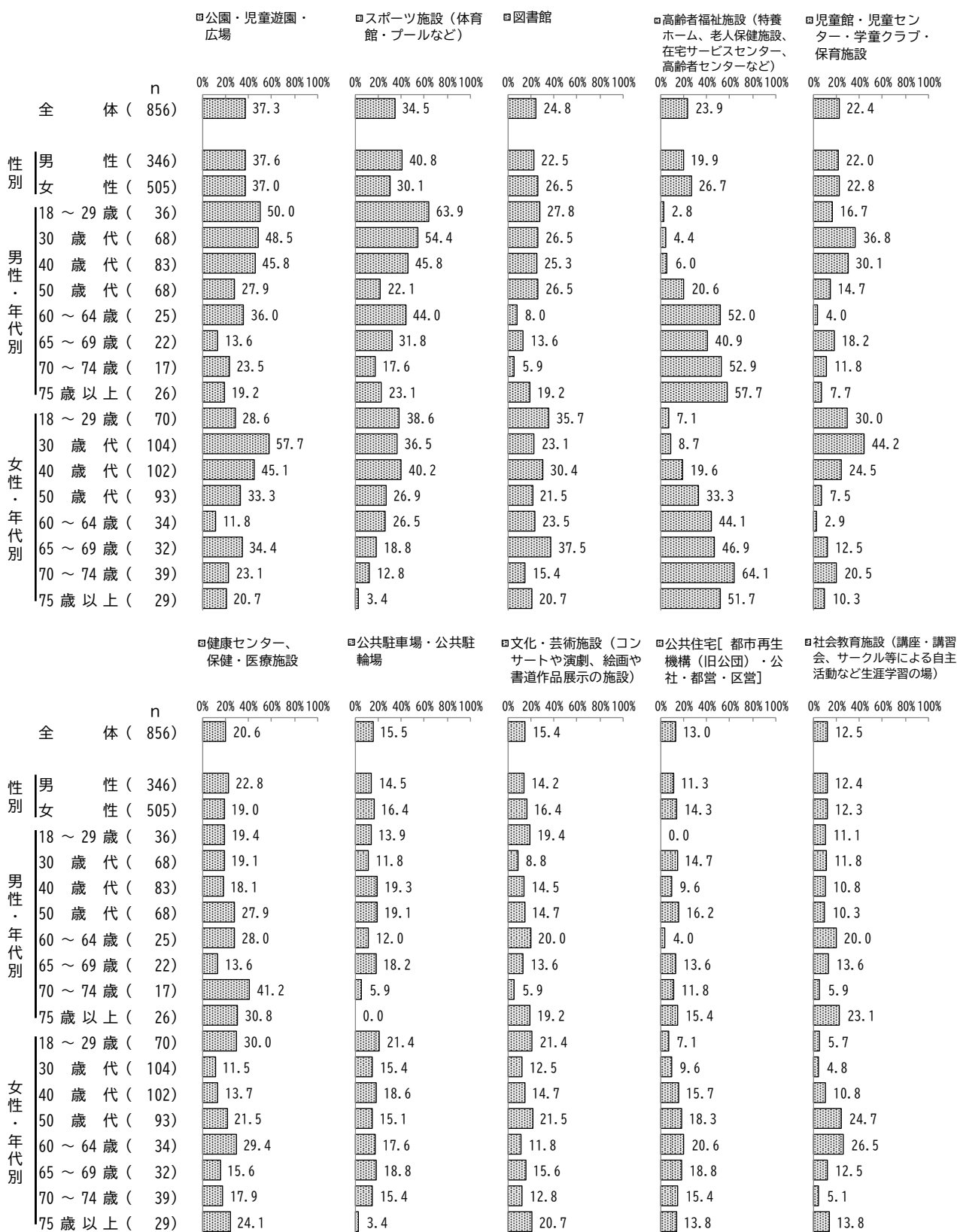
	1位	2位	3位	4位	5位
令和4年	公園・児童遊園・広場 (13.3)	スポーツ施設 (13.2)	高齢者福祉施設 (12.4)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (11.6)	図書館 (7.9)
令和3年	公園・児童遊園・広場 (17.3)	高齢者福祉施設 (13.9)	スポーツ施設 (12.3)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (8.0)	図書館 (7.1)
令和2年	高齢者福祉施設 (15.0)	公園・児童遊園・広場 (13.7)	スポーツ施設 (13.3)	図書館 (10.2)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (9.9)
令和元年	高齢者福祉施設 (17.2)	スポーツ施設 (12.8)	公園・児童遊園・広場 (11.6)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (11.3)	図書館 (6.8)
平成30年	高齢者福祉施設 (18.2)	スポーツ施設 (13.0)	公園・児童遊園・広場 (12.2)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (10.9)	図書館 (8.7)
平成29年	高齢者福祉施設 (16.6)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (13.3)	スポーツ施設 (12.4)	公園・児童遊園・広場 (11.1)	図書館 (8.3)
平成28年	高齢者福祉施設 (17.9)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (12.6)	公園・児童遊園・広場 (11.3)	スポーツ施設 (9.7)	公共住宅 (7.1)
平成27年	高齢者福祉施設 (23.3)	スポーツ施設 (11.5)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (10.5)	公園・児童遊園・広場 (9.2)	図書館 (7.3)
平成26年	高齢者福祉施設 (20.2)	スポーツ施設 (11.3)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (10.8)	公園・児童遊園・広場 (10.5)	図書館 (7.4)
平成25年	スポーツ施設 (14.2)	高齢者福祉施設 (13.6)	公園・児童遊園 (10.1)	健康センター・保健施設・医療施設、公共住宅 (各7.9)	
平成24年	高齢者福祉施設 (13.8)	スポーツ施設 (11.5)	健康センター・保健施設・医療施設、 公園・児童遊園 (各9.6)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (9.5)	
平成23年	スポーツ施設 (23.7)	図書館 (16.0)	公園・児童遊園 (8.6)	高齢者福祉施設 (7.6)	区営住宅 (4.6)
平成22年	スポーツ施設 (22.5)	図書館 (17.2)	高齢者福祉施設 (8.3)	公園・児童遊園 (6.6)	健康センター (4.3)
平成21年	スポーツ施設 (23.2)	図書館 (16.3)	高齢者福祉施設 (8.1)	公園・児童遊園 (7.7)	区営駐車場 (4.6)
平成20年	スポーツ施設 (22.6)	図書館 (17.3)	高齢者福祉施設 (9.1)	公園・児童遊園 (8.0)	健康センター、 区営駐車場 (各4.9)
平成19年	スポーツ施設 (22.7)	図書館 (16.0)	公園・児童遊園 (8.5)	高齢者福祉施設 (8.0)	区営駐車場 (6.6)
平成18年	スポーツ施設 (27.0)	図書館 (16.3)	公園・児童遊園 (8.1)	区営駐車場 (7.8)	高齢者福祉施設 (7.2)
平成17年	スポーツ施設 (26.1)	図書館 (15.8)	健康センター (6.9)	区営駐車場 (6.9)	公園・児童遊園 (6.4)
平成16年	スポーツ施設 (21.5)	図書館 (15.7)	高齢者福祉施設 (8.7)	健康センター (7.0)	公園・児童遊園 (7.0)
平成15年	スポーツ施設 (20.8)	図書館 (13.9)	高齢者福祉施設 (11.5)	公園・児童遊園 (8.6)	区営駐車場 (6.9)
平成14年	スポーツ施設 (19.8)	図書館 (13.2)	高齢者福祉施設 (10.6)	区営駐車場 (8.4)	健康センター (5.9)
平成13年	スポーツ施設 (24.8)	図書館 (13.4)	高齢者福祉施設 (12.8)	区営駐車場 (12.4)	健康センター (11.1)
平成12年	スポーツ施設 (30.7)	図書館 (18.2)	文化会館 (13.3)	区営駐車場 (13.0)	高齢者福祉施設 (12.5)
平成11年	スポーツ施設 (26.1)	図書館 (16.3)	高齢者福祉施設 (14.7)	区営駐車場 (13.7)	健康センター (12.3)
平成10年	スポーツ施設 (31.2)	図書館 (16.0)	文化会館 (13.1)	健康センター (12.8)	区営駐車場 (11.8)
平成9年	スポーツ施設 (29.6)	図書館 (17.0)	区営駐車場 (14.6)	健康センター (12.9)	公園・児童遊園 (11.1)
平成8年	区営駐車場 (23.5)	スポーツ施設 (23.1)	健康センター (17.5)	図書館 (14.0)	高齢者福祉施設 (13.1)
平成7年	スポーツ施設 (22.6)	区営駐車場 (17.5)	高齢者福祉施設 (15.3)	区営住宅 (14.2)	健康センター (13.6)

注)平成13年以前の調査では「近くにあればよいと思う施設を最大2つまで」答えたものの割合を、平成14年～平成23年の調査では「もっとも近くにあればよい(第1位)」と答えた施設の割合を、平成24年からは「整備・充実すべき(第1位)」と答えた施設の割合をまとめたものである。

性・年代別にみると、「公園・児童遊園・広場」は女性30歳代（57.7%）で5割台半ばを超えと高くなっている。また、「スポーツ施設」は男性18～29歳（63.9%）で6割台半ば近くと高くなっている。

(図5-1-3)

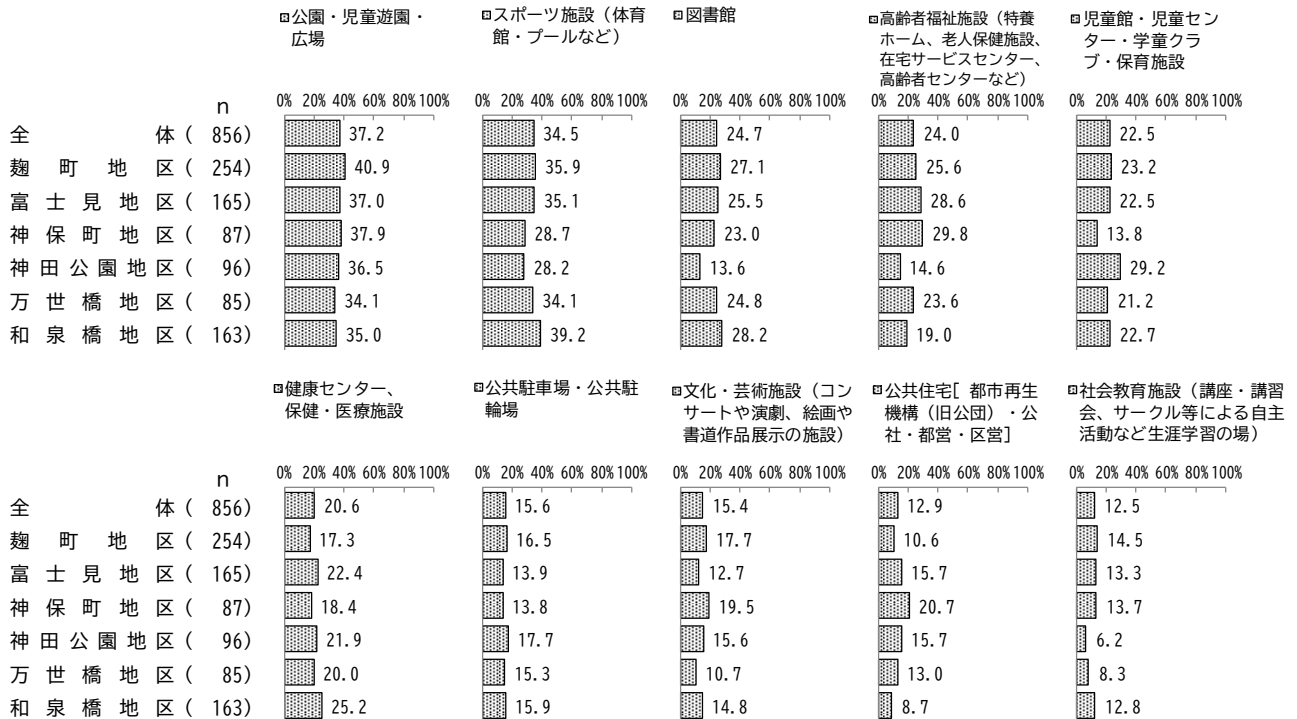
図5-1-3 整備・充実すべき施設（性・年代別）－上位10施設－



地区別にみると、「スポーツ施設」は和泉橋地区（39.2％）が4割弱と高くなっている。また、「児童館・児童センター・学童クラブ・保育施設」は神田公園地区（29.2％）で3割弱と高くなっている。

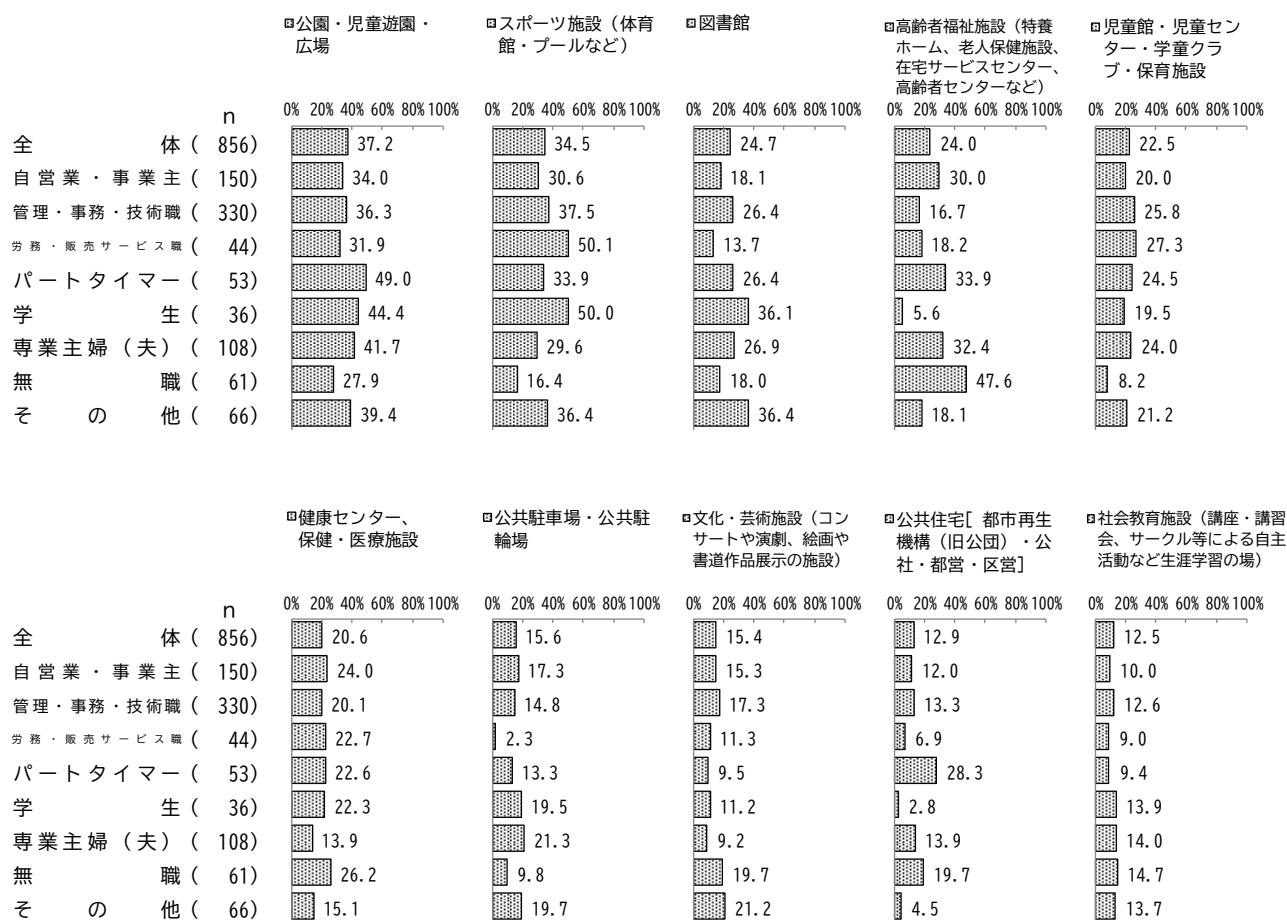
（図5-1-4）

図5-1-4 整備・充実すべき施設（地区別）－上位10施設－



職業別にみると、「公園・児童遊園・広場」はパートタイマー（49.0%）が5割弱と高くなっている。また、「スポーツ施設」は労務・販売サービス職（50.1%）が約5割、「高齢者福祉施設」は無職（47.6%）で4割台半ばを超えと高くなっている。（図5-1-5）

図5-1-5 整備・充実すべき施設（職業別）－上位10施設－

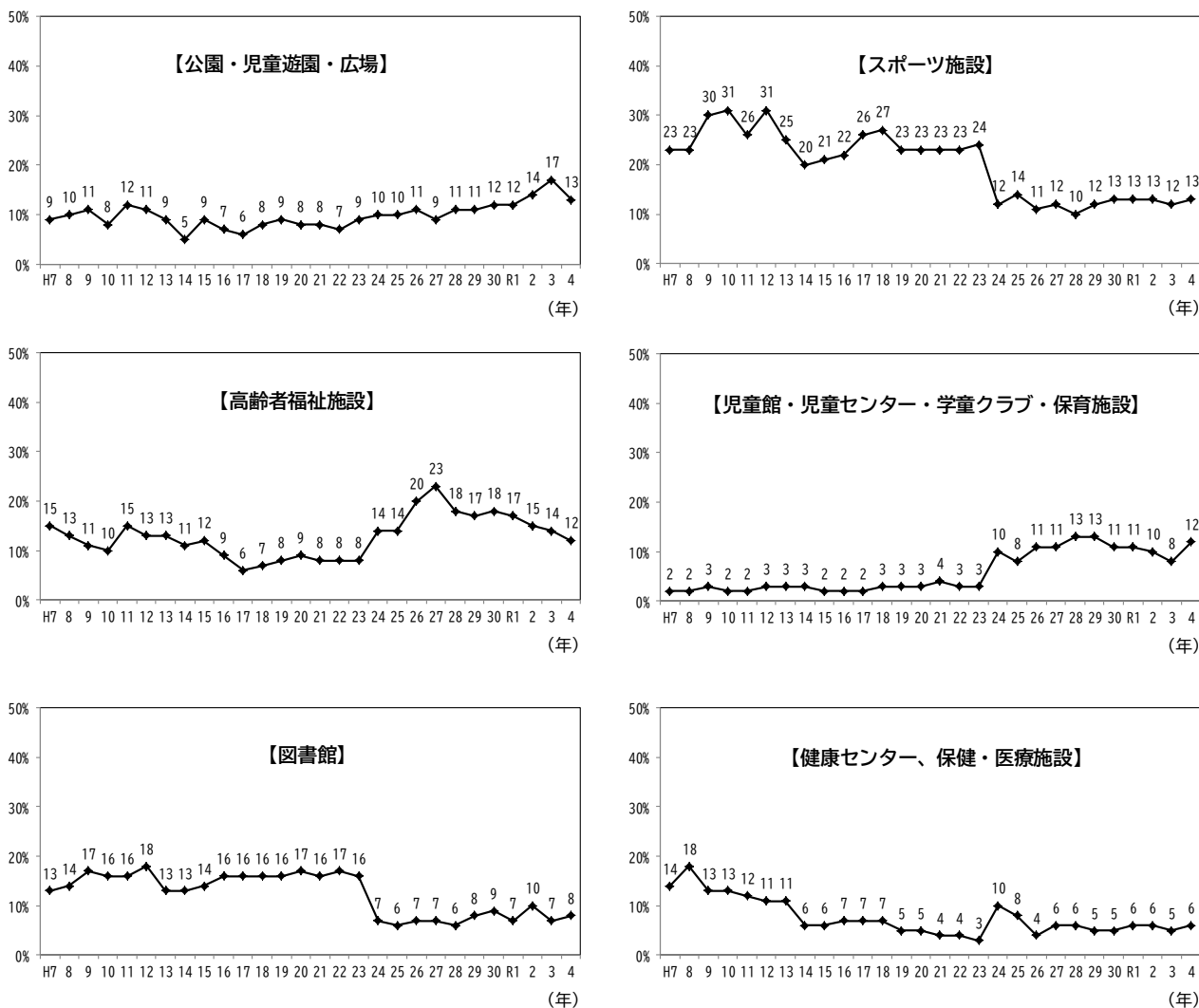


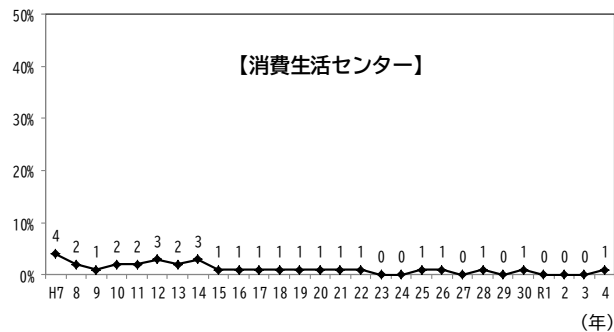
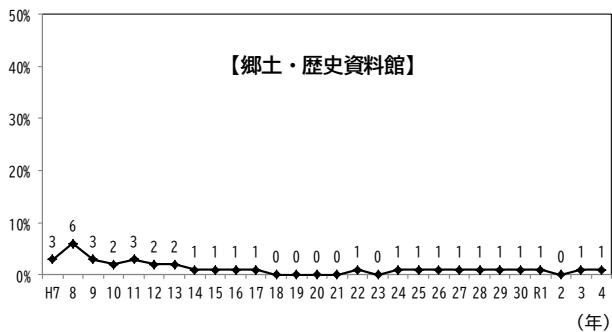
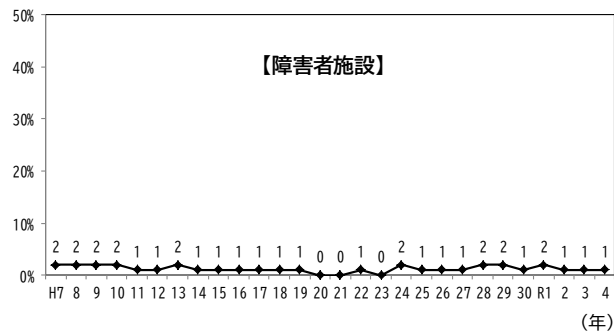
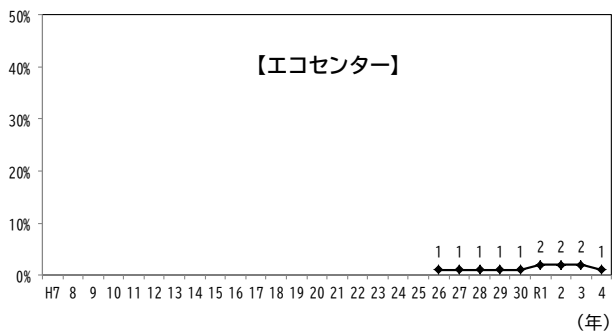
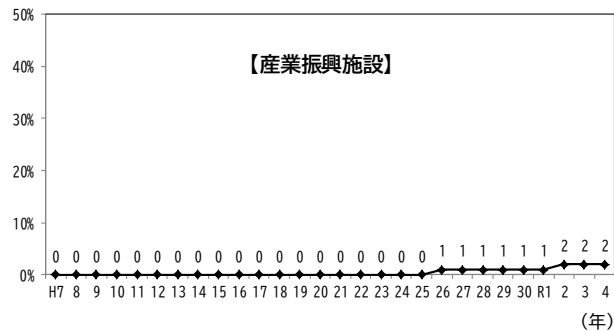
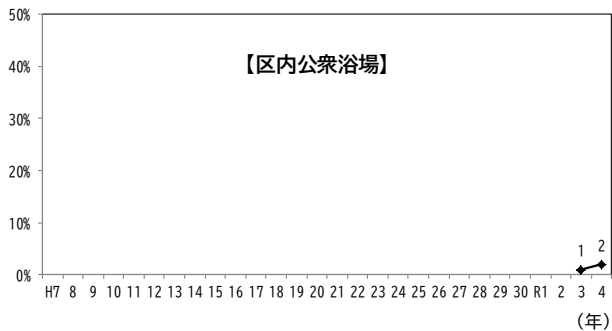
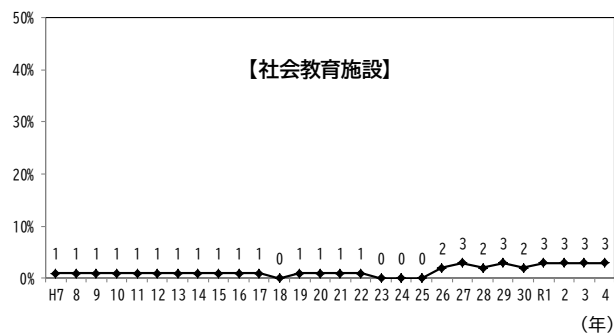
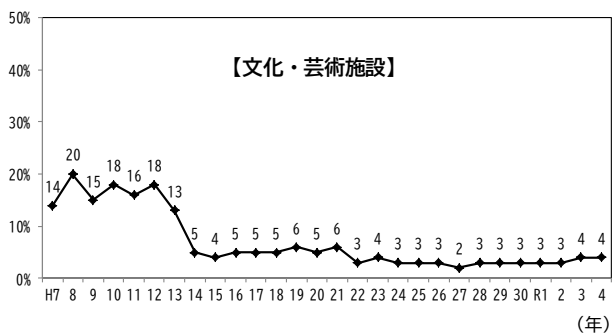


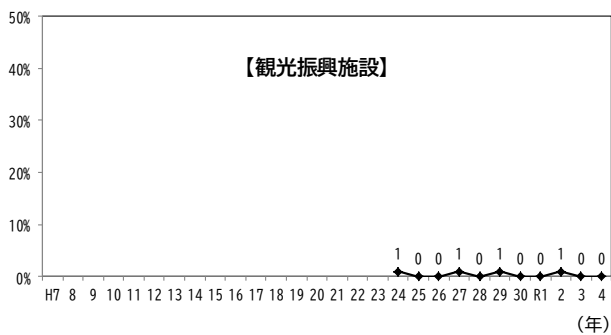
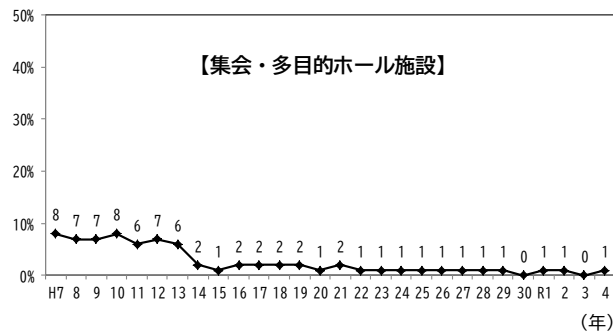
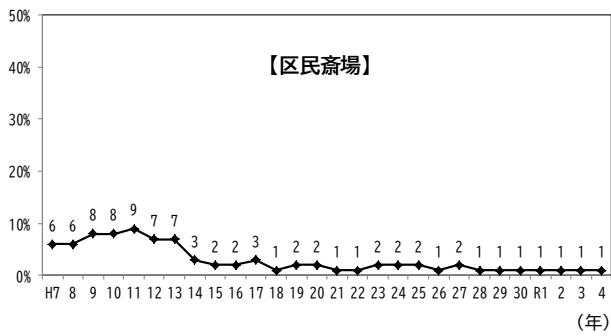
施設別に経年比較をみると、「高齢者福祉施設」は平成27年以降減少傾向がみられる。

(図5-1-6)

図5-1-6 整備・充実すべき施設(第1位) -施設別経年比較-







注) 比率は四捨五入している。「0」は[0.4%以下]であることを示す。選択肢の文言は年度により異なる場合がある。

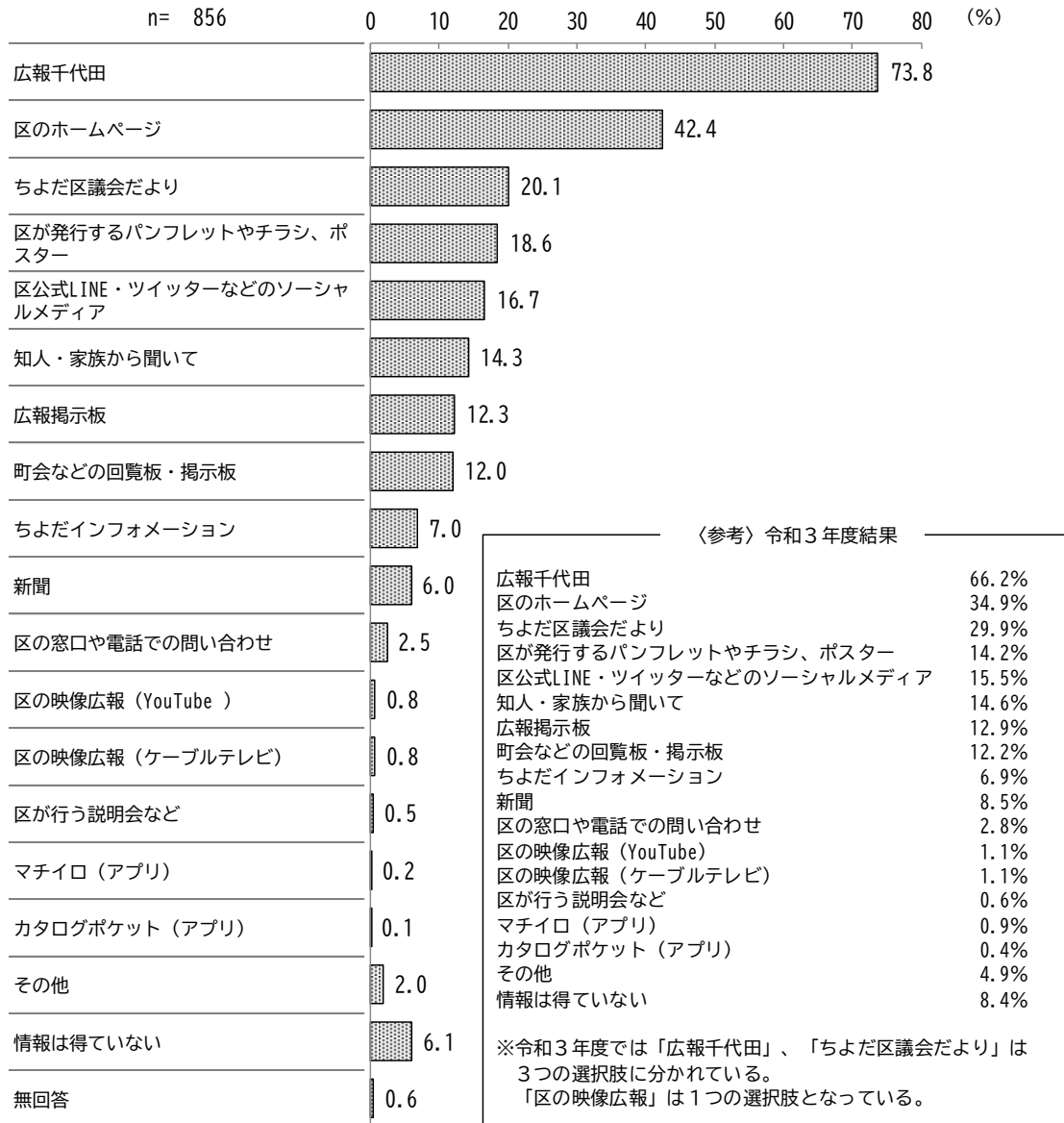
## 6. 広報活動

### (1) 区政情報の取得媒体

◇「広報千代田」が7割台半ば近く

問8 あなたは区に関する情報をどこから得ていますか。次の中から当てはまるものを選んでください。(○はいくつでも)

図6-1-1 区政情報の取得媒体



区政情報の取得媒体について聞いたところ、「広報千代田」(73.8%)が7割台半ば近くで最も高く、次いで「区のホームページ」(42.4%)の順となっている。

令和3年度と比較すると、17項目中「広報千代田」、「区のホームページ」、「区が発行するパンフレットやチラシ・ポスター」、「区公式LINE・ツイッターなどのソーシャルメディア」、「ちよだインフォメーション」の5項目で増加傾向が見られた。一方、「情報は得ていない」は令和3年度より2.3ポイント減少しており、区に関する情報を得ている人がわずかに増加していることがわかる。

(図6-1-1)

その他を回答した方は17人おり、主な意見として「郵便物」、「学校からの配布物」などが挙げられている。

図6-1-2 広報千代田・区ホームページ・区公式SNSからの情報取得状況の分布図

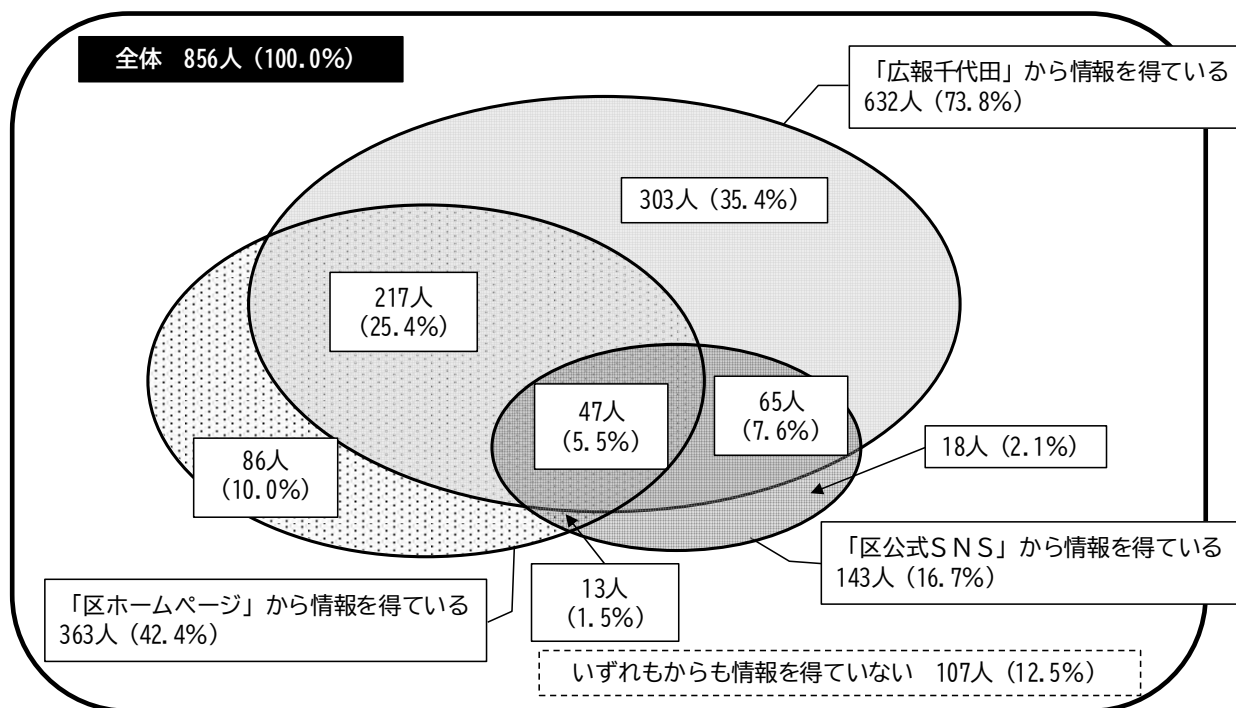


図6-1-3 広報千代田・区ホームページ・区公式 SNS からの情報取得状況の分布表

広報千代田	区ホームページ	区公式 SNS	人数	割合
情報を得ている	情報を得ている	情報を得ている	47人	5.5%
情報を得ている	情報を得ている	情報を得ていない	217人	25.4%
情報を得ている	情報を得ていない	情報を得ている	65人	7.6%
情報を得ている	情報を得ていない	情報を得ていない	303人	35.4%
情報を得ていない	情報を得ている	情報を得ている	13人	1.5%
情報を得ていない	情報を得ている	情報を得ていない	86人	10.0%
情報を得ていない	情報を得ていない	情報を得ている	18人	2.1%
情報を得ていない	情報を得ていない	情報を得ていない	107人	12.5%
合計			856人	100.0%

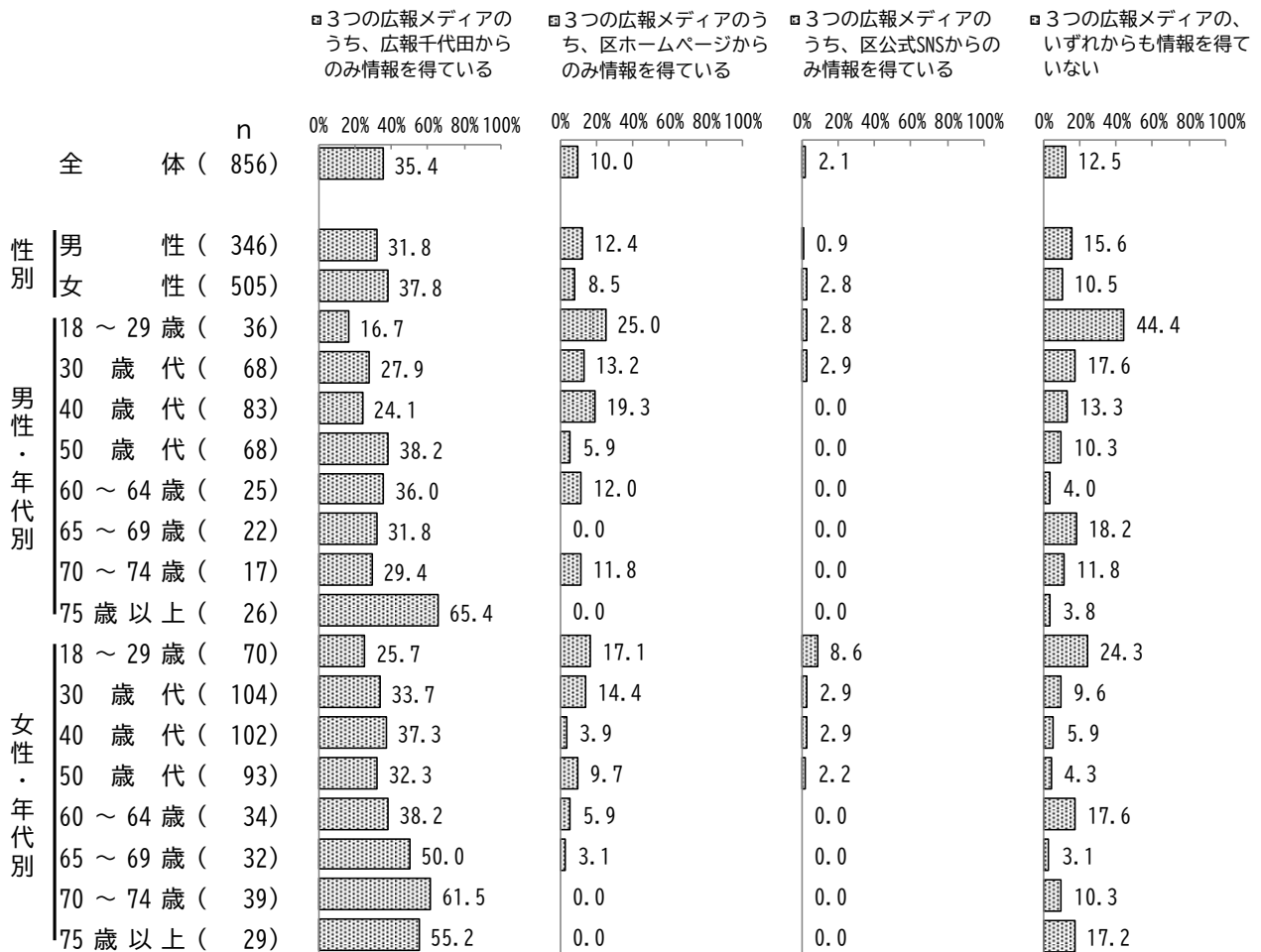
問8で各項目について選択した方を「情報を得ている」に、選択していない方を「情報を得ていない」に分類した。

広報千代田、区ホームページ、区公式 SNS の3つの広報メディアからの情報取得の有無によって分類し、ベン図（図6-1-2）と表（図6-1-3）に示した。

3つの広報メディアすべてから区政情報を取得している方は 5.5%（47人）で、「広報千代田」のみを利用している方は 35.4%（303人）と最も多くなっている。「広報千代田」と「区民ホームページ」の2つを利用している方は 25.4%（217人）となっている。一方、3つの広報メディアいずれからも情報を取得していない方は 12.5%（107人）となっている。（図6-1-2、図6-1-3）

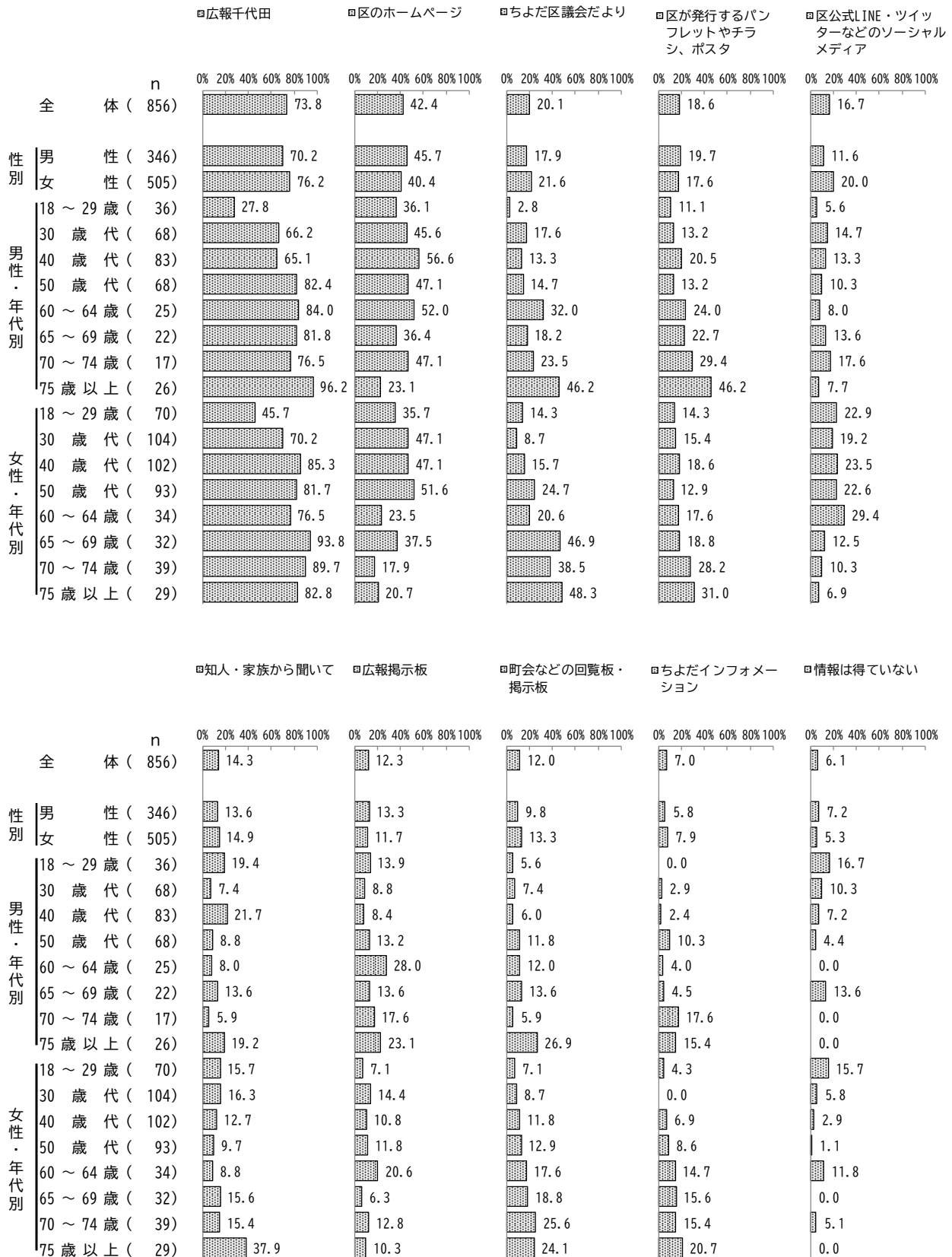
性・年代別にみると、「3つの広報メディアのうち、広報千代田からのみ情報を得ている」は男性75歳以上（65.4%）で6割台半ばと高くなっている。また、「3つの広報メディアのうち、区のホームページからのみ情報を得ている」は男性18～29歳（25.0%）で2割台半ばと高くなっている。一方、「3つの広報メディアの、いずれからも情報を得ていない」は男性18～29歳（44.4%）で4割台半ばと高くなっている。（図6-1-4）

図6-1-4 広報千代田・区ホームページ・区公式SNSからの情報取得状況（性・年代別）



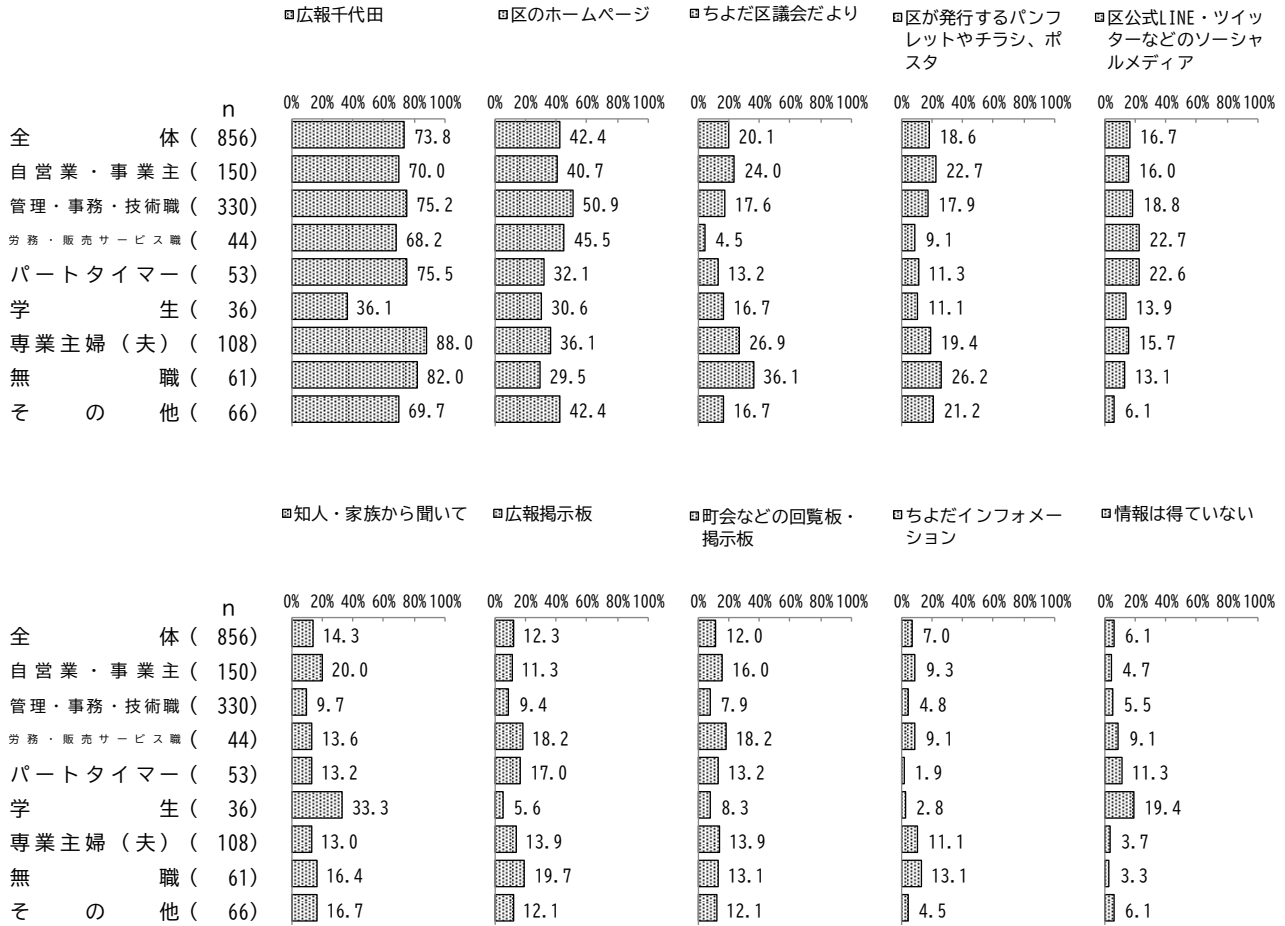
性・年代別にみると、「広報千代田」は男性 75 歳以上（96.2%）で 9 割台半ばを超えと高くなっている。また、「区のホームページ」は男性 40 歳代（56.6%）で 5 割台半ばを超えと高く、「知人・家族から聞いて」は女性 75 歳以上（37.9%）で 3 割台半ばを超えと高くなっている。一方、「情報は得ていない」は男性 18～29 歳（16.7%）、女性 18～29 歳（15.7%）、男性 65～69 歳（13.6%）、女性 60～64 歳（11.8%）で 1 割台と高くなっている。（図 6-1-5）

図 6-1-5 区政情報の取得媒体（性・年代別）—上位 10 回答—



職業別にみると、「広報千代田」は専業主婦（夫）（88.0%）で9割近くと高くなっている。また、「ちよだ区議会だより」は無職（36.1%）で3割台半ばを超えと高く、「知人・家族から聞いて」は学生（33.3%）で3割台半ば近くと高くなっている。一方、「情報は得ていない」は学生（19.4%）で2割弱と高くなっている。（図6-1-6）

図6-1-6 区政情報の取得媒体（職業別）—上位10回答—



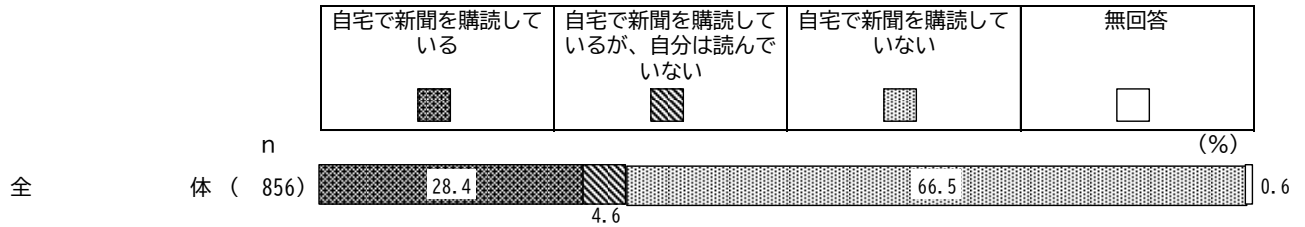


(2) 新聞購読の有無

◇「自宅で新聞を購読していない」が6割台半ばを超え

問9 あなたは自宅で新聞購読していますか（電子版を除く）。（○は1つ）

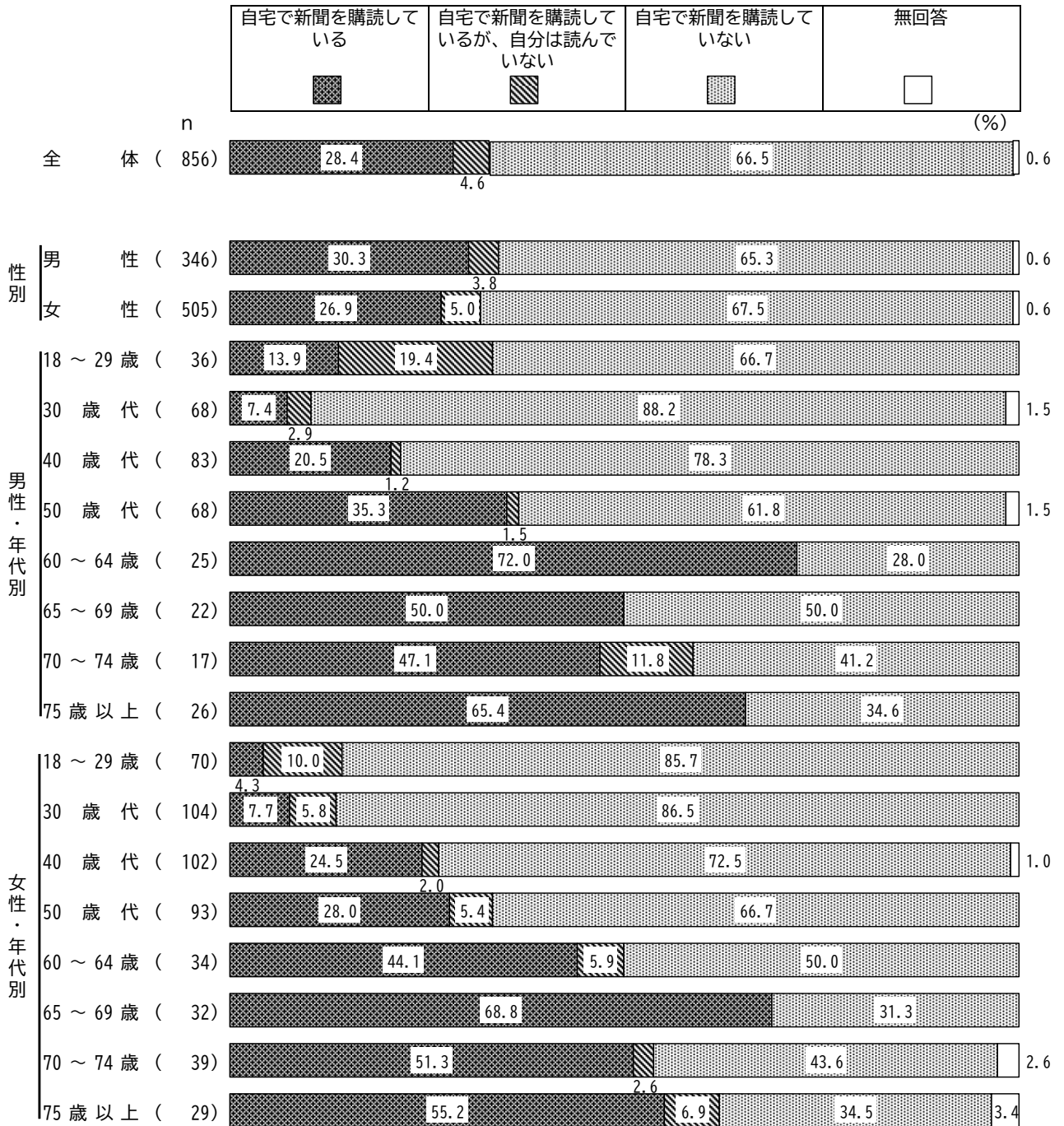
図6-2-1 新聞購読の有無



新聞購読の有無について聞いたところ、「自宅で新聞を購読していない」が66.5%で最も高くなっている。一方、「自宅で新聞を購読している」(28.4%)は3割近くとなっている。(図6-2-1)

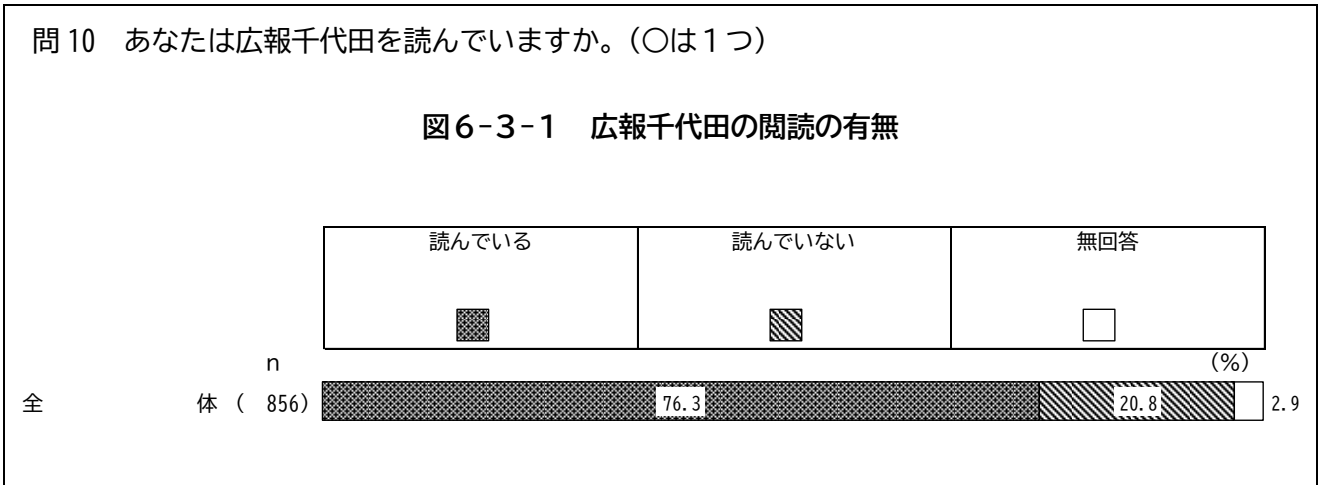
性・年代別にみると、「自宅で新聞を購読していない」は男性30歳代（88.2%）で9割近くと高くなっている。一方、「自宅で新聞を購読している」は男性60～64歳（72.0%）で7割強と高くなっている。（図6-2-2）

図6-2-2 新聞購読の有無（性・年代別）



(3) 広報千代田の閲読の有無

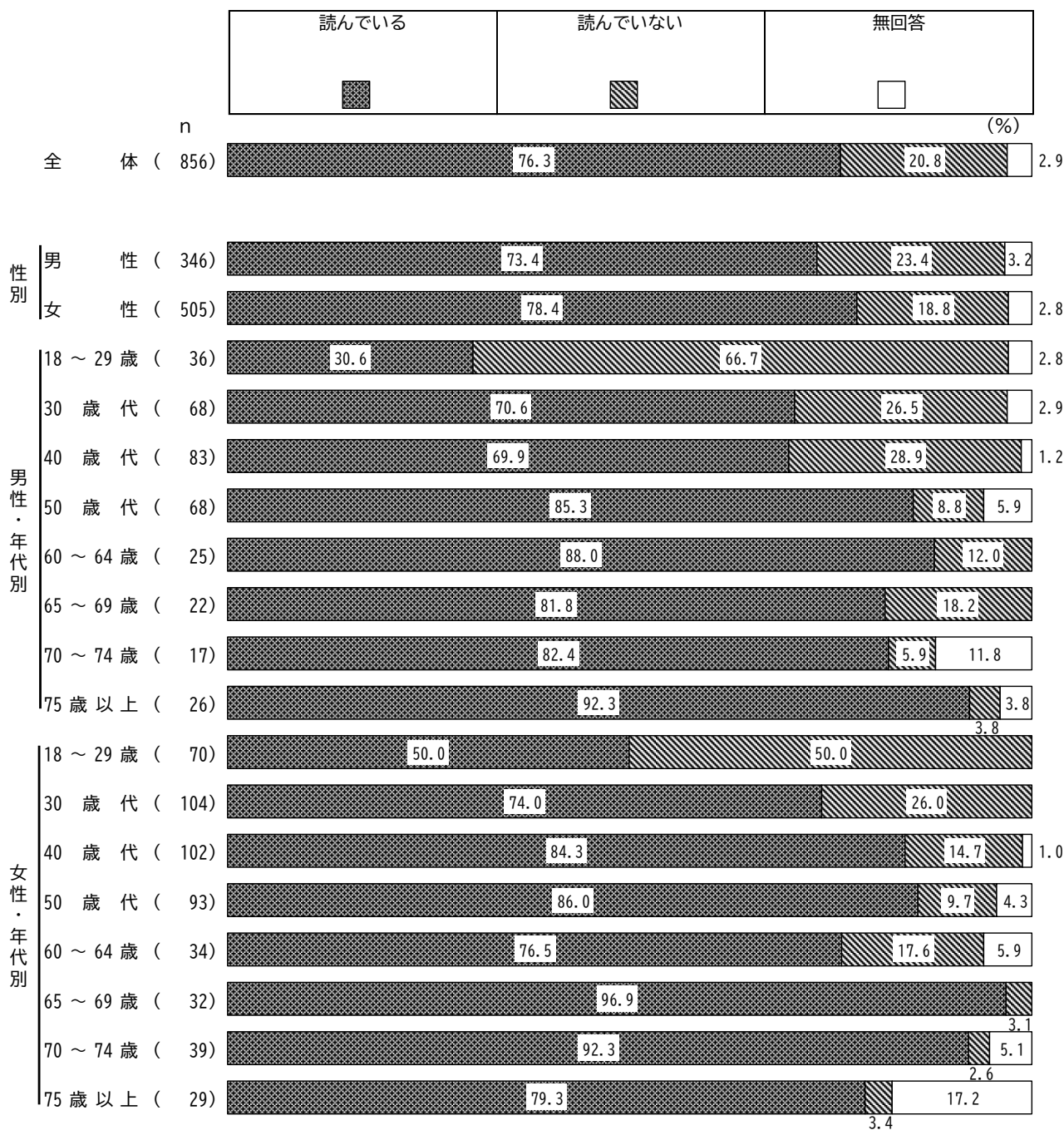
◇「読んでいる」が7割台半ば超え



広報千代田の閲読の有無について聞いたところ、「読んでいる」(76.3%)が7割台半ば超え、「読んでいない」(20.8%)は約2割となっている。(図6-3-1)

性・年代別にみると、「読んでいる」は女性 65～69 歳（96.9%）、男性 75 歳以上（92.3%）で 9 割半ば超えと高くなっている。一方、「読んでいない」は男性 18～29 歳（66.7%）で 6 割台半ば超えと高くなっている。また、令和 3 年度と比較すると、30 歳代、40 歳代で「読んでいる」が大きく伸びている。（図 6-3-2）

図 6-3-2 広報千代田の読書の有無（性・年代別）



18～29歳	32.2%	60～64歳	76.9%
30歳代	47.1%	65～69歳	85.7%
40歳代	67.4%	70～74歳	76.6%
50歳代	71.9%	75歳以上	77.0%

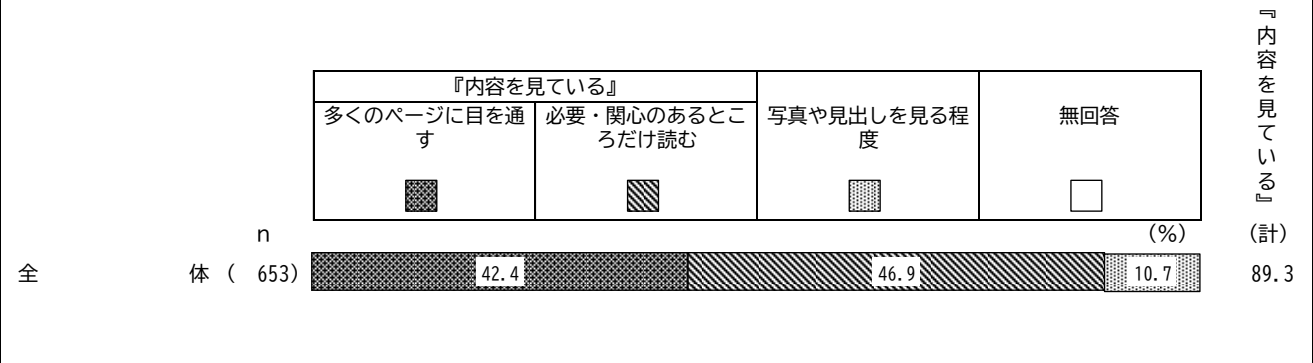
(3-1) 広報千代田の閲読状況

◇『内容を見ている』が9割弱

(問10で「1. 読んでいる」とお答えの方に)

問10-1 あなたは広報千代田をどの程度読んでいますか。(○は1つ)

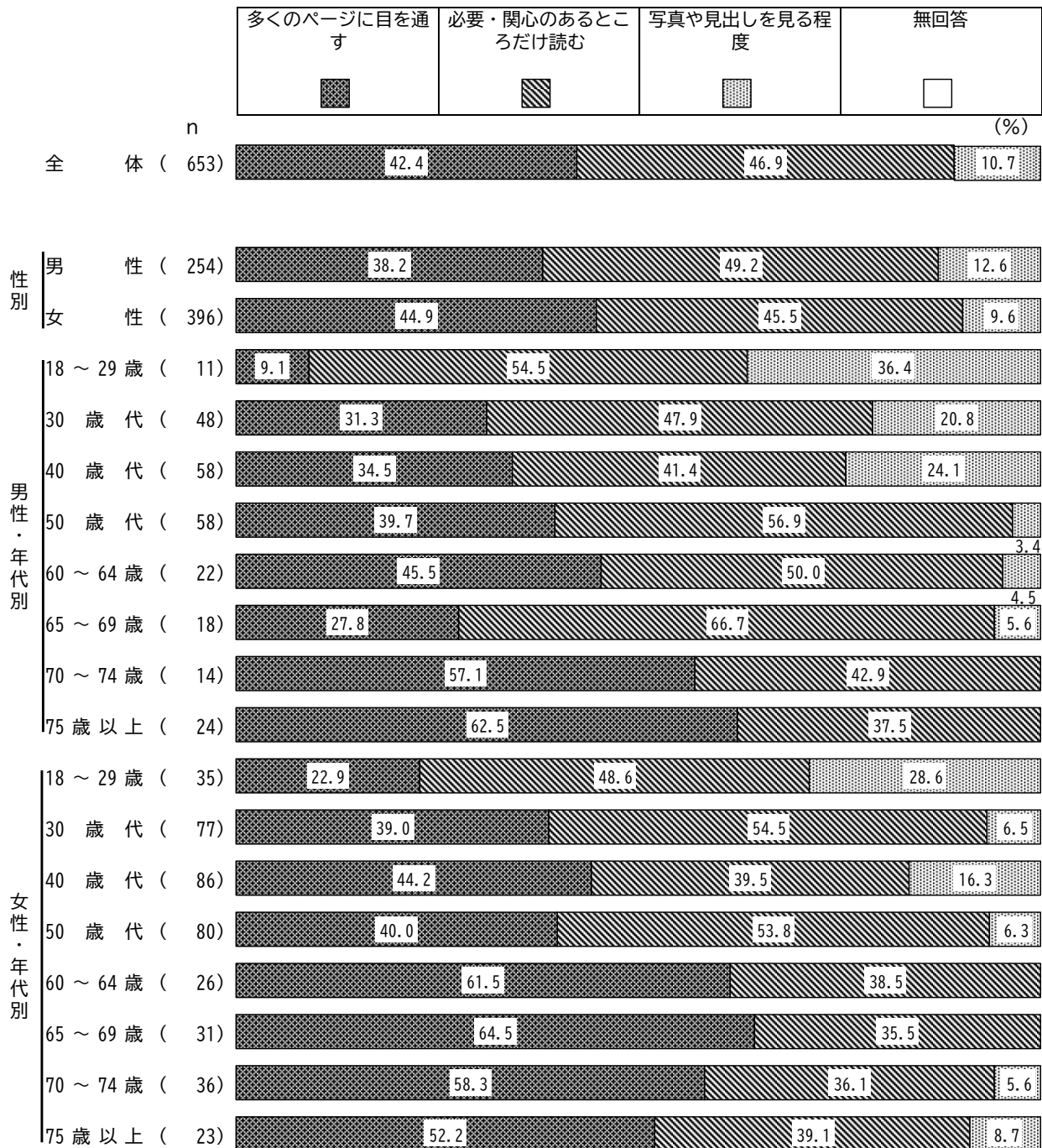
図6-3-3 広報千代田の閲読状況



広報千代田をどの程度読むか聞いたところ、「多くのページに目を通す」(42.4%)と「必要・関心のあるところだけ読む」(46.9%)を合わせた『内容を見ている』(89.3%)が9割弱となっている。一方、「写真や見出しを見る程度」(10.7%)は約1割となっている。(図6-3-3)

性・年代別にみると、「多くのページに目を通す」は女性 65～69 歳（64.5%）が 6 割台半ば近くと高くなっている。「必要・関心のあるところだけ読む」は男性 65～69 歳（66.7%）で 6 割台半ばを超えと高くなっている。（図 6-3-4）

図 6-3-4 広報千代田の閲読状況（性・年代別）



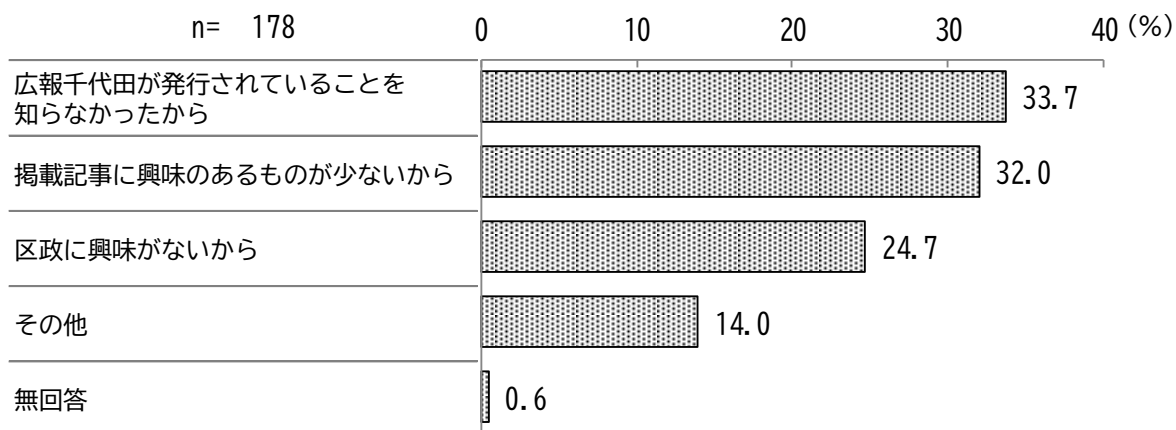
### (3-2) 広報千代田を読まない理由

◇「広報千代田が発行されていることを知らなかったから」が3割台半ば近く

(問10で「2. 読んでいない」とお答えの方に)

問10-2 読んでいない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図6-3-5 広報千代田を読まない理由

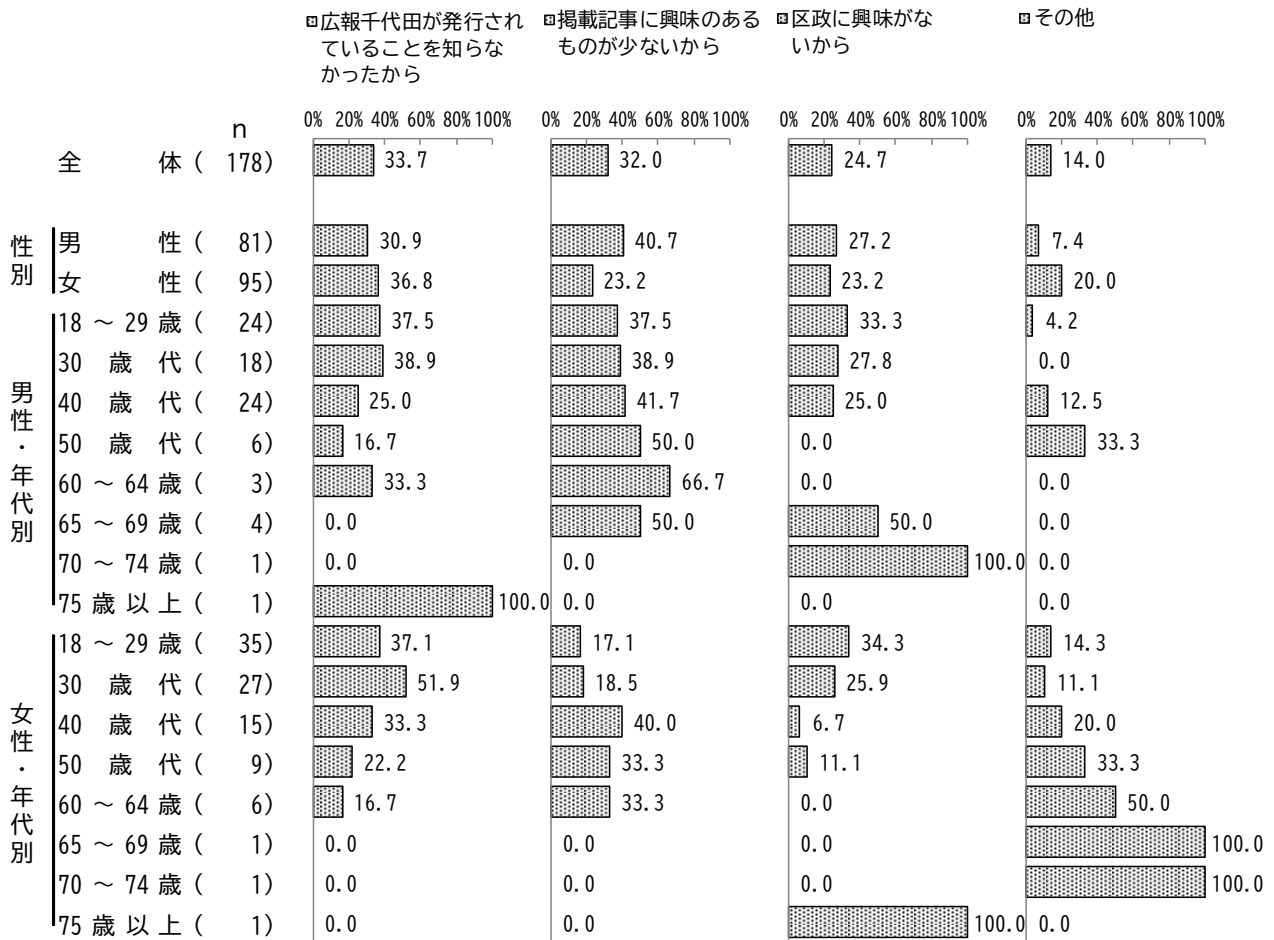


広報千代田を読まない理由を聞いたところ、「広報千代田が発行されていることを知らなかったから」(33.7%)が3割台半ば近くで最も高く、次いで「掲載記事に興味のあるものが少ないから」(32.0%)、「区政に興味がないから」(24.7%)と続いている。(図6-3-5)

その他を回答した方は25人おり、主な意見として「読む時間が少ない」、「簡単に入手できないから」、「インターネットに慣れてしまって、紙媒体を読む習慣がなくなっていました」などが挙げられている。

性・年代別にみると、「掲載記事に興味のあるものが少ないから」は男女ともおおむね年齢層が高いほど割合が高くなっている。(図6-3-6)

図6-3-6 広報千代田を読まない理由(性・年代別)

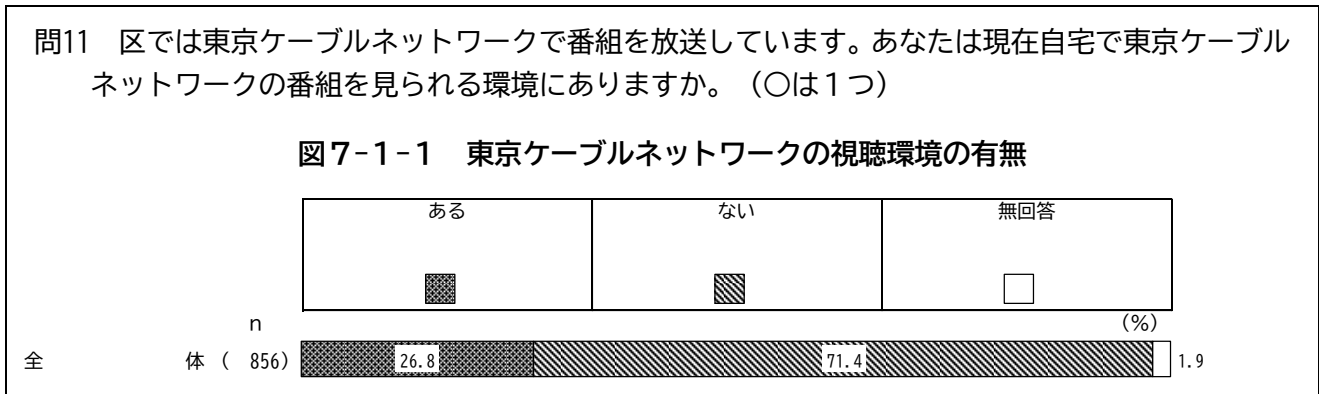




## 7. 区政情報の把握

### (1) 東京ケーブルネットワークの視聴環境の有無

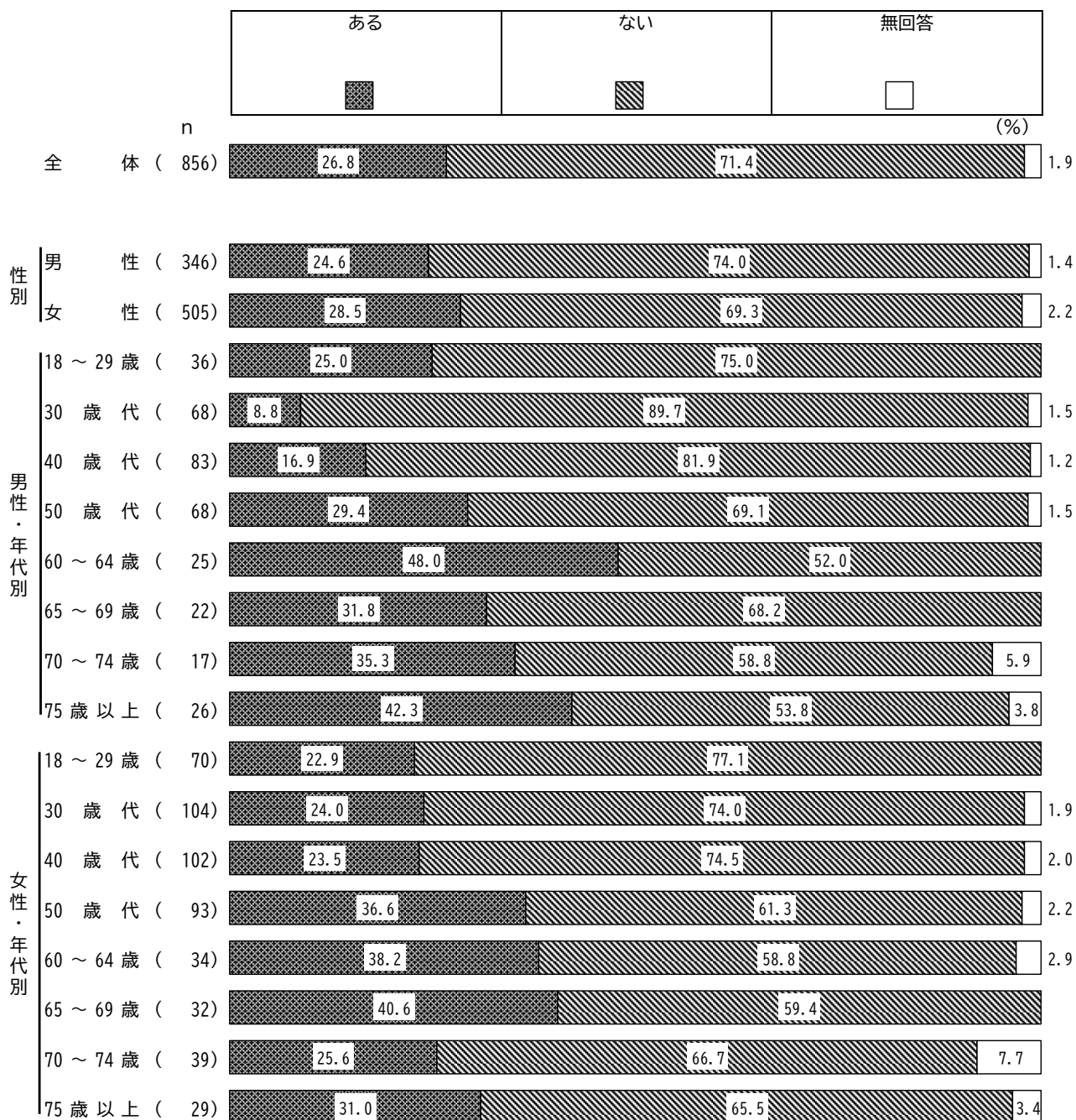
◇「ない」が7割強



東京ケーブルネットワークの視聴環境の有無について聞いたところ、「ない」(71.4%)が7割強と高くなっている。一方、「ある」(26.8%)は2割台半ばを超えとなっている。(図7-1-1)

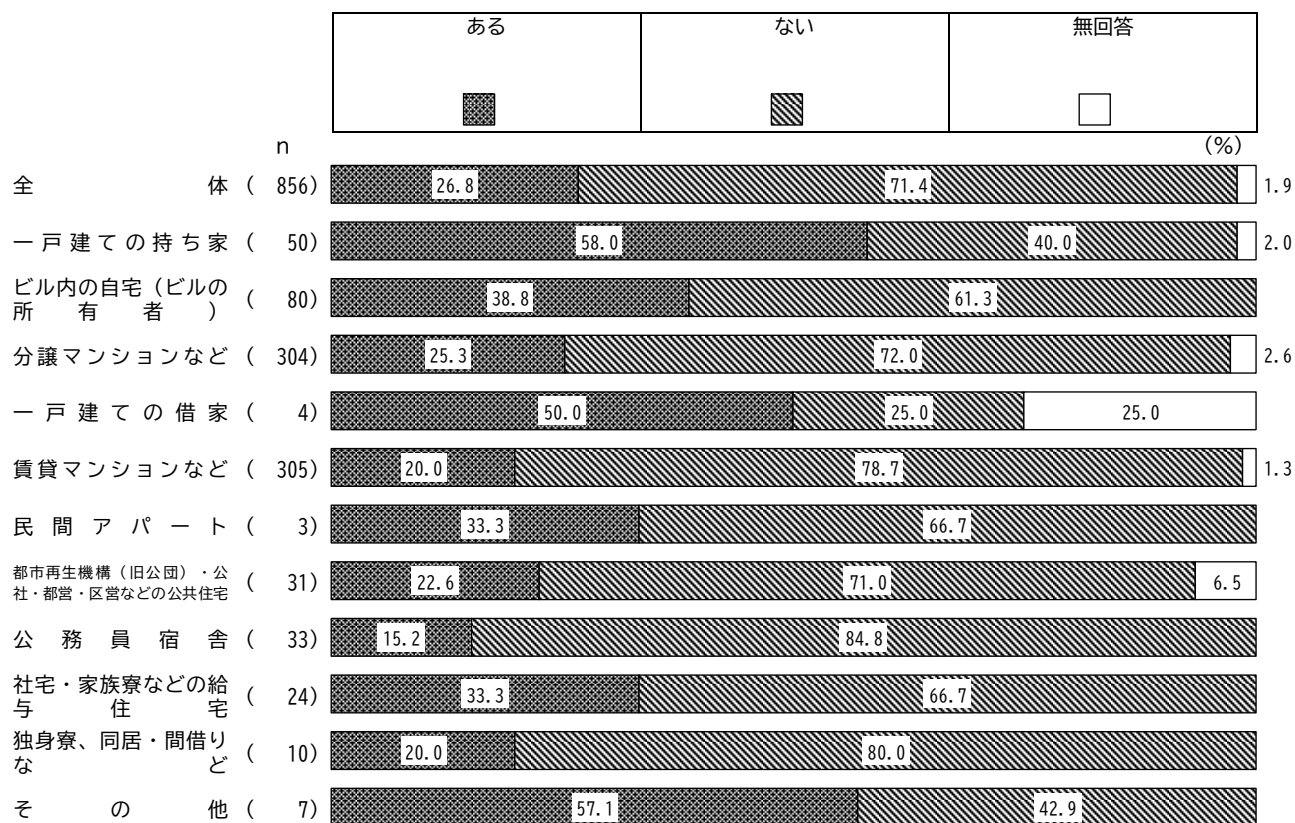
性・年代別にみると、「ない」は男性 30 歳代(89.7%)で9割弱と高くなっている。一方、「ある」は男性 60～64 歳(48.0%)で5割近くと高くなっている。(図7-1-2)

図7-1-2 東京ケーブルネットワークの視聴環境の有無(性・年代別)



住居形態別にみると、「ない」は公務員宿舎（84.8%）で8割台半ば近くと高くなっている。一方、「ある」は一戸建ての持ち家（58.0%）で6割近くと高くなっている。（図7-1-3）

図7-1-3 東京ケーブルネットワークの視聴環境の有無（住居形態別）

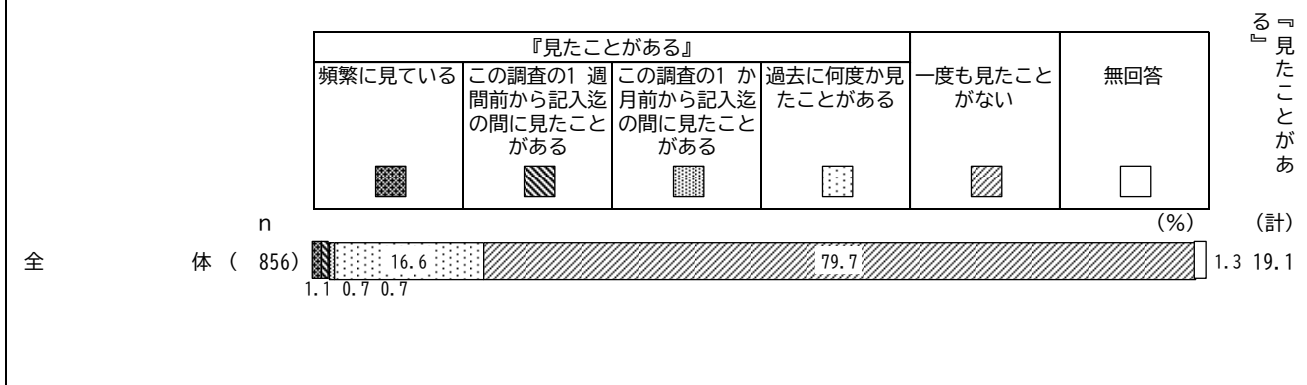


(2) 区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴経験

◇「一度も見たことがない」が8割弱

問12 あなたはこれまで、自宅で区が制作した東京ケーブルネットワークの番組を見たことがありますか。(○は1つ)

図7-2-1 区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴経験



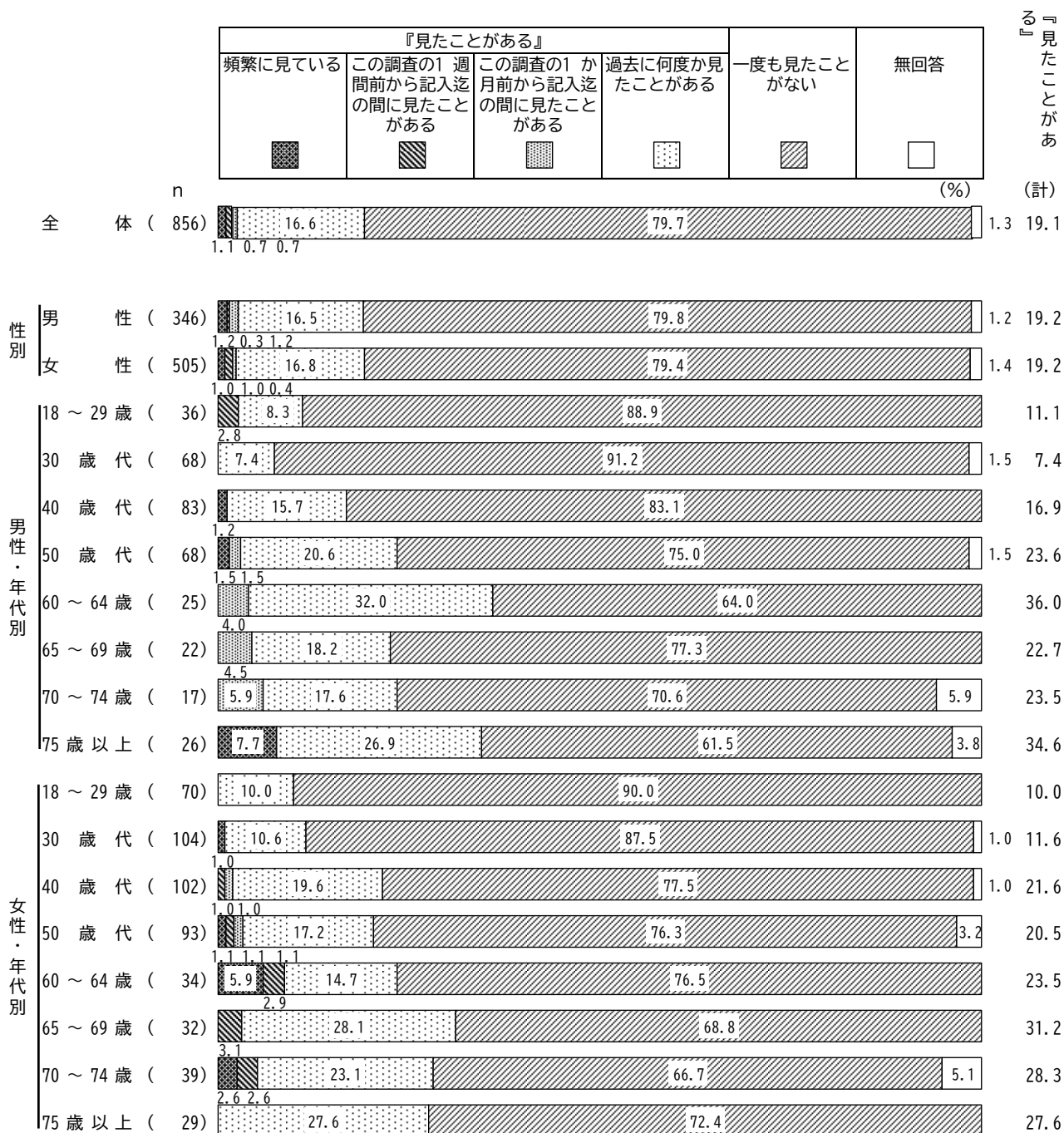
区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴経験について聞いたところ、「一度も見たことがない」(79.7%)が8割弱で最も高くなっている。一方、「頻繁にみている」(1.1%)、「この調査の1週間前から記入迄の間に見たことがある」(0.7%)、「この調査の1か月前から記入迄の間に見たことがある」(0.7%)となり、日常的に見ている方はわずか2.5%にとどまっている。

(図7-2-1)

性・年代別にみると、「一度も見たことがない」は男性30歳代（91.2%）で9割強と高くなっている。一方、『見たことがある』は男性60～64歳（36.0%）で3割台半ばを超えと高くなっている。

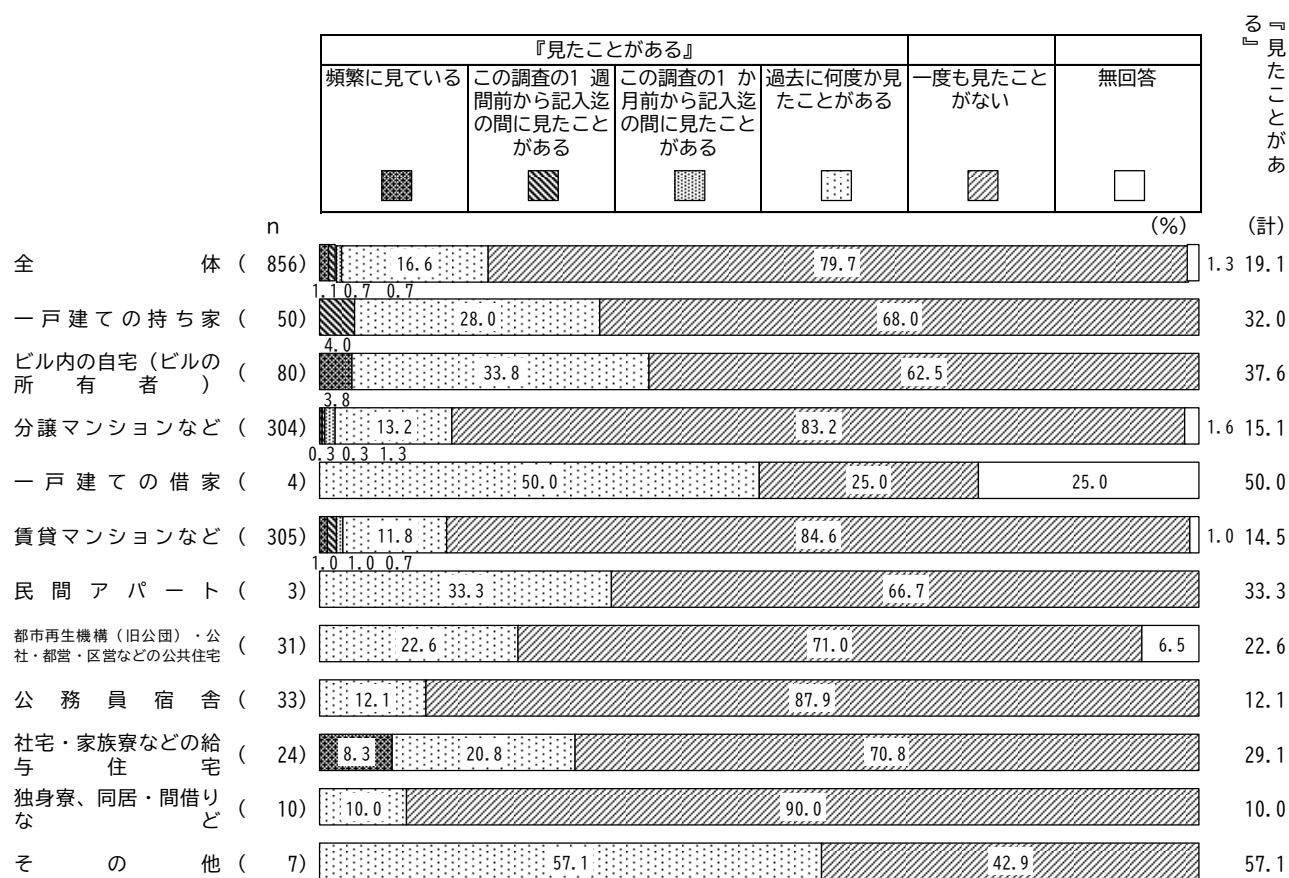
(図7-2-2)

図7-2-2 区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴経験（性・年代別）



住居形態別にみると、「一度も見たことがない」は公務員宿舎（87.9%）で8割半ばを超えと高くなっている。一方、『見たことがある』はビル内の自宅（ビルの所有者）（37.6%）で3割台半ばを超えと高くなっている。（図7-2-3）

図7-2-3 区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴経験（住居形態別）

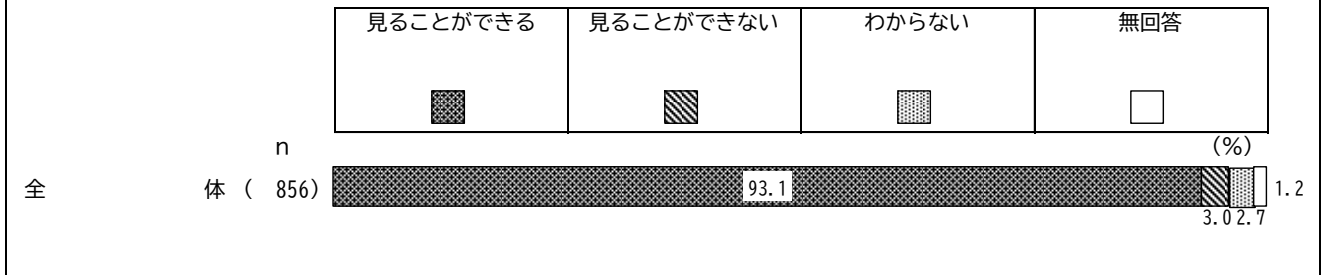


### (3) YouTubeの視聴環境の有無

◇「見ることができる」が9割台半ば近く

問13 あなたは現在お持ちのパソコン、スマートフォン、タブレット等でYouTubeを見られる環境にありますか。(○は1つ)

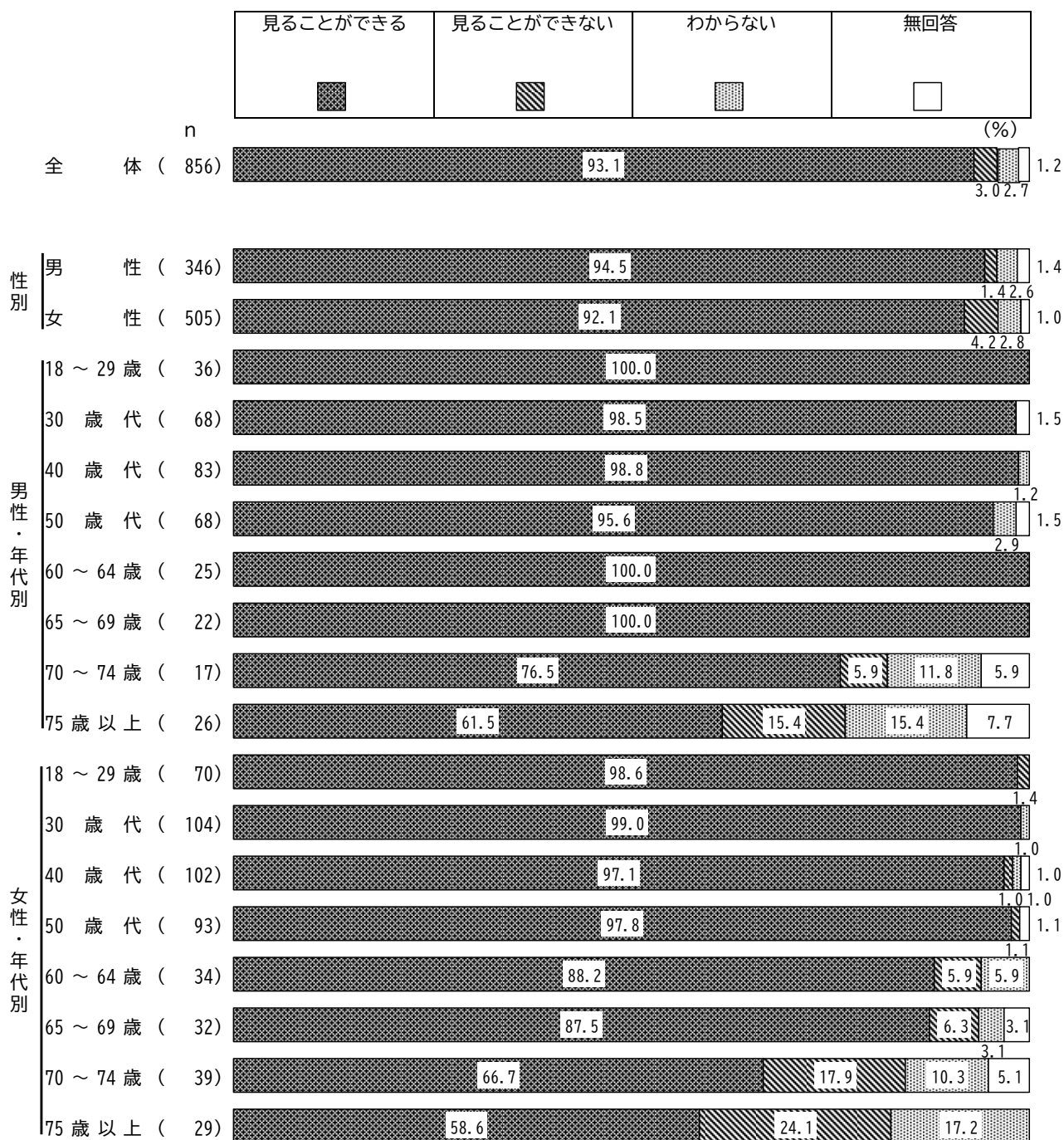
図7-3-1 YouTubeの視聴環境の有無



YouTube の視聴環境の有無について聞いたところ、「見ることができる」(93.1%) が9割台半ば近くと最も高く、「見ることができない」(3.0%) は1割未満となっている。(図7-3-1)

性・年代別にみると、「見ることができる」は男女ともに50歳代以下で9割以上と高くなっている。一方、「見ることができない」は女性75歳以上（24.1%）、女性70～74歳（17.9%）、男性75歳以上（15.4%）で1割を超え、高くなっている。（図7-3-2）

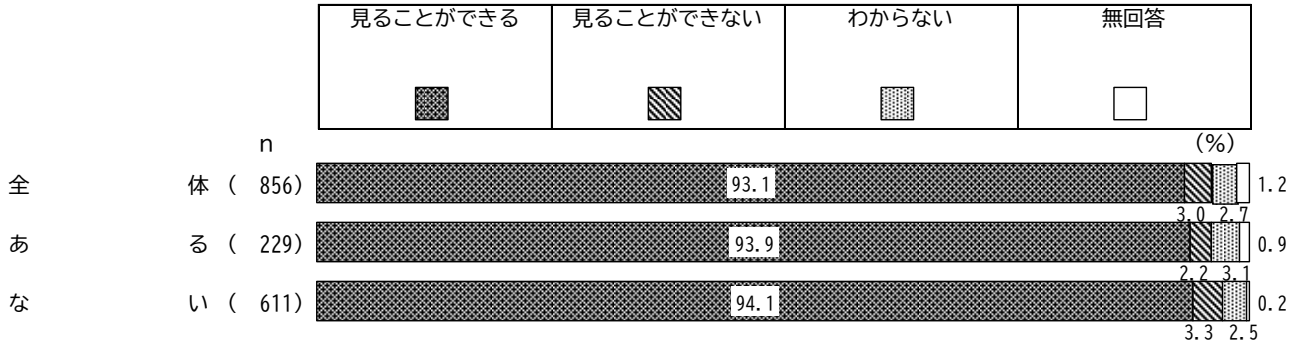
図7-3-2 YouTubeの視聴環境の有無（性・年代別）





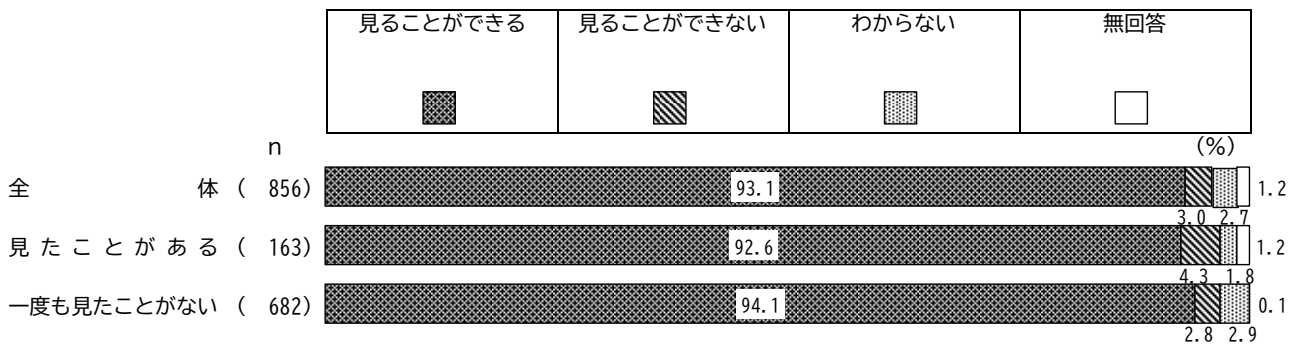
区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴環境の有無別にみると、大きな差はみられない。(図7-3-3)

図7-3-3 YouTubeの視聴環境の有無  
(区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴環境の有無別)



東京ケーブルネットワークの視聴経験別にみると、大きな差はみられない。(図7-3-4)

図7-3-4 YouTubeの視聴環境の有無 (東京ケーブルネットワークの視聴経験別)

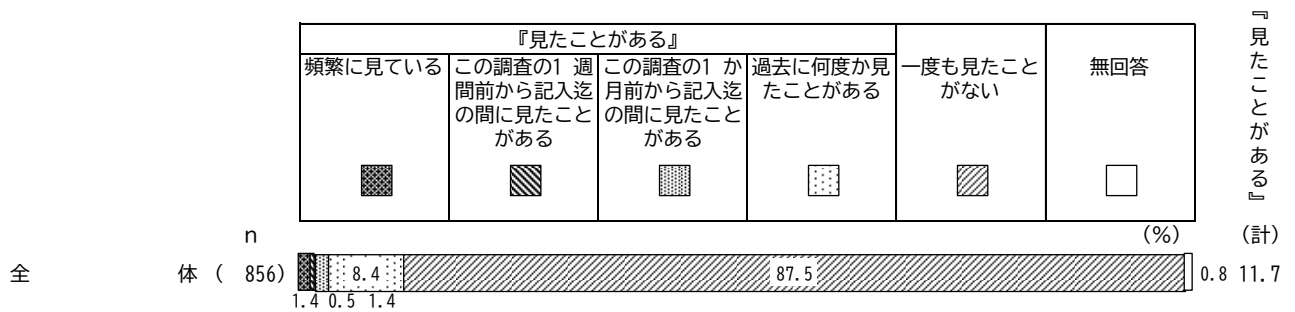


(4) 区公式YouTubeチャンネルの視聴経験

◇「一度も見たことがない」が8割台半ば超え

問 14 あなたはこれまで、区公式 YouTube チャンネルを見たことがありますか。(○は1つ)

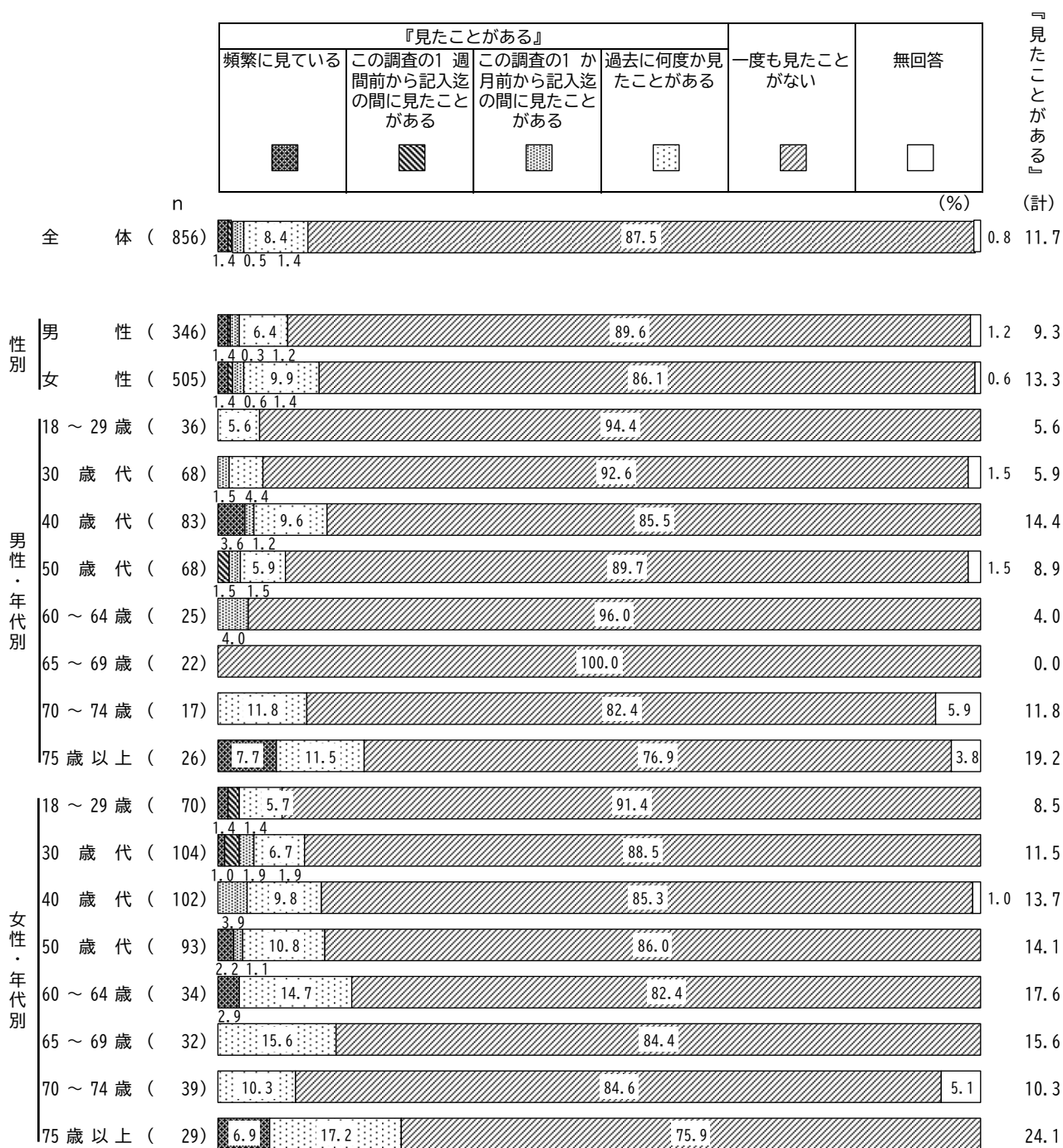
図 7-4-1 区公式 YouTube チャンネルの視聴経験



区公式 YouTube チャンネルの視聴経験について聞いたところ、「一度も見たことがない」(87.5%)が8割台半ば超えと最も高くなっている。一方、「頻繁にみている」(1.4%)、「この調査の1週間前から記入迄の間に見たことがある」(0.5%)、「この調査の1か月前から記入迄の間に見たことがある」(1.4%)となり、日常的に見ている方はわずか3.3%にとどまっている。(図7-4-1)

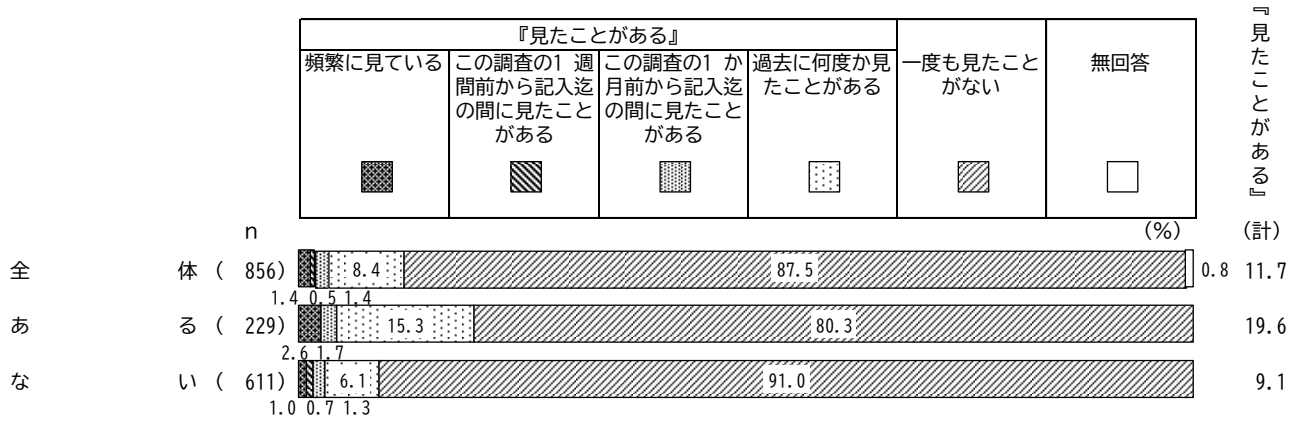
性・年代別にみると、『見たことがある』は女性75歳以上（24.1%）で2割台半ば近くと高くなっている。（図7-4-2）

図7-4-2 区公式YouTubeチャンネルの視聴経験（性・年代別）



区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴環境の有無別にみると、「一度も見たことがない」と答えた方は区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴環境がないと答えた方の中（91.0%）で9割強と高くなっている。一方、『見たことがある』と答えた方は区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴環境がある（19.6%）と答えた方の中で2割弱と高くなっている。（図7-4-3）

図7-4-3 区公式YouTubeチャンネルの視聴経験  
（区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴環境の有無別）

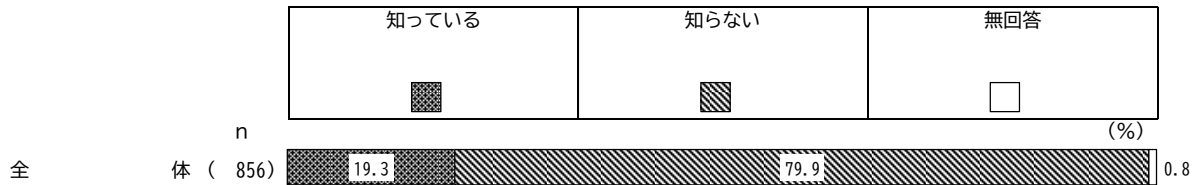


(5) 区制75周年の認知度

◇「知らない」が8割弱

問15 区では今年、区制75周年を迎えました。区が今年75周年を迎えたことを知っていますか。  
(○は1つ)

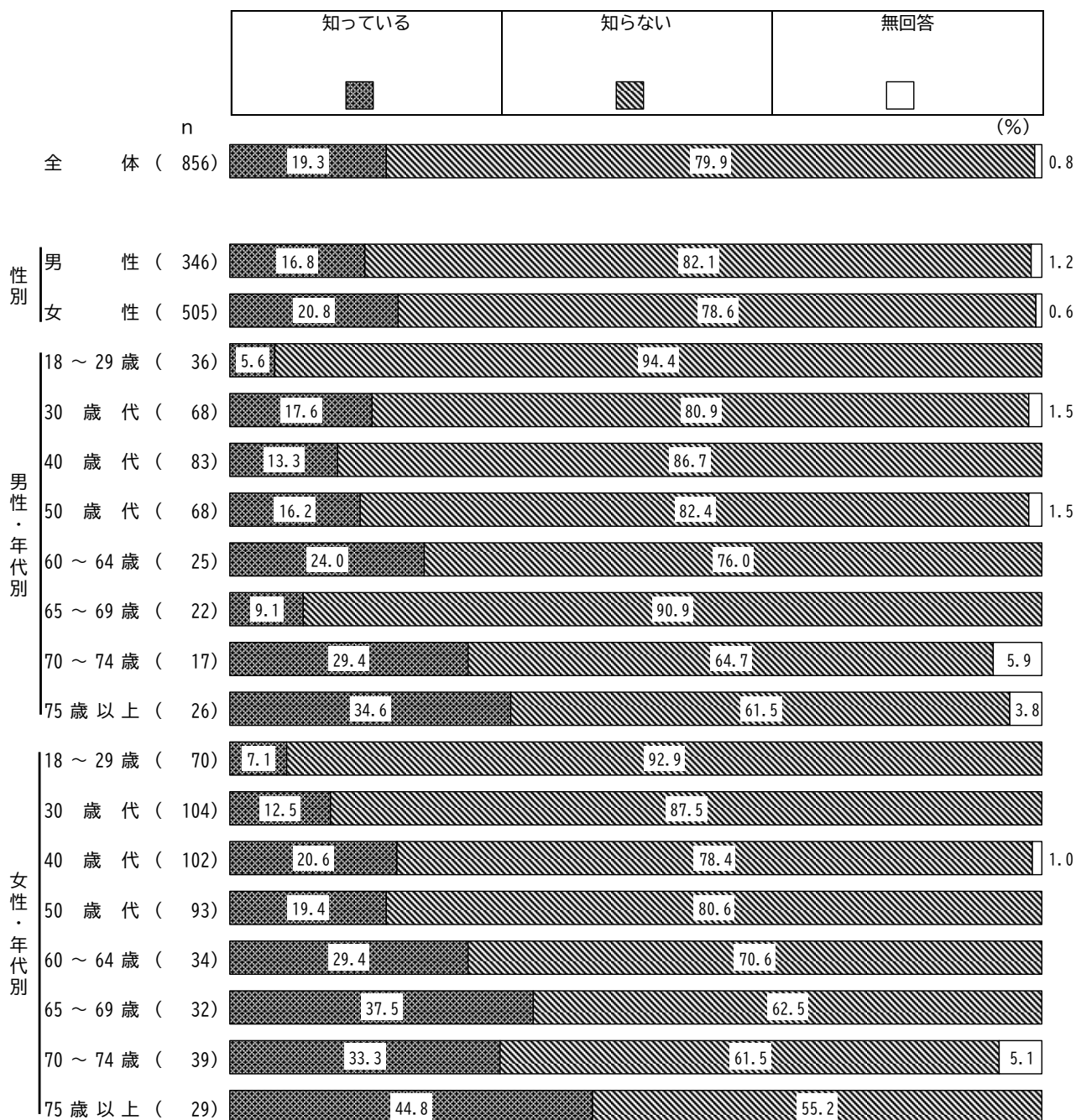
図7-5-1 区制75周年の認知度



区制75周年の認知度について聞いたところ、「知らない」(79.9%)が8割弱と最も高くなっている。一方、「知っている」(19.3%)は2割弱となっている。(図7-5-1)

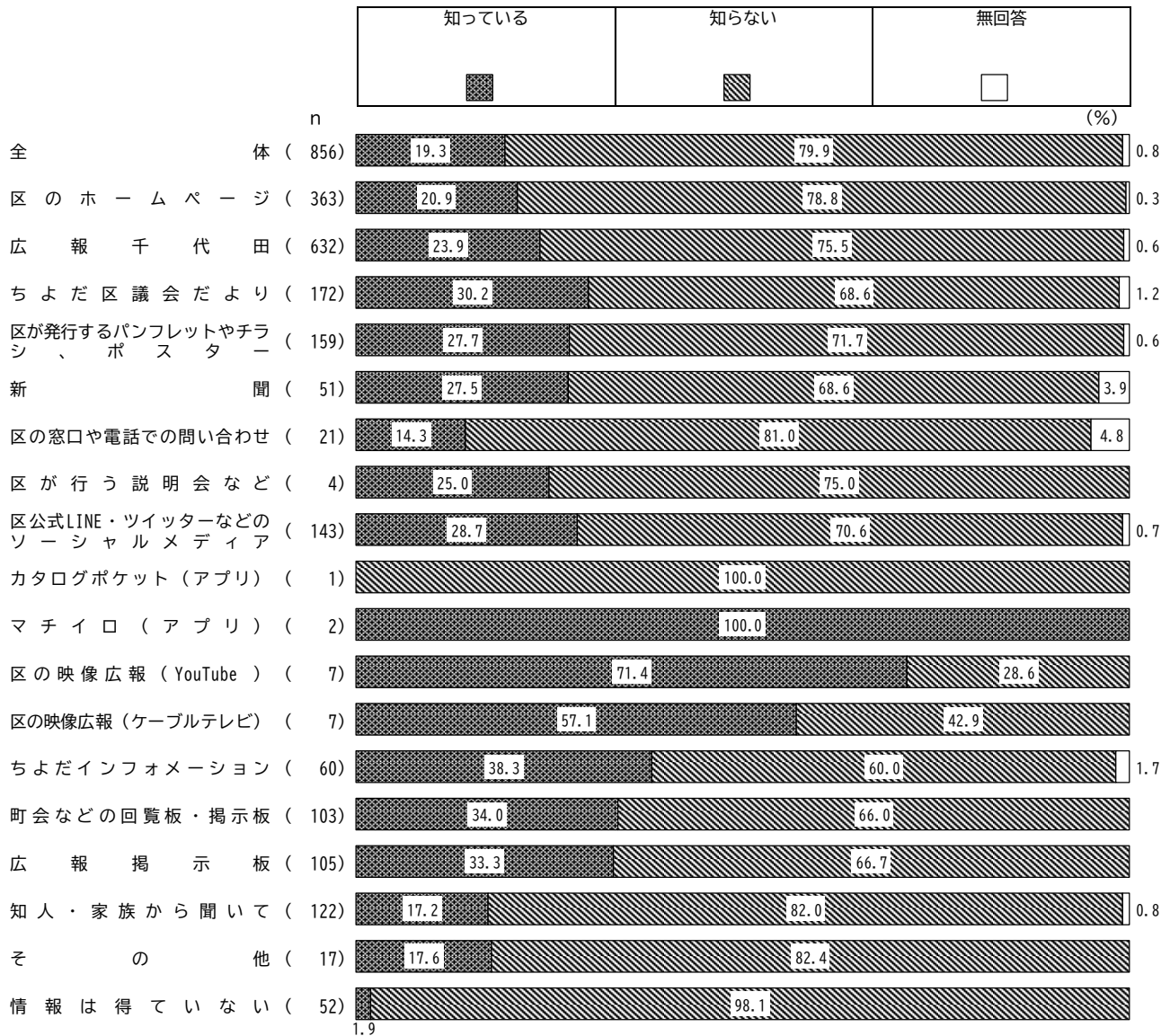
性・年代別にみると、「知らない」は男性 18～29 歳（94.4%）で 9 割台半ば近くと高くなっている。一方、「知っている」は女性 75 歳以上（44.8%）で 4 割台半ば近くと高くなっている。（図 7-5-2）

図 7-5-2 区制 75 周年の認知度（性・年代別）



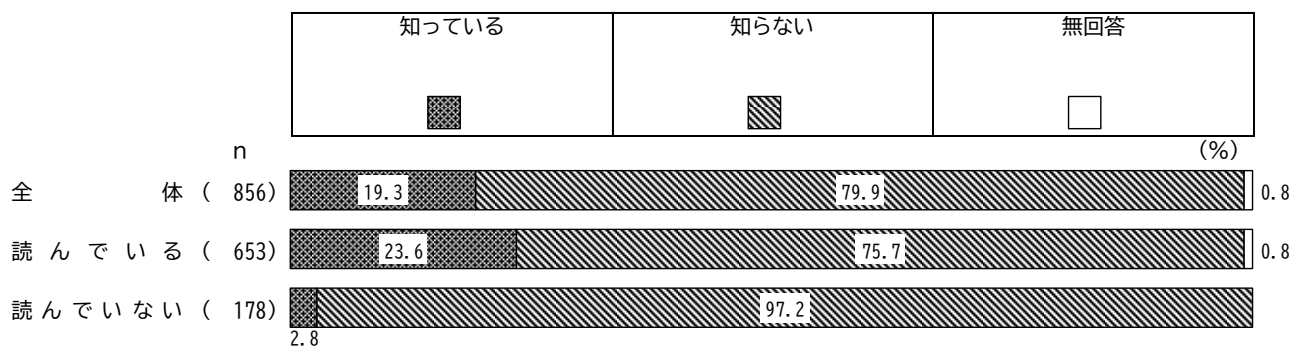
区政情報の取得媒体別にみると、区制 75 周年ということを「知らない」と答えた方の割合は区政に関する情報は得ていない方の中（98.1%）で 10 割近くと高くなっている。一方、区制 75 周年ということを「知っている」と答えた方の割合はちよだインフォメーションから区政情報を取得している方の中（38.3%）で 4 割近くと高くなっている。（図 7-5-3）

図 7-5-3 区制 75 周年の認知度（区政情報の取得媒体別）



広報千代田の閲読の有無別にみると、区制 75 周年ということを「知らない」と答えた方の割合は広報千代田を読んでいない方の中（97.2%）で9割台半ばを超え高くなっている。一方、区制 75 周年ということを「知っている」と答えた方の割合は広報千代田を読んでいる方の中（23.6%）で2割台半ば近くと高くなっている。（図7-5-4）

図7-5-4 区制 75 周年の認知度（広報千代田の閲読の有無別）



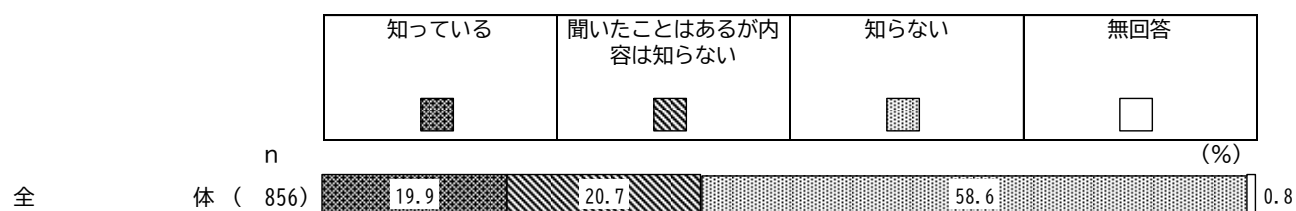


(6) 各大学が区民のための公開講座を開催したり、学生が地域ボランティアなどの活動を行っていることの認知度

◇「知らない」が6割近く

問 16 区では区内の 11 大学と「千代田区内大学と千代田区の連携協力に関する基本協定」を結んでいます。各大学が区民のための公開講座を開催したり、学生が地域ボランティアなどの活動を行っていることを知っていますか。(○は1つ)

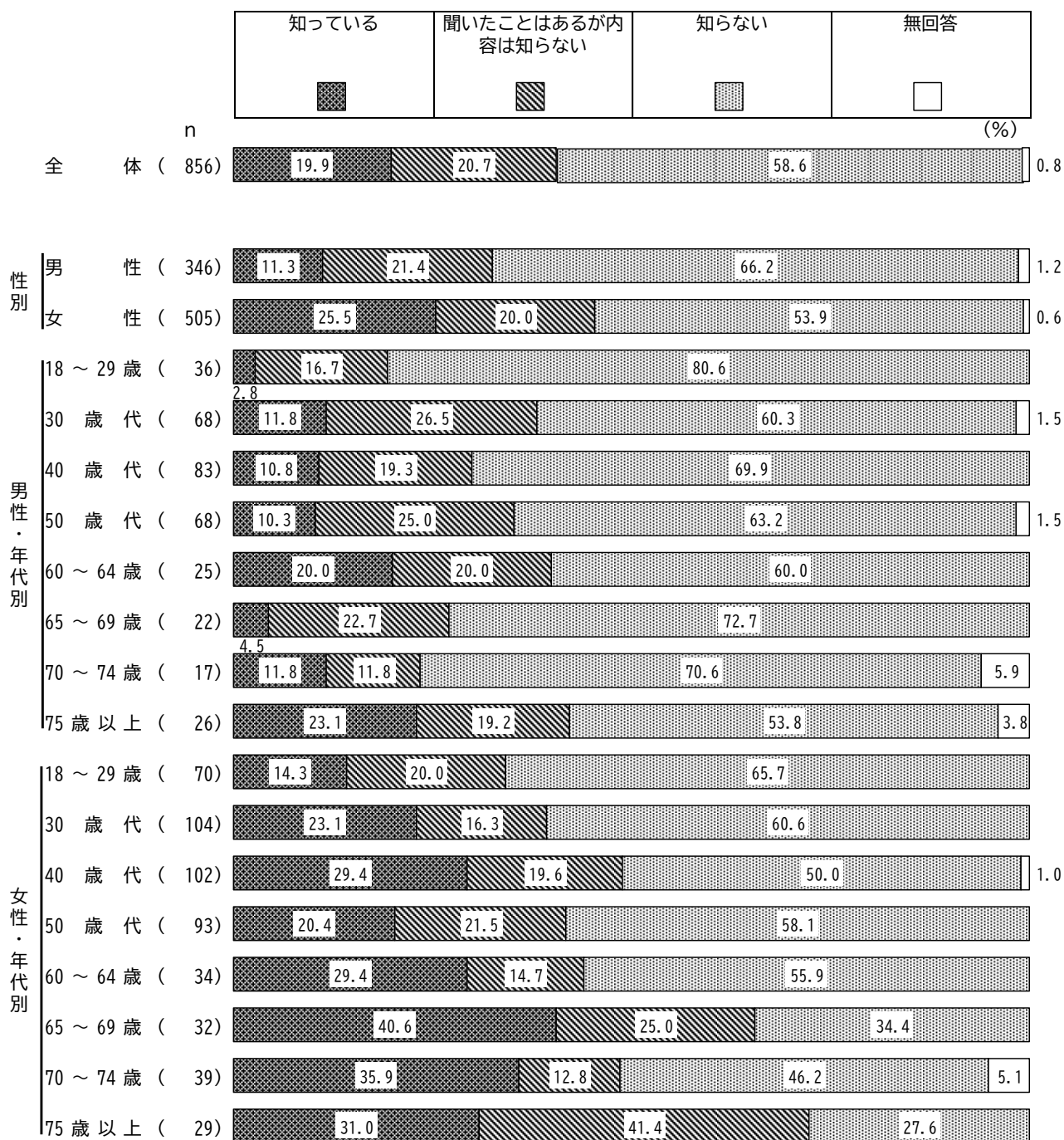
図 7-6-1 各大学が区民のための公開講座を開催したり、学生が地域ボランティアなどの活動を行っていることの認知度



各大学が区民のための公開講座を開催したり、学生が地域ボランティアなどの活動を行っていることについて聞いたところ、「知らない」(58.6%)が6割近くと最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らない」(20.7%)、「知っている」(19.9%)となっている。(図7-6-1)

性・年代別にみると、「知らない」は男性 18～29 歳（80.6%）で約 8 割と高くなっている。一方、「知っている」は女性 65～69 歳（40.6%）で約 4 割と高くなっている。（図 7-6-2）

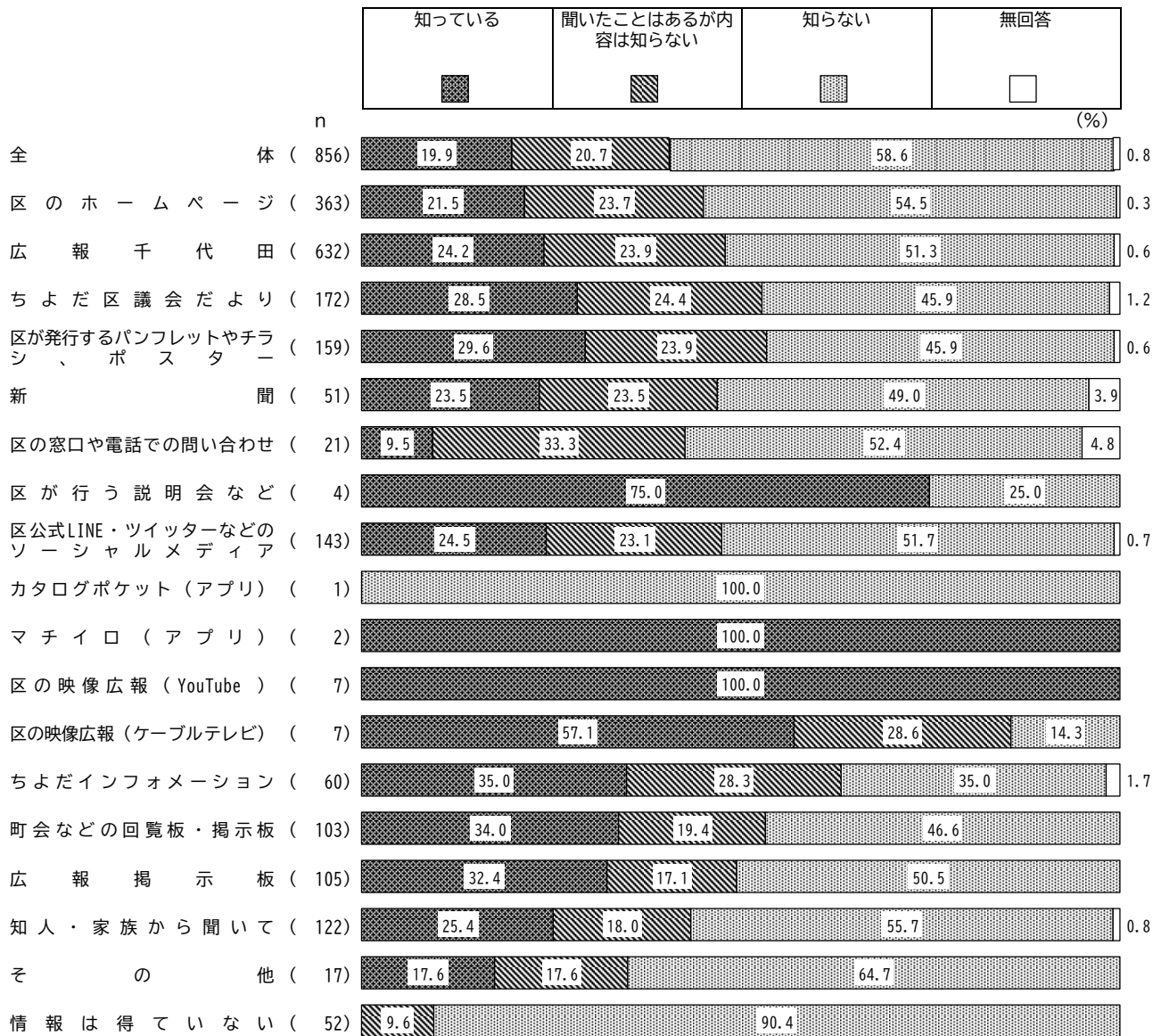
図 7-6-2 各大学が区民のための公開講座を開催したり、  
学生が地域ボランティアなどの活動を行っていること（性・年代別）



区政情報の取得媒体別にみると、各大学が区民のための公開講座を開催したり、学生が地域ボランティアなどの活動を行っていることを「知らない」と答えた方の割合は区政に関する情報は得ていない方の中（90.4%）で約9割と高くなっている。一方、各大学が区民のための公開講座を開催したり、学生が地域ボランティアなどの活動を行っていることを「知っている」答えた方の割合はちよだインフォメーションから区政情報を取得している方の中（35.0%）で3割台半ばと高くなっている。

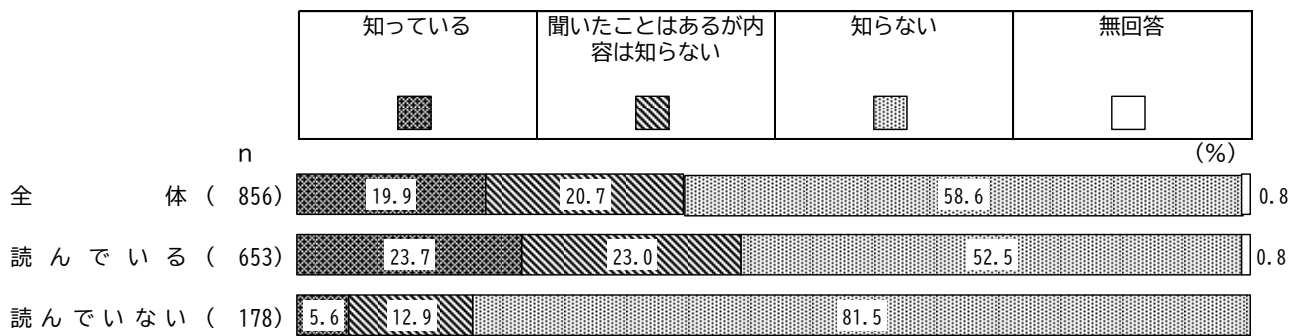
(図7-6-3)

図7-6-3 各大学が区民のための公開講座を開催したり、  
学生が地域ボランティアなどの活動を行っていること  
(区政情報の取得媒体別)



広報千代田の閲読の有無別にみると、各大学が区民のための公開講座を開催したり、学生が地域ボランティアなどの活動を行っていることを「知らない」と答えた方の割合は広報千代田を読んでいない方の中（81.5%）で8割強と高くなっている。一方、各大学が区民のための公開講座を開催したり、学生が地域ボランティアなどの活動を行っていることを「知っている」と答えた方の割合は広報千代田を読んでいる方の中（23.7%）で2割台半ば近くと高くなっている。（図7-6-4）

図7-6-4 各大学が区民のための公開講座を開催したり、  
学生が地域ボランティアなどの活動を行っていること（広報千代田の閲読の有無別）



## 8. 町会・ボランティア

### (1) 地域の活動（町会やボランティア活動など）への参加状況

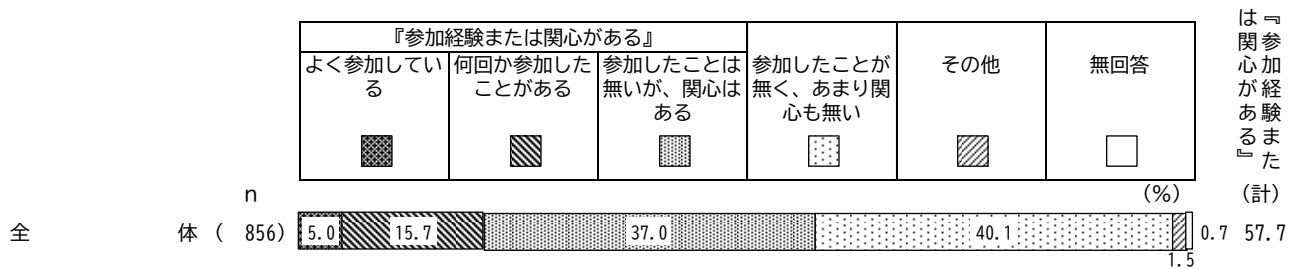
◇『参加経験または関心がある』が5割台半ば超え

問17 あなたは地域の活動（町会やボランティア活動など）に参加したことがありますか。

(○は1つ)

※例えば、地域で行われる防災訓練、防犯パトロール、道路・公園の清掃活動や花壇の手入れ、イベントの企画・運営のほか、各種ボランティア活動への参加

図8-1-1 地域の活動（町会やボランティア活動など）への参加状況

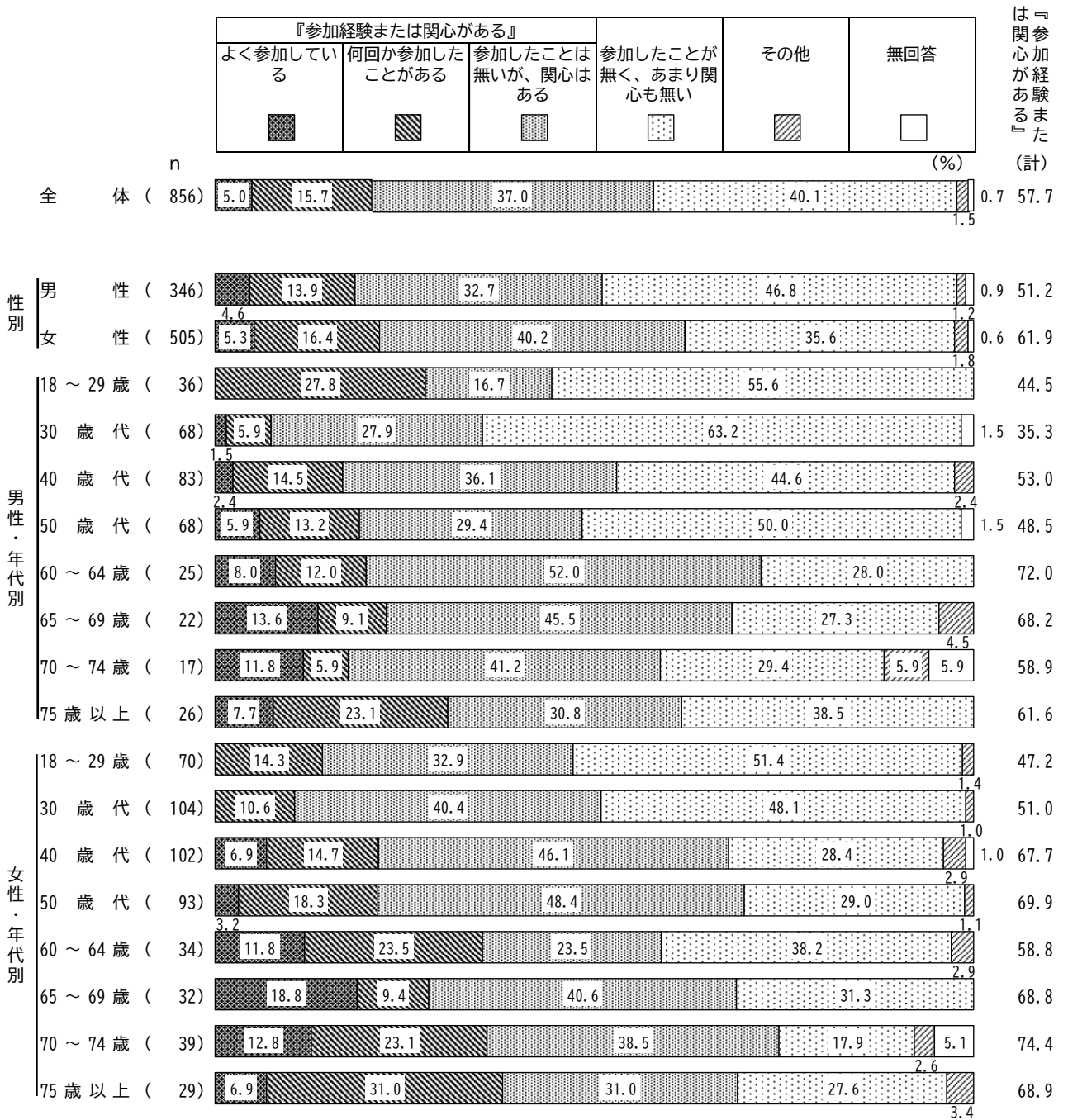


地域の活動（町会やボランティア活動など）に参加したことがあるか聞いたところ、「よく参加している」（5.0%）、「何回か参加したことがある」（15.7%）、「参加したことは無いが、関心はある」（37.0%）を合わせた『参加経験または関心がある』（57.7%）は5割台半ば超えとなっている。一方、「参加したことが無く、あまり関心も無い」（40.1%）は約4割となっている。（図8-1-1）

その他を回答した方は13人おり、主な意見として「活動していることを知らなかった」、「参加できない」、「家族が参加している」などが挙げられている。

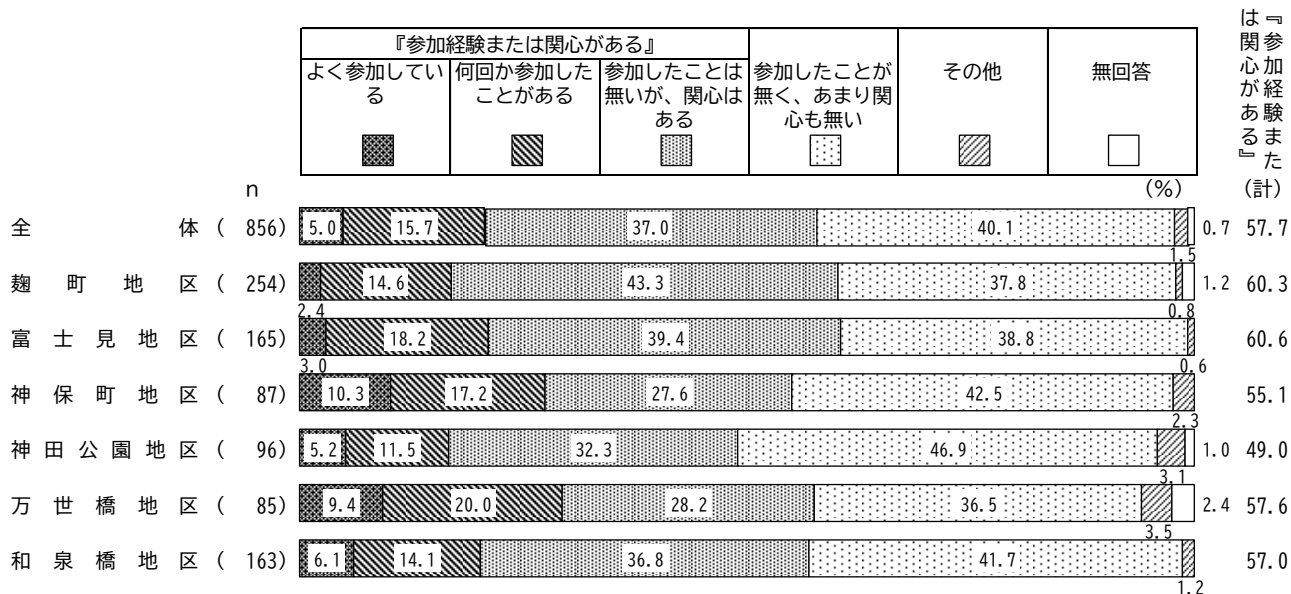
性・年代別にみると、『参加経験または関心がある』は女性 70～74 歳以上（74.4%）で 7 割台半ば近くと高くなっている。（図 8-1-2）

図 8-1-2 地域の活動（町会やボランティア活動など）への参加状況（性・年代別）



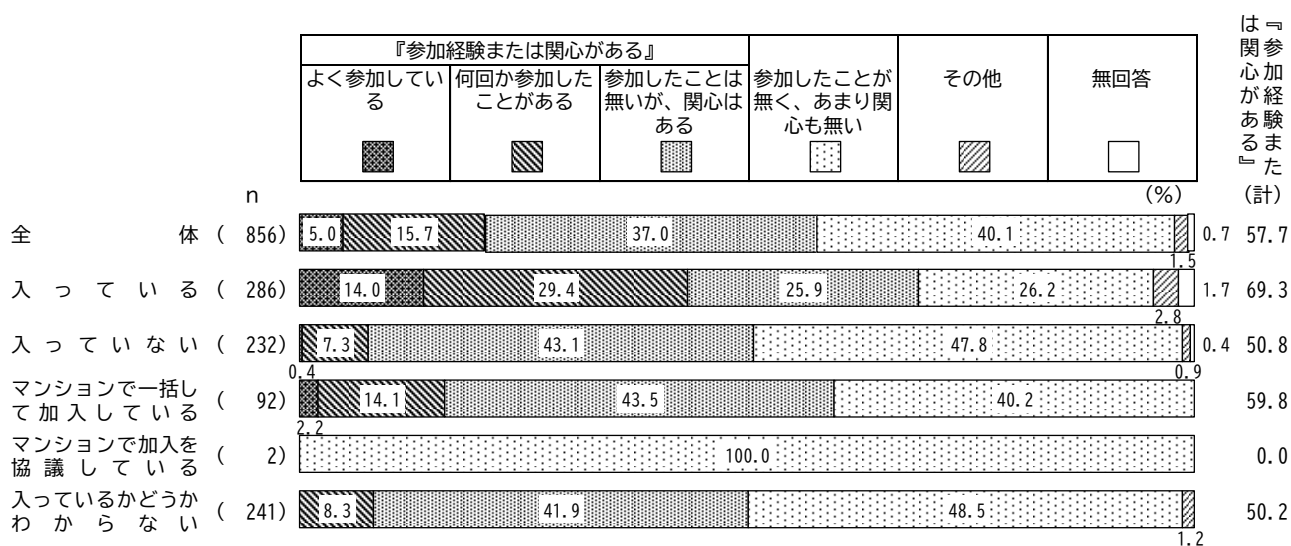
地区別にみると、『参加経験または関心がある』は富士見地区（60.6%）、麴町地区（60.3%）で約6割となっている。（図8-1-3）

図8-1-3 地域の活動（町会やボランティア活動など）への参加状況（地区別）



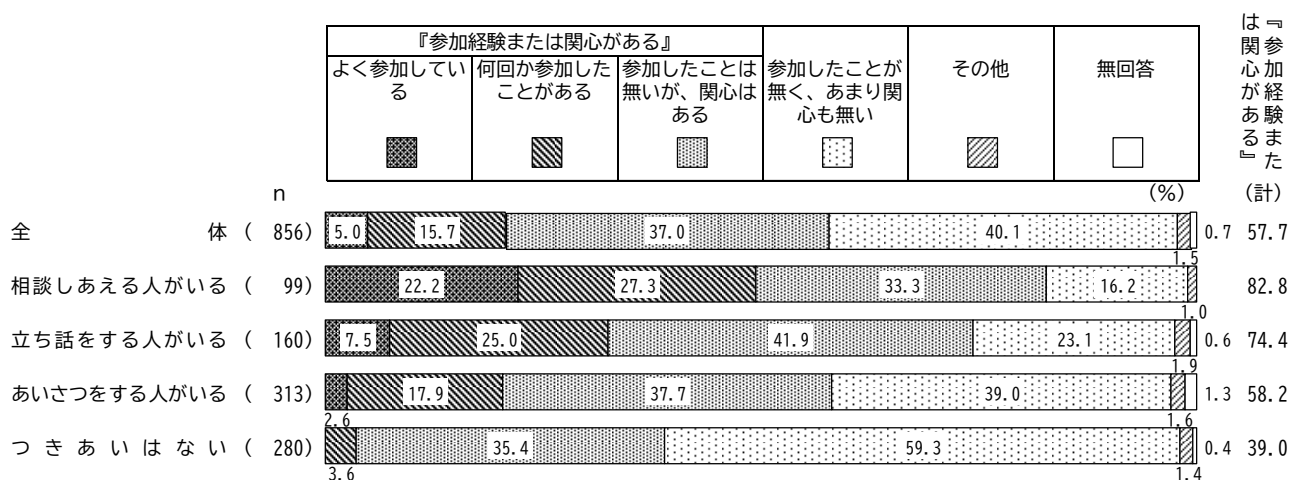
町会加入状況別にみると、『参加経験または関心がある』は町会に入っている方（69.3%）で7割弱と高くなっている。（図8-1-4）

図8-1-4 地域の活動（町会やボランティア活動など）への参加状況（町会加入状況別）



地域の人との関わり別にみると、『参加経験または関心がある』は住んでいる地域に相談しあえる人がいる（82.8%）で8割強となっている。（図8-1-5）

図8-1-5 地域の活動（町会やボランティア活動など）への参加状況（地域の人との関わり別）



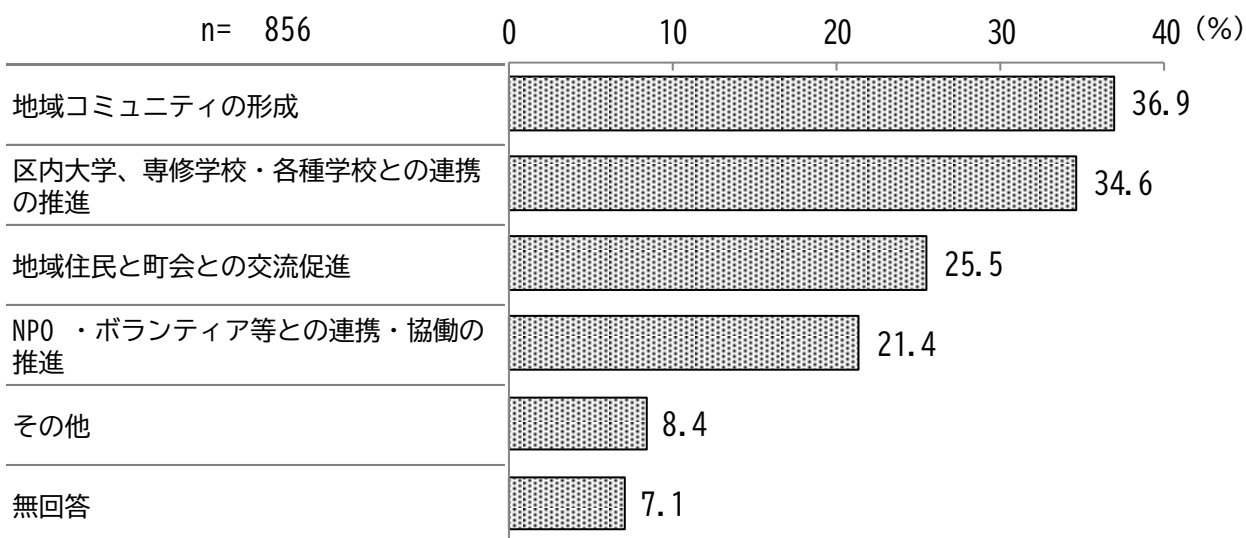


## (2) 町会・ボランティア活動で力を入れて欲しい分野

◇「地域コミュニティの形成」が3割台半ば超え

問18 町会・ボランティア活動に関して、あなたが「力を入れて欲しい分野」は何ですか。  
(〇はいくつでも)

図8-2-1 町会・ボランティア活動で力を入れて欲しい分野

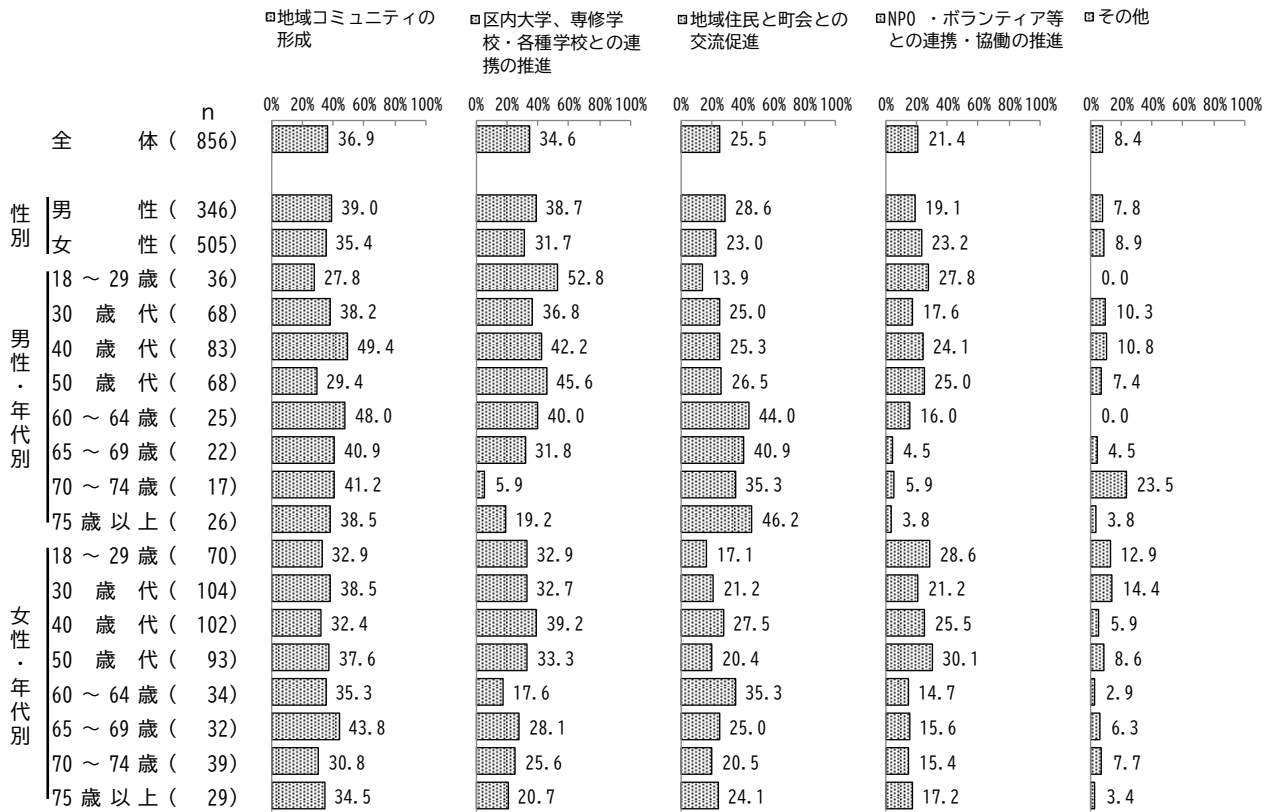


町会・ボランティア活動で力を入れて欲しい分野について聞いたところ、「地域コミュニティの形成」(36.9%)が3割台半ば超えと最も高く、次いで、「区内大学、専修学校・各種学校との連携の推進」(34.6%)、「地域住民と町会との交流促進」(25.5%)、「NPO・ボランティア等との連携・協働の推進」(21.4%)と続いている。(図8-2-1)

その他を回答した方は72人おり、主な意見として「防災、防犯」、「応急救護」、「清掃、緑化」などが挙げられている。

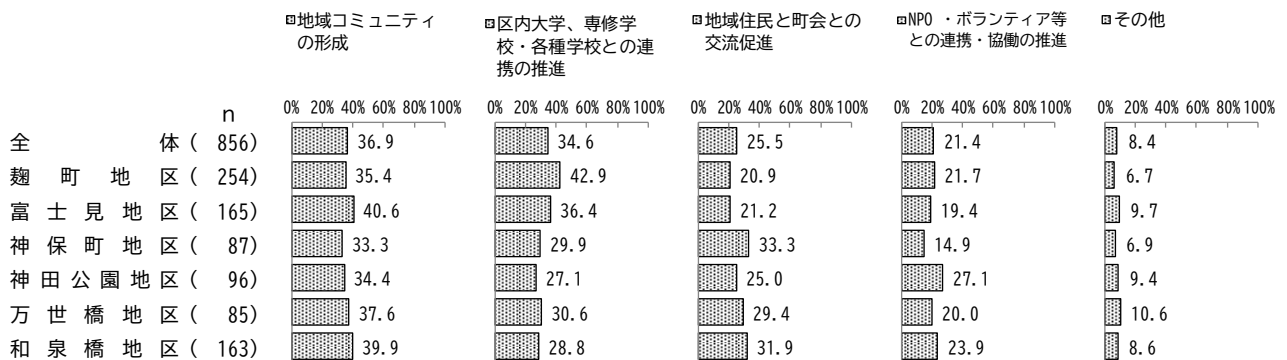
性・年代別にみると、「地域コミュニティの形成」は男性 40 歳代（49.4%）で 5 割弱と高くなっている。また、「区内大学、専修学校・各種学校との連携の推進」は男性 18～29 歳（52.8%）で 5 割強、「地域住民と町会との交流促進」は男性 75 歳以上（46.2%）で 4 割台半ばを超えとそれぞれ高くなっている。（図 8-2-2）

図 8-2-2 町会・ボランティア活動で力を入れて欲しい分野（性・年代別）



地区別にみると、「区内大学、専修学校・各種学校との連携の推進」は麴町地区（42.9%）で 4 割強と高くなっている。また、「地域住民と町会との交流促進」は神保町地区（33.3%）で 3 割台半ば近くと高くなっている。（図 8-2-3）

図 8-2-3 町会・ボランティア活動で力を入れて欲しい分野（地区別）



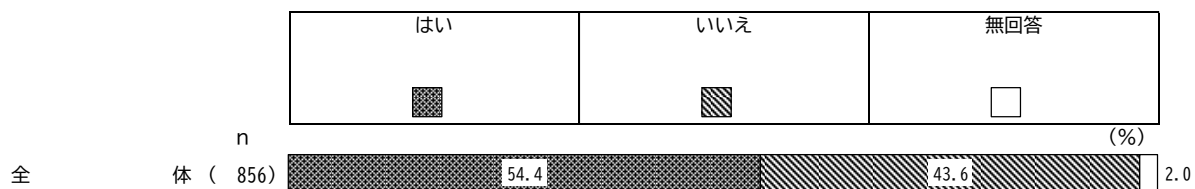
## 9. かかりつけ医

### (1) かかりつけ医の有無

◇かかりつけ医がいるのは5割台半ば近く

問19 あなたは、かかりつけ医を持っていますか。(○は1つ)

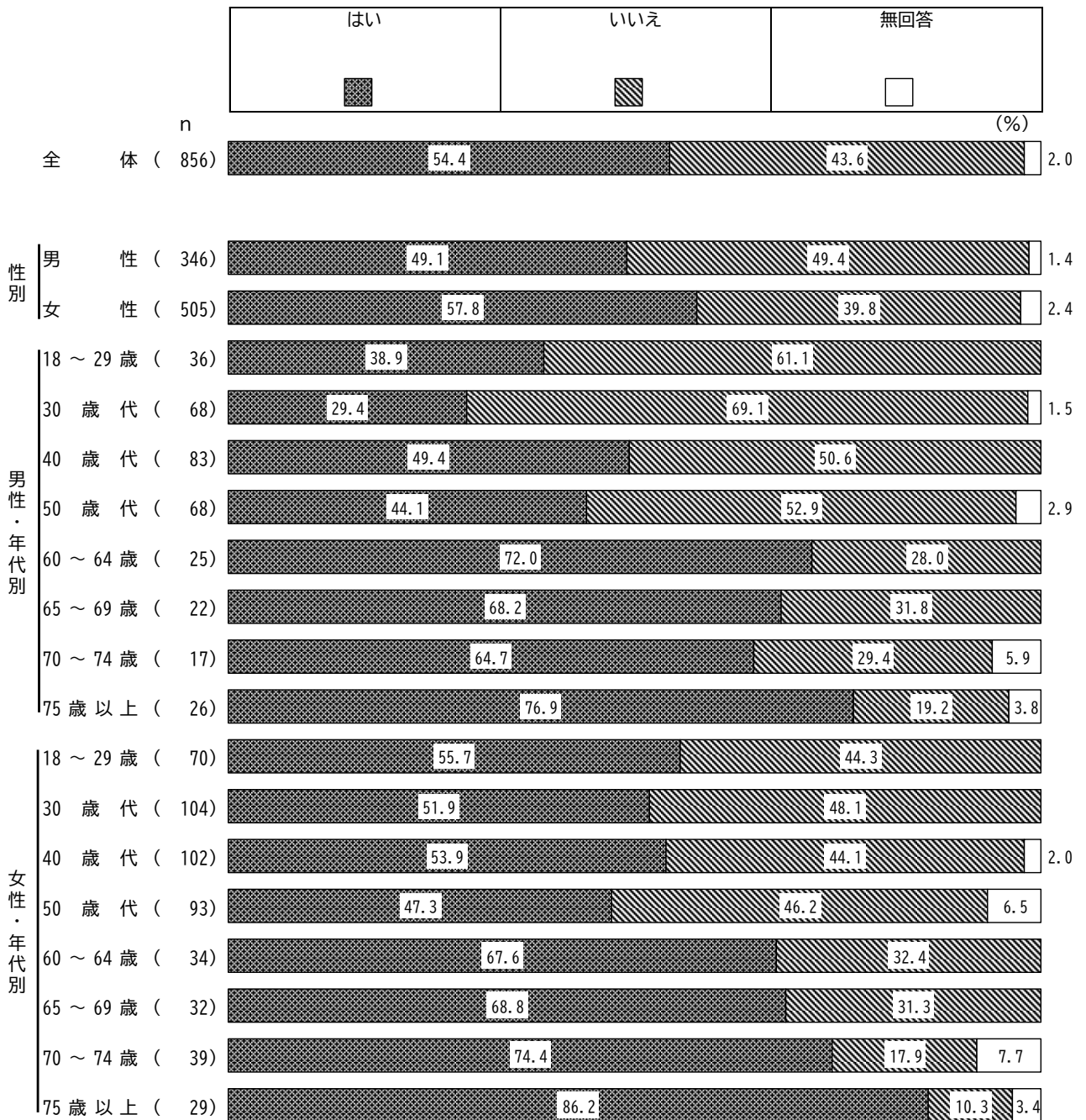
図9-1-1 かかりつけ医の有無



かかりつけ医の有無について聞いたところ、「はい」(いる) (54.4%) が5割台半ば近く、一方「いいえ」(いない) (43.6%) は4割台半ば近くとなっている。(図9-1-1)

性・年代別にみると、「はい」(いる)は女性75歳以上(86.2%)で8割台半ばを超えと高くなっている。一方、「いいえ」(いない)は男性30歳代(69.1%)で7割弱と高くなっている。(図9-1-2)

図9-1-2 かかりつけ医の有無(性・年代別)



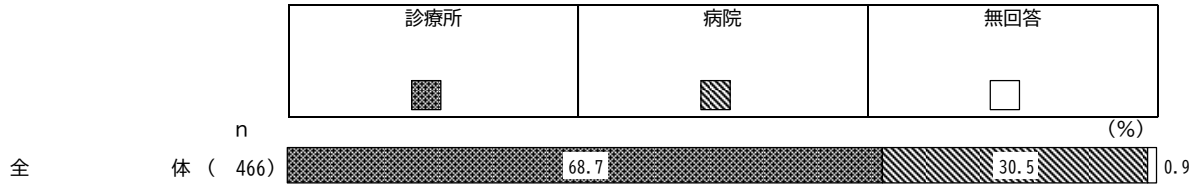
(1-1) かかりつけ医の医療機関

◇かかりつけ医の医療機関は「診療所」が7割近く

(問19で「1. はい」とお答えの方に)

問19-1 そのかかりつけ医は、診療所の医師ですか、それとも病院の医師ですか。(○は1つ)

図9-1-3 かかりつけ医の医療機関

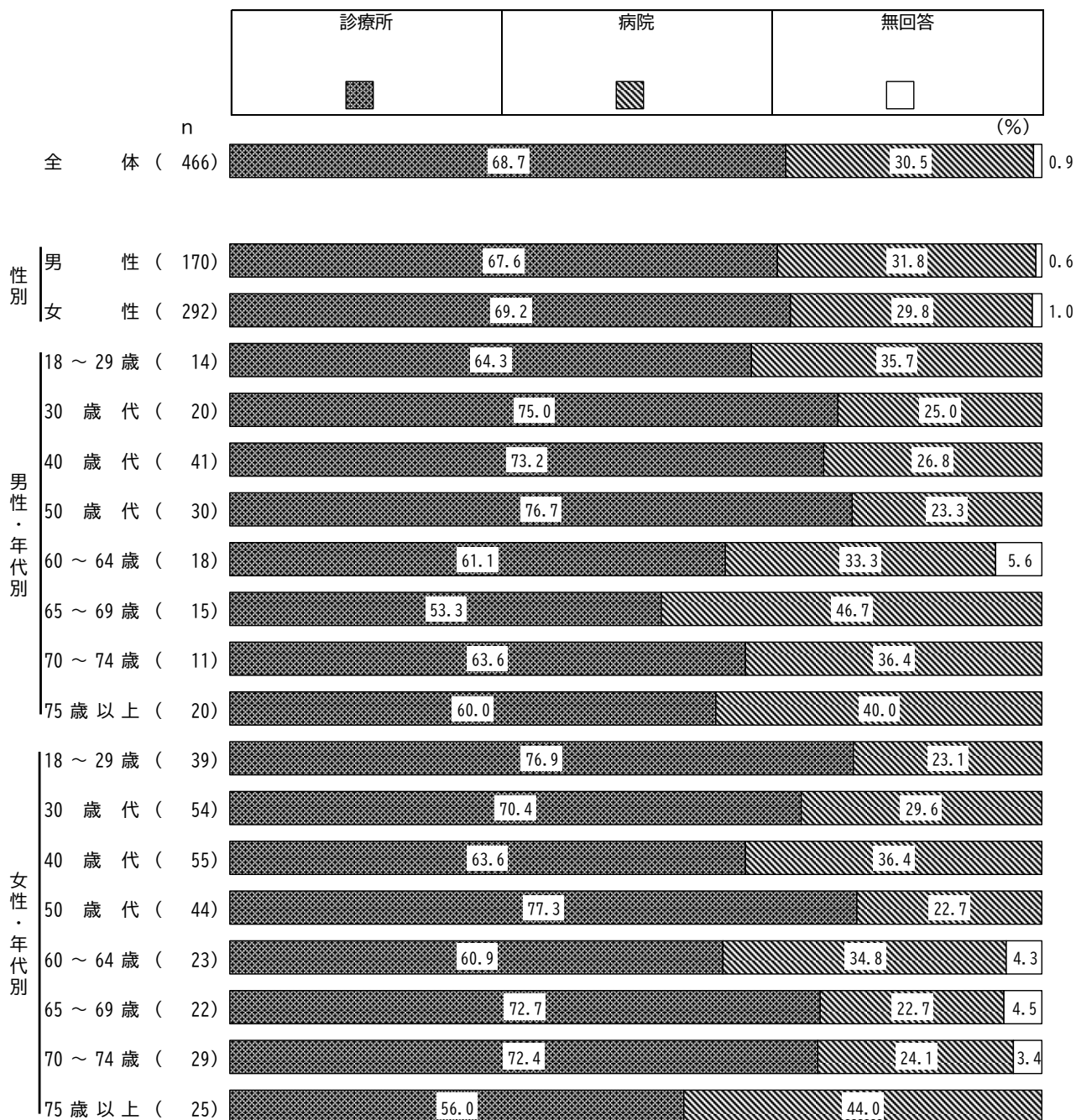


かかりつけ医の有無について「はい」(いる)と回答した方に、かかりつけ医の医療機関について聞いたところ、「診療所」(68.7%)が7割近く、「病院」(30.5%)が約3割となっている。

(図9-1-3)

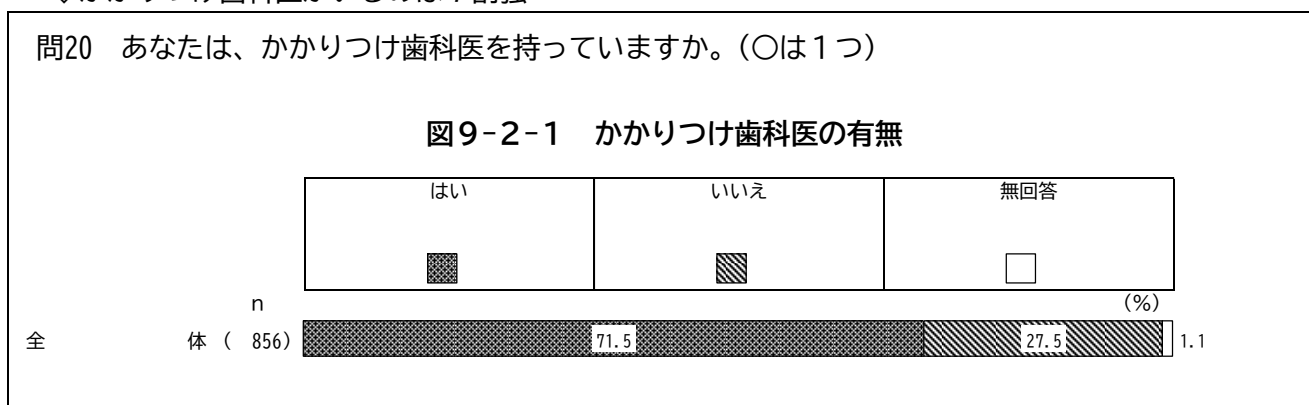
性・年代別にみると、「診療所」は女性 50 歳代 (77.3%)、女性 18~29 歳 (76.9%)、男性 50 歳代 (76.7%) で 7 割台半ばを超えと高くなっている。一方、「病院」は男性 65~69 歳 (46.7%) で 4 割台半ばを超えと高くなっている。(図 9-1-4)

図 9-1-4 かかりつけ医の医療機関 (性・年代別)



(2) かかりつけ歯科医の有無

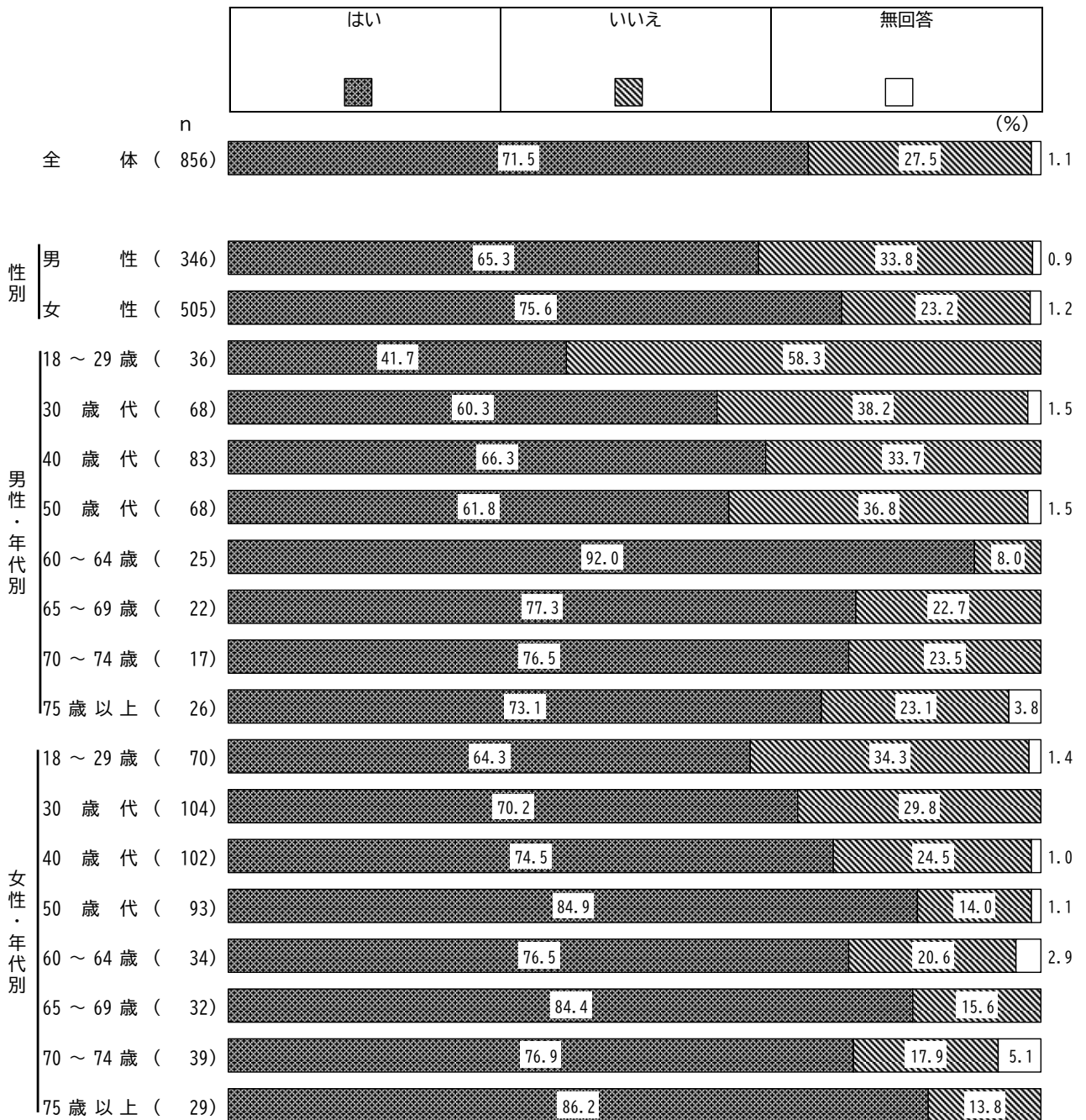
◇かかりつけ歯科医がいるのは7割強



かかりつけ歯科医の有無について聞いたところ、「はい」(いる) (71.5%) が7割強、一方「いいえ」(いない) (27.5%) は2割台半ばを超えとなっている。(図9-2-1)

性・年代別にみると、「はい」(いる)は男性 60～64 歳 (92.0%) で9割強と高くなっている。一方、「いいえ」(いない)は男性 18～29 歳 (58.3%) で6割弱と高くなっている。(図9-2-2)

図9-2-2 かかりつけ歯科医の有無 (性・年代別)





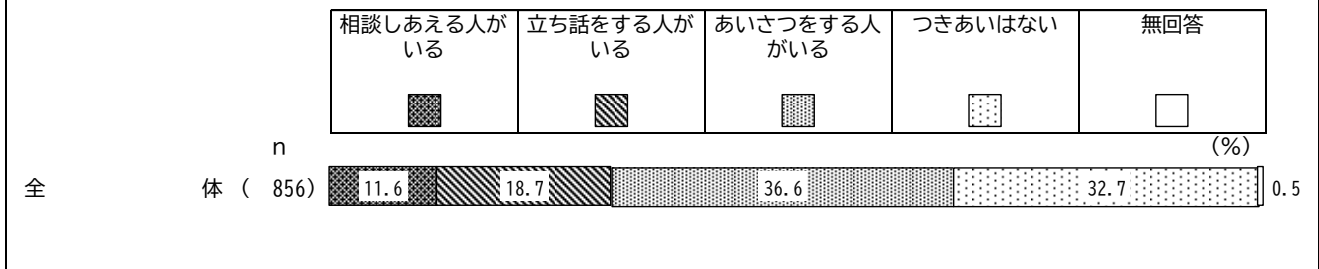
## 10. 第二次健康千代田21の成果指標

### (1) 地域の人との関わり

◇「あいさつをする人がいる」が3割台半ば超え

問21 あなたは、お住まいの地域の人とどの程度かかわりを持っていますか。(○は1つ)

図 10-1-1 地域の人との関わり

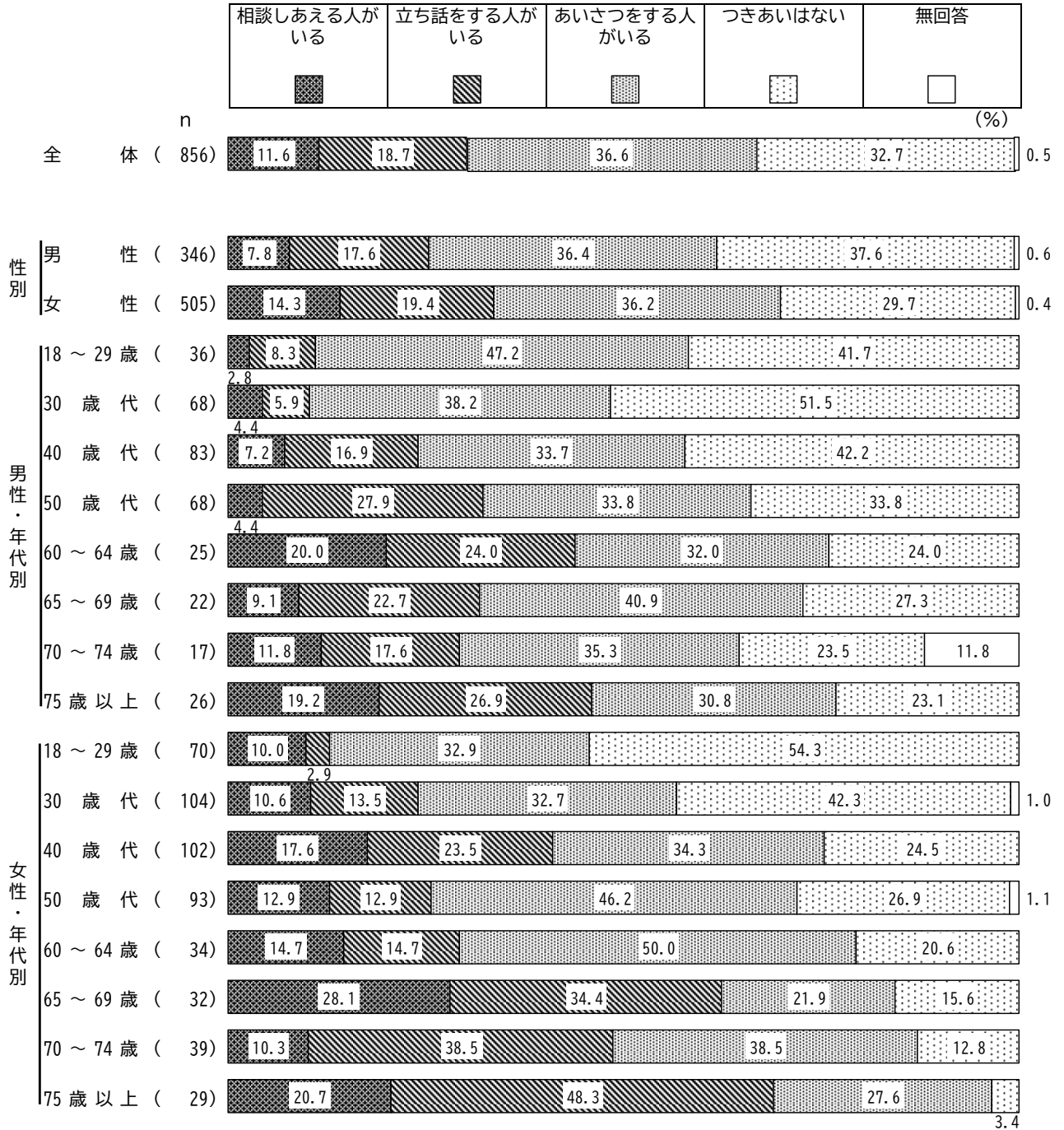


地域の人とどの程度かかわりを持っているか聞いたところ、「あいさつをする人がいる」(36.6%)が3割台半ば超え、次いで「つきあいはない」(32.7%)、「立ち話をする人がいる」(18.7%)、「相談しあえる人がいる」(11.6%)となっている。(図 10-1-1)

性・年代別にみると、「あいさつをする人がいる」は女性 60～64 歳（50.0%）で 5 割と高くなっている。一方、「つきあいはない」は女性 18～29 歳（54.3%）で 5 割台半ば近くと高くなっている。

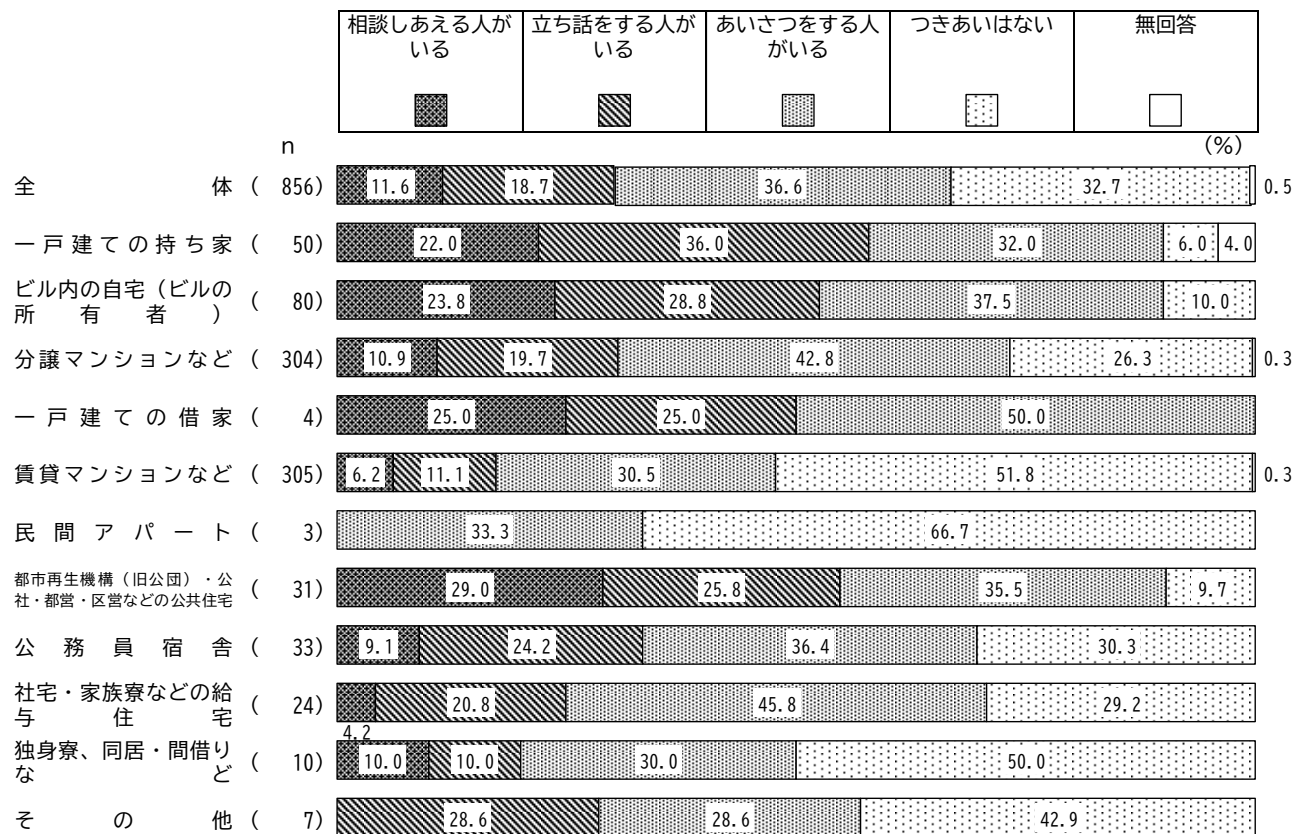
(図 10-1-2)

図 10-1-2 地域の人との関わり（性・年代別）



住居形態別にみると、「あいさつをする人がいる」は社宅・家族寮などの給与住宅（45.8%）で4割台半ばと高くなっている。一方、「つきあいはない」は賃貸マンションなど（51.8%）で5割強と高くなっている。（図10-1-3）

図10-1-3 地域の人との関わり（住居形態別）

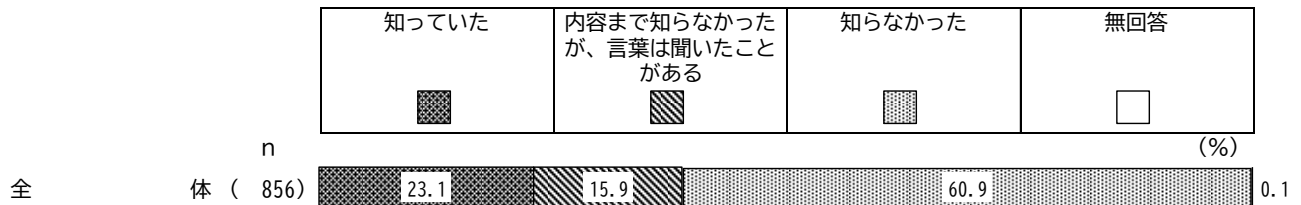


## (2) 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の認知度

◇「知らなかった」が約6割

問22 あなたは「慢性閉塞性肺疾患 (COPD)」の内容を知っていましたか。(○は1つ)

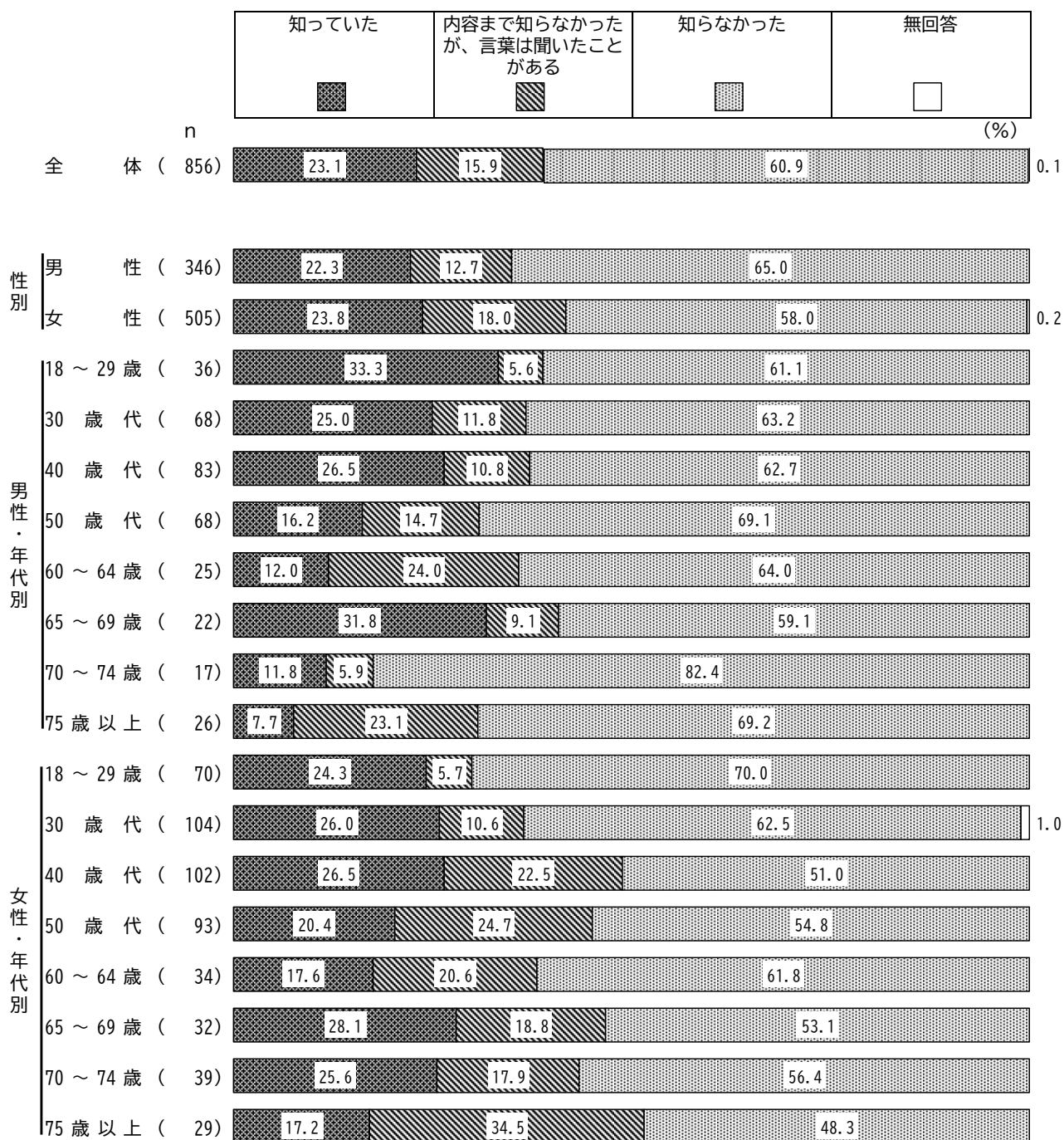
図 10-2-1 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の認知度



慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の内容を知っているか聞いたところ、「知らなかった」(60.9%) が約6割で最も高く、次いで「知っていた」(23.1%)、「内容まで知らなかったが、言葉は聞いたことがある」(15.9%) となっている。(図 10-2-1)

性・年代別にみると、「知っていた」は男性18～29歳（33.3%）で3割台半ば近くと高くなっている。一方、「知らなかった」は男性70～74歳（82.4%）で8割強と高くなっている。（図10-2-2）

図10-2-2 慢性閉塞性肺疾患（COPD）の認知度（性・年代別）



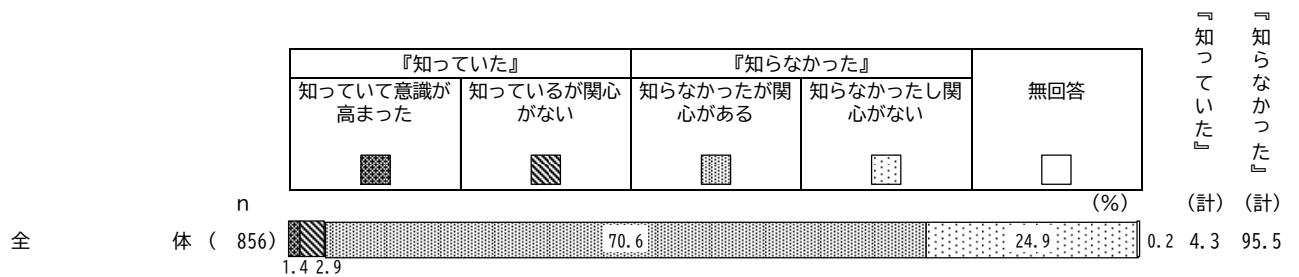
## 11. 自殺対策

### (1) 千代田区自殺対策計画の認知度

◇「知らなかったが関心がある」が約7割

問23 区では、誰も自殺に追い込まれることのない社会を目指すため、平成31年3月に千代田区自殺対策計画を策定しましたが、ご存じですか。(○は1つ)

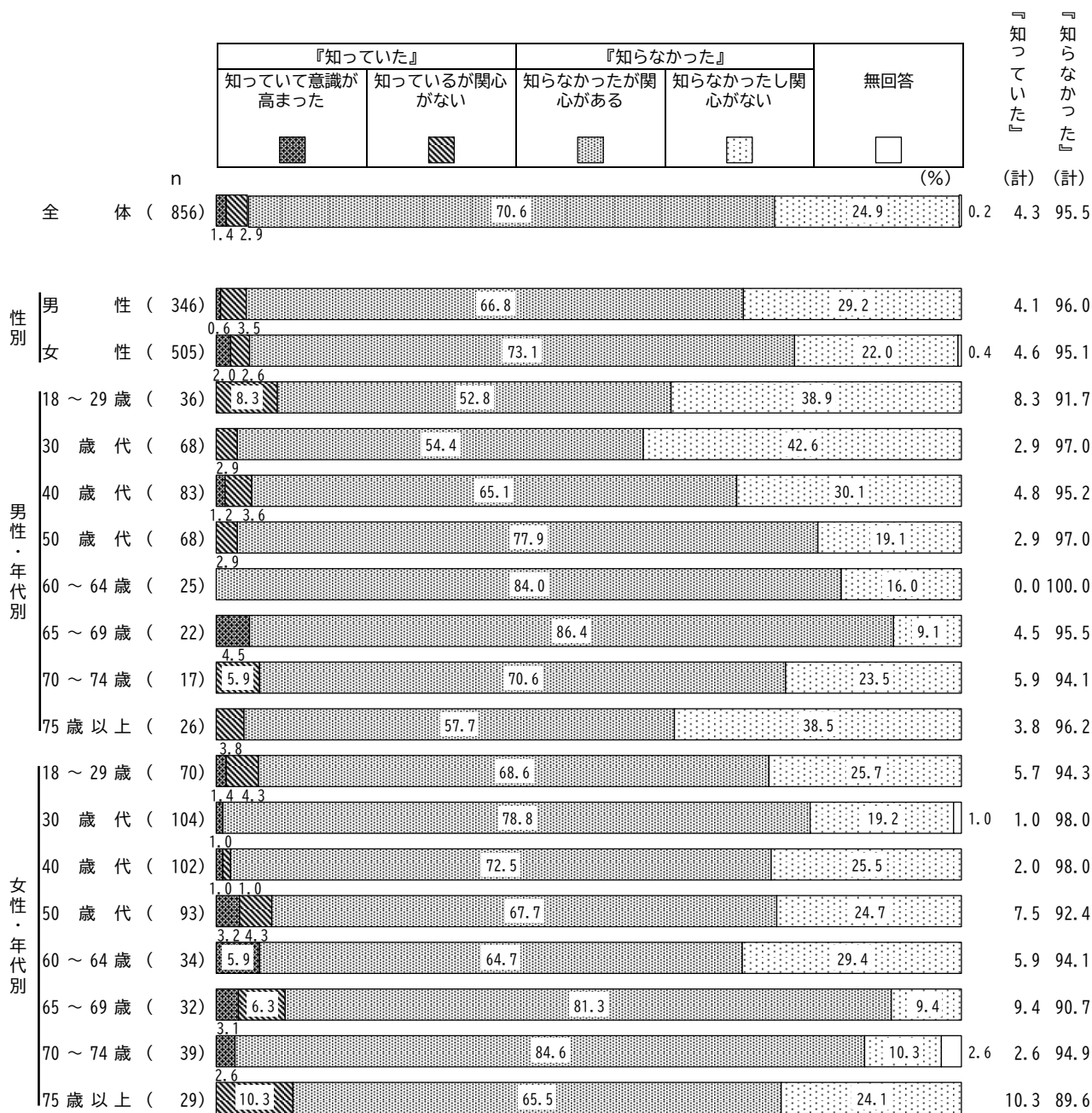
図 11-1-1 千代田区自殺対策計画の認知度



千代田区自殺対策計画の認知度について聞いたところ、「知らなかったが関心がある」(70.6%)が約7割で最も高く、これに「知らなかったし関心がない」(24.9%)を合わせた『知らなかった』(95.5%)は9割半ばとなっている。一方、「知っていて意識が高まった」(1.4%)と「知っているが関心がない」(2.9%)を合わせた『知っていた』(4.3%)は1割未満となっている。(図 11-1-1)

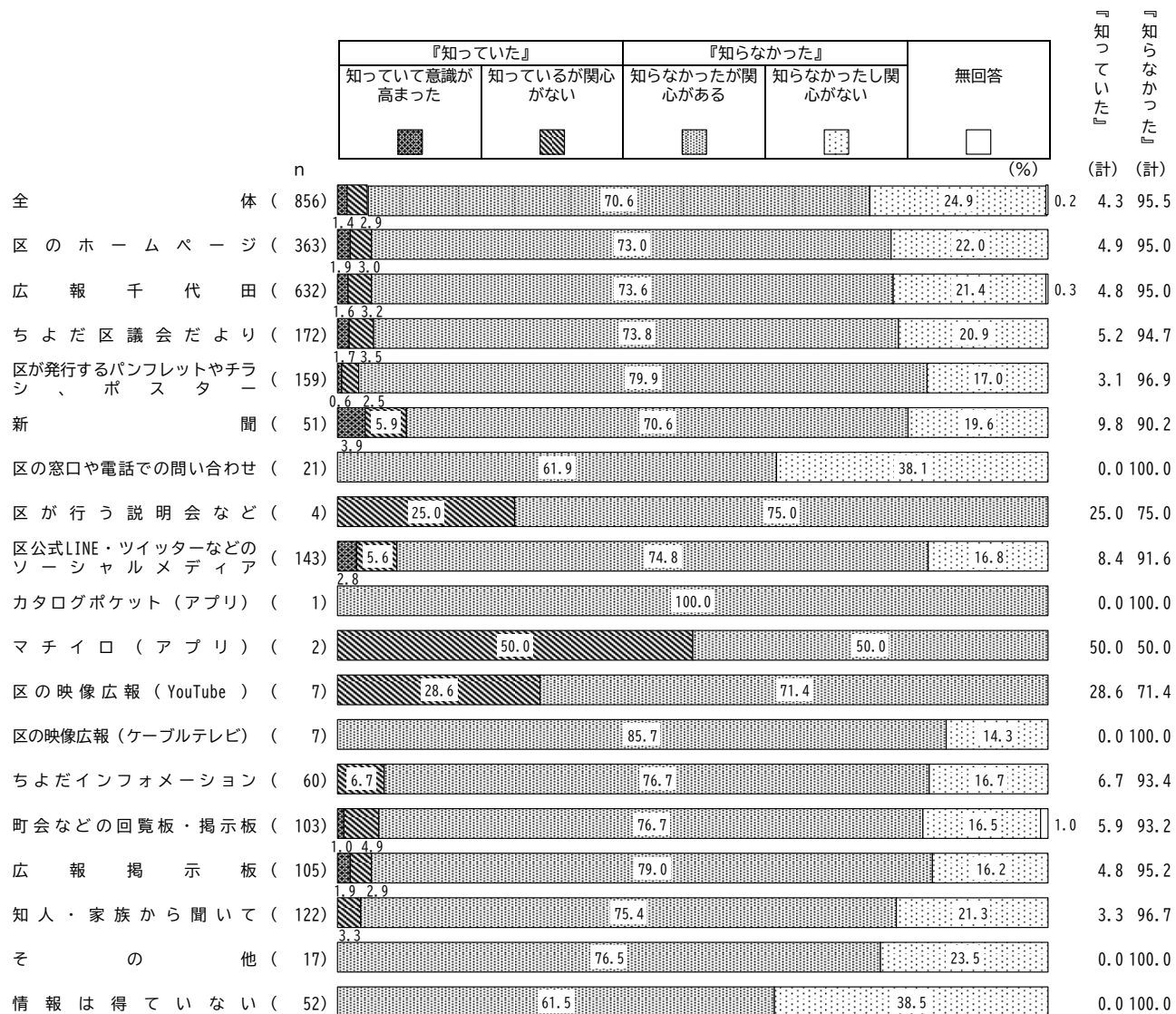
性・年代別にみると、『知らなかった』は女性 75 歳以上を除く全ての年齢層で 9 割以上と高くなっている。(図 11-1-2)

図 11-1-2 千代田区自殺対策計画の認知度 (性・年代別)



区政情報の取得媒体別にみると、千代田区自殺対策計画について「知らなかったし関心がない」と答えた方の割合は区政に関する情報は得ていない方の中（38.5%）、区の窓口や電話でのお問い合わせから区政情報を取得している方の中（38.1%）で4割近くと高くなっている。（図 11-1-3）

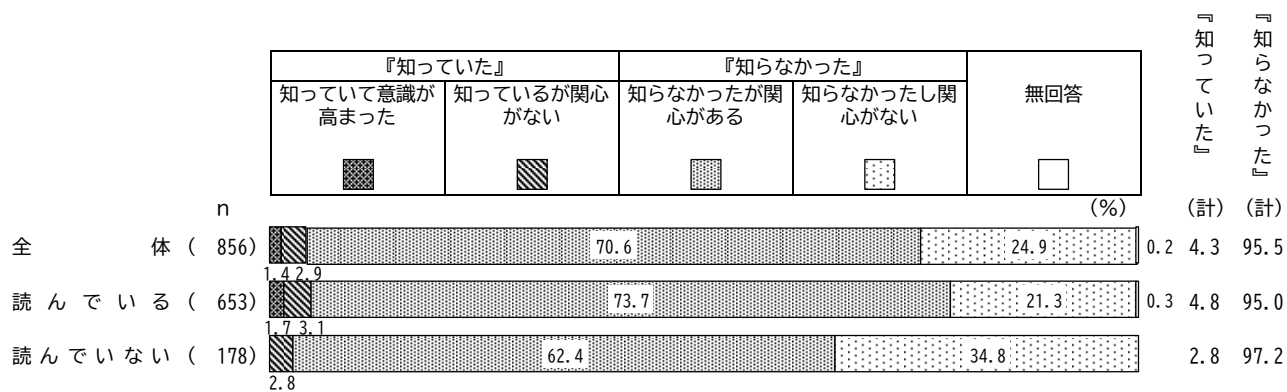
図 11-1-3 千代田区自殺対策計画の認知度（区政情報の取得媒体別）





広報千代田の閲読の有無別にみると、千代田区自殺対策計画について「知らなかったが関心がある」と答えた方の割合は広報千代田を読んでいる方（73.7%）が広報千代田を読んでいない方（62.4%）を11.3ポイント上回っている。（図11-1-4）

図11-1-4 千代田区自殺対策計画の認知度（広報千代田の閲読の有無別）

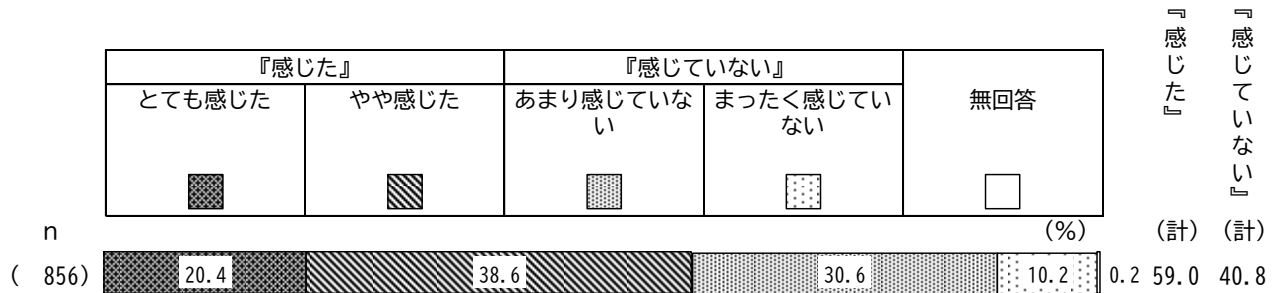


(2) ストレス等の有無

◇ストレスを『感じた』が6割弱

問24 あなたは最近1ヶ月間に日常生活で不満、悩み、苦勞、ストレスを感じましたか。(○は1つ)

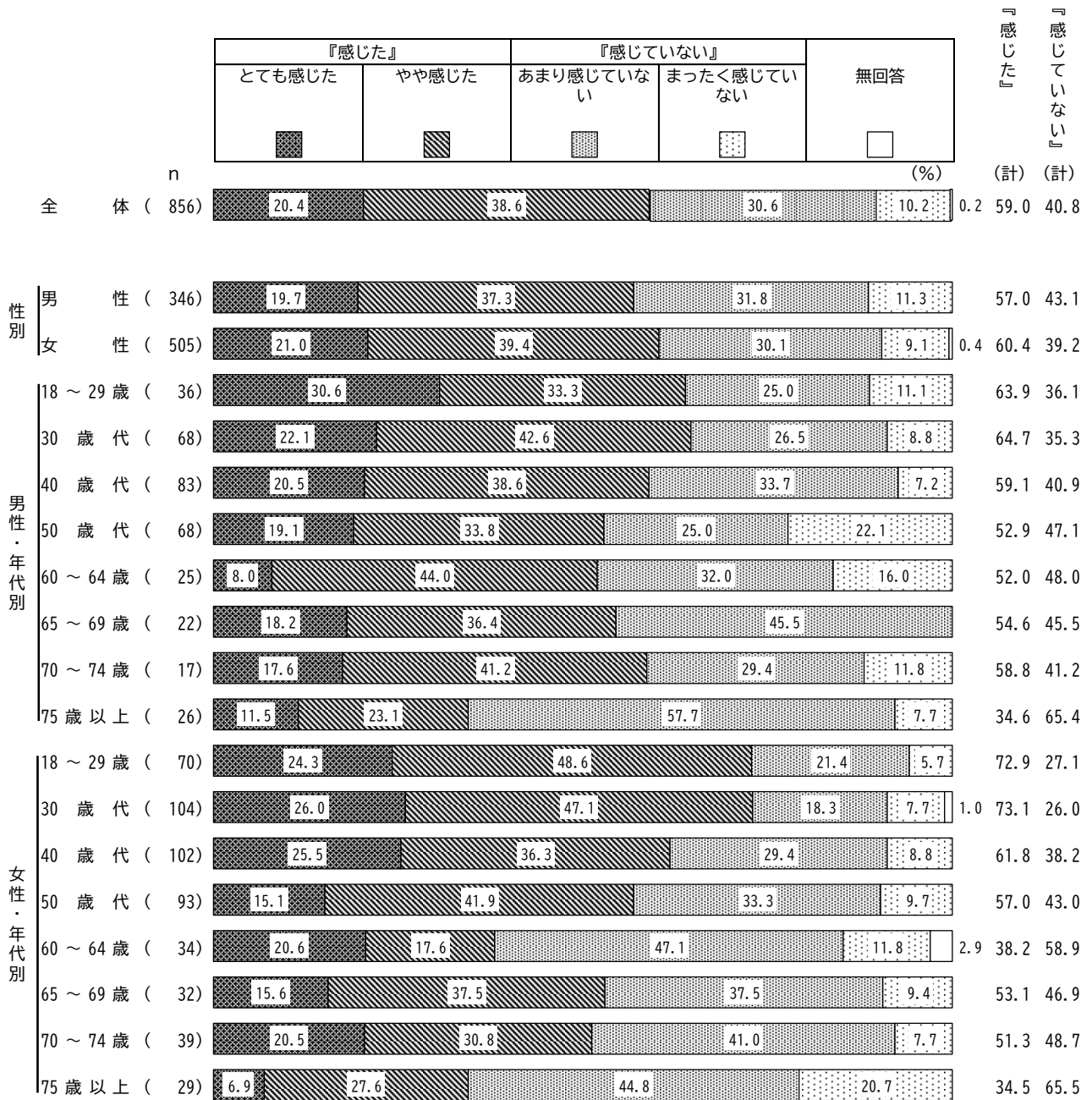
図 11-2-1 ストレス等の有無



ストレス等の有無について聞いたところ、「やや感じた」(38.6%)が4割近くで最も高く、これに「とても感じた」(20.4%)を合わせた『感じた』(59.0%)は6割弱となっている。一方、「まったく感じていない」(10.2%)と「あまり感じていない」(30.6%)を合わせた『感じていない』(40.8%)は約4割となっている。(図 11-2-1)

性・年代別にみると、ストレスを『感じた』は女性 30 歳代 (73.1%) で 7 割台半ばと高くなっている。一方、ストレスを『感じていない』は女性 75 歳以上 (65.5%)、男性 75 歳以上 (65.4%) で 6 割台半ばと高くなっている。(図 11-2-2)

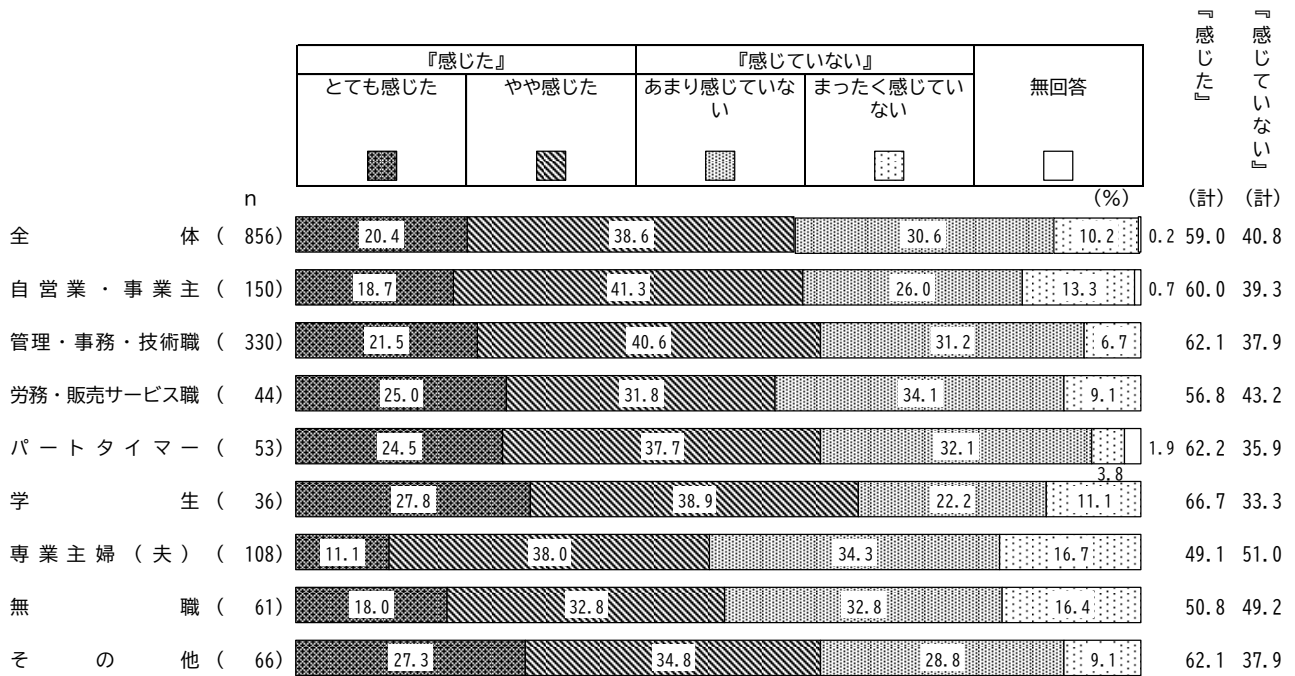
図 11-2-2 ストレス等の有無 (性・年代別)



職業別にみると、ストレスを『感じた』は学生（66.7%）で6割台半ばを超えと高くなっている。一方、ストレスを『感じていない』は専業主婦（夫）（51.0%）で5割強と高くなっている。

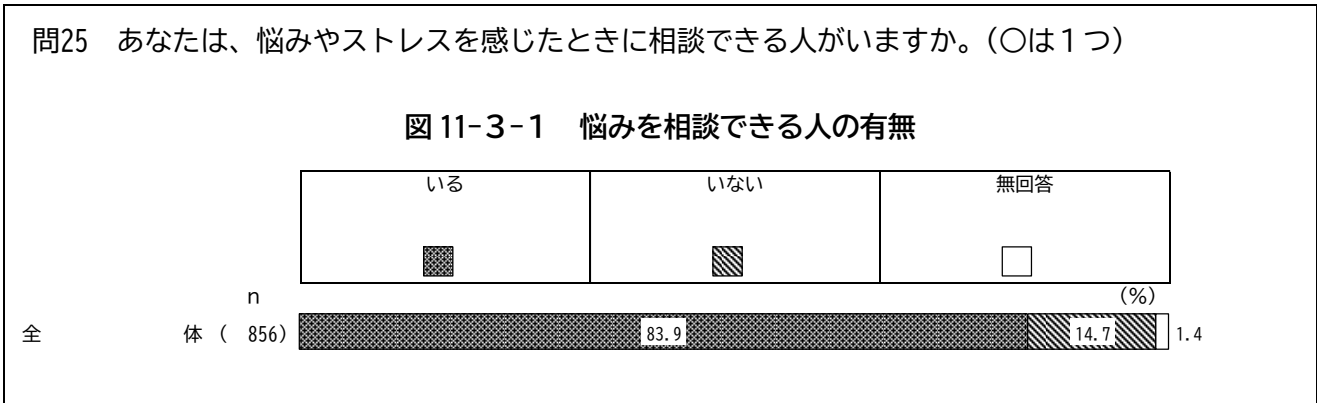
（図 11-2-3）

図 11-2-3 ストレス等の有無（職業別）



(3) 悩みを相談できる人の有無

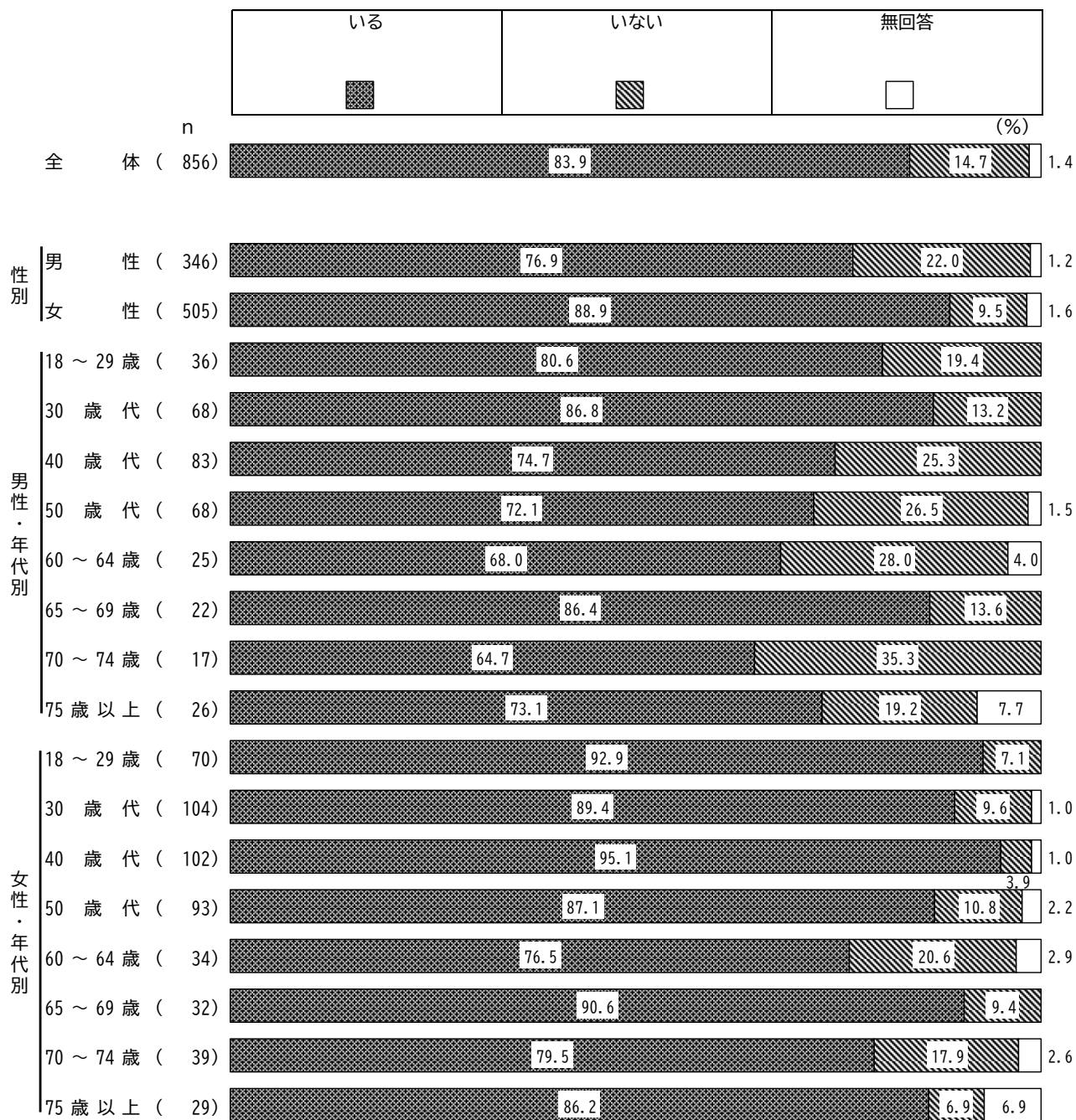
◇悩みを相談できる人が「いる」が8割台半ば近く



悩みを相談できる人の有無について聞いたところ、「いる」(83.9%)が8割台半ば近く、「いない」(14.7%)が1割台半ば近くとなっている。(図 11-3-1)

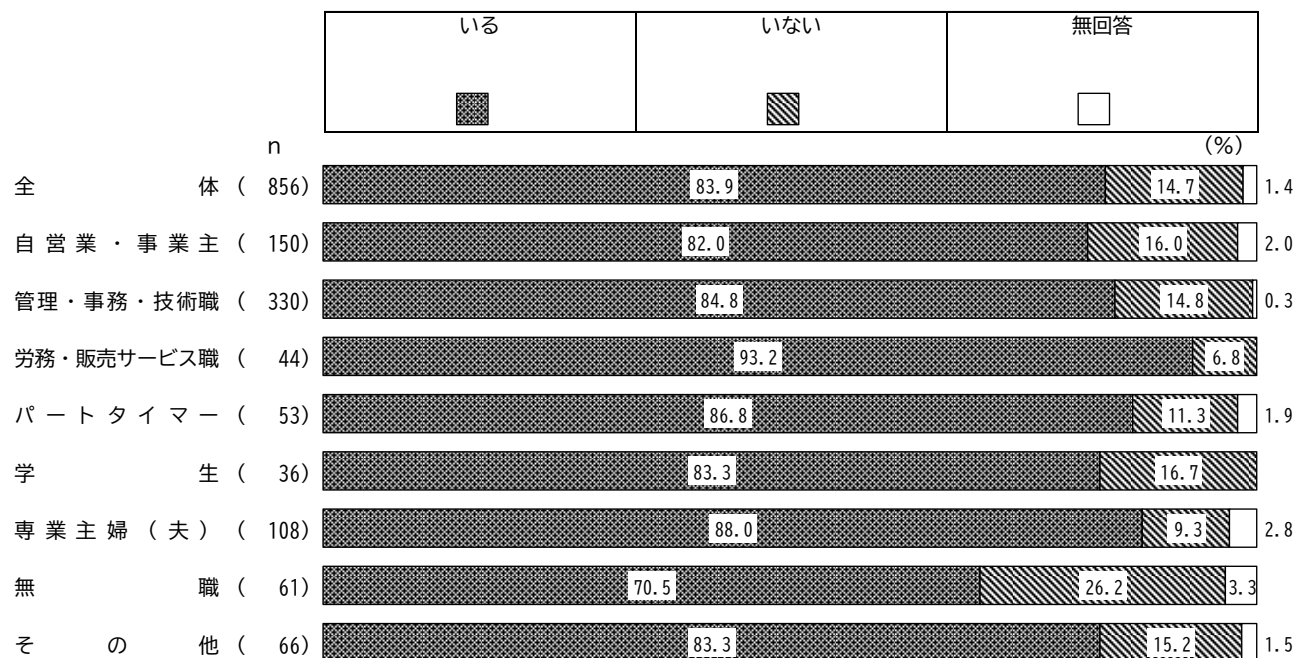
性・年代別にみると、悩みを相談できる人が「いる」は女性 40 歳代（95.1%）で9割台半ばと高くなっている。一方、悩みを相談できる人が「いない」は男性 70～74 歳（35.3%）で3割台半ばと高くなっている。（図 11-3-2）

図 11-3-2 悩みを相談できる人の有無（性・年代別）



職業別にみると、悩みを相談できる人が「いる」は労務・販売サービス職（93.2%）で9割台半ば近くと高くなっている。一方、悩みを相談できる人が「いない」は無職（26.2%）で2割台半ばを超え高くなっている。（図11-3-3）

図11-3-3 悩みを相談できる人の有無（職業別）



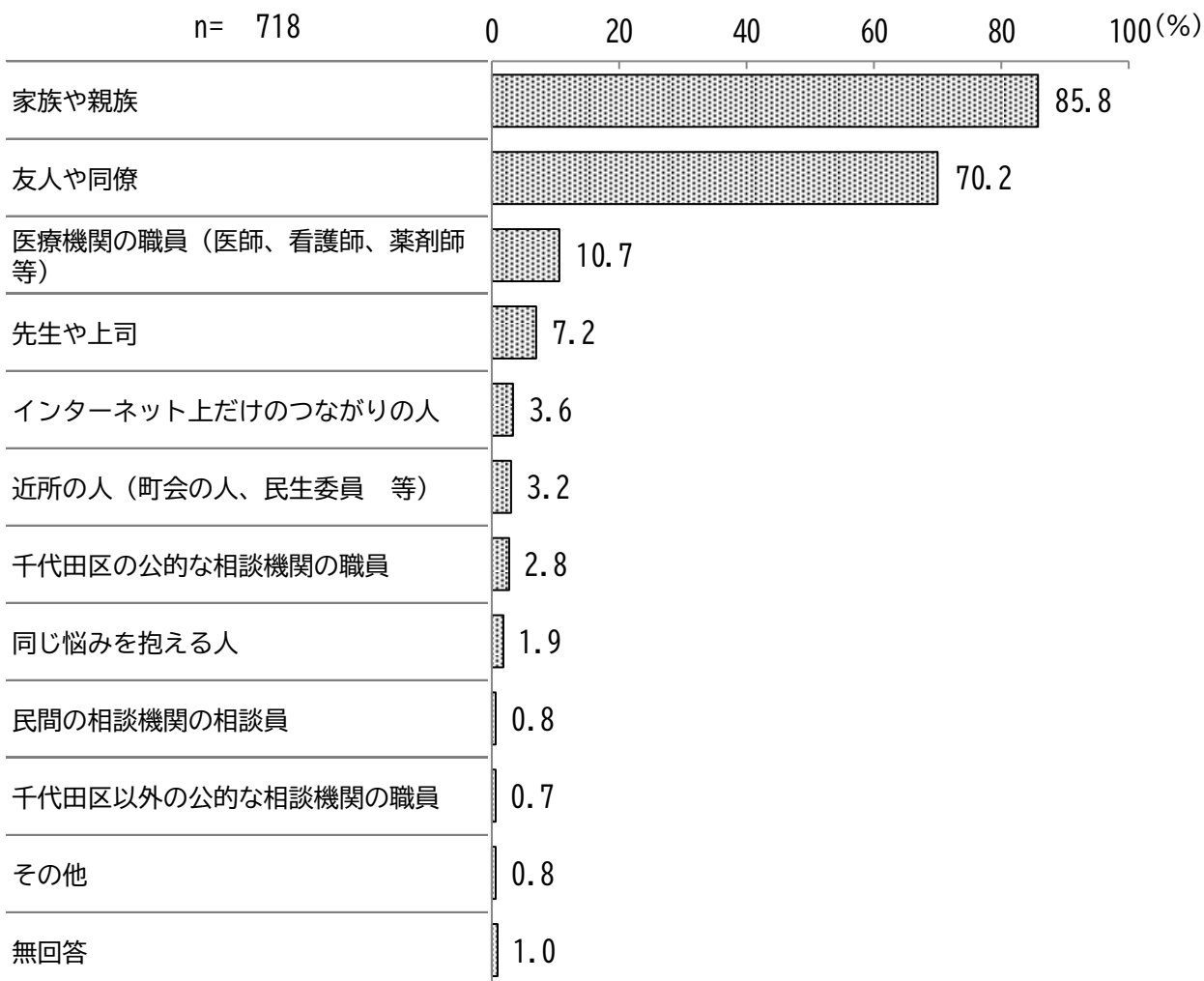
### (3-1) 悩みを相談する相手

◇「家族や親族」が8割台半ば

(問25で「1. いる」とお答えの方に)

問25-1 悩みはどのような方に相談しますか。(○はいくつでも)

図 11-3-4 悩みを相談する相手



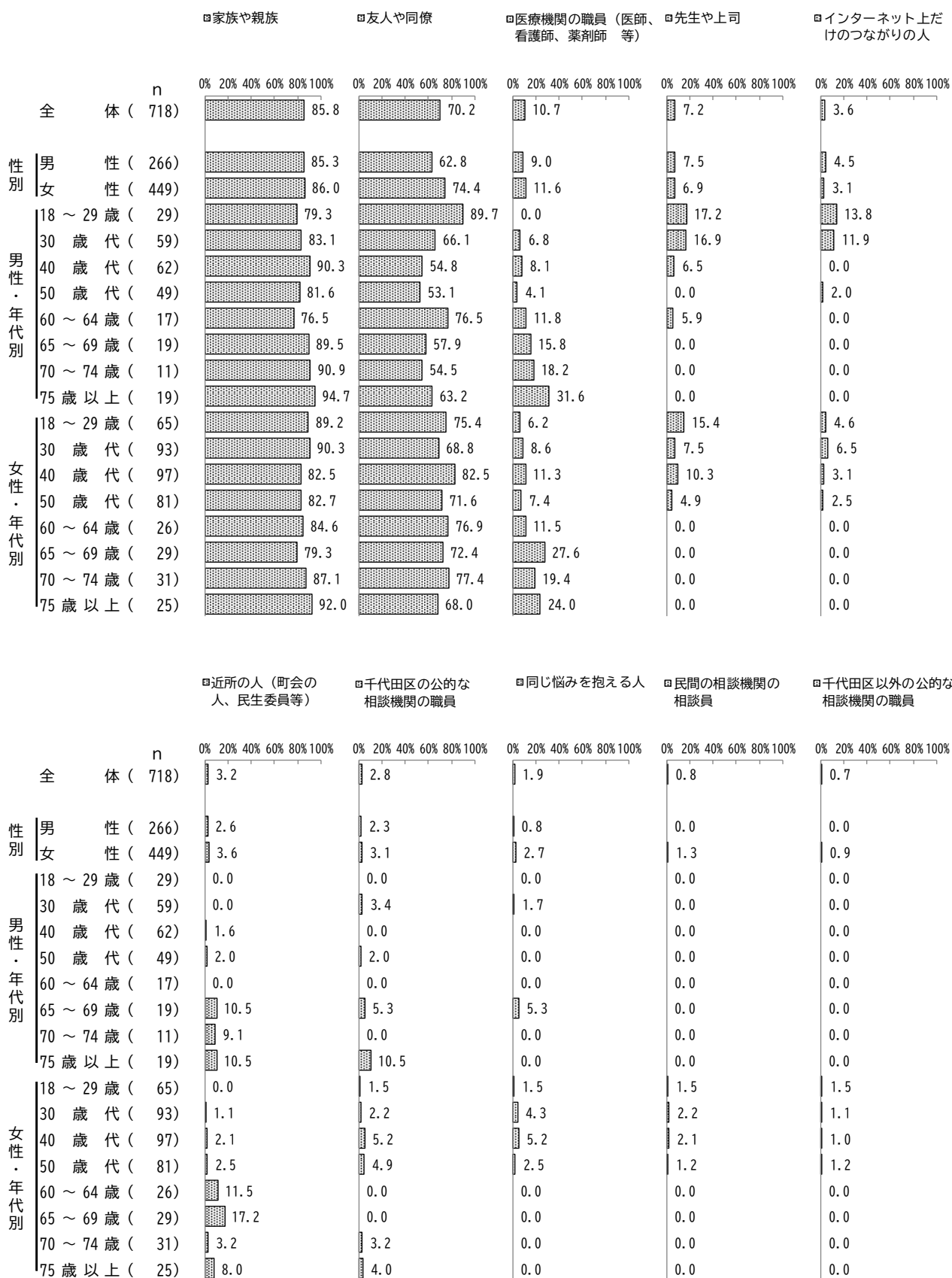
悩みを相談する相手について聞いたところ、「家族や親族」(85.8%)が8割台半ばで最も高く、次いで「友人や同僚」(70.2%)が約7割で続いている。(図 11-3-4)

その他を回答した方は6人おり、主な意見として「弁護士」、「カウンセラー」などが挙げられている。



性・年代別にみると、「友人や同僚」は男性 18～29 歳（89.7%）で 9 割弱、「医療機関の職員」は男性 75 歳以上（31.6%）が 3 割強とそれぞれ高くなっている。（図 11-3-5）

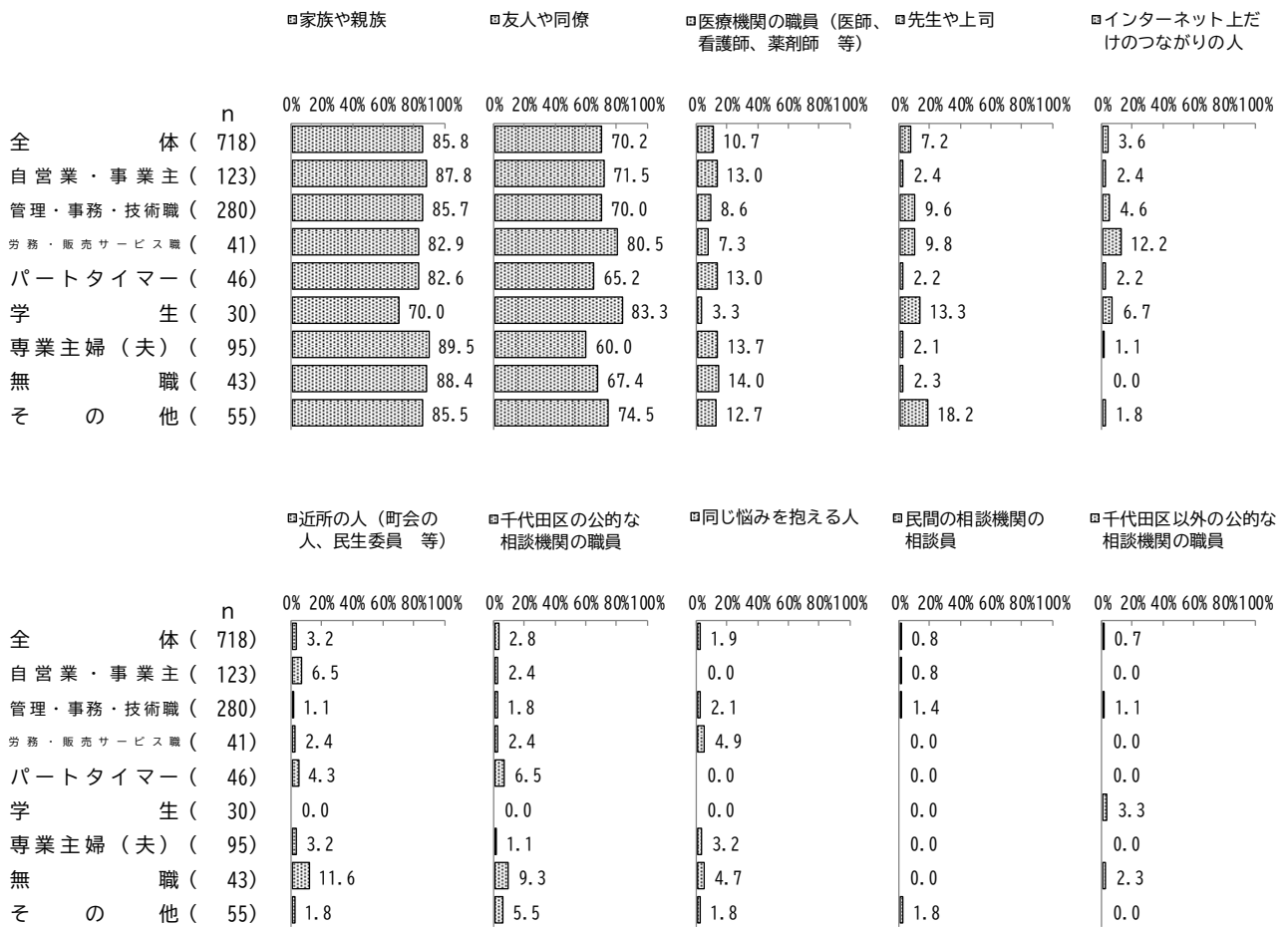
図 11-3-5 悩みを相談する相手（性・年代別）



職業別にみると、「友人や同僚」は学生（83.3%）で8割台半ば近くと高くなっている。

（図 11-3-6）

図 11-3-6 悩みを相談する相手（職業別）



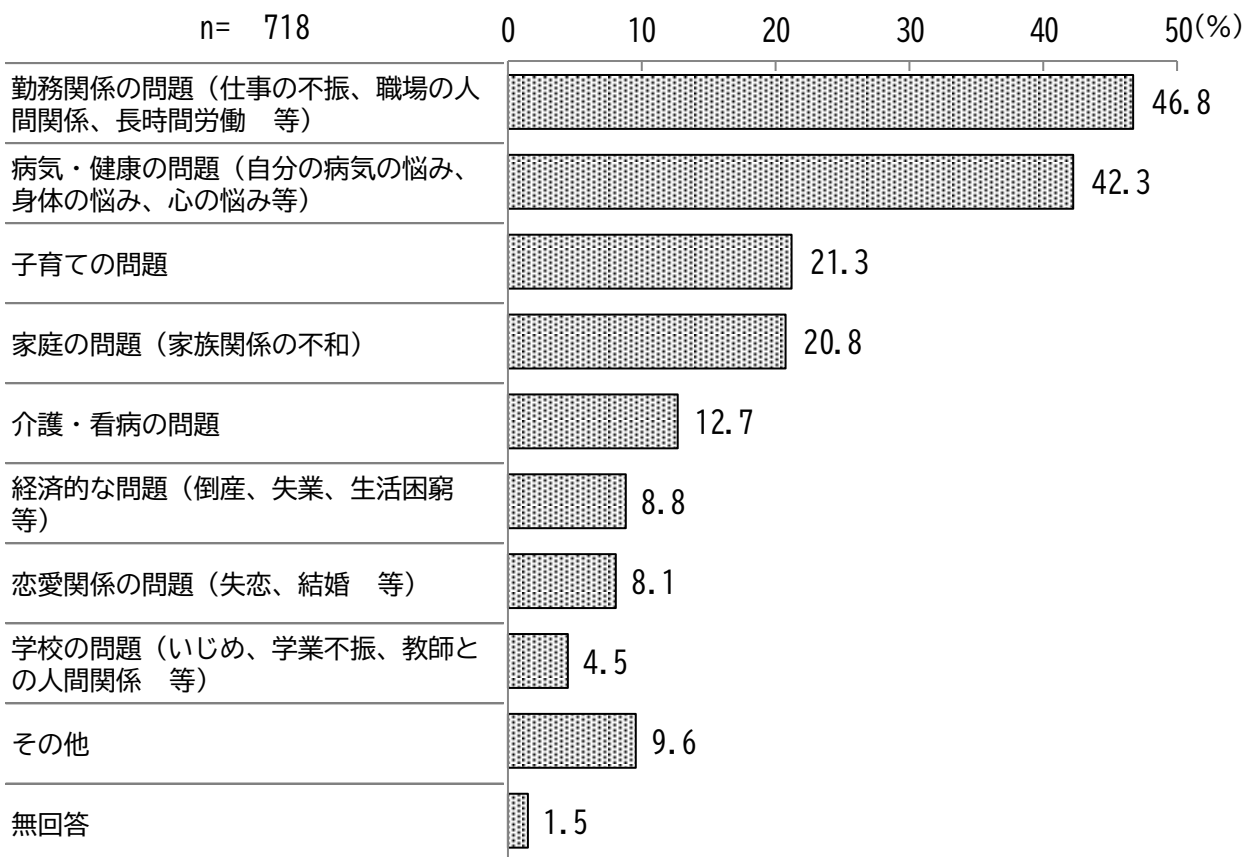
### (3-2) 相談内容

◇「勤務関係の問題」が4割台半ば超え

(問25で「1. いる」とお答えの方に)

問25-2 相談内容はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

図 11-3-7 相談内容

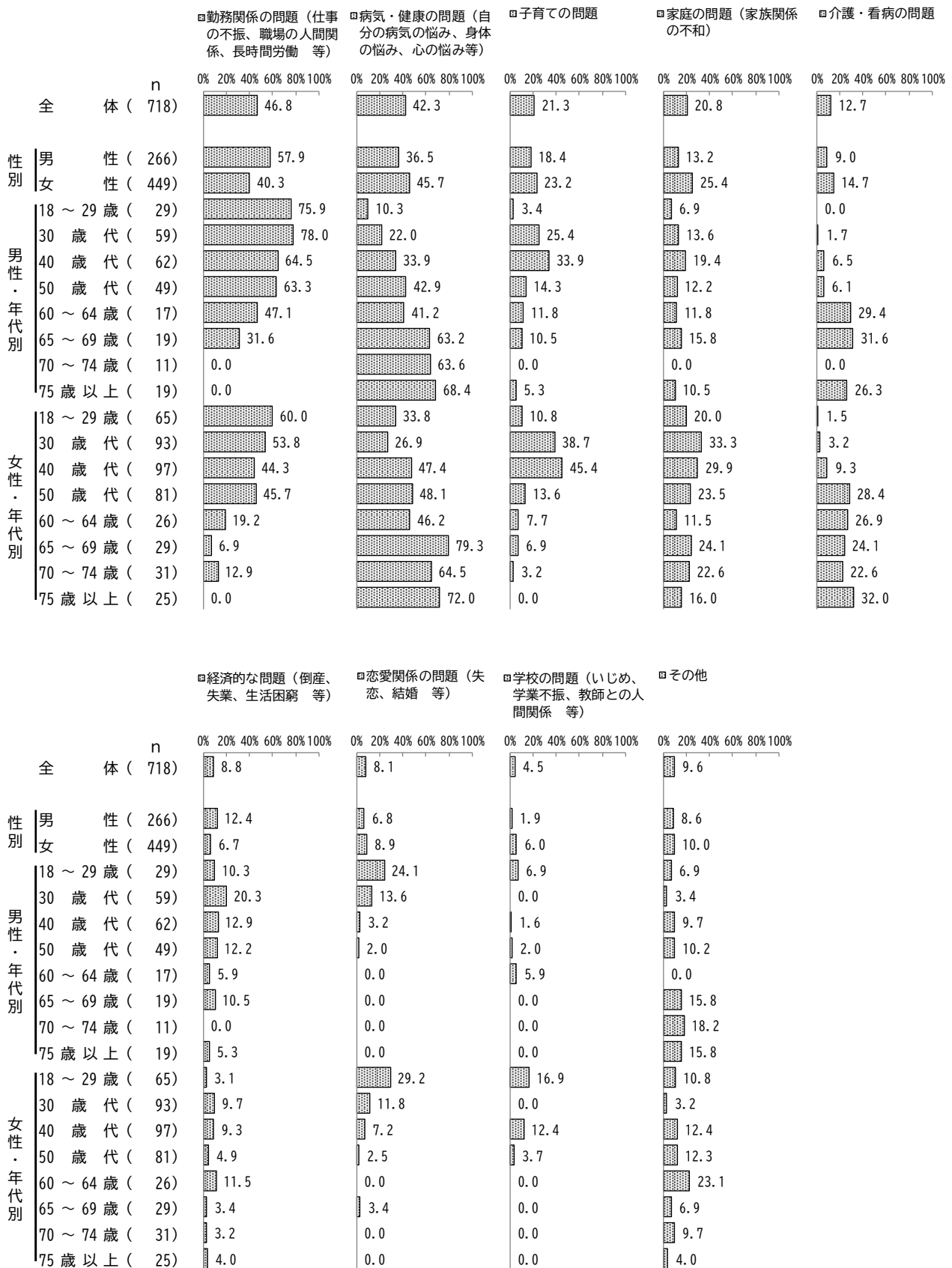


相談内容について聞いたところ、「勤務関係の問題」(46.8%)が4割台半ば超えと最も高く、次いで「病気・健康の問題」(42.3%)が4割強と続いている。(図 11-3-7)

その他を回答した方は69人おり、主な意見として「COVID-19対策」、「就職について」、「人生設計、人脈構築、資産形成、日常の困り事」などが挙げられている。

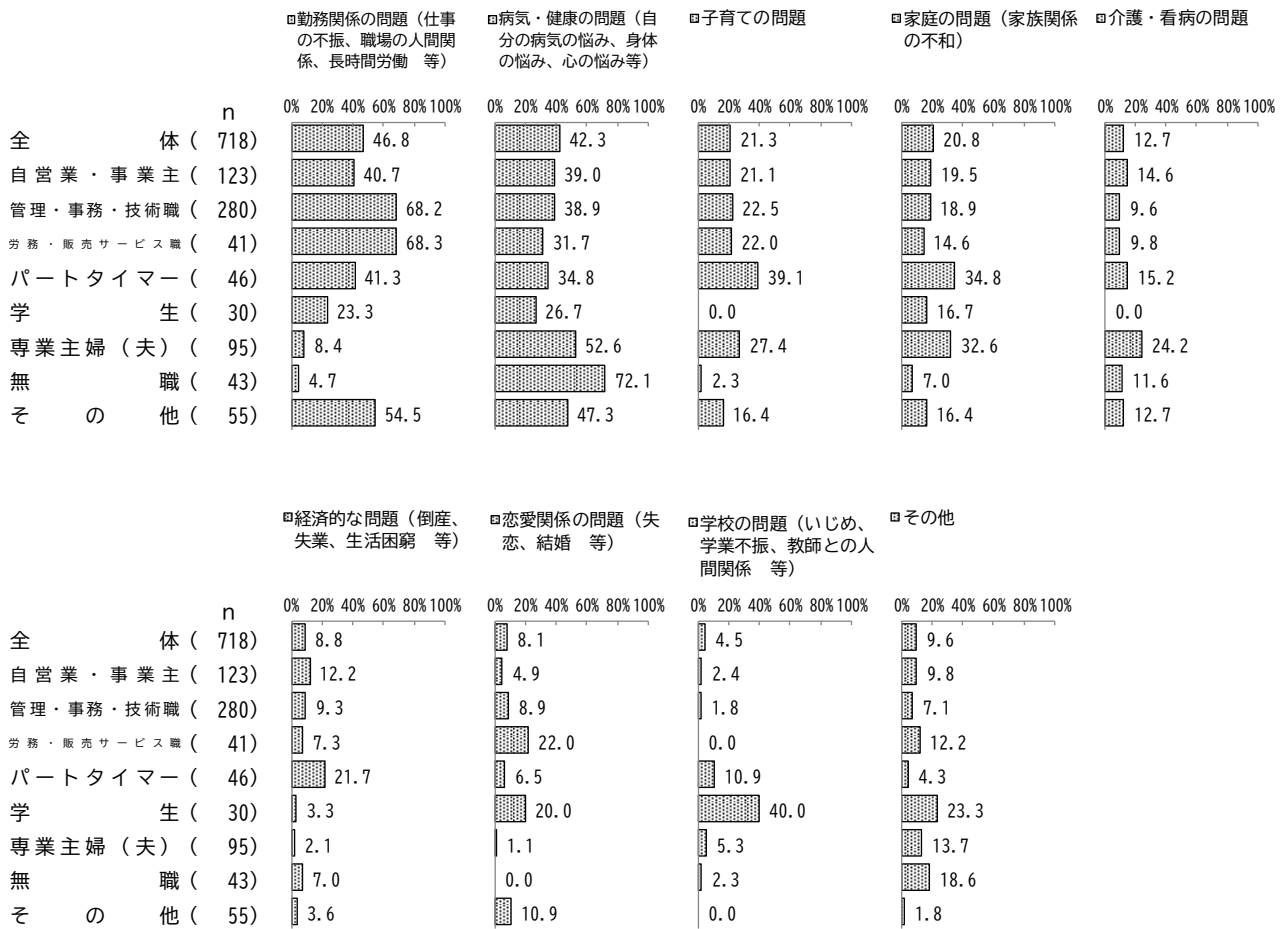
性・年代別にみると、「勤務関係の問題」は男女ともにおおむね年齢層が高くなるほど割合が低くなっている。また、「恋愛関係の問題」は女性18～29歳（29.2%）、男性18～29歳（24.1%）で2割台と高くなっている。（図11-3-8）

図11-3-8 相談内容（性・年代別）



職業別にみると、「勤務関係の問題」は労務・販売サービス職(68.3%)、管理・事務・技術職(68.2%)で6割台と高くなっている。(図11-3-9)

図11-3-9 相談内容(職業別)

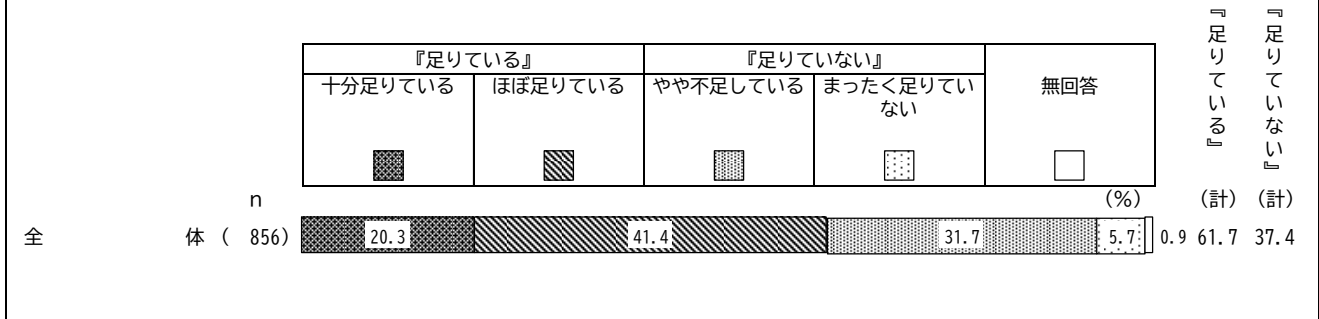


(4) 睡眠時間

◇睡眠時間が『足りている』が6割強

問26 あなたは普段の睡眠時間は足りていますか。(○は1つ)

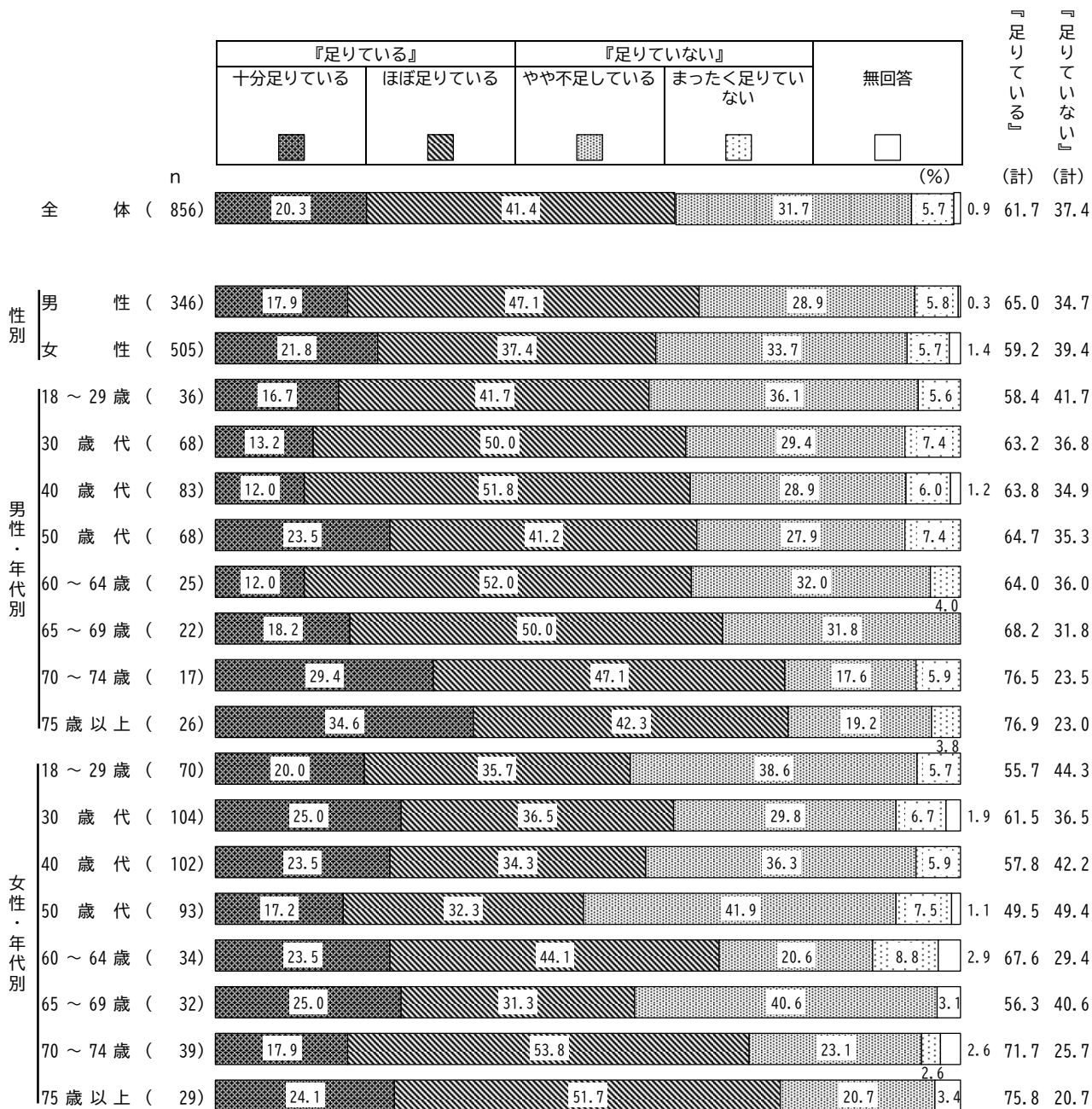
図 11-4-1 睡眠時間



睡眠時間について聞いたところ、「ほぼ足りている」(41.4%)が4割強で最も高く、これに「十分足りている」(20.3%)を合わせた『足りている』(61.7%)は6割強となっている。一方、「まったく足りていない」(5.7%)と「やや不足している」(31.7%)を合わせた『足りていない』(37.4%)は3割台半ばを超えとなっている。(図 11-4-1)

性・年代別にみると、睡眠時間が『足りている』は男性 75 歳以上 (76.9%)、男性 70~74 歳 (76.5%) で 7 割台半ばを超えと高くなっている。一方、睡眠時間が『足りていない』は女性 50 歳代 (49.4%) で 5 割弱と高くなっている。(図 11-4-2)

図 11-4-2 睡眠時間 (性・年代別)

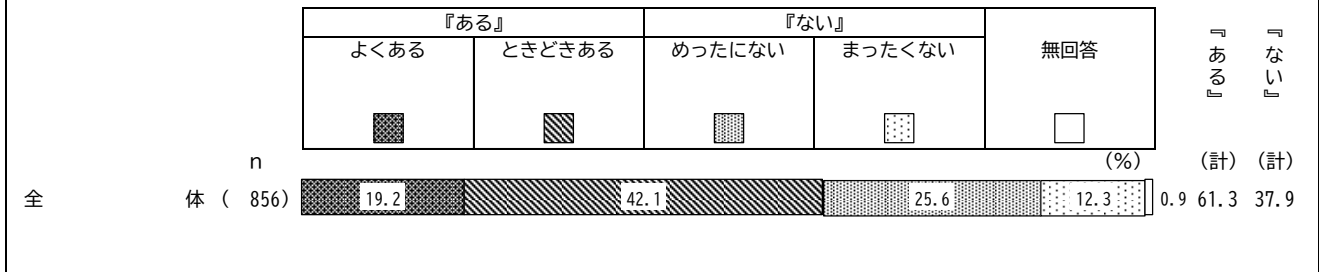


(5) 熟睡できないことの有無

◇熟睡できないことが『ある』が6割強

問27 あなたはこの1ヶ月間に、寝床に入っても寝つきが悪い、途中で目が覚める、朝早く目が覚める、熟睡できないなど、眠れないことがありましたか。(○は1つ)

図 11-5-1 熟睡できないことの有無

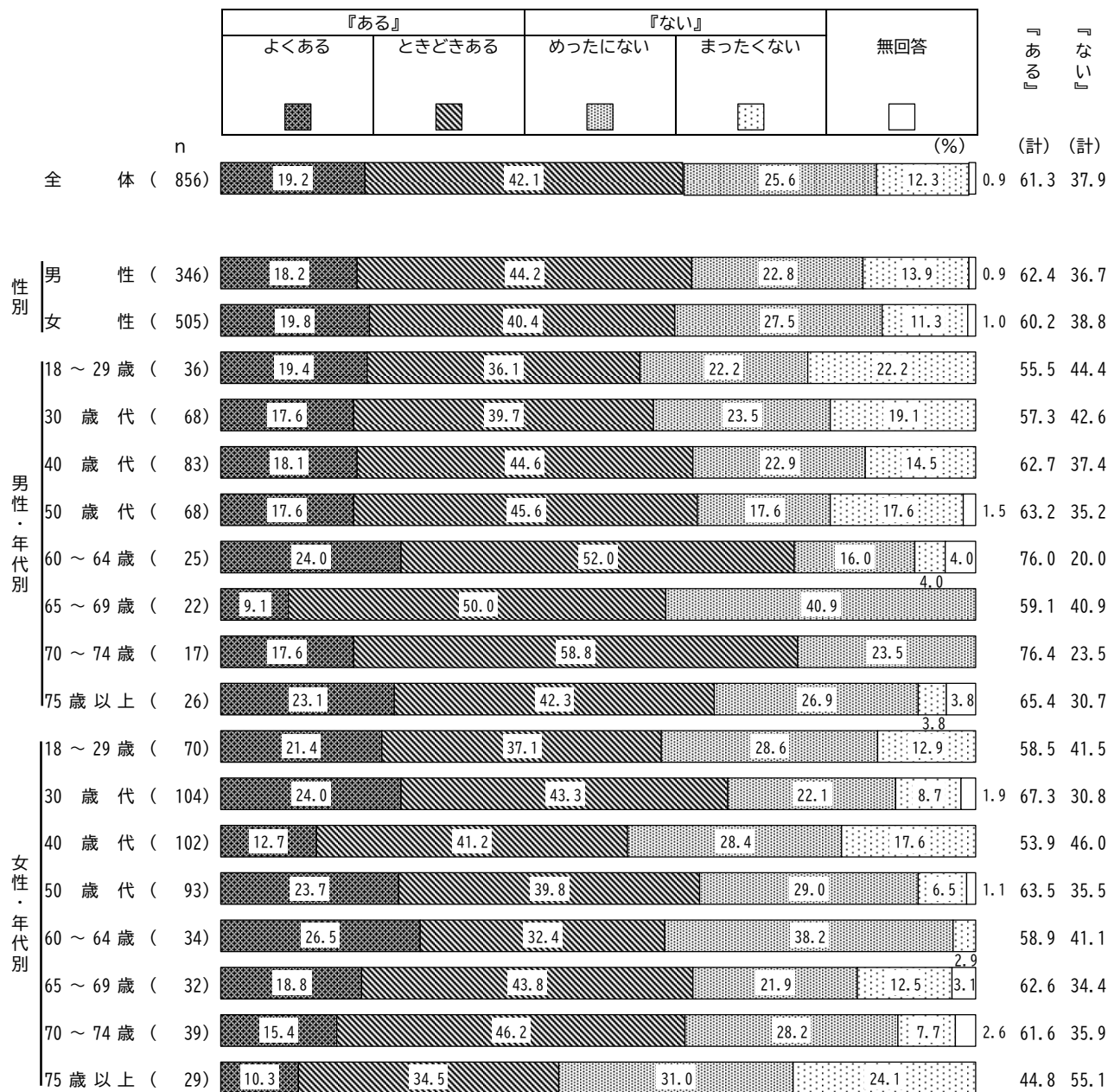


熟睡できないことの有無について聞いたところ、「ときどきある」(42.1%)が4割強で最も高く、これに「よくある」(19.2%)を合わせた『ある』(61.3%)は6割強となっている。一方、「まったくない」(12.3%)と「めったにない」(25.6%)を合わせた『ない』(37.9%)は3割台半ばを超えている。(図 11-5-1)



性・年代別にみると、熟睡できないことが『ある』は男性 70～74 歳（76.4%）で7割台半ばを超えと高くなっている。一方、熟睡できないことが『ない』は女性 75 歳以上（55.1%）で5割台半ばと高くなっている。（図 11-5-2）

図 11-5-2 熟睡できないことの有無（性・年代別）

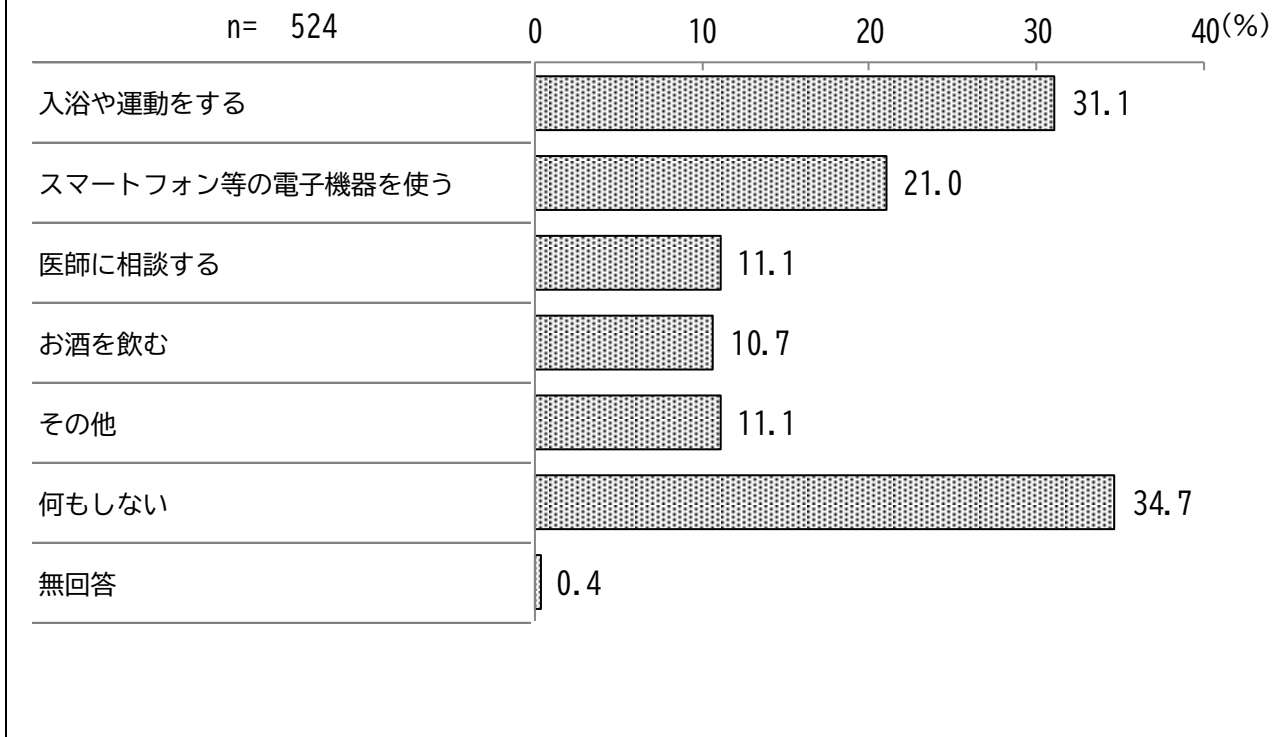


(5-1) 眠れない日が続いた時の対応

◇「何もしない」が3割台半ば近く

(問27で「1. よくある」か「2. ときどきある」とお答えの方に)  
問27-1 眠れない日が続いた際はどのように対応していますか。(〇はいくつでも)

図 11-5-3 眠れない日が続いた時の対応

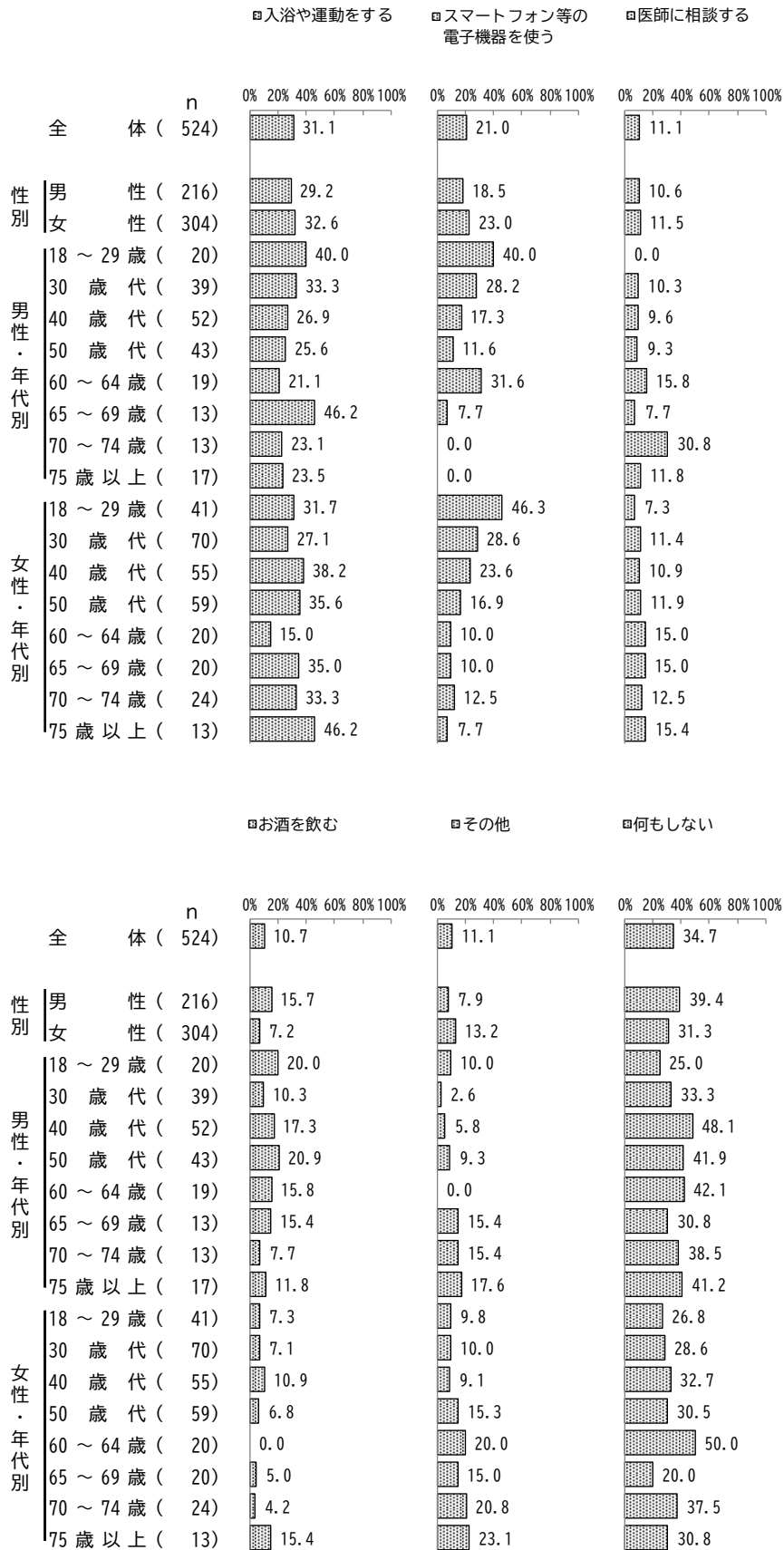


眠れない日が続いた時の対応について聞いたところ、「何もしない」(34.7%)が3割台半ば近くで最も高く、次いで「入浴や運動をする」(31.1%)、「スマートフォン等の電子機器を使う」(21.0%)となっている。(図 11-5-3)

その他を回答した方は 58 人おり、主な意見として「睡眠薬」、「昼寝」、「読書」、「目をつむる」などが挙げられている。

性・年代別にみると、「スマートフォン等の電子機器を使う」は女性 18～29 歳（46.3%）、男性 18～29 歳（40.0%）が4割台で高くなっている。一方、「何もしない」は女性 60～64 歳（50.0%）で5割と高くなっている。（図 11-5-4）

図 11-5-4 眠れない日が続いた時の対応（性・年代別）

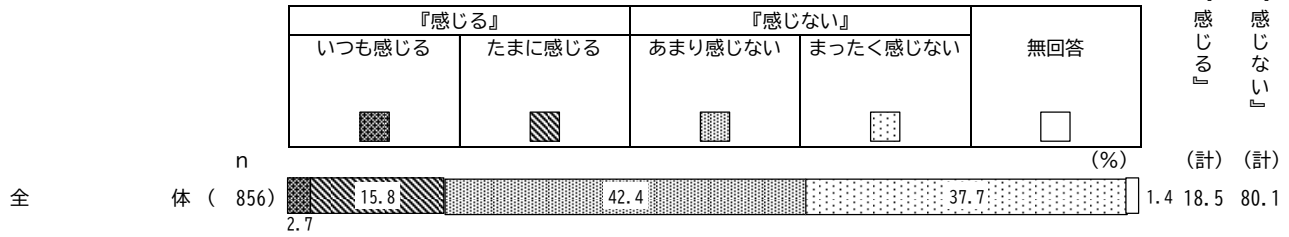


(6) 自分の居場所がないと感じることの有無

◇『感じない』が約8割

問28 あなたは普段の生活の中で「自分の居場所がない」と感じることはありますか。(○は1つ)

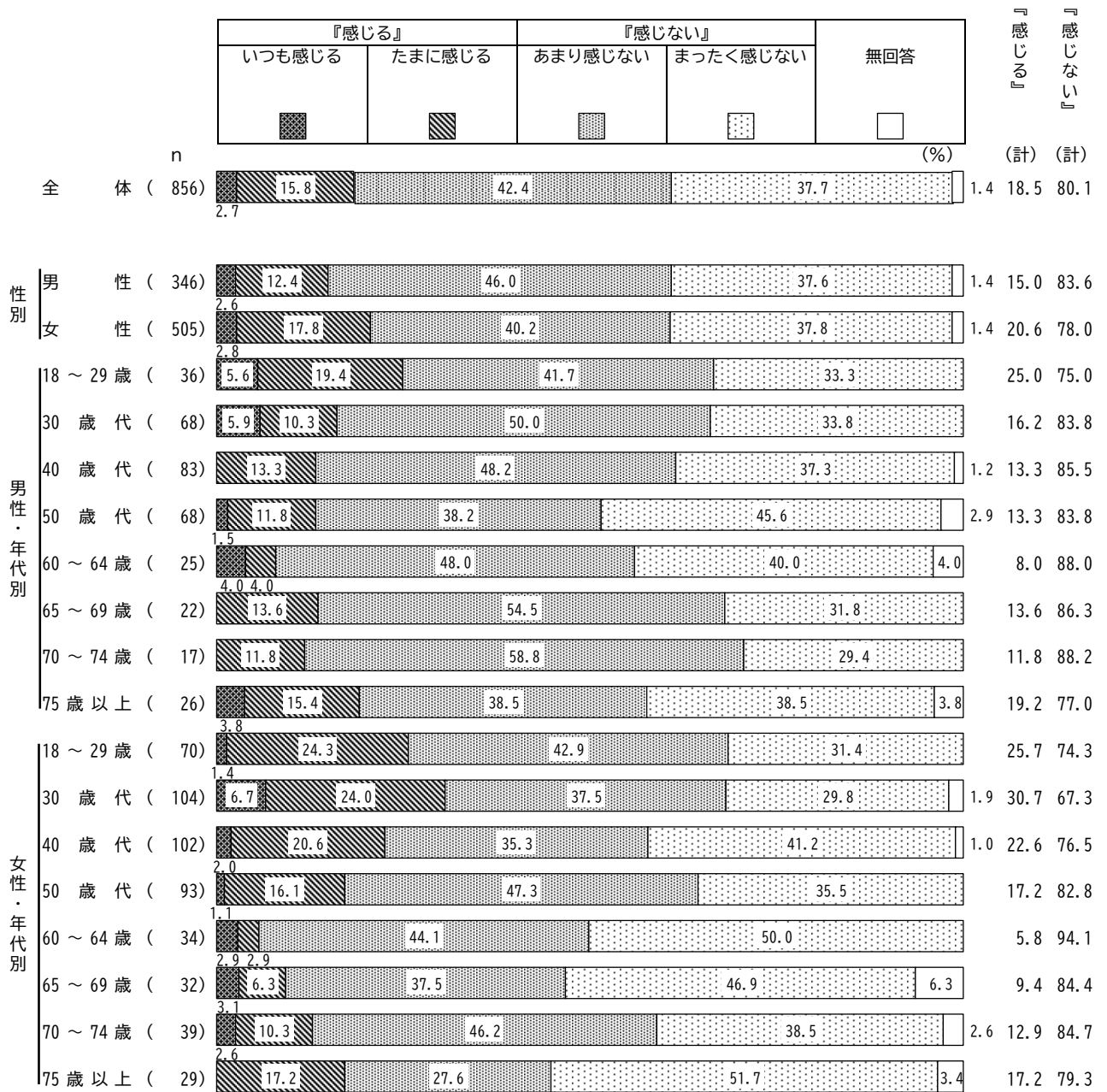
図 11-6-1 自分の居場所がないと感じることの有無



自分の居場所がないと感じることの有無について聞いたところ、「あまり感じない」(42.4%)が4割強で最も高く、これに「まったく感じない」(37.7%)を合わせた『感じない』(80.1%)は約8割となっている。一方、「たまに感じる」(15.8%)と「いつも感じる」(2.7%)を合わせた『感じる』(18.5%)は2割近くとなっている。(図 11-6-1)

性・年代別にみると、『感じる』は女性 30 歳代（30.7%）で約 3 割と高くなっている。一方、『感じない』は女性 60～64 歳（94.1%）で 9 割台半ば近くと高くなっている。（図 11-6-2）

図 11-6-2 自分の居場所がないと感じることの有無（性・年代別）

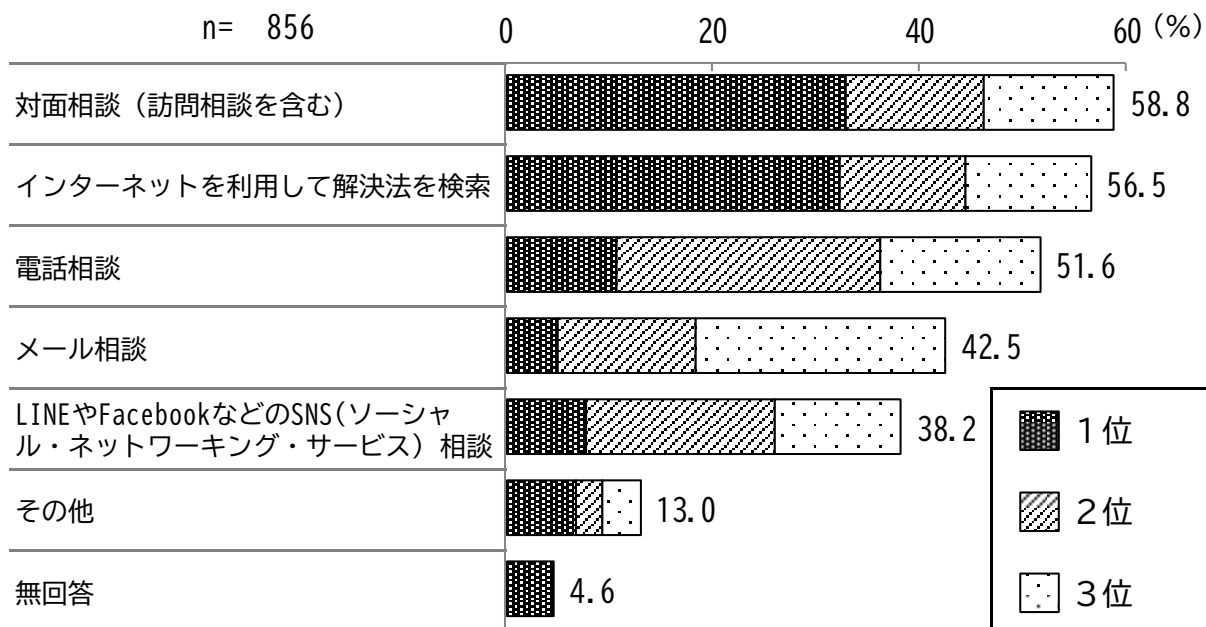


(7) 悩みを相談する手段

◇「対面相談（訪問相談を含む）」が6割近く

問29 あなたは悩みやストレスを感じた時に、どのような方法を利用して相談したいと思いますか。  
（優先順位の高い順に3つ番号を記入してください。）

図 11-7-1 悩みを相談する手段

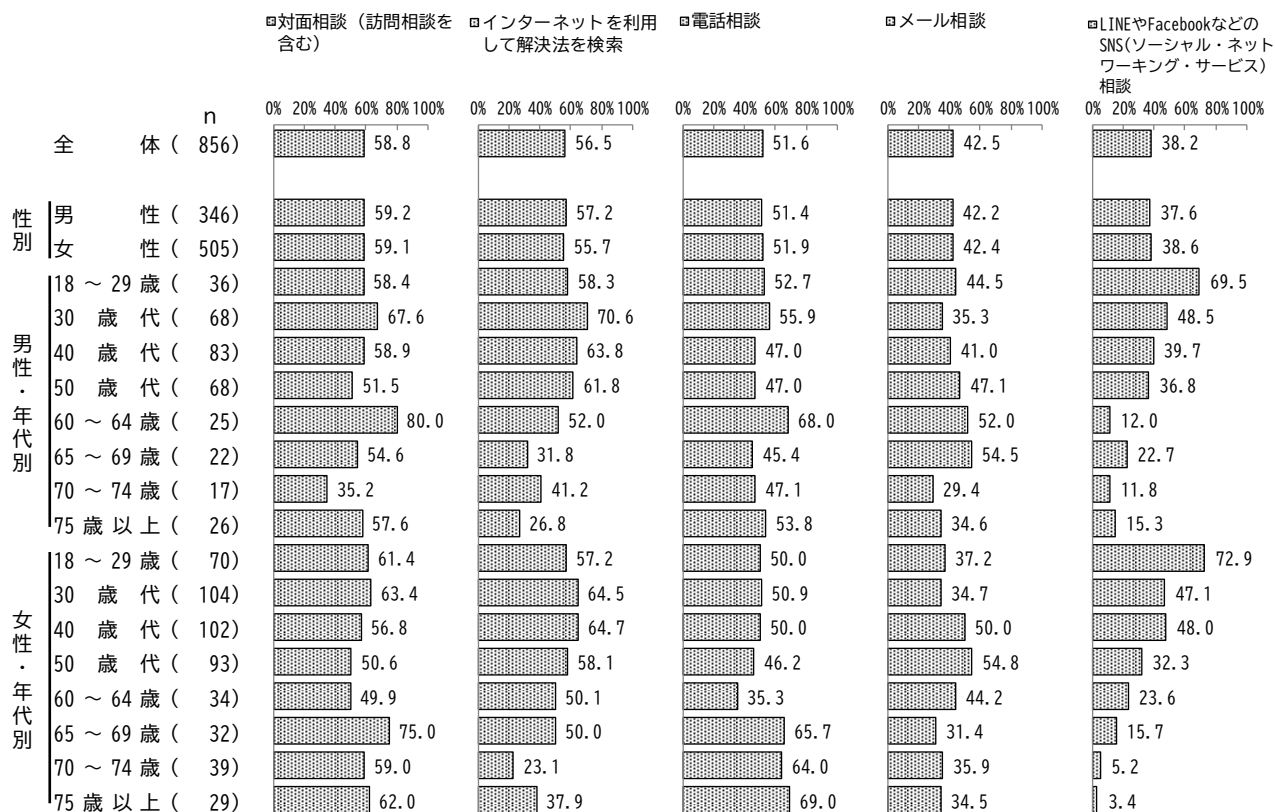


悩みを相談する手段について聞いたところ、「対面相談（訪問相談を含む）」（58.8%）が6割近くで最も高く、次いで、「インターネットを利用して解決法を検索」（56.5%）、「電話相談」（51.6%）となっている。（図 11-7-1）

その他を回答した方は111人おり、主な意見として「家族・友人」、「自分で解決する」、「哲学、宗教書などを読む」、「医療施設を利用する」などが挙げられている。

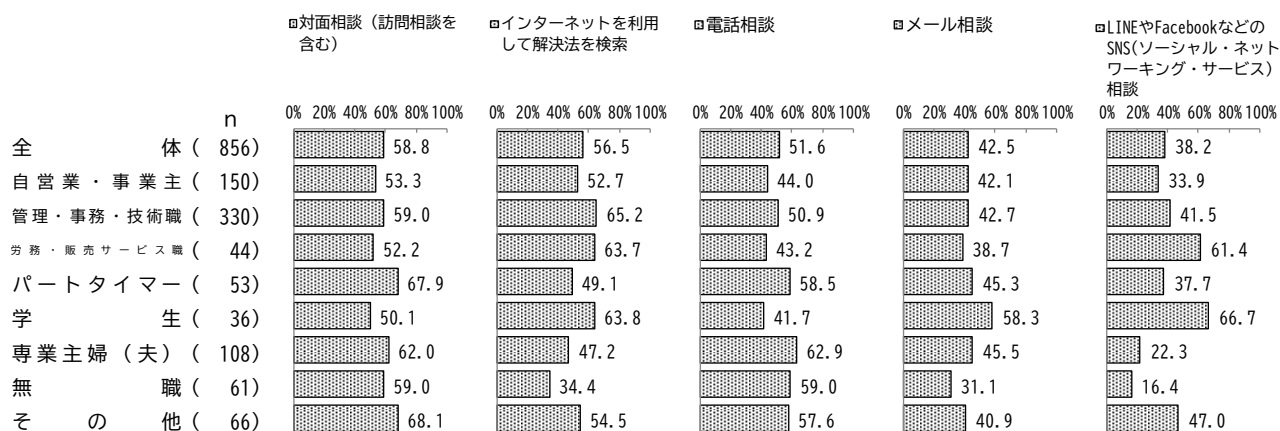
性・年代別にみると、「対面相談（訪問相談を含む）」は男性 60～64 歳（80.0%）で 8 割と高くなっている。また、「LINE や Facebook などの SNS」は女性 18～29 歳（72.9%）で 7 割強と高くなっている。（図 11-7-2）

図 11-7-2 悩みを相談する手段（性・年代別）



職業別にみると、「インターネットを利用して解決法を検索」は管理・事務・技術職（65.2%）で 6 割台半ばと高くなっている。また、「電話相談」は専業主婦（夫）（62.9%）で 6 割強と高くなっている。（図 11-7-3）

図 11-7-3 悩みを相談する手段（職業別）

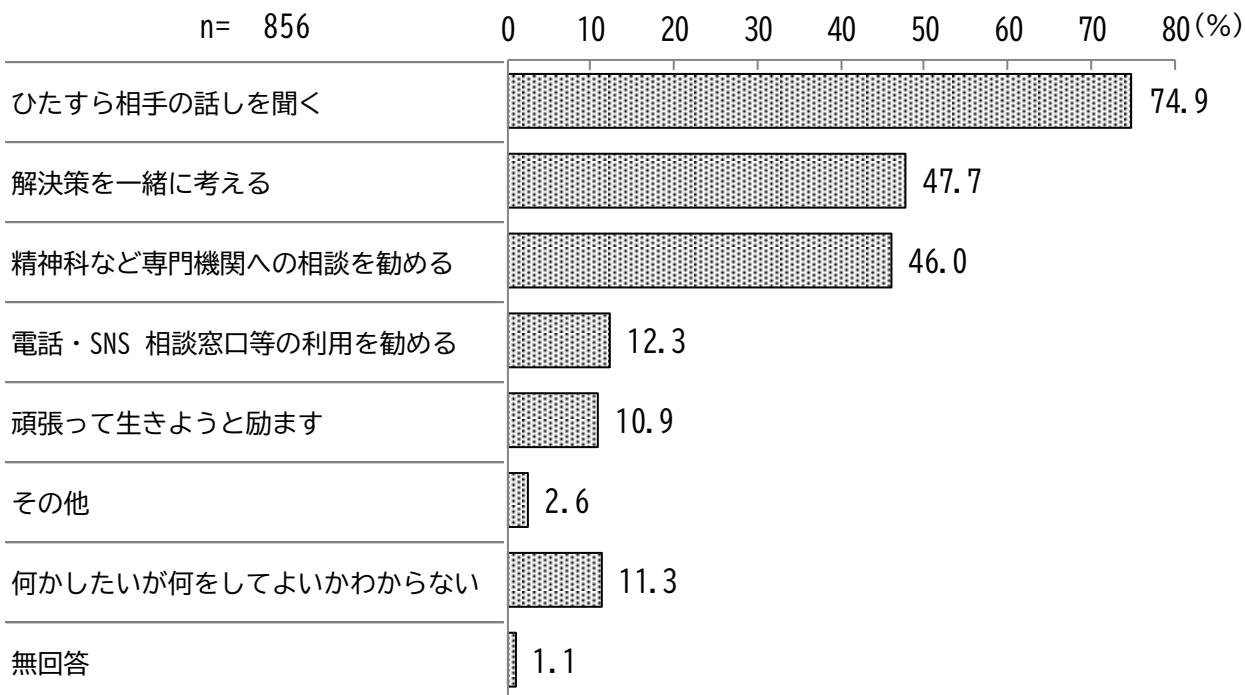


(8) 「死にたい」と打ち明けられた時の対応

◇「ひたすら相手の話を聞く」が7割台半ば近く

問30 あなたはもし身近な人から「死にたい」と打ち明けられたとき、どのように対応しますか。  
(〇はいくつでも)

図 11-8-1 「死にたい」と打ち明けられた時の対応



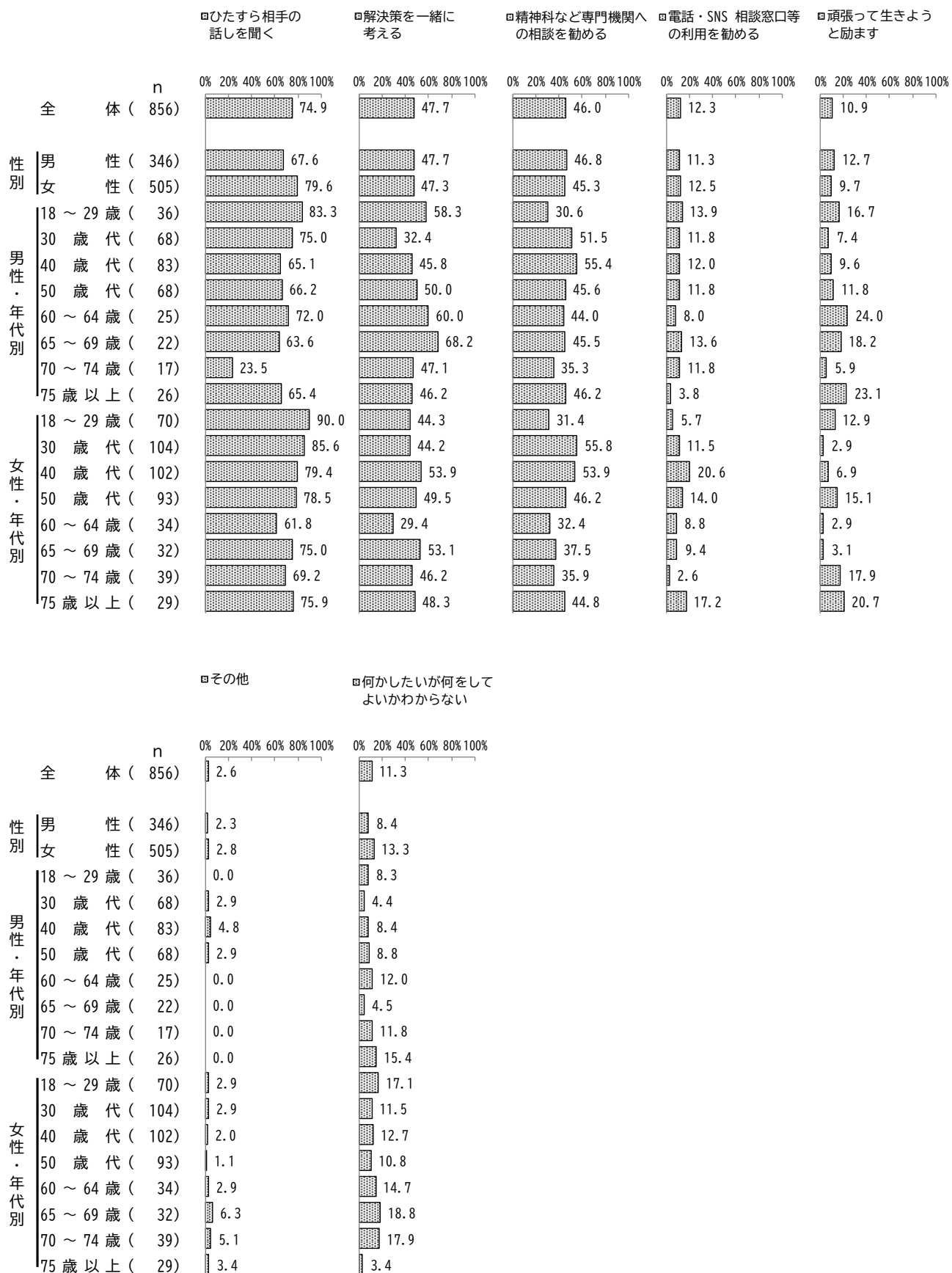
「死にたい」と打ち明けられた時の対応について聞いたところ、「ひたすら相手の話を聞く」(74.9%)が7割台半ば近くで最も高く、次いで「解決策を一緒に考える」(47.7%)、「精神科など専門機関への相談を勧める」(46.0%)となっている。一方、「何かしたいが何をしてもよいかわからない」(11.3%)は1割強となっている。(図 11-8-1)

その他を回答した方は 22 人おり、主な意見として「近くにいる」、「関わらない」などが挙げられている。



性・年代別にみると、「ひたすら相手の話しを聞く」は女性18～29歳（90.0%）で9割と高くなっている。また、「解決策を一緒に考える」は男性65～69歳（68.2%）で7割近く、「頑張って生きようと励ます」は男性60～64歳（24.0%）で2割台半ば近くと高くなっている。（図11-8-2）

図11-8-2 「死にたい」と打ち明けられた時の対応（性・年代別）

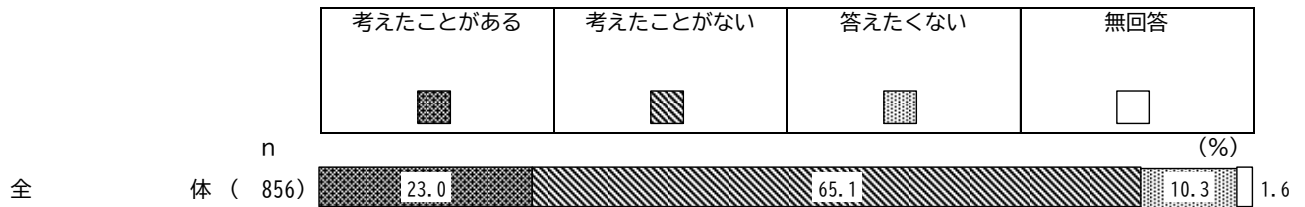


(9) 自殺を考えたことの有無

◇「考えたことがない」が6割台半ば

問31 あなたはこれまでに、「自殺」をしたいと考えたことはありますか。(○は1つ)

図 11-9-1 自殺を考えたことの有無

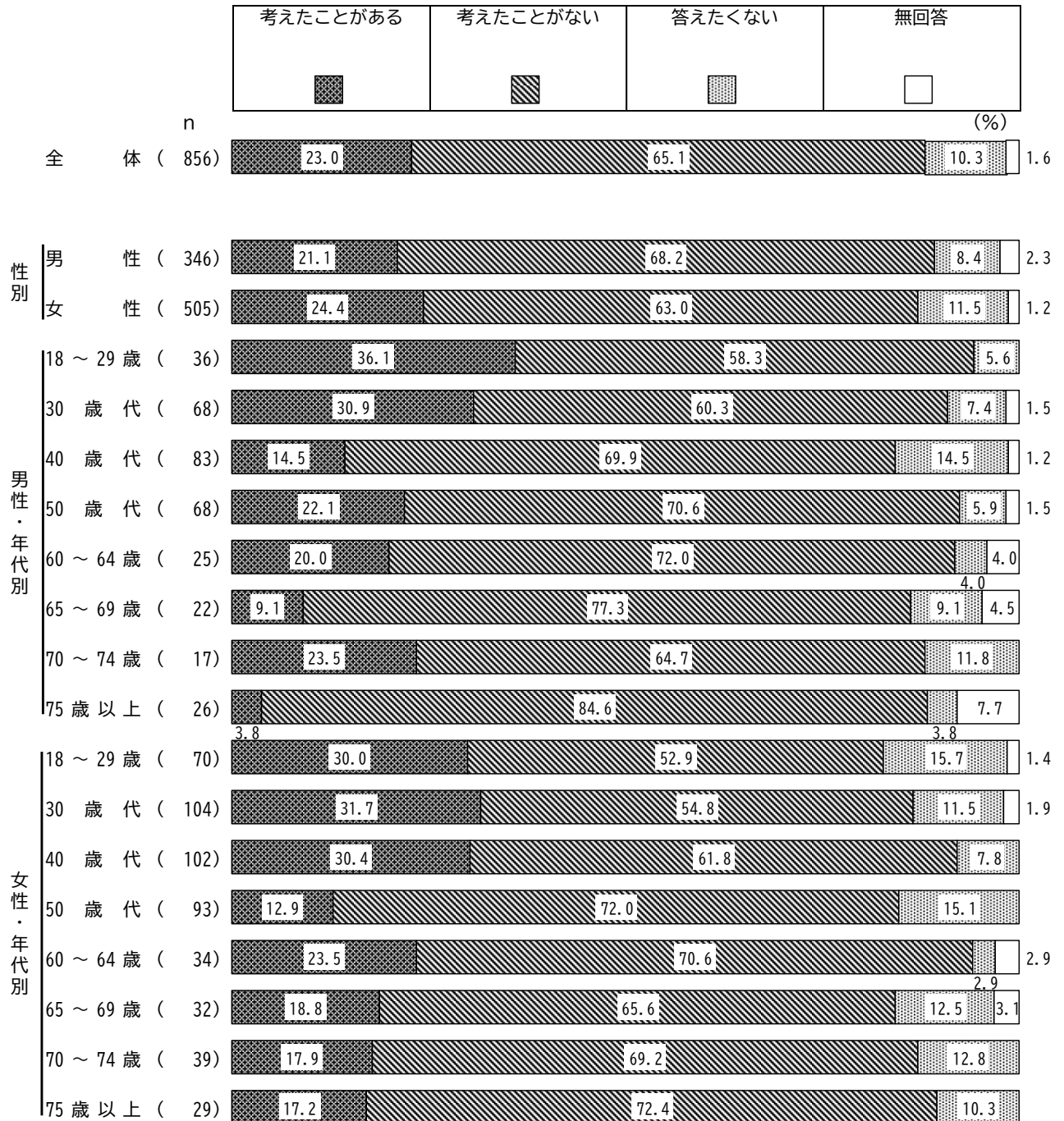


自殺を考えたことの有無について聞いたところ、「考えたことがない」(65.1%)が6割台半ばと最も高く、「考えたことがある」(23.0%)が2割台半ば近く、「答えたくない」(10.3%)が約1割となっている。(図 11-9-1)

性・年代別にみると、「考えたことがない」は男性75歳以上（84.6%）で8割半ば近くと高くなっている。一方、「考えたことがある」は男性18～29歳（36.1%）で3割台半ばを超えと高くなっている。

(図 11-9-2)

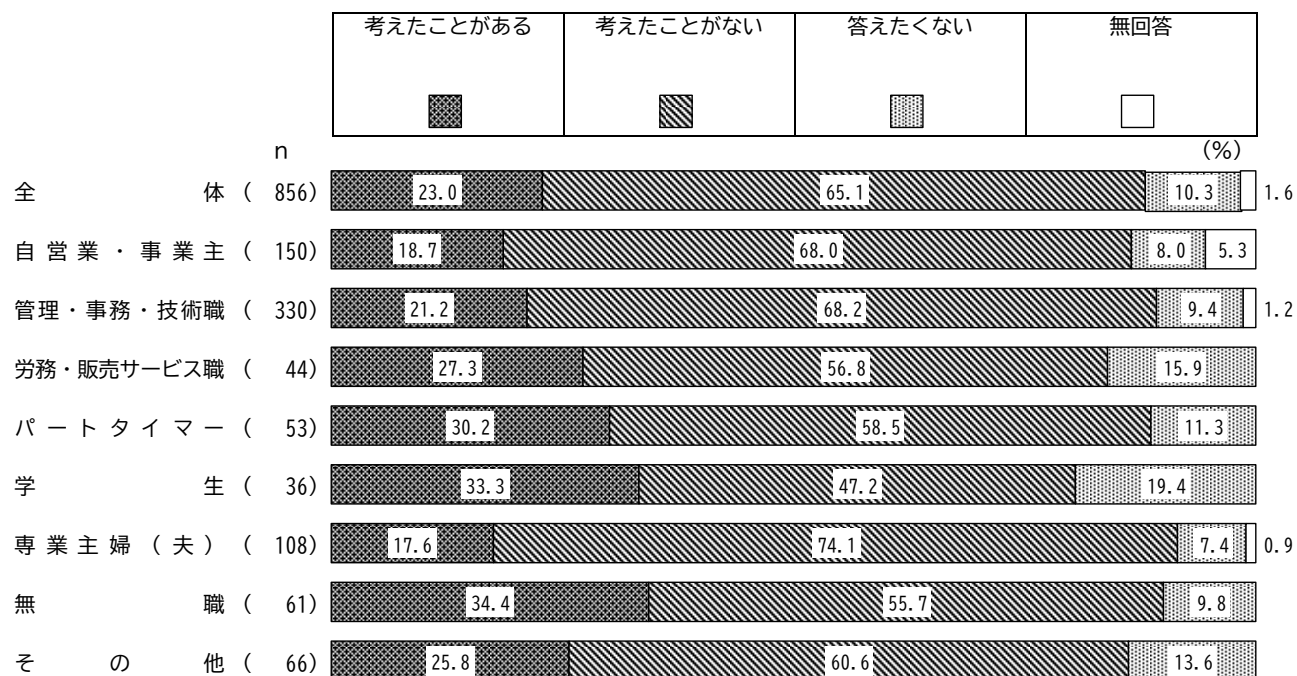
図 11-9-2 自殺を考えたことの有無（性・年代別）



職業別にみると、「考えたことがない」は専業主婦（夫）（74.1%）で7割台半ば近くと高くなっている。一方、「考えたことがある」は無職（34.4%）で3割半ば近くと高くなっている。

（図 11-9-3）

図 11-9-3 自殺を考えたことの有無（職業別）



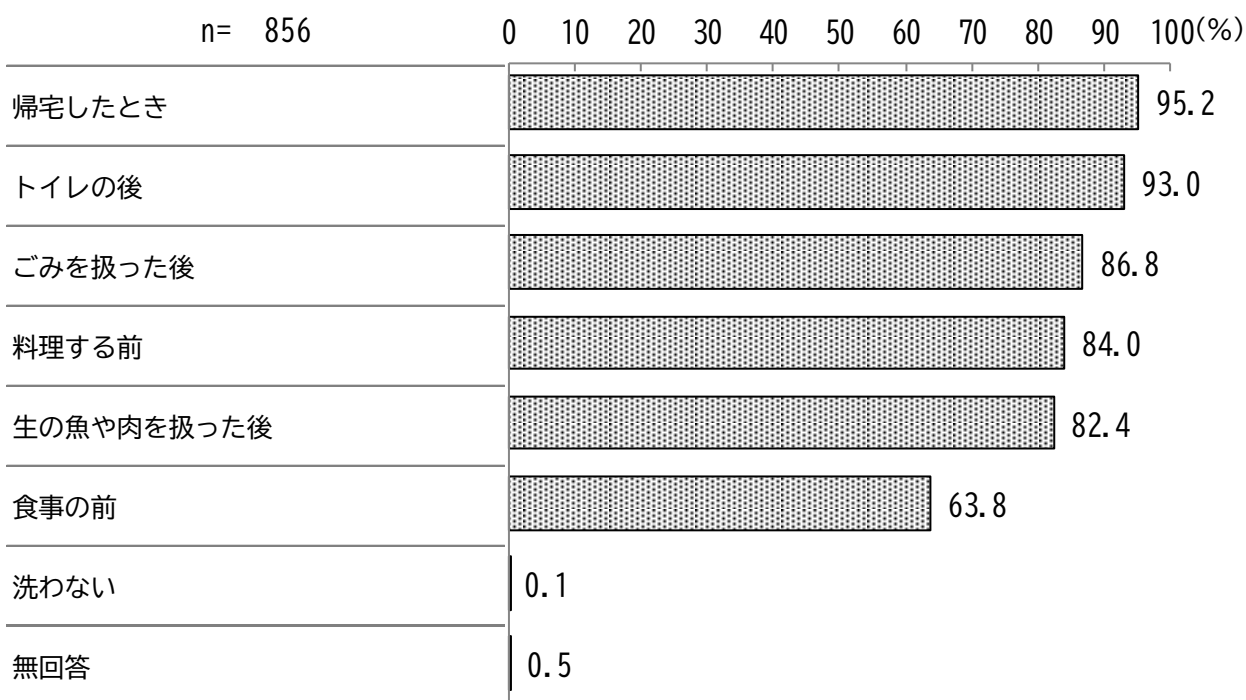
## 12. 感染症対策

### (1) 手を洗うタイミング

◇「帰宅したとき」が9割台半ば

問32 手洗いはさまざまな感染症や食中毒予防の基本です。あなたはどのような時に手を洗っていますか。(○はいくつでも)

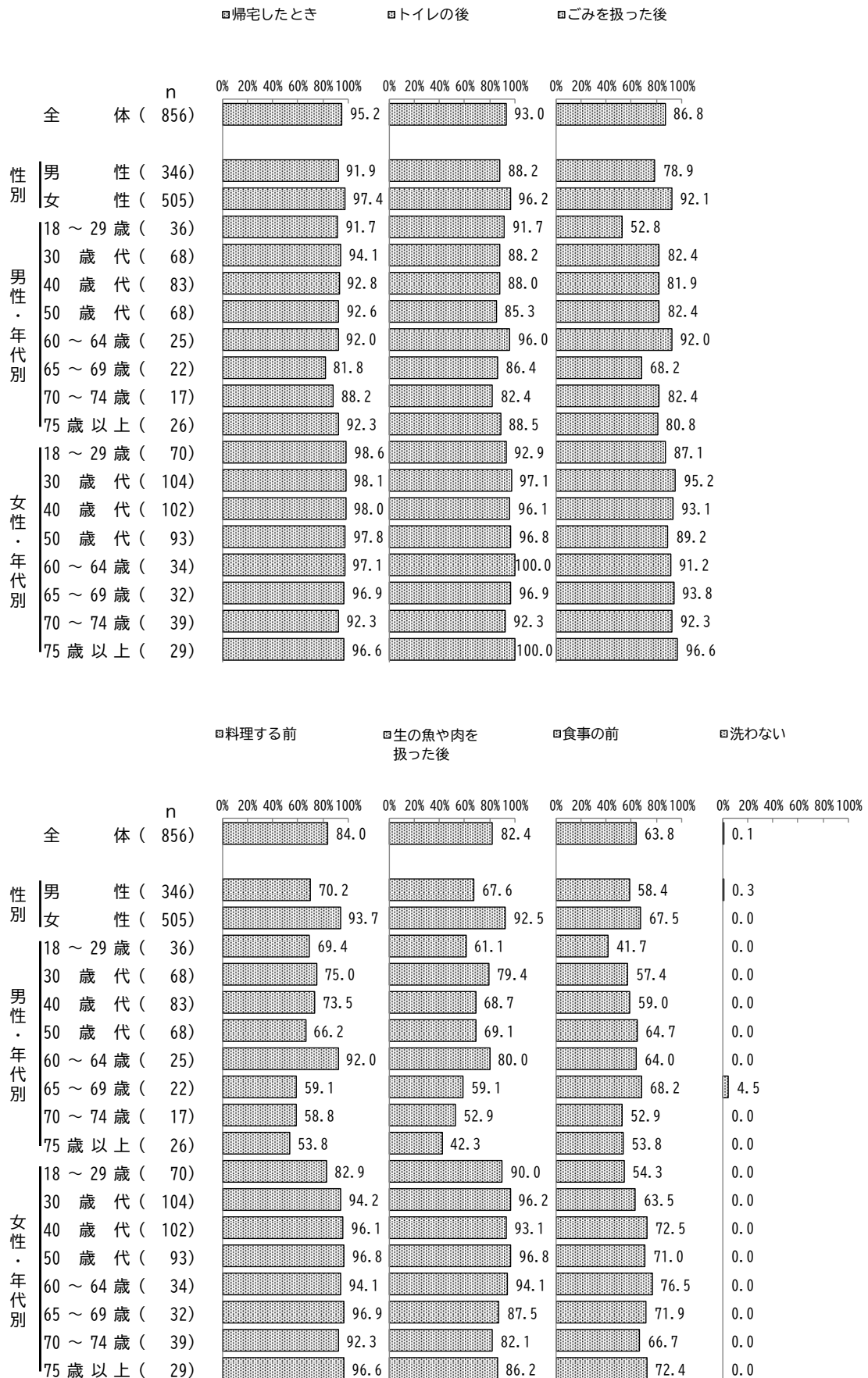
図 12-1-1 手を洗うタイミング



手を洗うタイミングについて聞いたところ、「帰宅したとき」(95.2%)が9割台半ばと最も高く、次いで「トイレの後」(93.0%)、「ごみを扱った後」(86.8%)、「料理する前」(84.0%)、「生の魚や肉を扱った後」(82.4%)と続いている。(図 12-1-1)

性・年代別にみると、「ごみを扱った後」の60～64歳を除く全ての年齢層で女性の方が男性よりも割合が高くなっている。(図12-1-2)

図12-1-2 手を洗うタイミング(性・年代別)

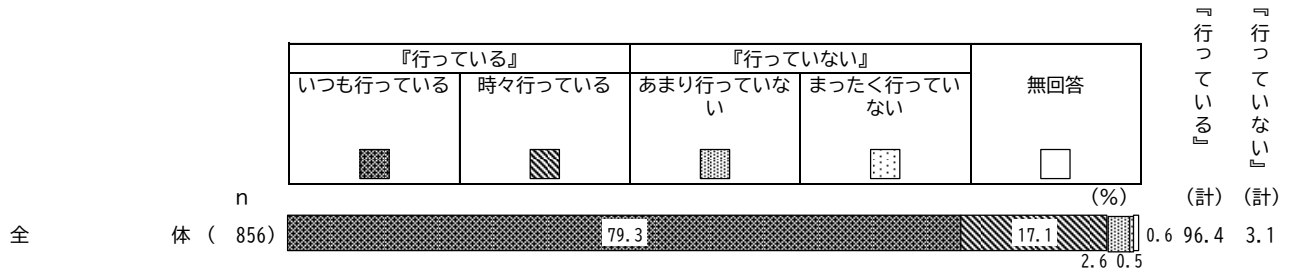


(2) マスク着用の頻度

◇『行っている』が9割台半ば超え

問33 あなたは会話をする際など、マスクを着用していますか。(○は1つ)

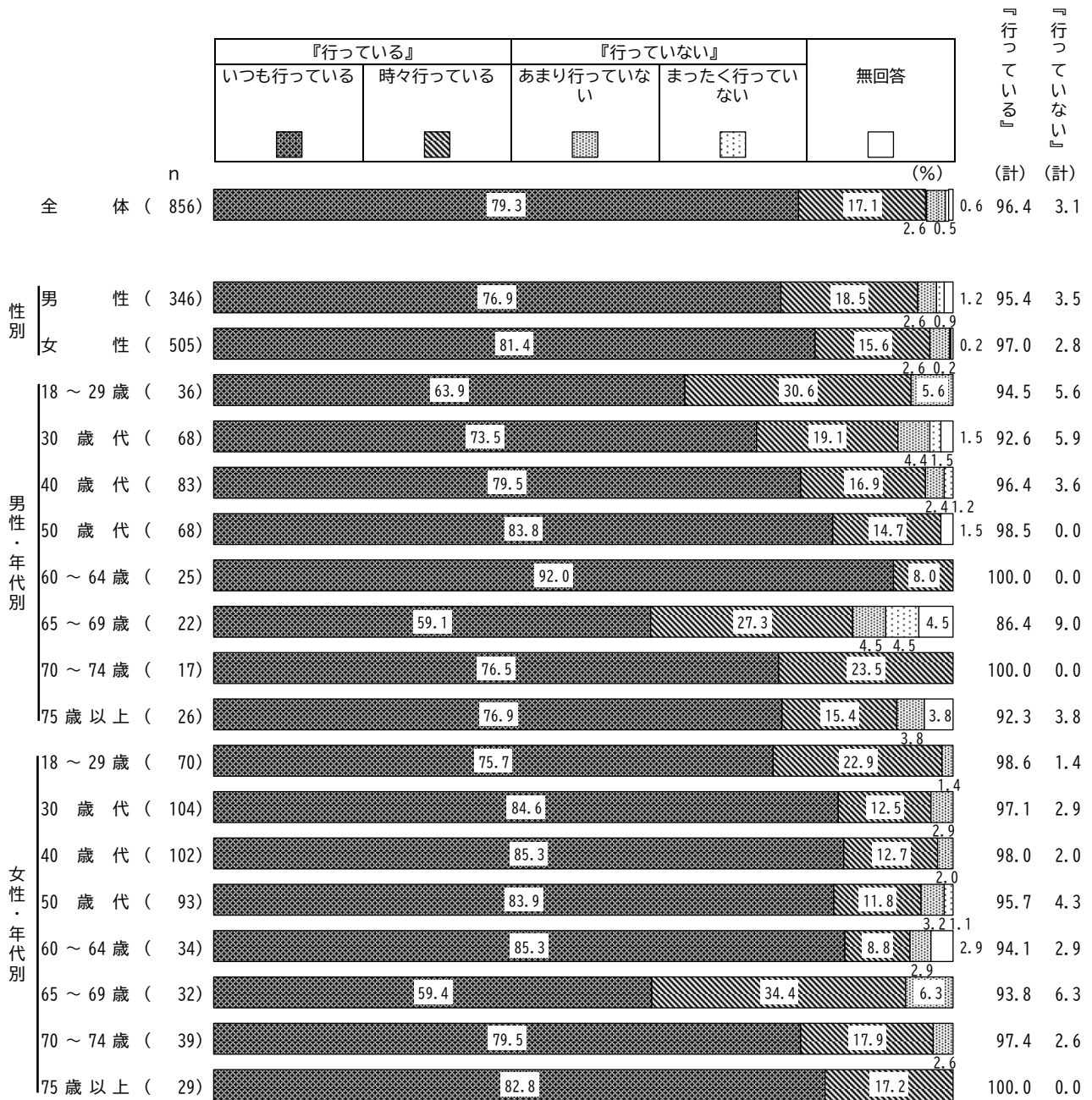
図 12-2-1 マスク着用の頻度



マスク着用の頻度について聞いたところ、「いつも行っている」(79.3%)が8割弱で最も高く、これに「時々行っている」(17.1%)を合わせた『行っている』(96.4%)は9割台半ば超えとなっている。一方、「あまり行っていない」(2.6%)と「まったく行っていない」(0.5%)を合わせた『行っていない』(3.1%)は1割未満となっている。(図 12-2-1)

性・年代別にみると、『行っている』は男性 60～64 歳、男性 70～74 歳、女性 75 歳以上（100.0%）で 10 割と高くなっている。一方、『行っていない』は男性 65～69 歳（9.0%）で 1 割弱と高くなっている。（図 12-2-2）

図 12-2-2 マスク着用の頻度（性・年代別）



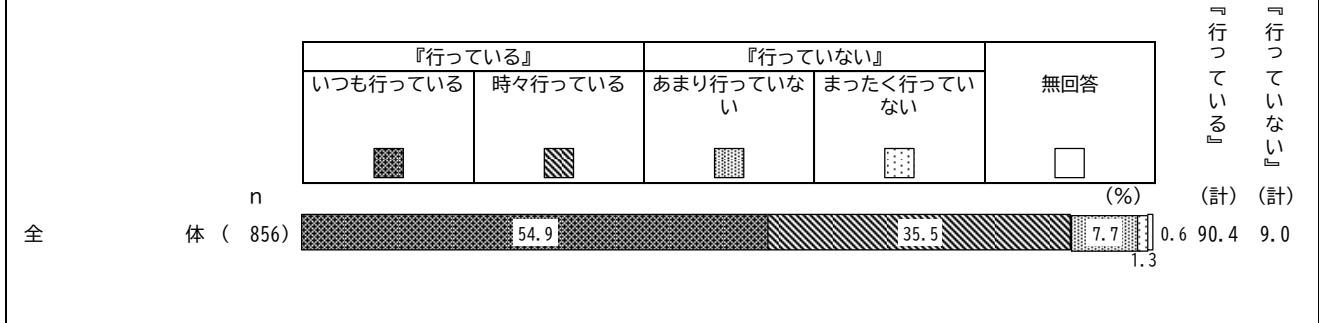


### (3) 換気の頻度

◇『行っている』が約9割

問34 あなたは普段換気をどの程度していますか。(○は1つ)

図 12-3-1 換気の頻度

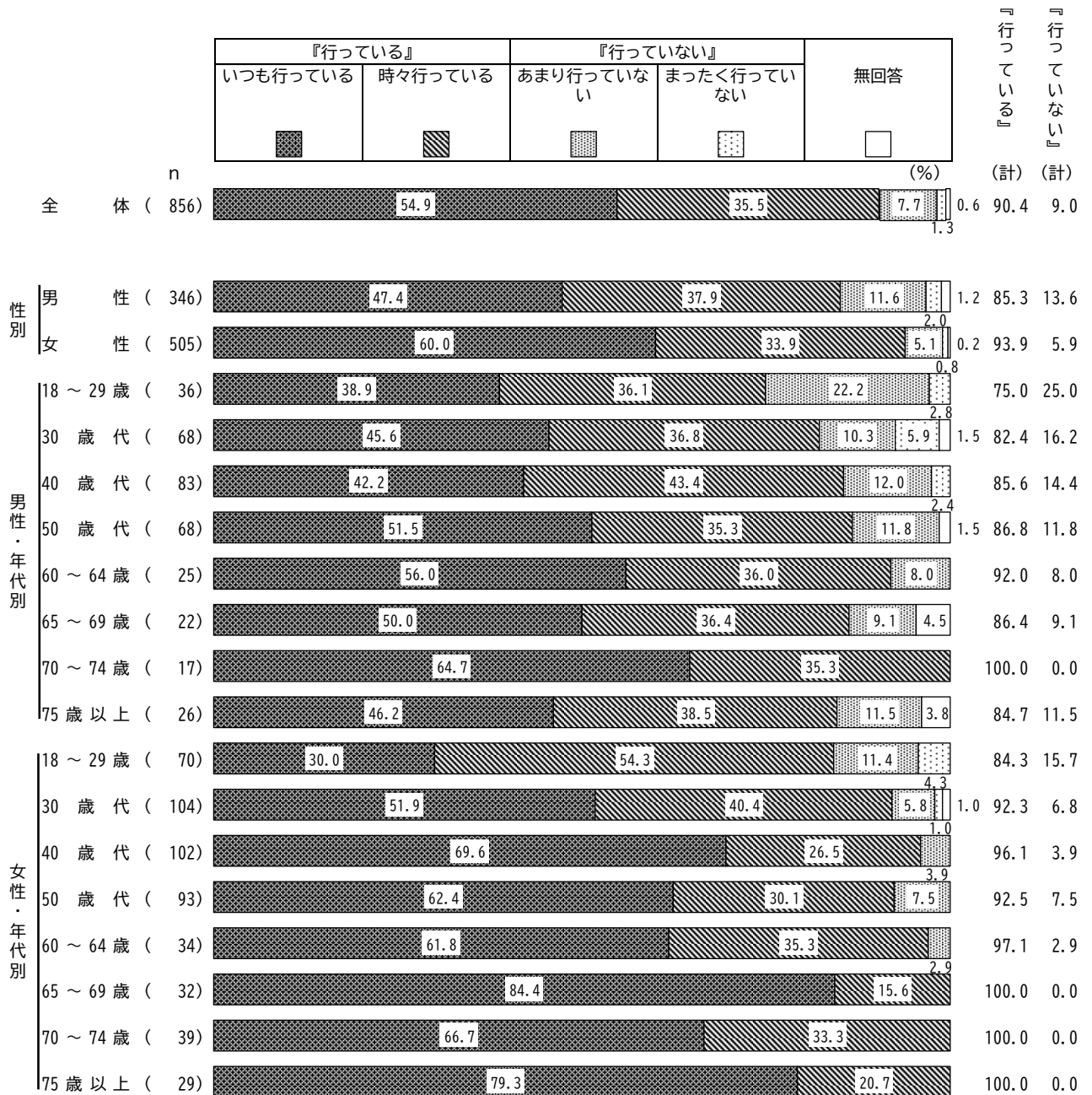


換気の頻度について聞いたところ、「いつも行っている」(54.9%)が5割台半ば近くで最も高く、これに「時々行っている」(35.5%)を合わせた『行っている』(90.4%)は約9割となっている。一方、「あまり行っていない」(7.7%)と「まったく行っていない」(1.3%)を合わせた『行っていない』(9.0%)は1割弱となっている。(図 12-3-1)

性・年代別にみると、『行っている』は男性 70～74 歳、女性 65 歳以上（100.0%）で 10 割と高くなっている。一方、『行っていない』は男性 18～29 歳（25.0%）で 2 割台半ばと高くなっている。

(図 12-3-2)

図 12-3-2 換気の頻度（性・年代別）

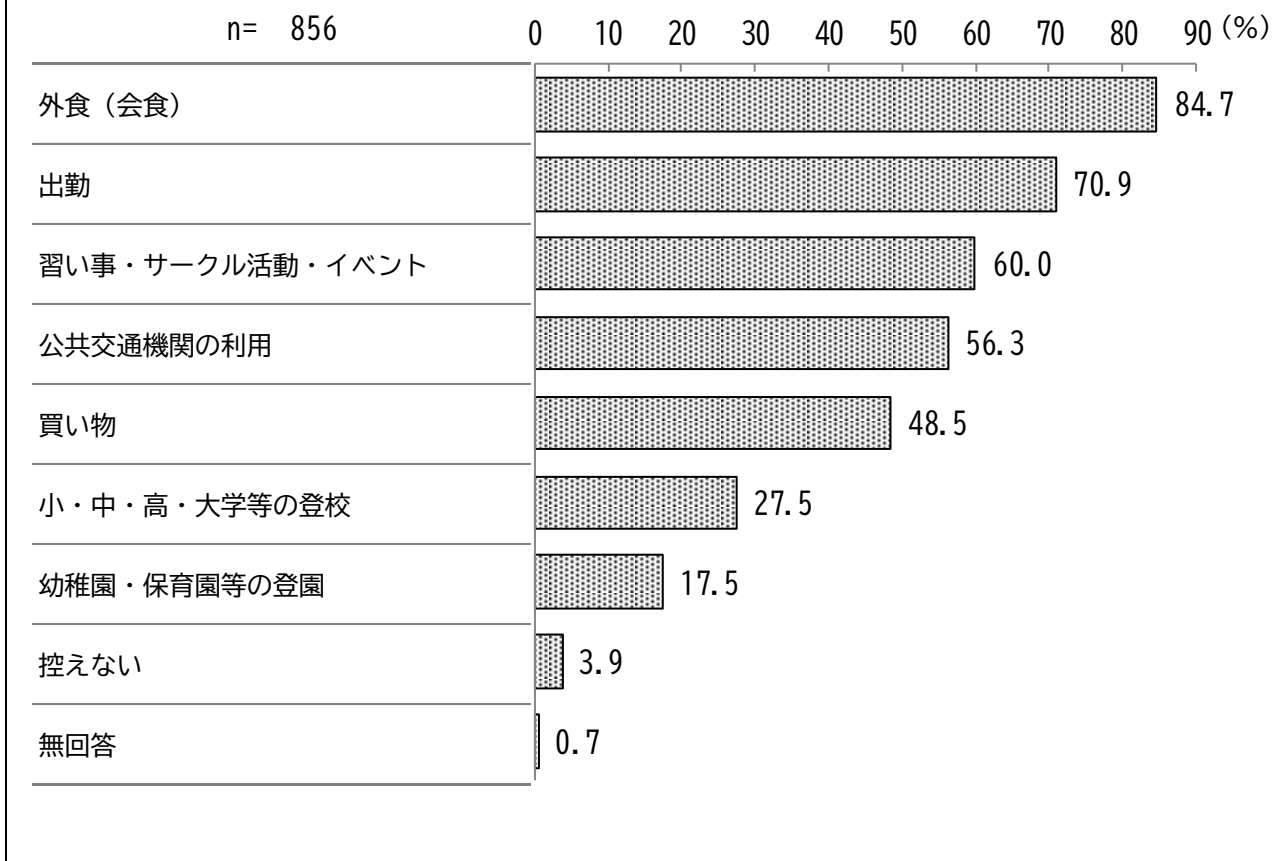


#### (4) 外出を控える場面

◇「外食（会食）」が8割台半ば近く

問35 咳や発熱、咽頭痛などの症状を自覚した際、あなたや家族はどのような場面の外出を控えていますか。（○はいくつでも）

図 12-4-1 外出を控える場面



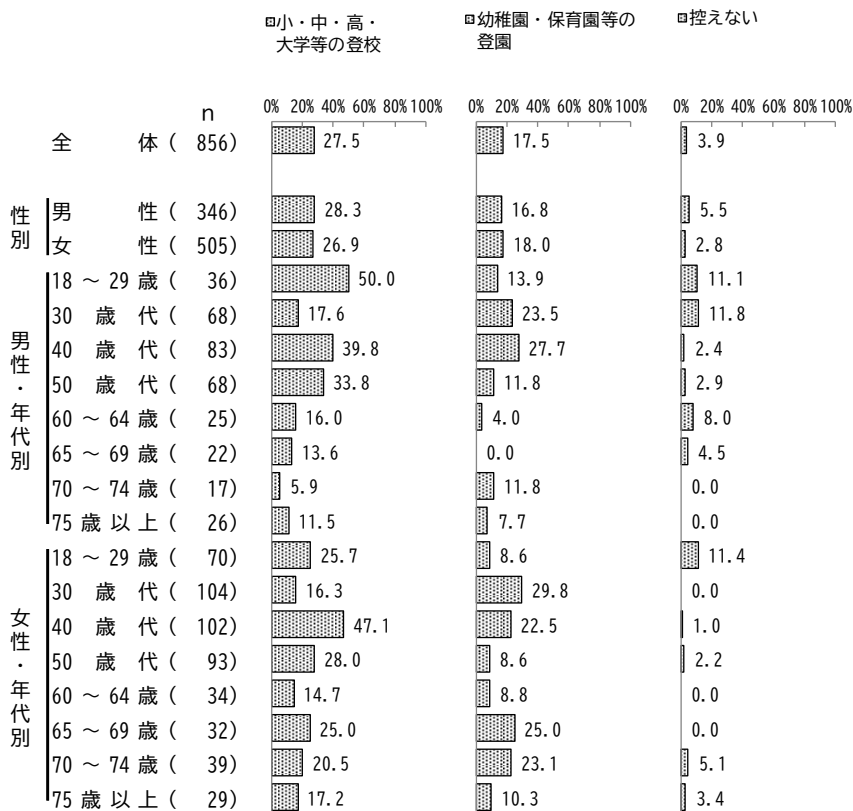
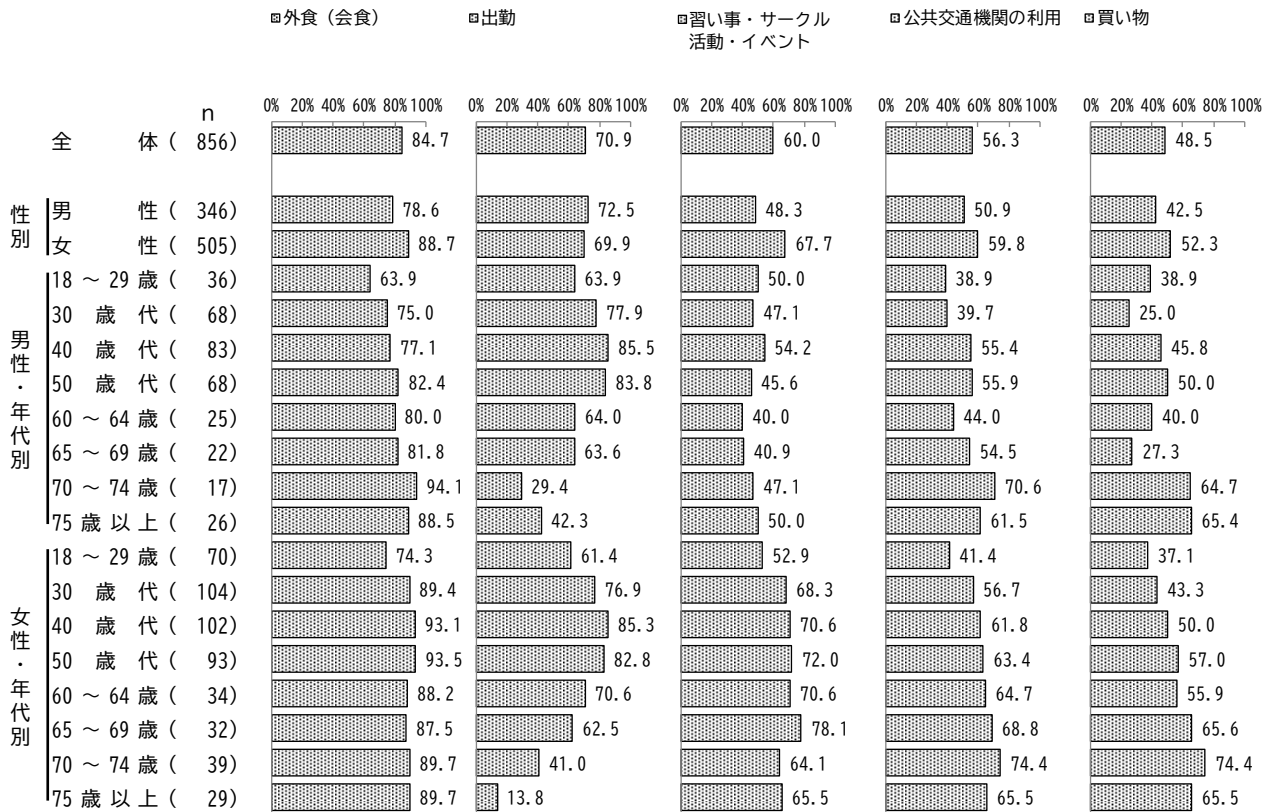
外出を控える場面について聞いたところ、「外食（会食）」（84.7%）が8割台半ば近くで最も高く、次いで「出勤」（70.9%）、「習い事・サークル活動・イベント」（60.0%）となっている。

（図 12-4-1）

性・年代別にみると、「外出（会食）」は男性 70～74 歳（94.1%）で 9 割台半ば近くと高くなっている。また、「出勤」は男女ともに男性 40 歳代（85.5%）、女性 40 歳代（85.3%）で 8 割台半ば、「習い事・サークル活動・イベント」は女性 65～69 歳（78.1%）で 8 割近くと高くなっている。

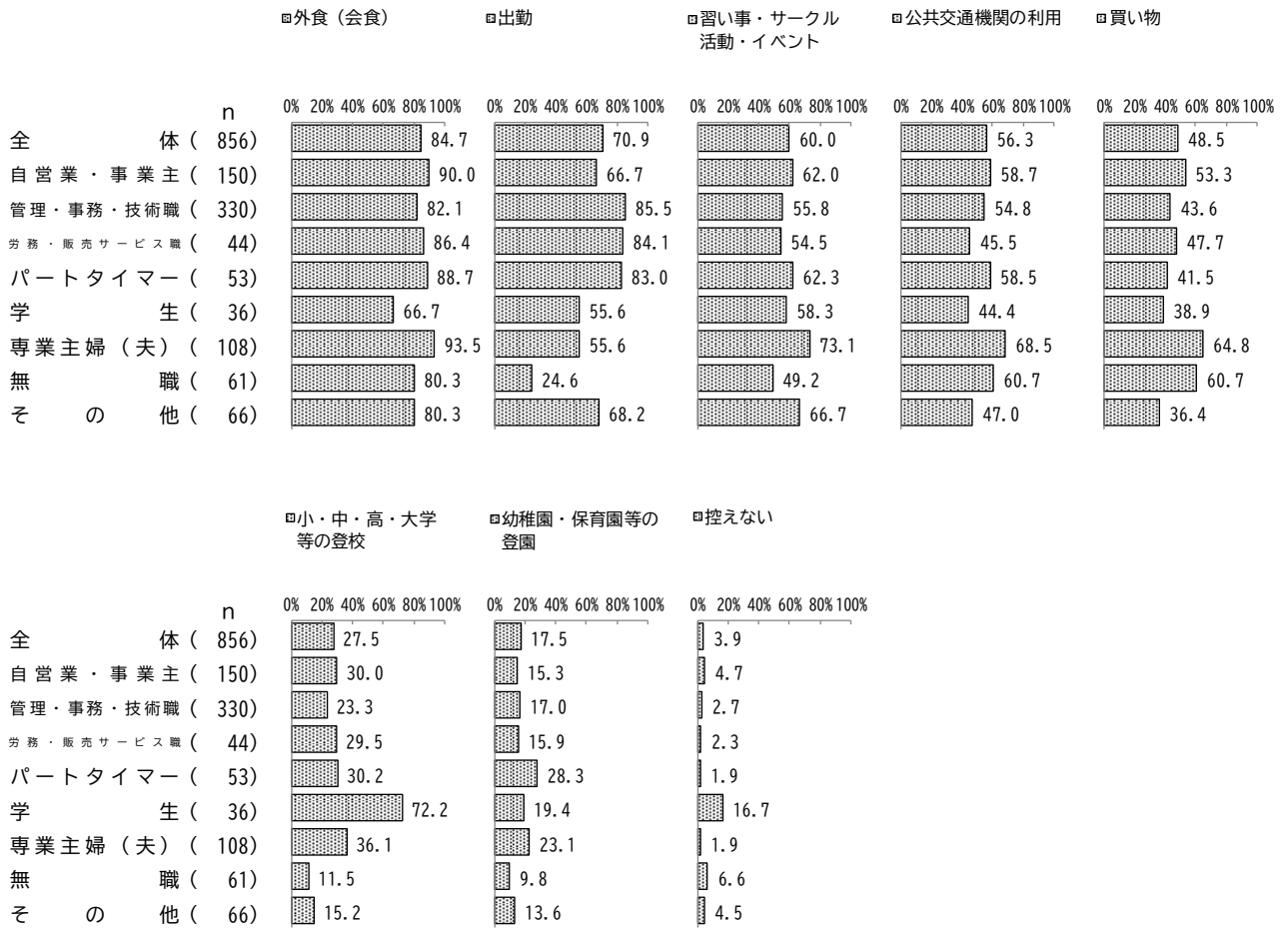
（図 12-4-2）

図 12-4-2 外出を控える場面（性・年代別）



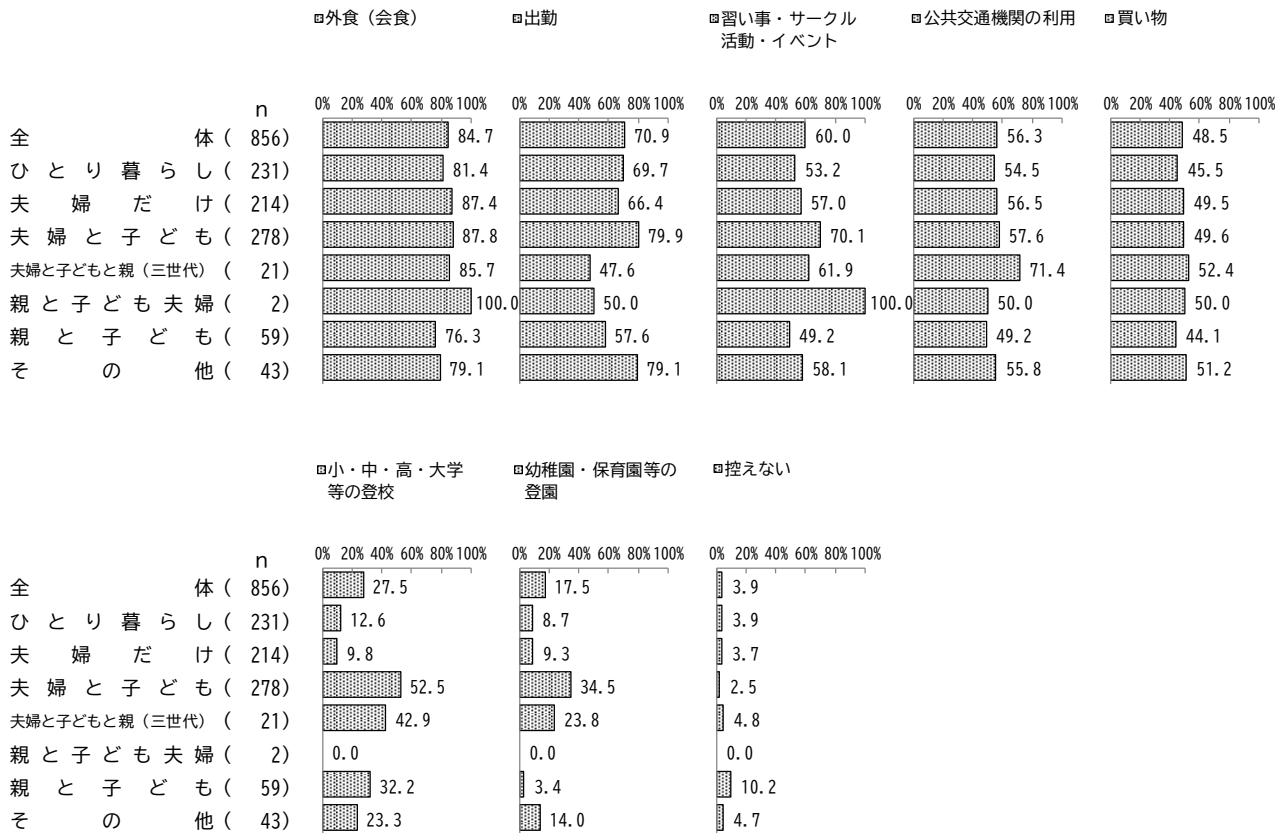
職業別にみると、「外出（会食）」は専業主婦（夫）（93.5%）で9割台半ば近くと高くなっている。一方、「控えない」は学生（16.7%）で1割半ば超えと高くなっている。（図 12-4-3）

図 12-4-3 外出を控える場面（職業別）



世帯構成別にみると、「習い事・サークル活動・イベント」は夫婦と子どもの世帯（70.1%）で約7割と高くなっている。一方、「控えない」は親と子どもの世帯（10.2%）で約1割と高くなっている。（図12-4-4）

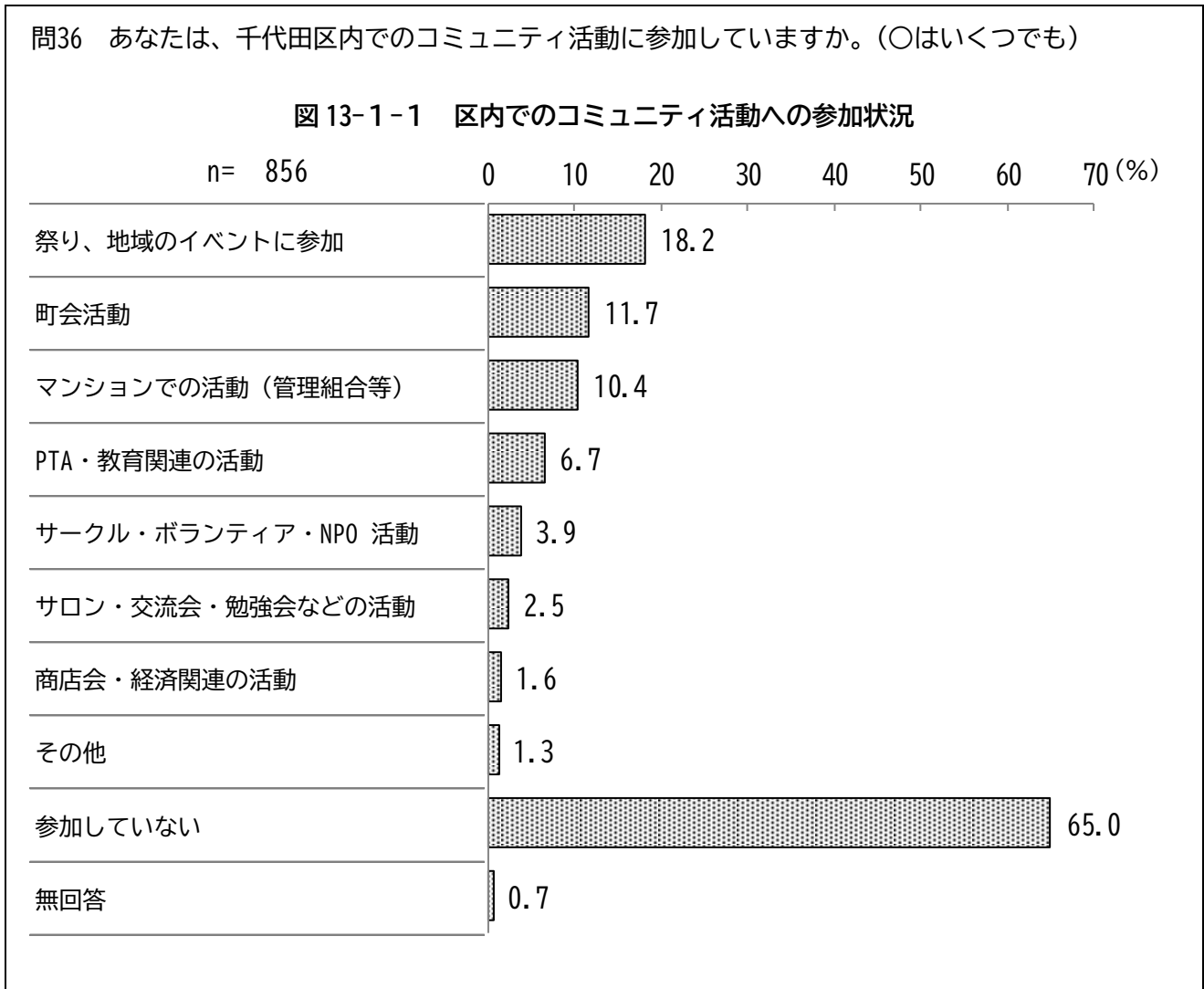
図12-4-4 外出を控える場面（世帯構成別）



### 13. 地域コミュニティ

#### (1) 区内でのコミュニティ活動への参加状況

◇「参加していない」が6割台半ば

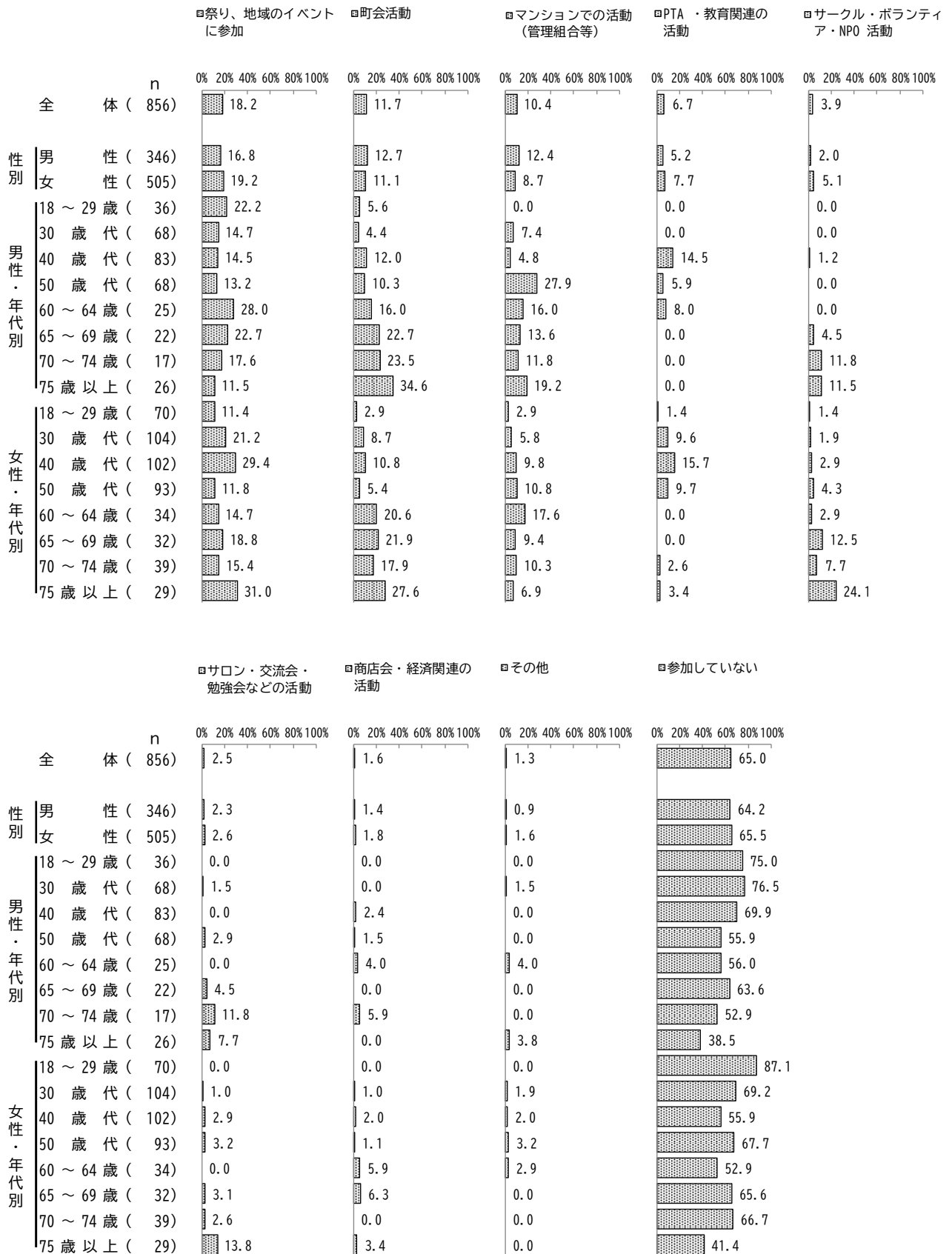


区内でのコミュニティ活動への参加状況について聞いたところ、「参加していない」(65.0%)が6割台半ばと最も高くなっている。参加した活動の中では「祭り、地域のイベントに参加」(18.2%)が2割近くと最も高く、次いで「町会活動」(11.7%)、「マンションでの活動(管理組合等)」(10.4%)となっている。(図 13-1-1)

その他を回答した方は 11 人おり、主な意見として「千代田区ゴルフ協会」、「ラジオ体操・区講座等」、「シルバー人材センター」、「消防団」などが挙げられている。

性・年代別にみると、「参加していない」は女性 18～29 歳（87.1%）で 8 割台半ばを超えと高くなっている。また、「町会活動」は男性 75 歳以上（34.6%）で 3 割台半ば近く、「マンションでの活動（管理組合等）」は男性 50 歳代（27.9%）で 2 割台半ばを超えと高くなっている。（図 13-1-2）

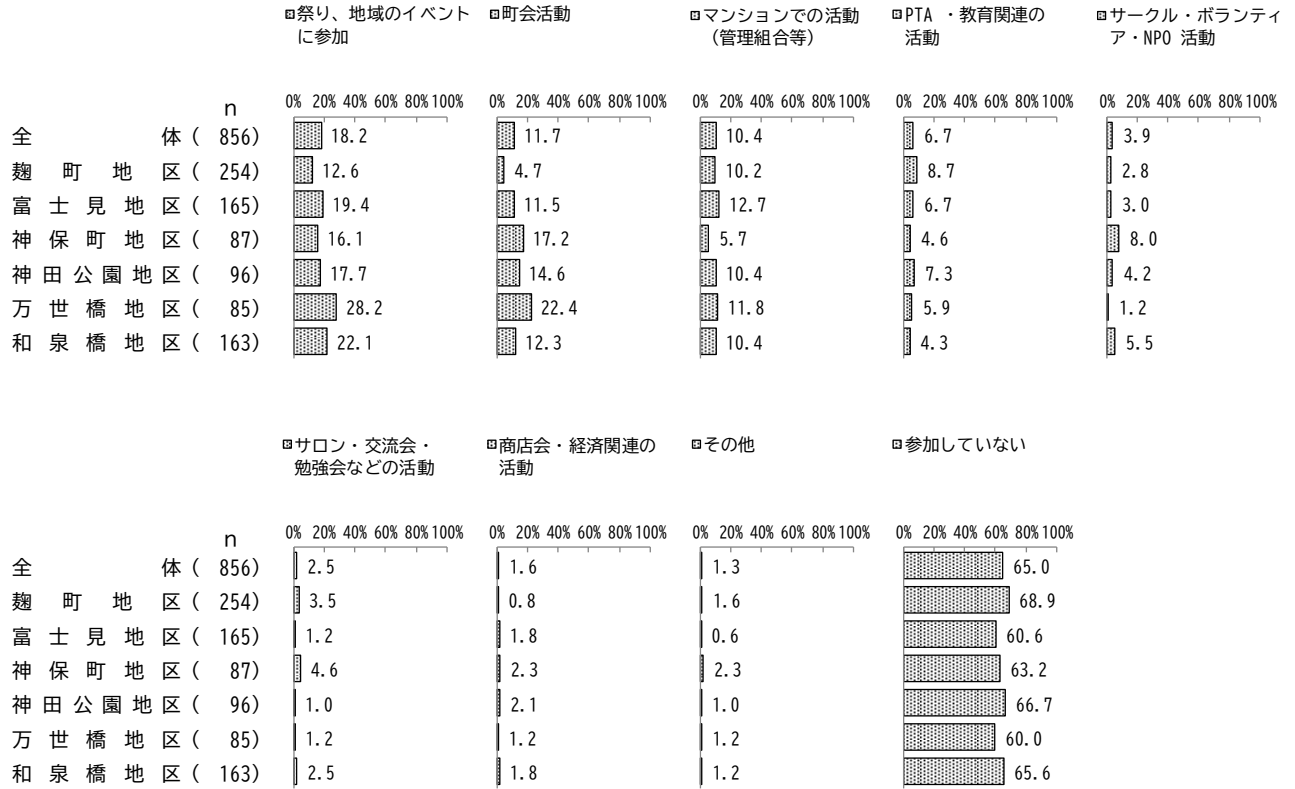
図 13-1-2 区内でのコミュニティ活動への参加状況（性・年代別）





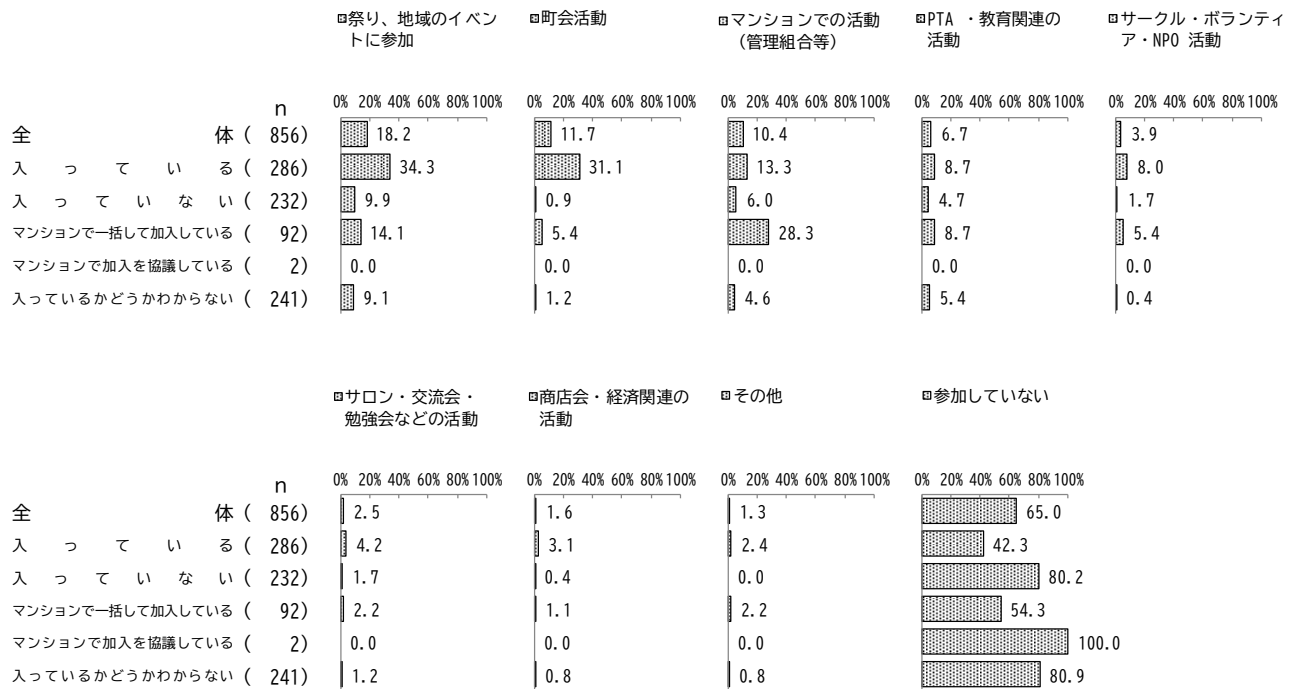
地区別にみると、「参加していない」は麴町地区（68.9%）で7割近くと高くなっている。また、万世橋地区では「祭り、地域のイベントに参加」（28.2%）が3割近く、「町会活動」（22.4%）が2割強で高くなっている。（図 13-1-3）

図 13-1-3 区内でのコミュニティ活動への参加状況（地区別）



町会加入状況別にみると、「参加していない」と答えた方は町会に入っているかどうかわからない方（80.9%）、町会に入っていない方（80.2%）で約8割と高くなっている。また、町会に入っている方の中では「祭り、地域のイベントに参加」（34.3%）が3割台半ば近く、「町会活動」（31.1%）が3割強で高くなっている。（図13-1-4）

図13-1-4 区内でのコミュニティ活動への参加状況（町会加入状況別）



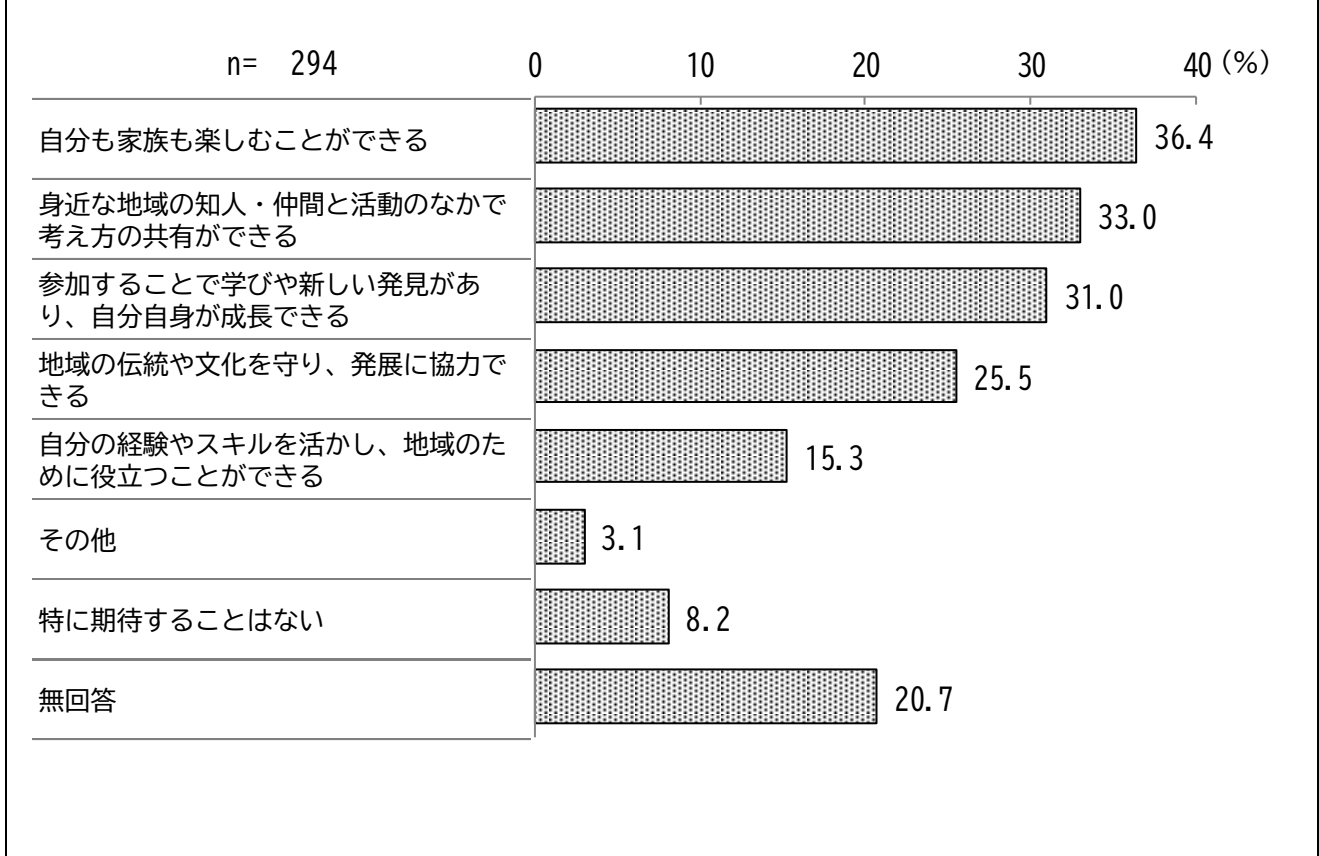
(1-1) コミュニティ活動に期待すること

◇「自分も家族も楽しむことができる」が3割台半ば超え

(問36で「9. 参加していない」以外を選んだ方に)

問36-1 あなたは、どんなことに期待してコミュニティ活動に参加していますか。下記から特に当てはまるものを3つまで選んでください。

図 13-1-5 コミュニティ活動に期待すること

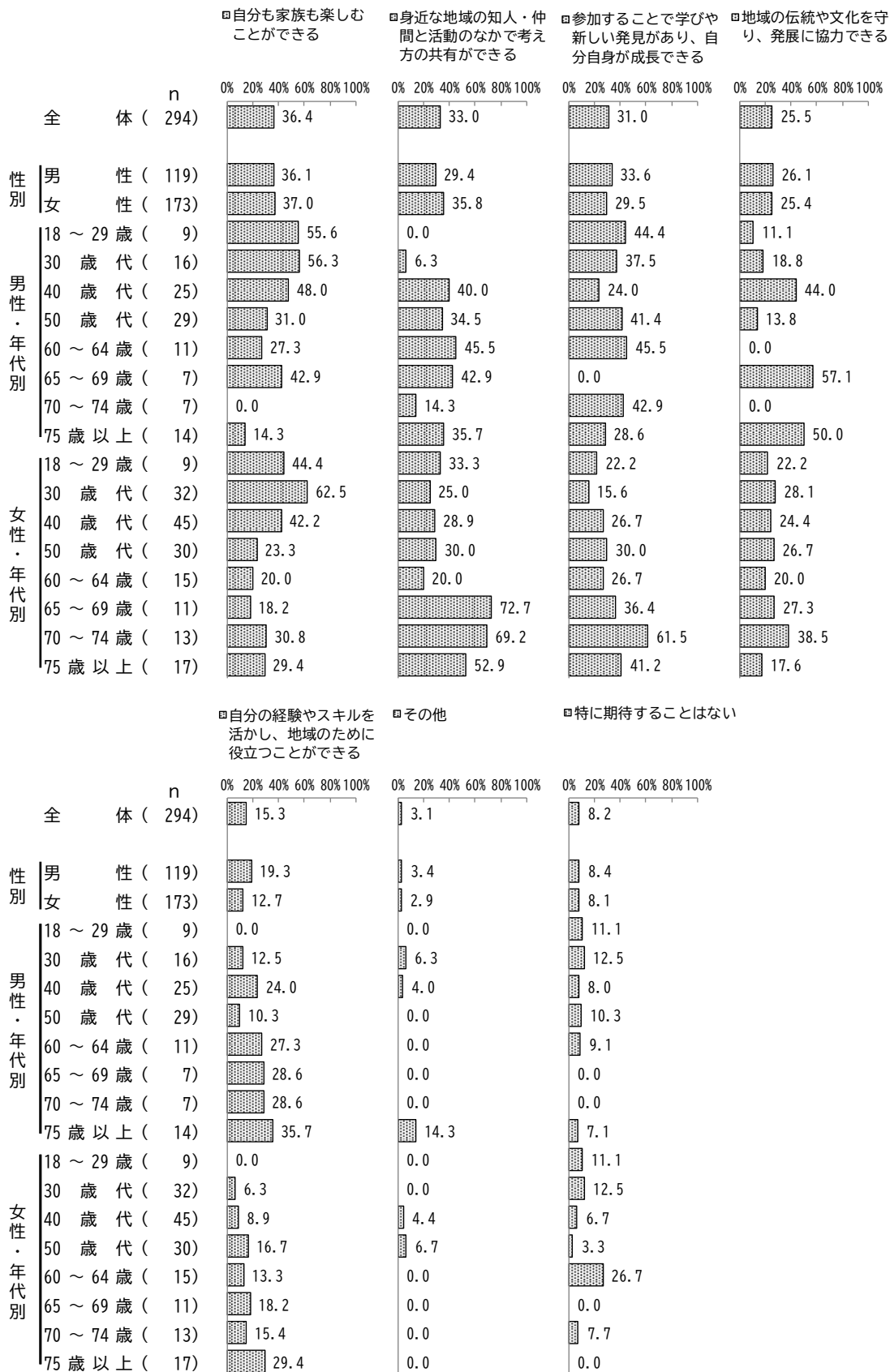


コミュニティ活動に期待することについて聞いたところ、「自分も家族も楽しむことができる」(36.4%)が3割台半ば超えと最も高く、次いで「身近な地域の知人・仲間との活動のなかで考え方の共有ができる」(33.0%)、「参加することで学びや新しい発見があり、自分自身が成長できる」(31.0%)となっている。(図 13-1-5)

その他を回答した方は9人おり、主な意見として「マンション内での情報交換」、「仕事に役立つ」、「災害時、協力しあえる環境を作るため」などが挙げられている。

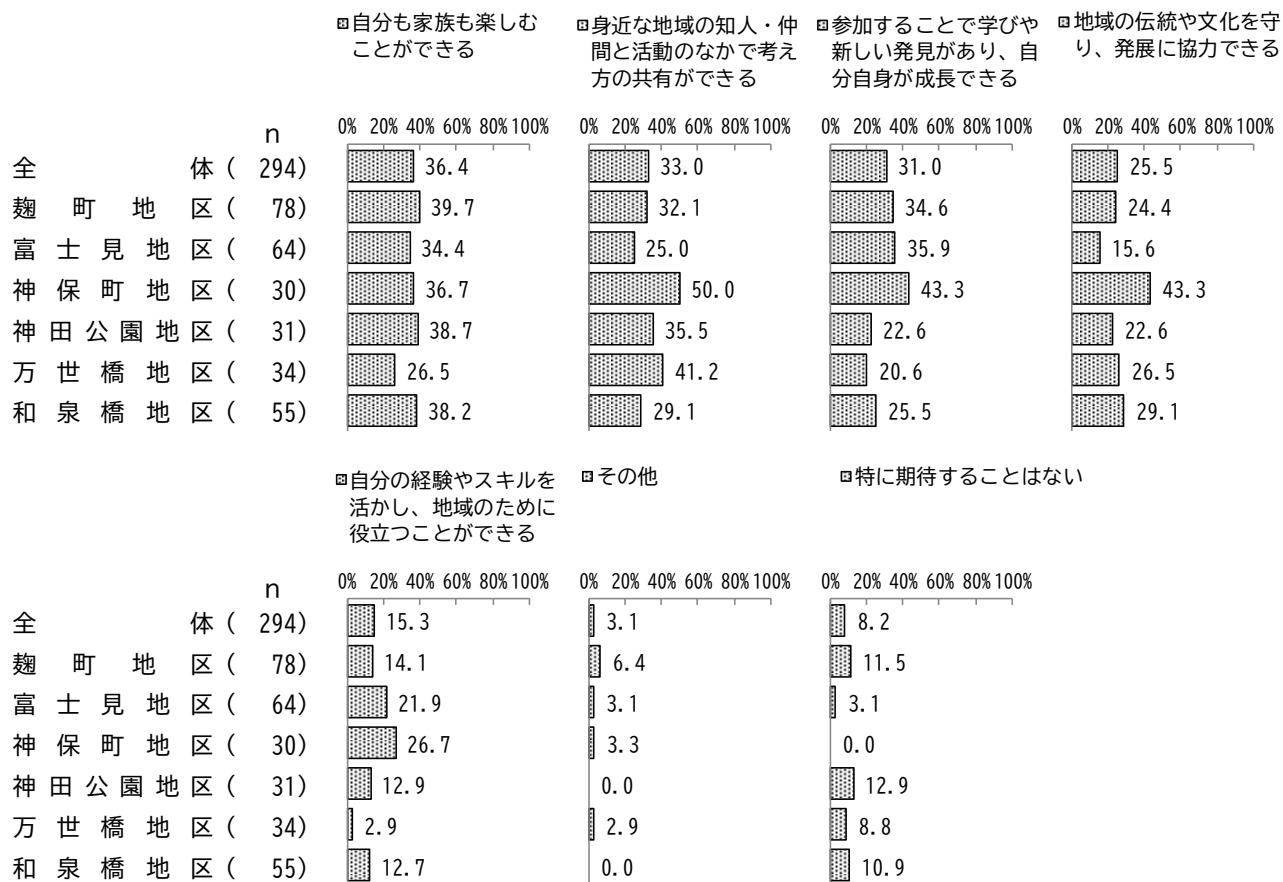
性・年代別にみると、「自分も家族も楽しむことができる」は女性30歳代（62.5%）が6割強と高くなっている。また、「身近な地域の知人・仲間と活動のなかで考え方の共有ができる」は女性65～69歳（72.7%）で7割強、「特に期待することはない」は女性60～64歳（26.7%）で2割台半ばを超えと高くなっている。（図13-1-6）

図13-1-6 コミュニティ活動に期待すること（性・年代別）



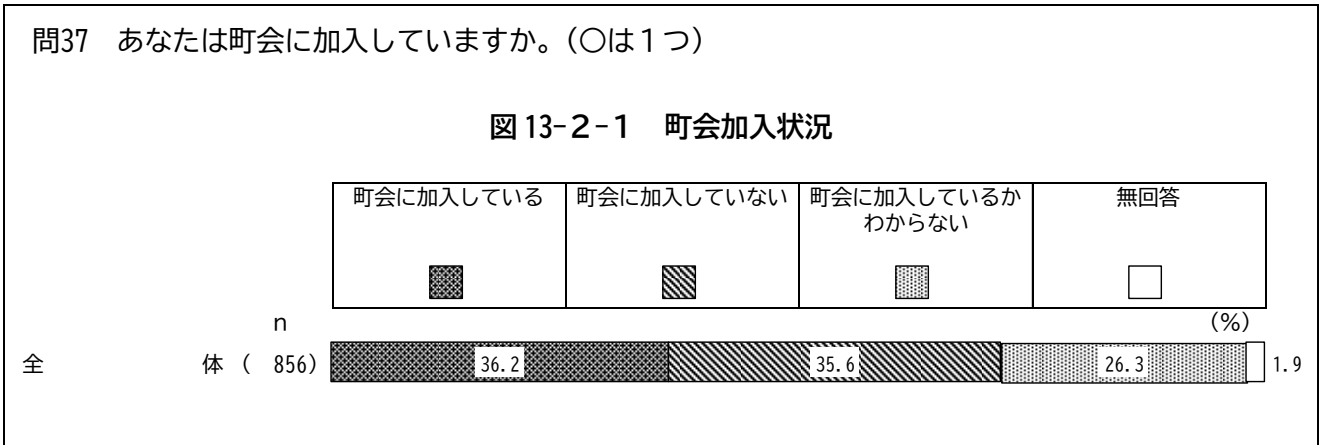
地区別にみると、「地域の伝統や文化を守り、発展に協力できる」は神保町地区（43.3%）で4割台半ば近くと高くなっている。（図13-1-7）

図13-1-7 千代田区内でのコミュニティ活動への参加状況（地区別）



(2) 町会加入状況

◇「町会に加入している」が3割台半ば超え

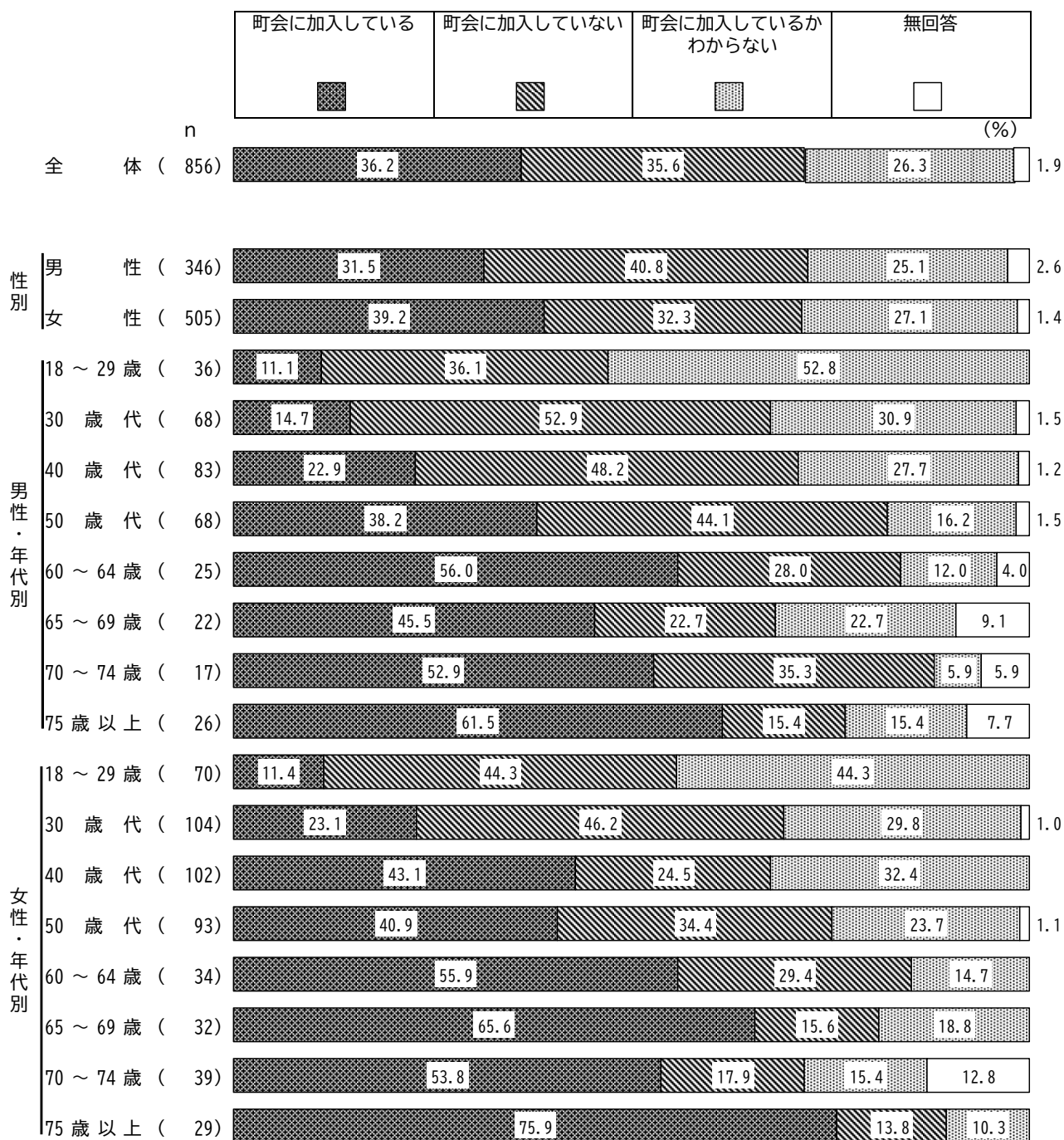


町会加入状況について聞いたところ、「町会に加入している」(36.2%)が3割台半ば超えと最も高く、次いで「町会に加入していない」(35.6%)、「町会に加入しているかわからない」(26.3%)となっている。(図 13-2-1)

性・年代別にみると、「町会に加入している」は女性75歳以上（75.9%）で7割台半ばと高くなっている。また、「町会に加入していない」は男性30歳代（52.9%）で5割強と高くなっている。

(図 13-2-2)

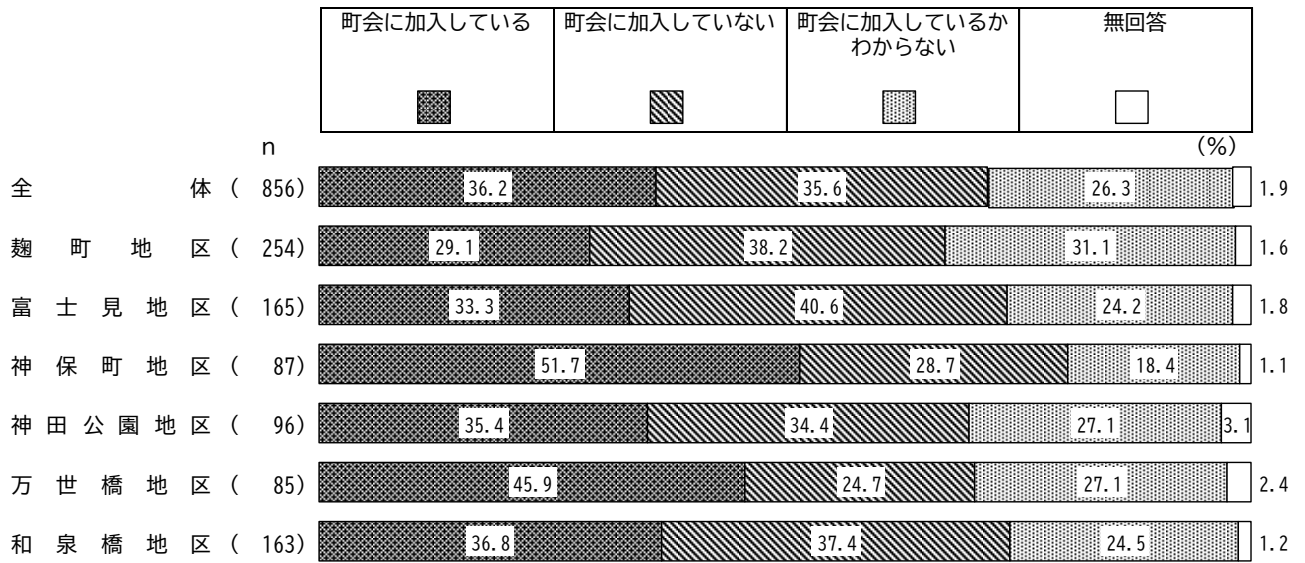
図 13-2-2 町会加入状況（性・年代別）



地区別にみると、「町会に加入している」は神保町地区（51.7%）で5割強と高くなっている。

（図 13-2-3）

図 13-2-3 町会加入状況（地区別）





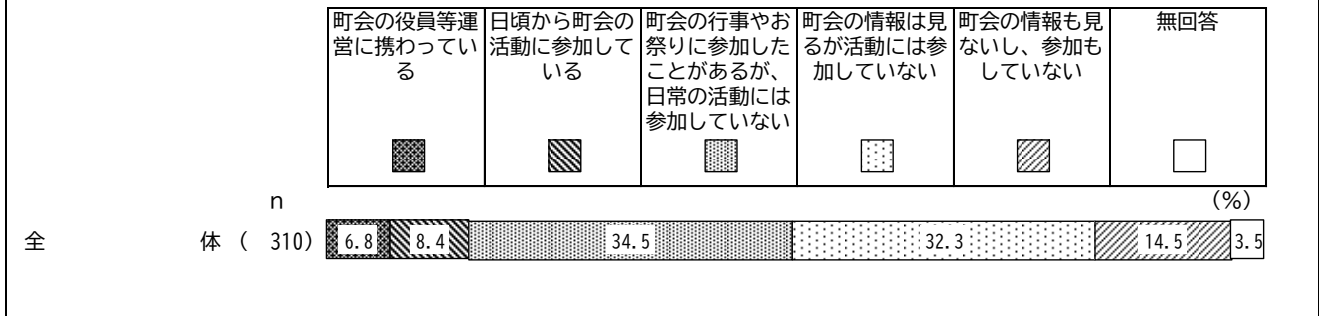
(2-1) 町会活動への参加状況

◇「町会の行事やお祭りに参加したことがあるが、日常の活動には参加していない」が3割台半ば近く

(問37で「1. 町会に加入している」とお答えの方に)

問37-1 あなたの町会の活動への参加状況について最も当てはまるものはどれですか。(○は1つ)

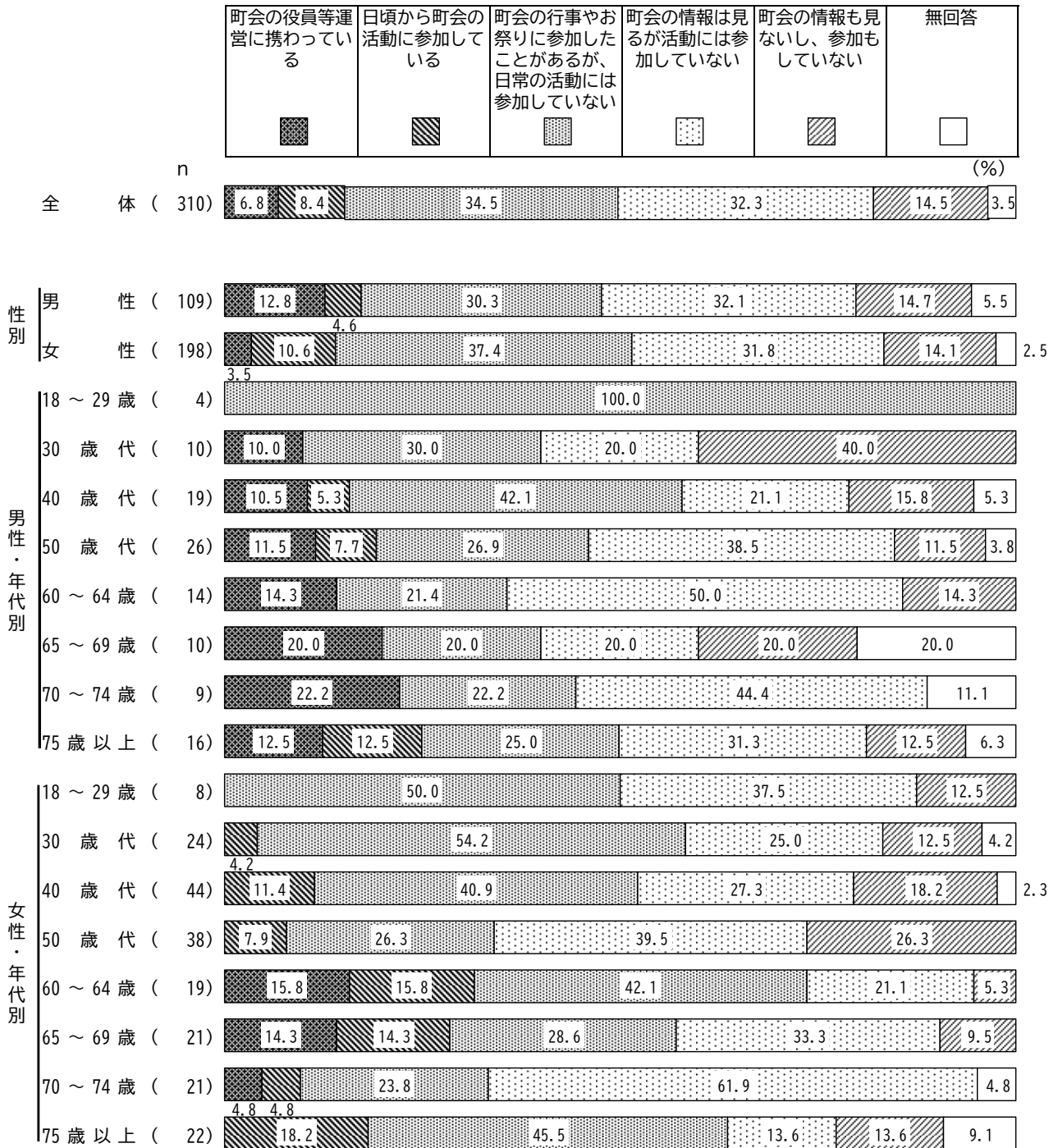
図 13-2-4 町会活動への参加状況



町会活動への参加状況について聞いたところ、「町会の行事やお祭りに参加したことがあるが、日常の活動には参加していない」(34.5%)が3割台半ば近くで最も高く、次いで「町会の情報は見るが活動には参加していない」(32.3%)となっている。(図 13-2-4)

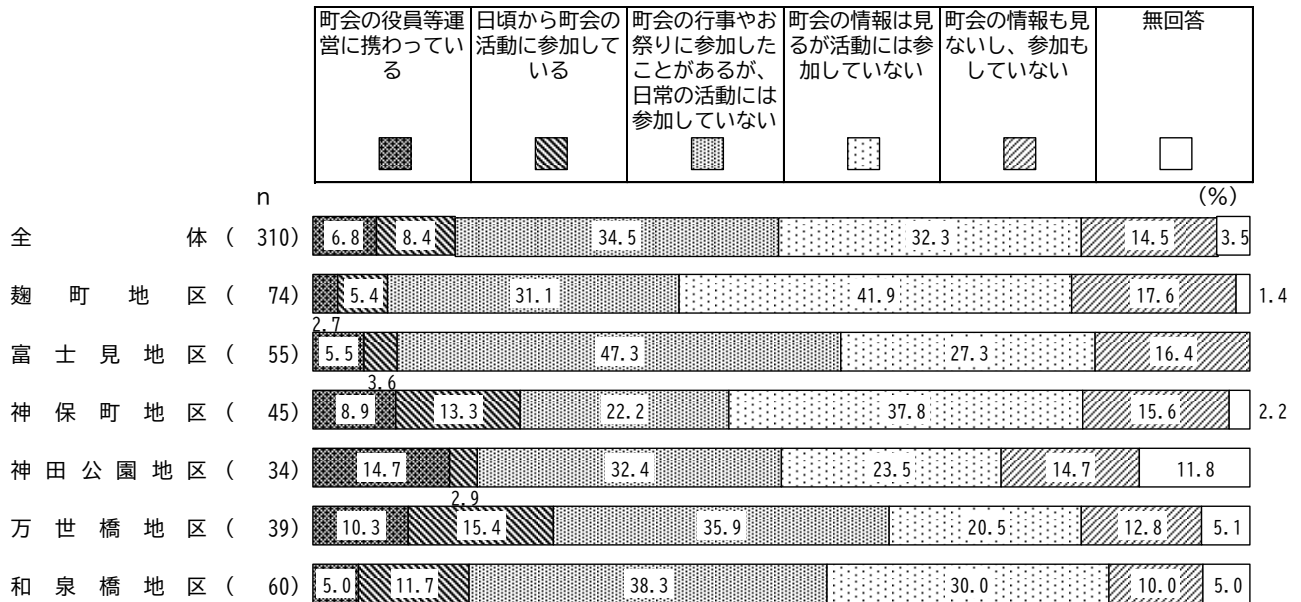
性・年代別にみると、「町会の行事やお祭りに参加したことがあるが、日常の活動には参加していない」は女性30歳代（54.2%）が5割台半ば近くで高くなっている。また、「町会の情報は見るが活動には参加していない」は女性70～74歳（61.9%）で6割強と高くなっている。（図13-2-5）

図13-2-5 町会活動への参加状況（性・年代別）



地区別にみると、「町会の行事やお祭りに参加したことがあるが、日常の活動には参加していない」は富士見地区（47.3%）が4割台半ばを超えと高くなっている。また、「町会の情報は見るが活動には参加していない」は麴町地区（41.9%）で4割強と高くなっている。一方、「町会の役員等運営に携わっている」は神田公園地区（14.7%）で1割台半ば近くと高くなっている。（図13-2-6）

図13-2-6 町会活動への参加状況（地区別）

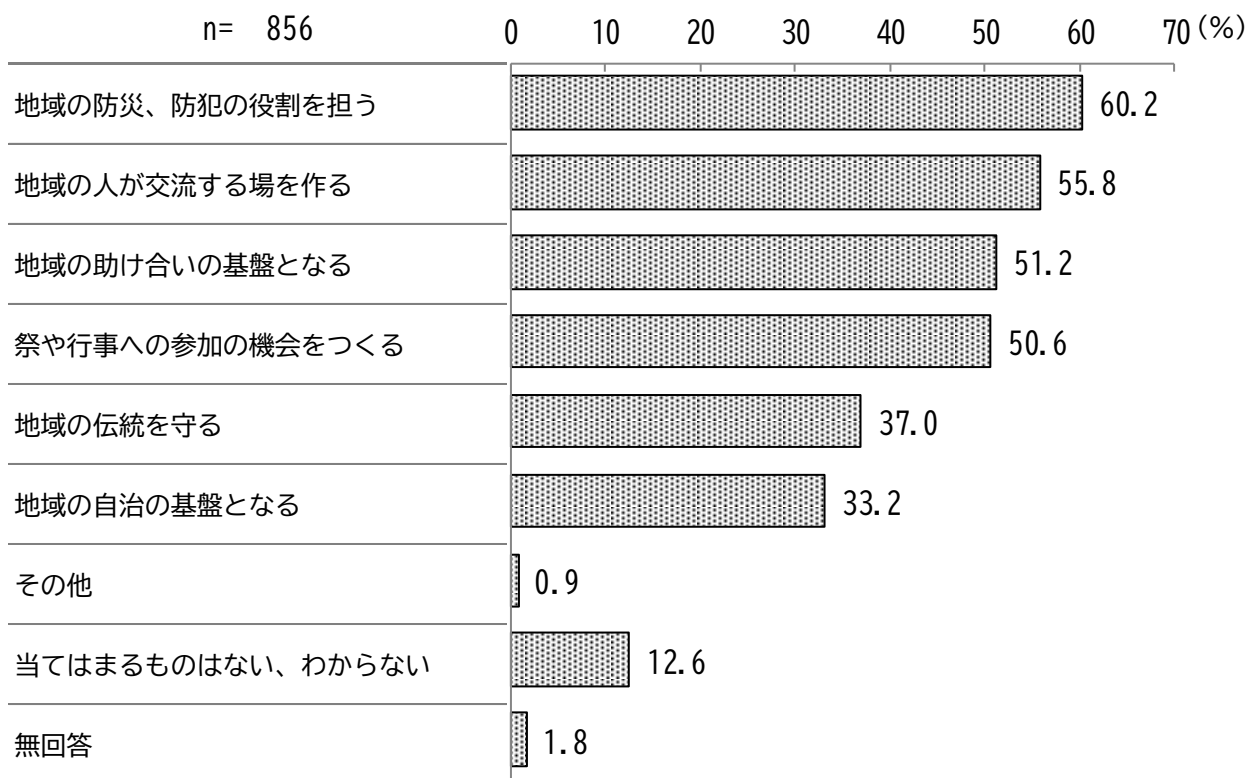


### (3) 町会が地域で担う役割

◇「地域の防災、防犯の役割を担う」が約6割

問38 町会が地域で担う役割について、あなたの考えに当てはまるものはどれですか。  
(〇はいくつでも)

図 13-3-1 町会が地域で担う役割



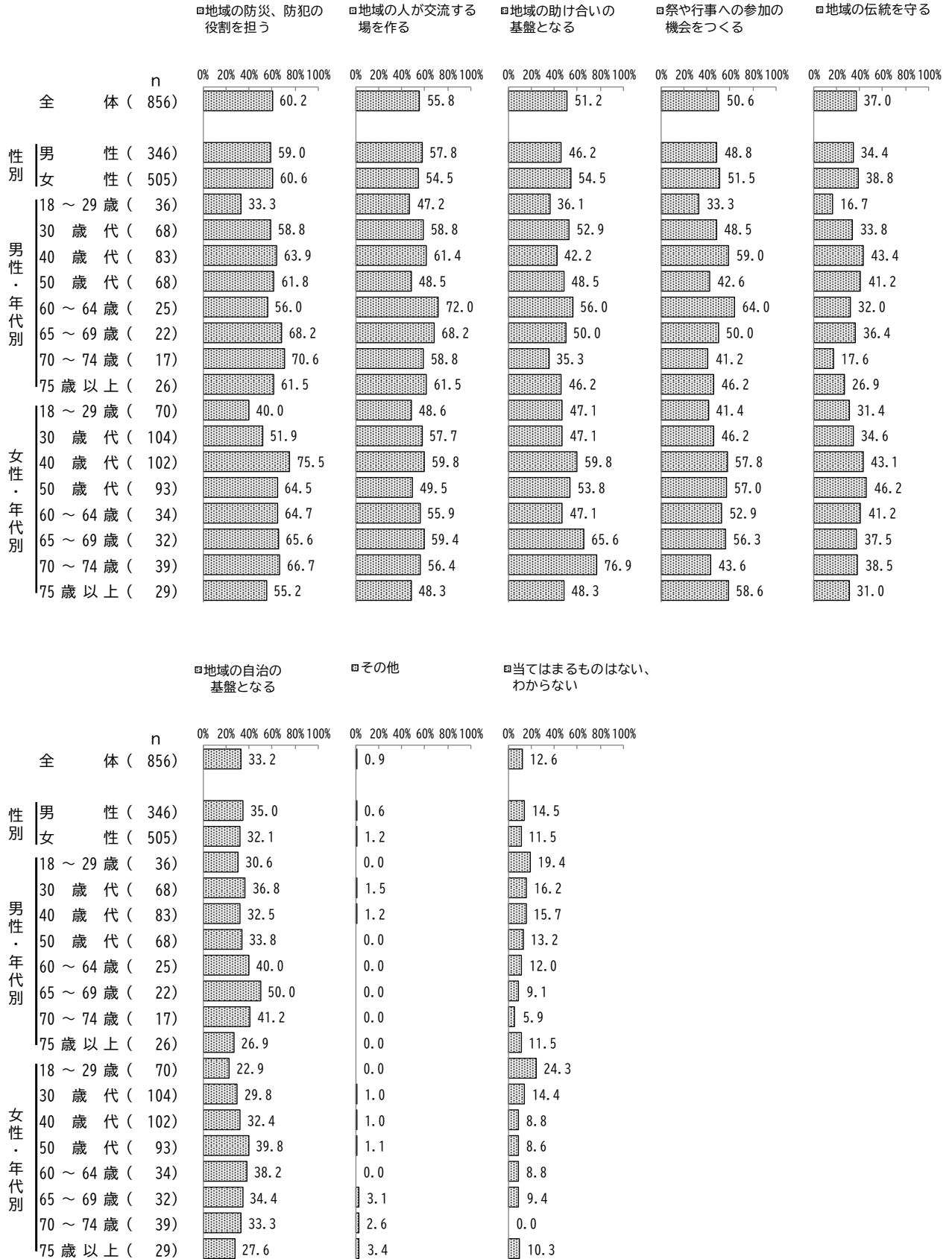
町会が地域で担う役割について聞いたところ、「地域の防災、防犯の役割を担う」(60.2%)が約6割と最も高く、次いで「地域の人交流する場を作る」(55.8%)、「地域の助け合いの基盤となる」(51.2%)、「祭や行事への参加の機会をつくる」(50.6%)となっている。(図 13-3-1)

その他を回答した方は8人おり、主な意見として「考えたことがない」、「あまり感心がない、交流がない」、「奉仕を強制するものであってはいけない」などが挙げられている。

性・年代別にみると、「地域の防災、防犯の役割を担う」は女性40歳代（75.5%）が7割台半ばと高くなっている。また、「地域の人が交流する場を作る」は男性60～64歳（72.0%）が7割強、「地域の助け合いの基盤となる」は女性70～74歳（76.9%）が7割半ばを超えと高くなっている。

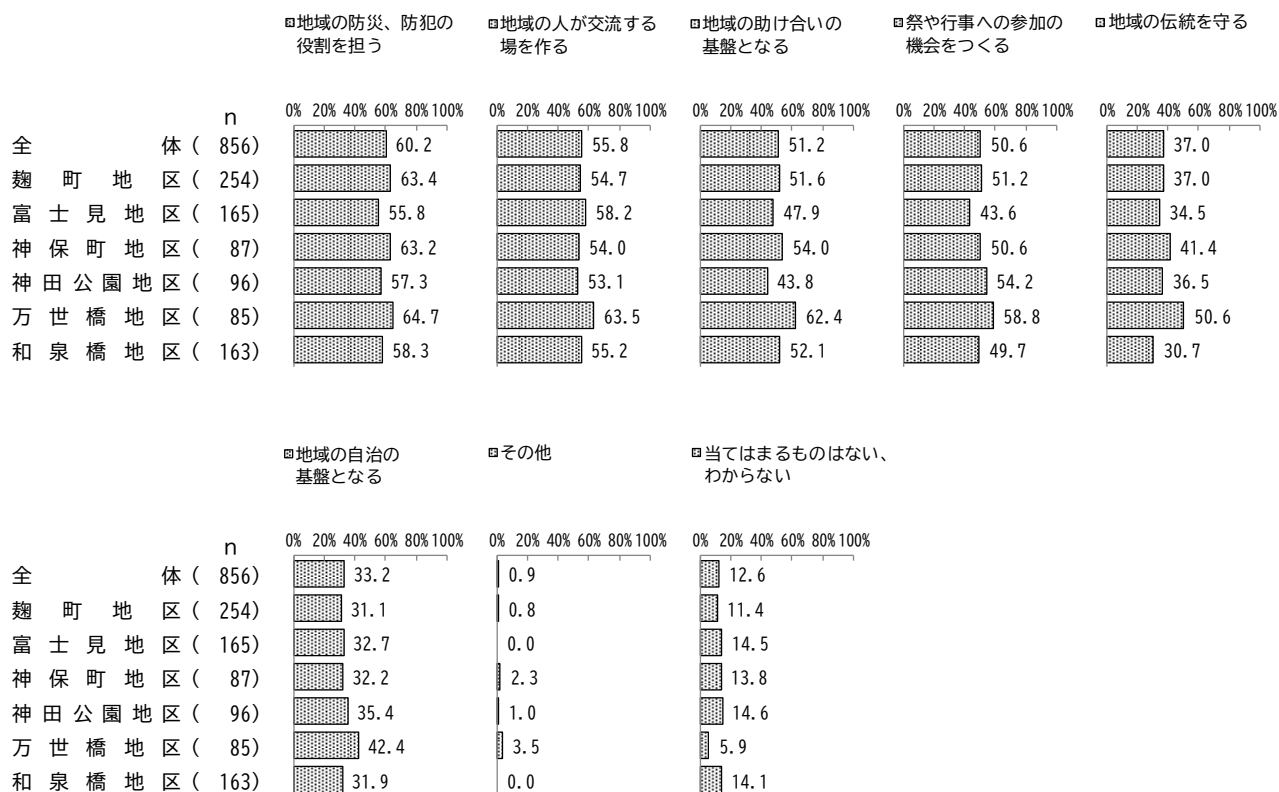
(図13-3-2)

図13-3-2 町会が地域で担う役割（性・年代別）



地区別にみると、万世橋地区で「地域の助け合いの基盤となる」(62.4%)が6割強、「地域の伝統を守る」(50.6%)が約5割と高くなっている。(図13-3-3)

図13-3-3 町会が地域で担う役割(地区別)

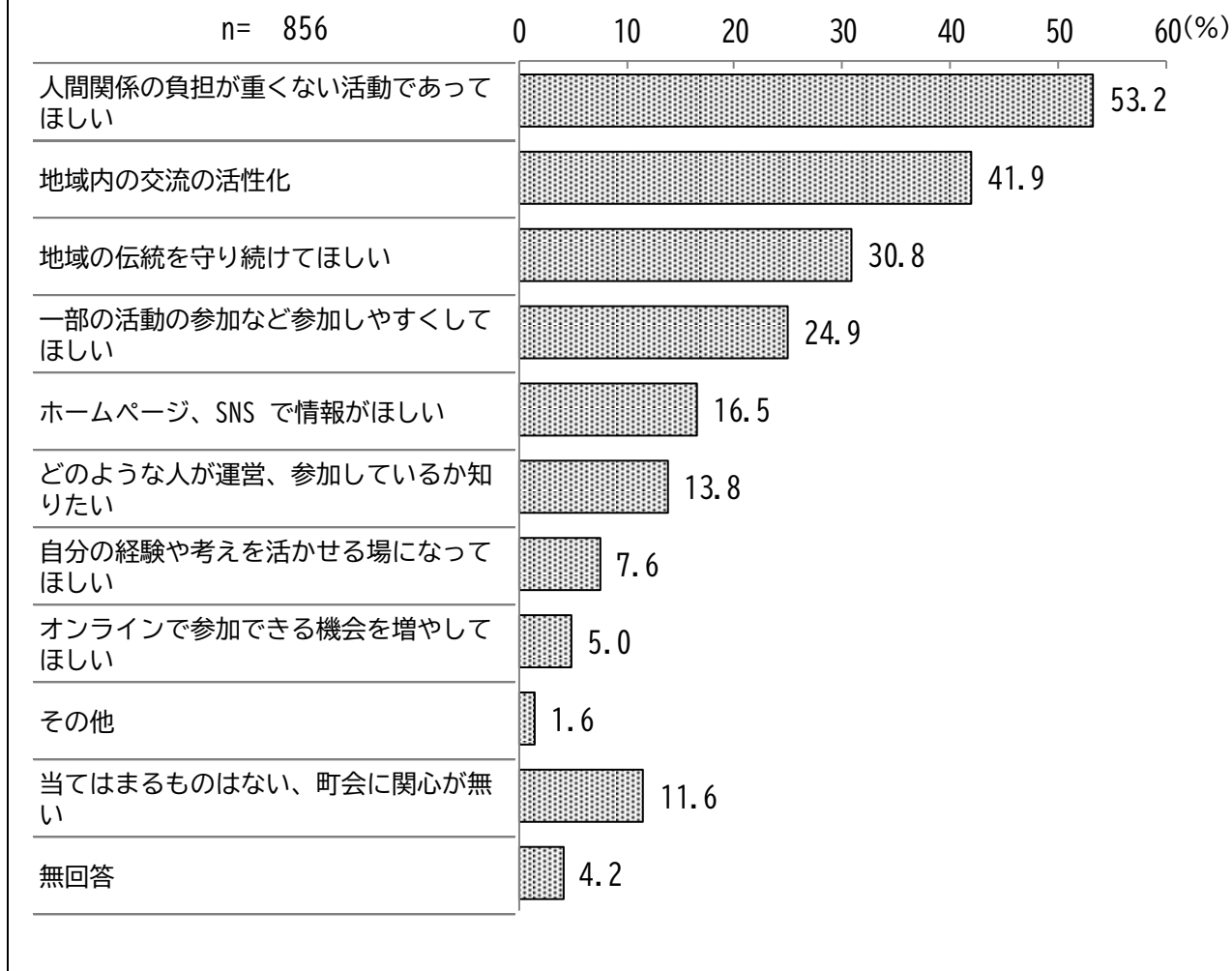


#### (4) 町会の活動に期待すること

◇「人間関係の負担が重くない活動であってほしい」が5割台半ば近く

問39 あなたが町会の活動に期待することについて、当てはまるものを3つまで選んでください。

図 13-4-1 町会の活動に期待すること

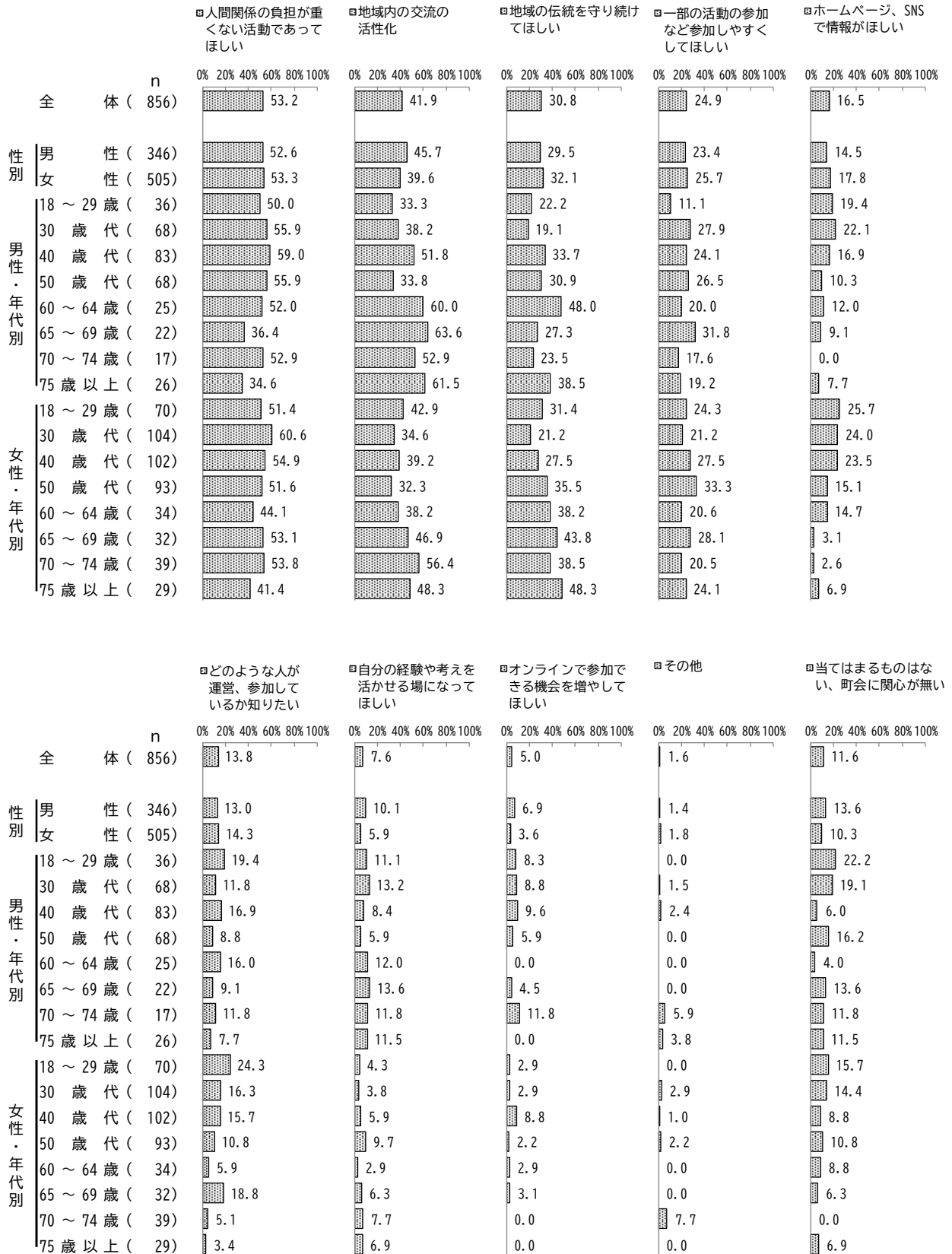


町会の活動に期待することについて聞いたところ、「人間関係の負担が重くない活動であってほしい」(53.2%)が5割台半ば近くで最も高く、次いで「地域内の交流の活性化」(41.9%)、「地域の伝統を守り続けてほしい」(30.8%)となっている。(図 13-4-1)

その他を回答した方は14人おり、主な意見として「防災・治安などの基本的安全へのかかわり」、「町会費の使用用途を明らかにしてほしい」、「共通の問題に対する話し合いの場」などが挙げられている。

性・年代別にみると、「地域内の交流の活性化」は男性 65～69 歳（63.6%）で 6 割台半ば近くと高くなっている。また、「地域の伝統を守り続けてほしい」は女性 75 歳以上（48.3%）で 5 割近く、「どのような人が運営、参加しているか知りたい」は女性 18～29 歳（24.3%）で 2 割台半ば近くと高くなっている。（図 13-4-2）

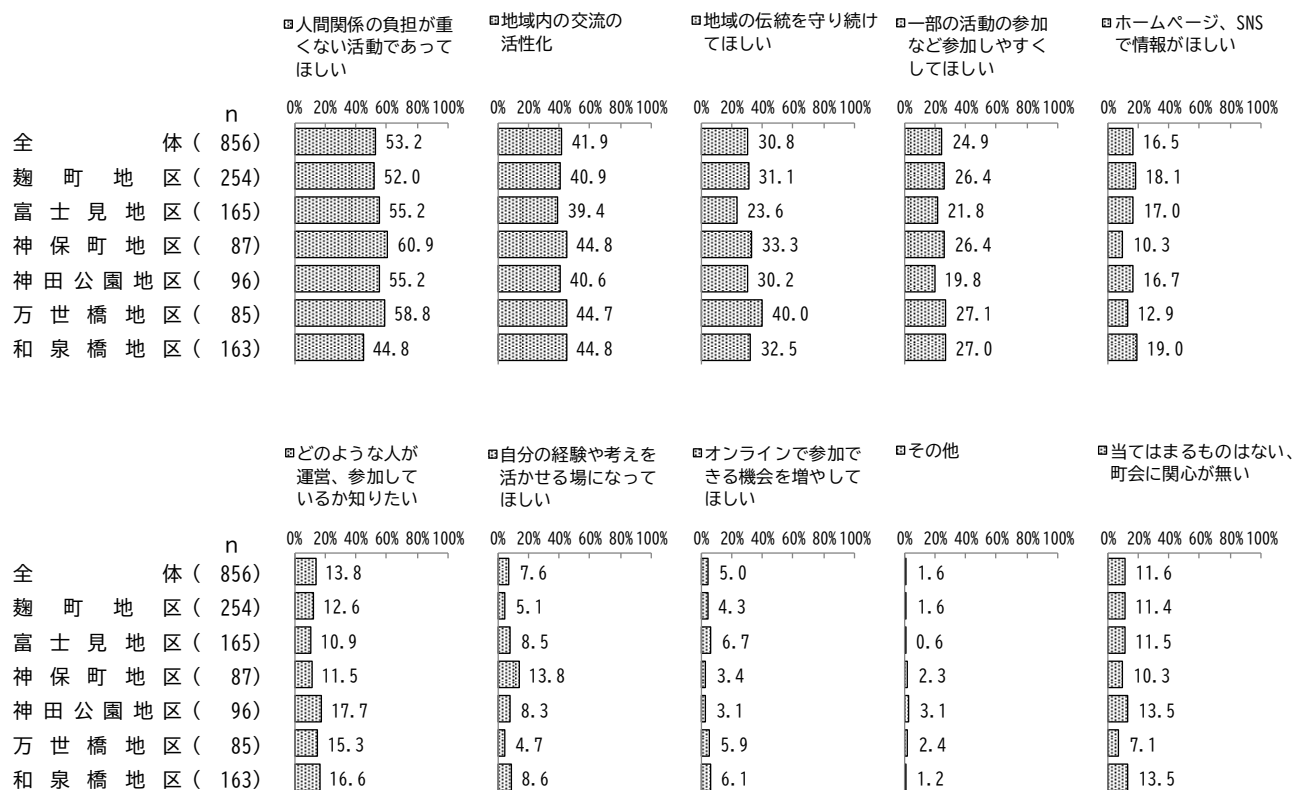
図 13-4-2 町会の活動に期待すること（性・年代別）





地区別にみると、「人間関係の負担が重くない活動であってほしい」は神保町地区（60.9%）で約6割と高くなっている。また、「地域の伝統を守り続けてほしい」は万世橋地区（40.0%）で4割と高くなっている。（図13-4-3）

図13-4-3 町会の活動に期待すること（地区別）

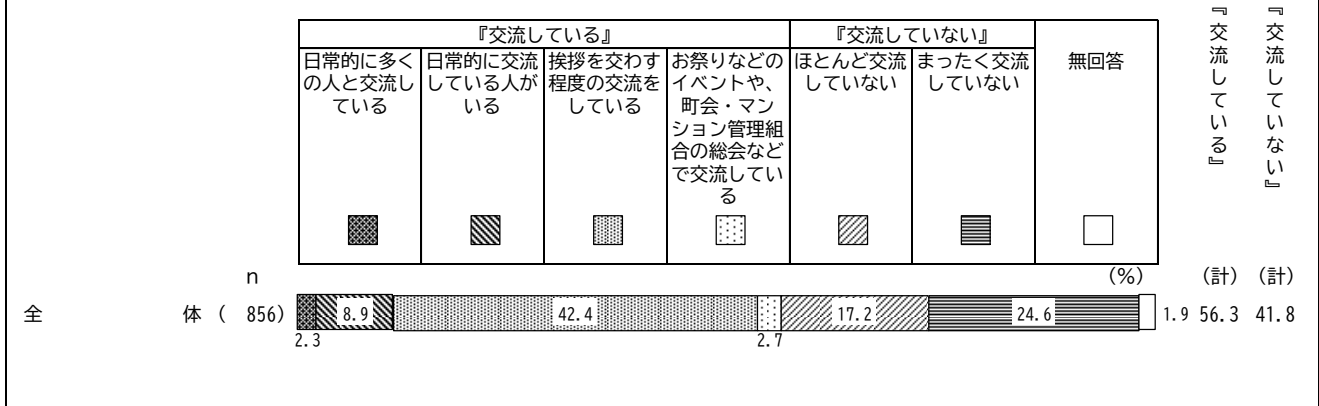


(5) 近所の方との交流

◇『交流している』が5割台半ば超え

問40 あなたは、ご近所の方（マンション・共同住宅居住者は建物内）と交流をしていますか。

図 13-5-1 近所の方との交流

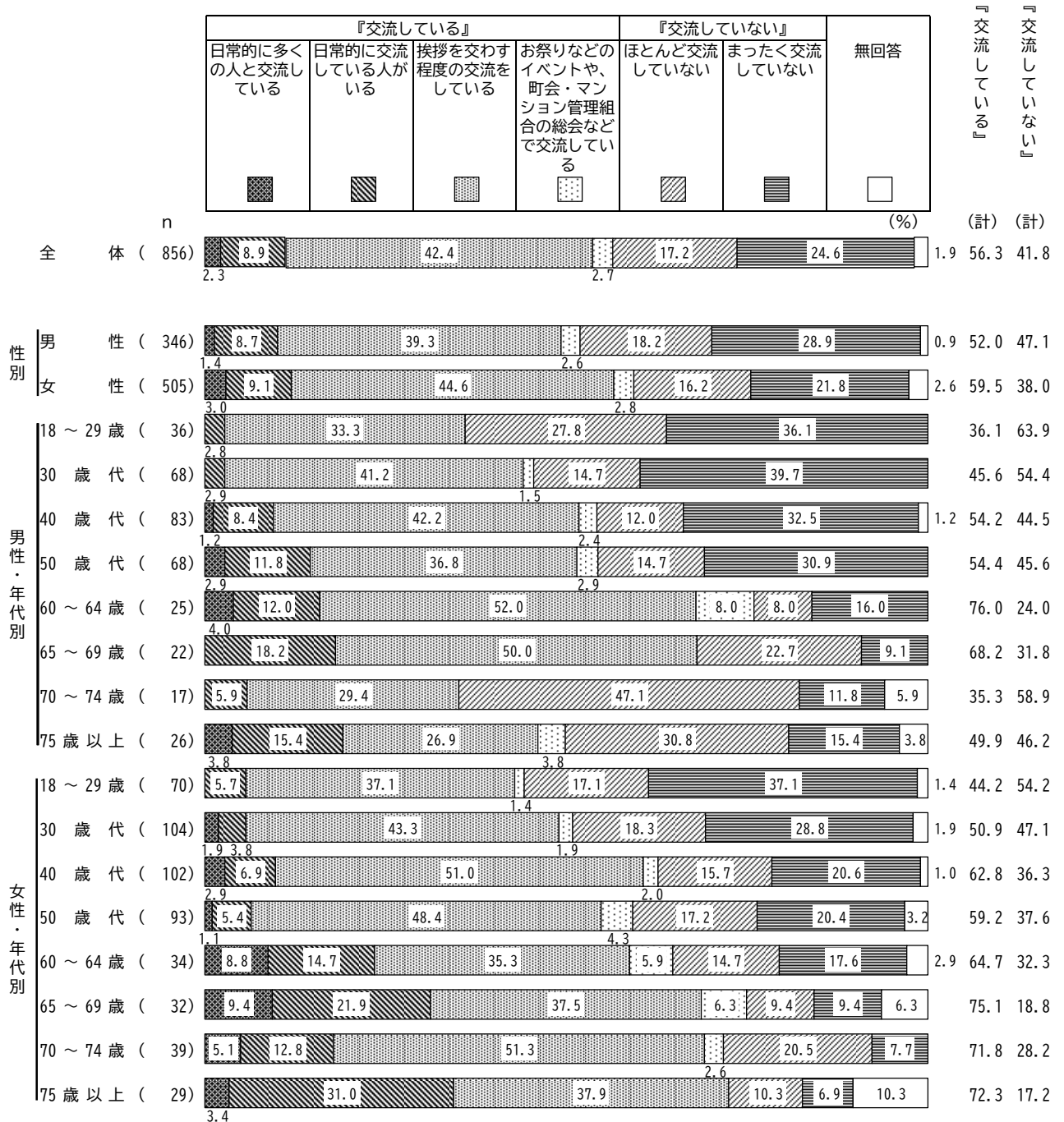


近所の方との交流について聞いたところ、「挨拶を交わす程度の交流をしている」(42.4%)が4割強で最も高く、これに「日常的に多くの人と交流している」(2.3%)、「日常的に交流している人がいる」(8.9%)、「お祭りなどのイベントや、町会・マンション管理組合の総会などで交流している」(2.7%)を合わせた『交流している』(56.3%)は5割台半ば超えとなっている。一方、「ほとんど交流していない」(17.2%)と「まったく交流していない」(24.6%)を合わせた『交流していない』(41.8%)は4割強となっている。(図 13-5-1)

性・年代別にみると、『交流している』は男性60～64歳（76.0%）で7割台半ばを超えと高くなっている。一方、『交流していない』は男性18～29歳（63.9%）で6割台半ば近くと高くなっている。

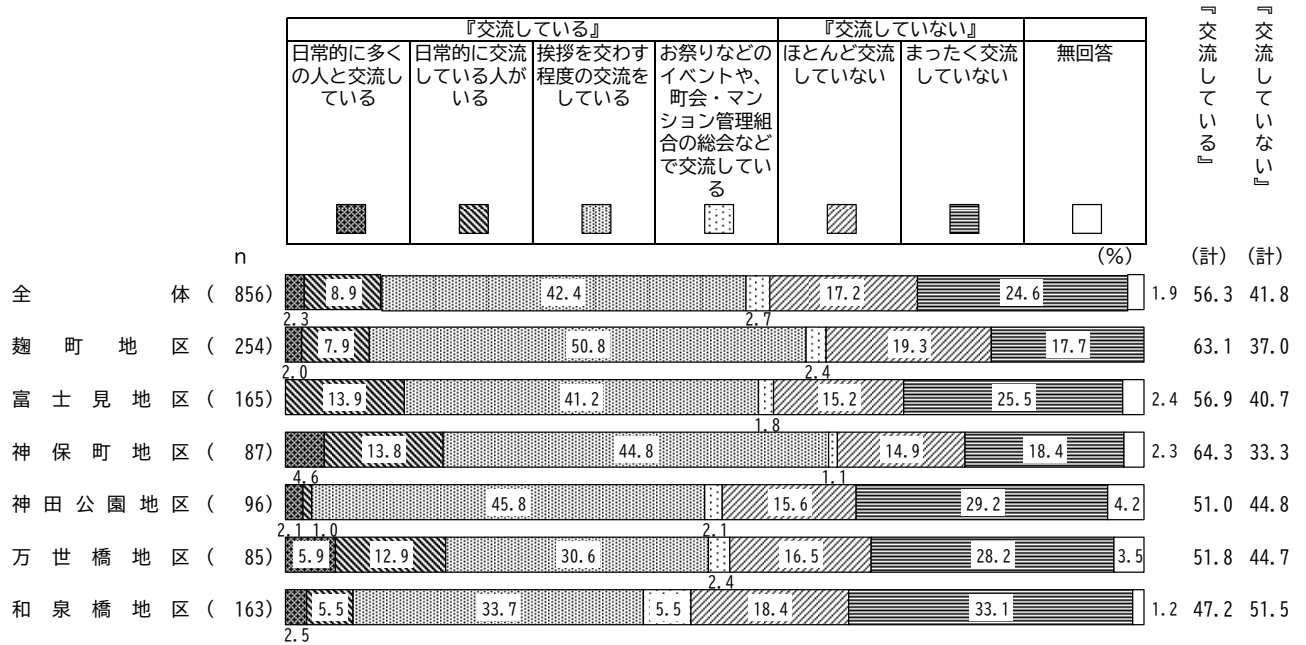
(図 13-5-2)

図 13-5-2 近所の方との交流（性・年代別）



地区別に見ると、『交流している』は神保町地区（64.3%）、麴町地区（63.1%）で6割強と高くなっている。一方、『交流していない』は神田公園地区（44.8%）、万世橋地区（44.7%）で4割台半ば近くと高くなっている。（図 13-5-3）

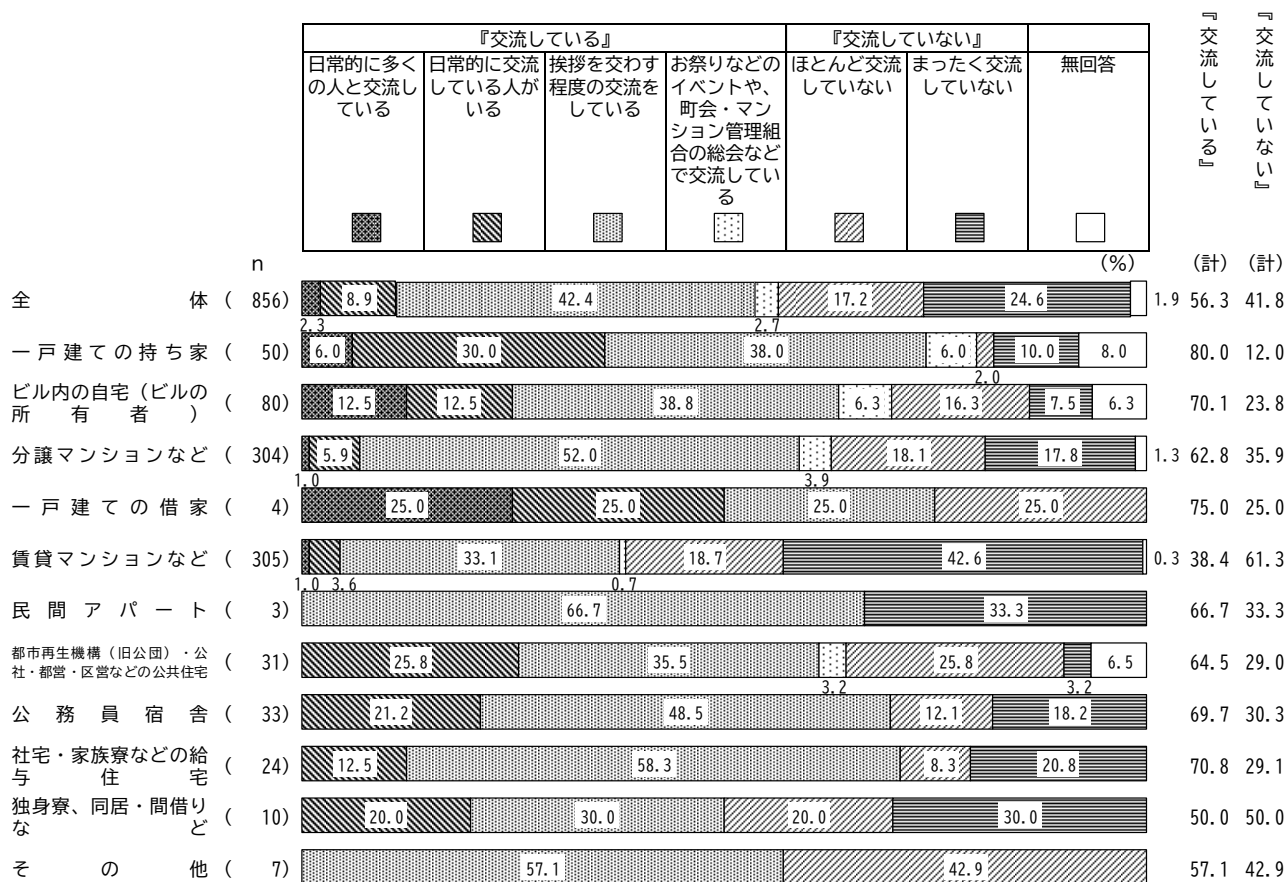
図 13-5-3 近所の方との交流（地区別）



住居形態別にみると、『交流している』は一戸建ての持ち家（80.0%）で8割と高くなっている。一方、『交流していない』は賃貸マンションなど（61.3%）で6割強と高くなっている。

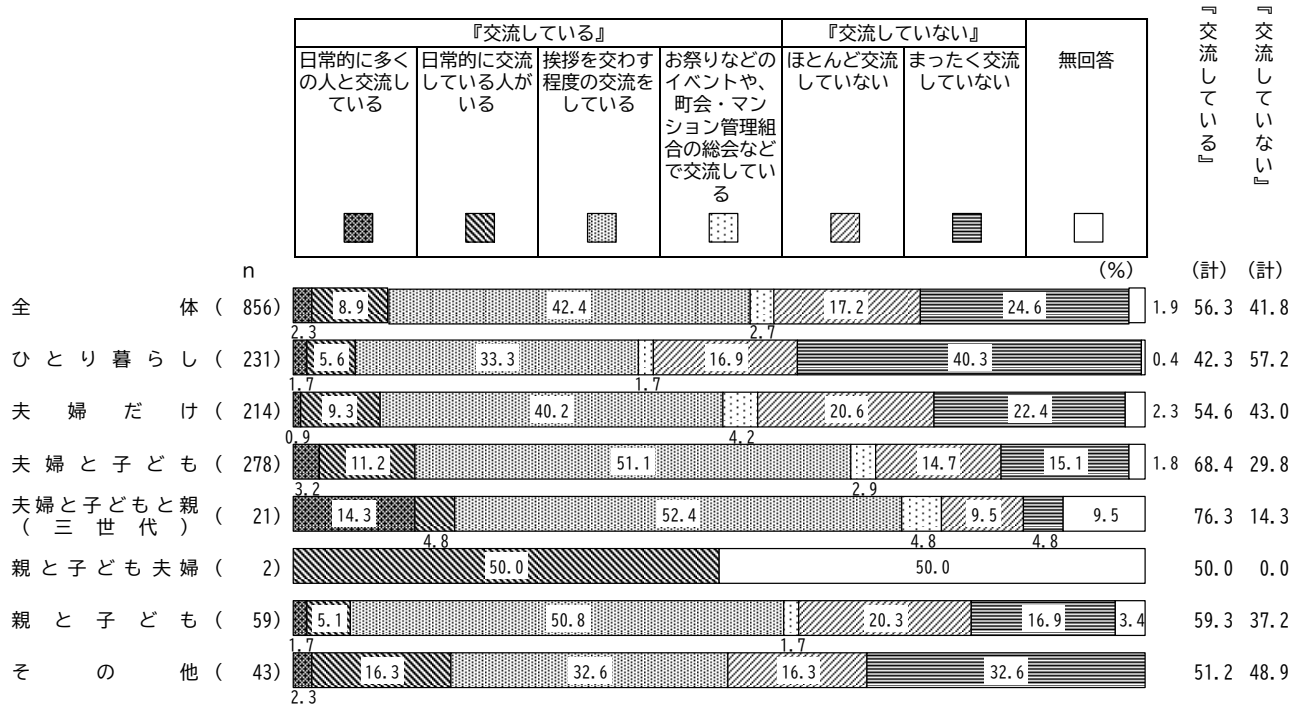
（図 13-5-4）

図 13-5-4 近所の方との交流（住居形態別）



世帯構成別にみると、『交流している』は夫婦と子どもと親（三世代）の世帯（76.3%）で7割台半ば超え、夫婦と子どもの世帯（68.4%）で7割近くと子どもがいる世帯で高い割合となっている。  
 (図 13-5-5)

図 13-5-5 近所の方との交流（世帯構成別）



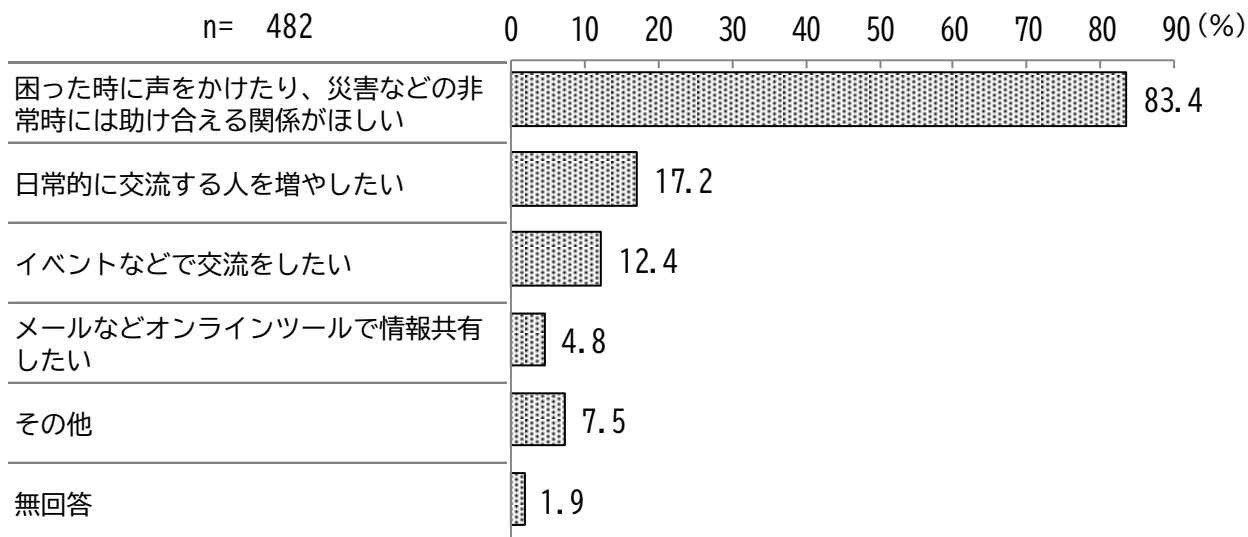
(5-1) 近所の方との交流への考え

◇「困った時に声をかけたり、災害などの非常時には助け合える関係がほしい」が8割台半ば近く

(問40で選択肢「1~4」のいずれかを選んだ方に)

問40-1 ご近所の方(マンション・共同住宅居住者は建物内)との交流について、あなたの考えに当てはまるものはどれですか。(〇はいくつでも)

図 13-5-6 近所の方との交流への考え

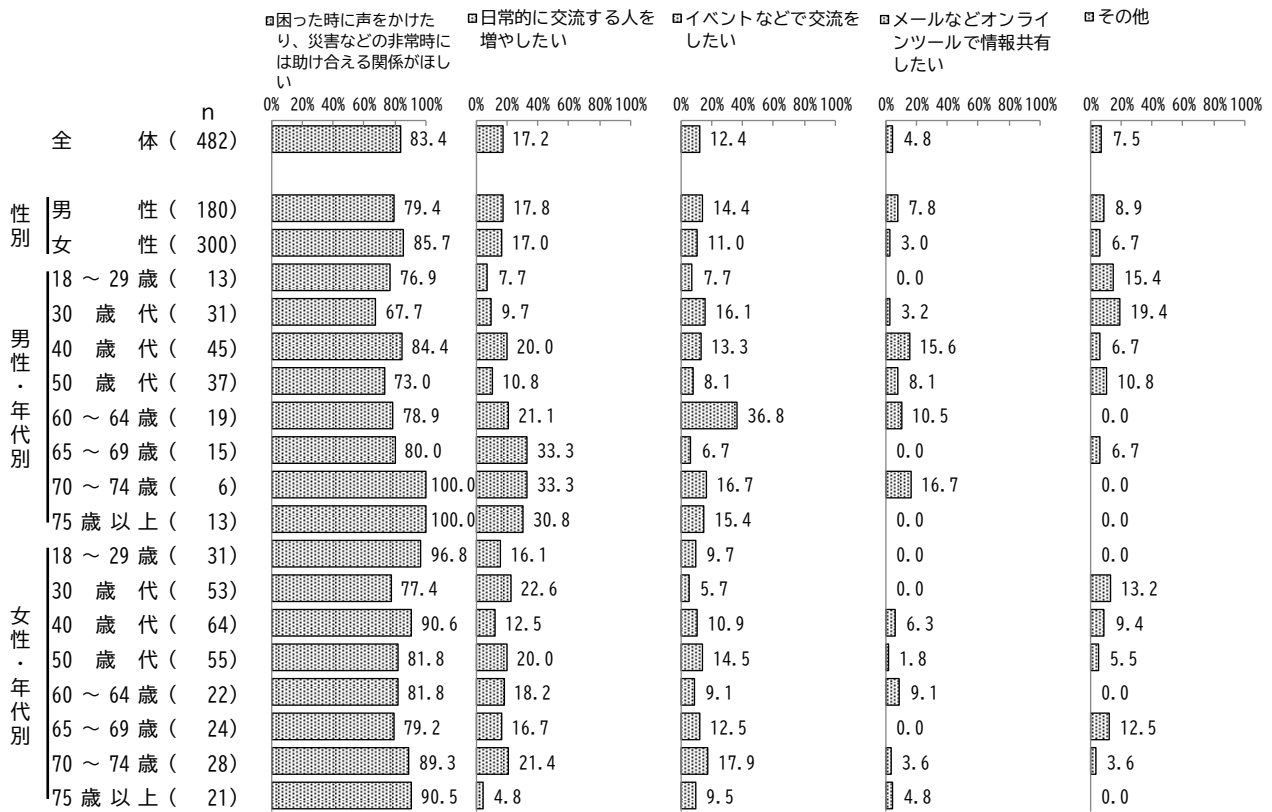


近所の方との交流への考えについて聞いたところ、「困った時に声をかけたり、災害などの非常時には助け合える関係がほしい」(83.4%)が8割台半ば近くで最も高く、次いで「日常的に交流する人を増やしたい」(17.2%)、「イベントなどで交流をしたい」(12.4%)と続いている。(図 13-5-6)

その他を回答した方は36人おり、主な意見として「現在のままで良い」、「交流はほしくない」、「ペットを飼ってる人と交流したい」などが挙げられている。

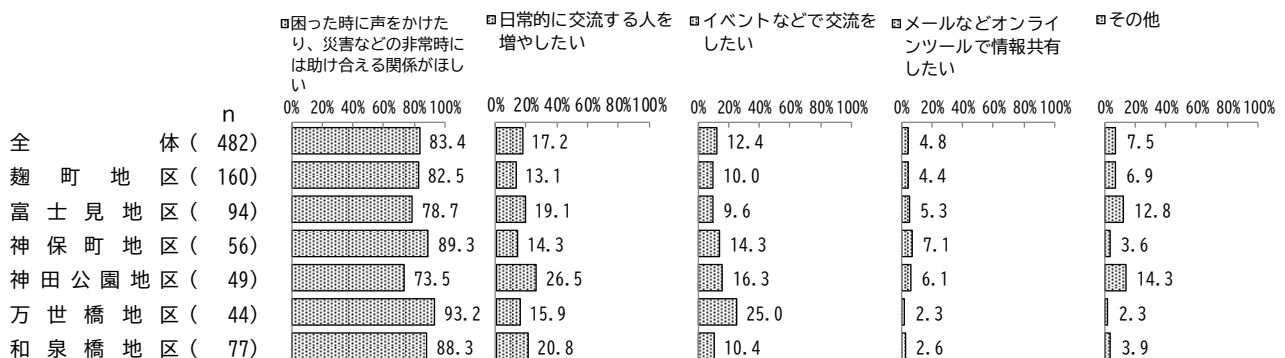
性・年代別にみると、「困った時に声をかけたり、災害などの非常時には助け合える関係がほしい」は男性70歳以上（100.0%）が10割と非常に高くなっている。また、「日常的に交流する人を増やしたい」は男性65歳以上で3割台、「イベントなどで交流をしたい」は男性60～64歳（36.8%）が3割台半ばを超えと高くなっている。（図13-5-7）

図13-5-7 近所の方との交流への考え（性・年代別）



地区別にみると、「困った時に声をかけたり、災害などの非常時には助け合える関係がほしい」は万世橋地区（93.2%）が9割半ば近くと高くなっている。また、「日常的に交流する人を増やしたい」は神田公園地区（26.5%）が2割台半ばを超え、「イベントなどで交流をしたい」は万世橋地区（25.0%）が2割台半ばと高くなっている。（図13-5-8）

図13-5-8 近所の方との交流への考え（地区別）



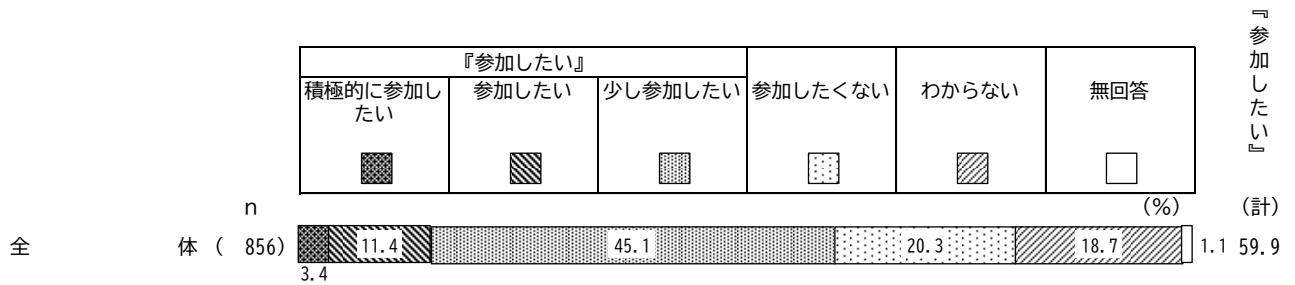


(6) 今後のコミュニティ活動への参加意向

◇『参加したい』が6割弱

問41 あなたはこれからのコミュニティ活動への参加について、どのように考えていますか。  
(○は1つ)

図 13-6-1 今後のコミュニティ活動への参加意向

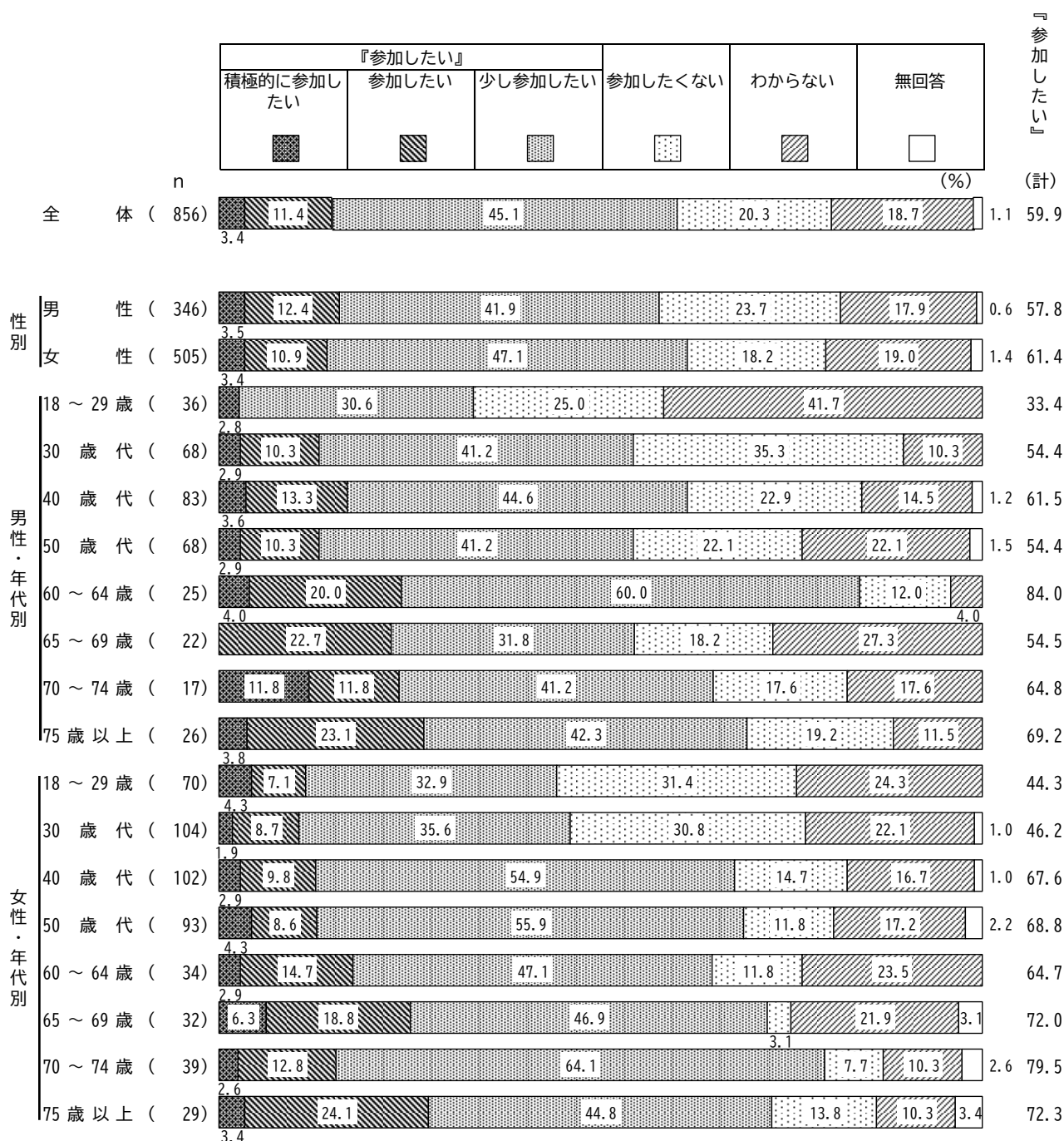


今後のコミュニティ活動への参加意向について聞いたところ、「少し参加したい」(45.1%)が4割台半ばで最も高く、これに「参加したい」(11.4%)、「積極的に参加したい」(3.4%)を合わせた『参加したい』(59.9%)は6割弱となっている。一方、「参加したくない」(20.3%)は約2割となっている。(図 13-6-1)

性・年代別にみると、『参加したい』は男性 60～64 歳（84.0%）で 8 割台半ば近くと高くなっている。一方、「参加したくない」は男性 30 歳代（35.3%）で 3 割台半ばと高くなっている。

(図 13-6-2)

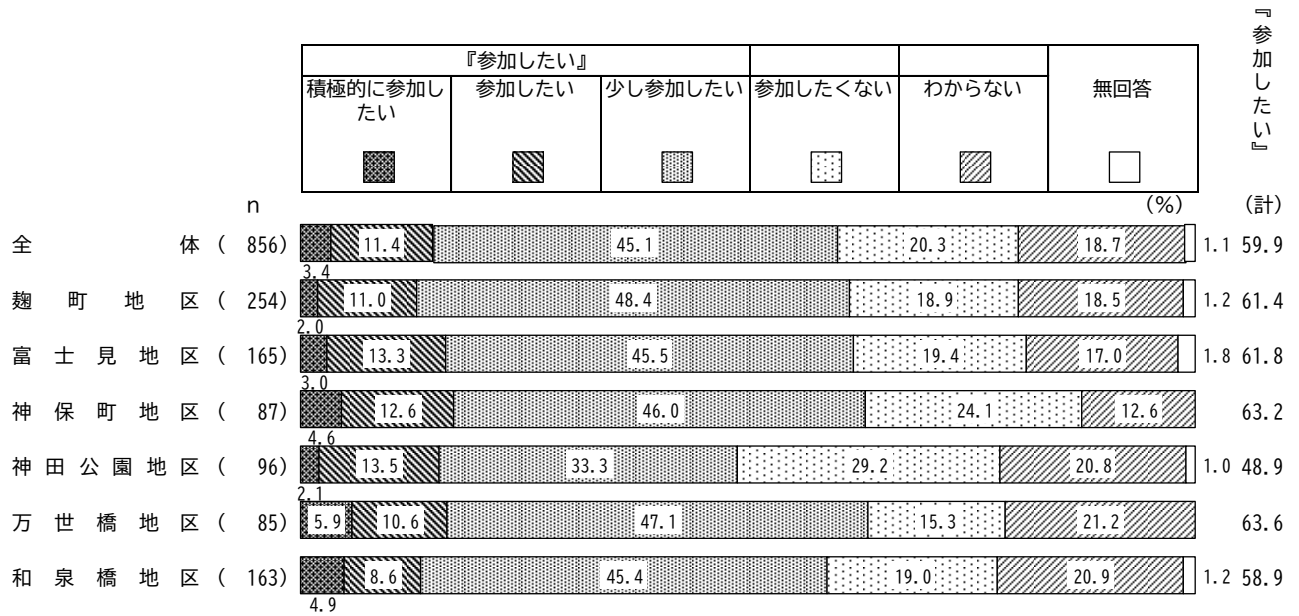
図 13-6-2 今後のコミュニティ活動への参加意向（性・年代別）



地区別にみると、『参加したい』は万世橋地区（63.6%）、神保町地区（63.2%）で6割台半ば近くと高くなっている。一方、「参加したくない」は神田公園地区（29.2%）で3割弱と高くなっている。

（図 13-6-3）

図 13-6-3 今後のコミュニティ活動への参加意向（地区別）



## (6-1) コミュニティ活動に参加したいと思うきっかけ

(問41で選択肢「4. 参加したくない」か「5. わからない」とお答えの方に)  
問41-1 あなたは、どうなればコミュニティ活動に参加したいと思いますか。お考えがあれば  
記載欄にご記入下さい。

今後のコミュニティ活動への参加意向について「参加したくない」、「わからない」とお答えの方に、どうなればコミュニティ活動に参加したいと思うかを聞いたところ、115人(133件)の記入があった。記入された主な意見は以下のとおりである。

### 1. 人間関係 (30件)

- ・人間関係が負担にならないこと
- ・同じ年代の人が多く参加していれば
- ・若い人が増えれば参加しやすくなるかなと思います
- ・個人の自立した生活の確立に努めているので、それ以外の交流は負担と感じる
- ・面倒な人間づきあいがなくなれば参加したい

### 2. 時間がない (20件)

- ・時間があれば参加したい
- ・今の自分の活動していることが忙しいのでコミュニティ活動参加への時間がない
- ・仕事が早く終わる場合
- ・自由時間が増えたら
- ・仕事をやめたあとに、自分にできることがあれば参加(お手伝い)したいと思ってる

### 3. 活動内容 (18件)

- ・参加しやすいイベントがあれば
- ・小さな子供が一緒でも参加できるものかつ、安全な場所
- ・あまり馴染みのないスポーツ体験など ex)車椅子バスケットやボッチャなど
- ・知的な活動があれば活動したい
- ・興味のある活動があれば参加したい

### 4. その他 (65件)

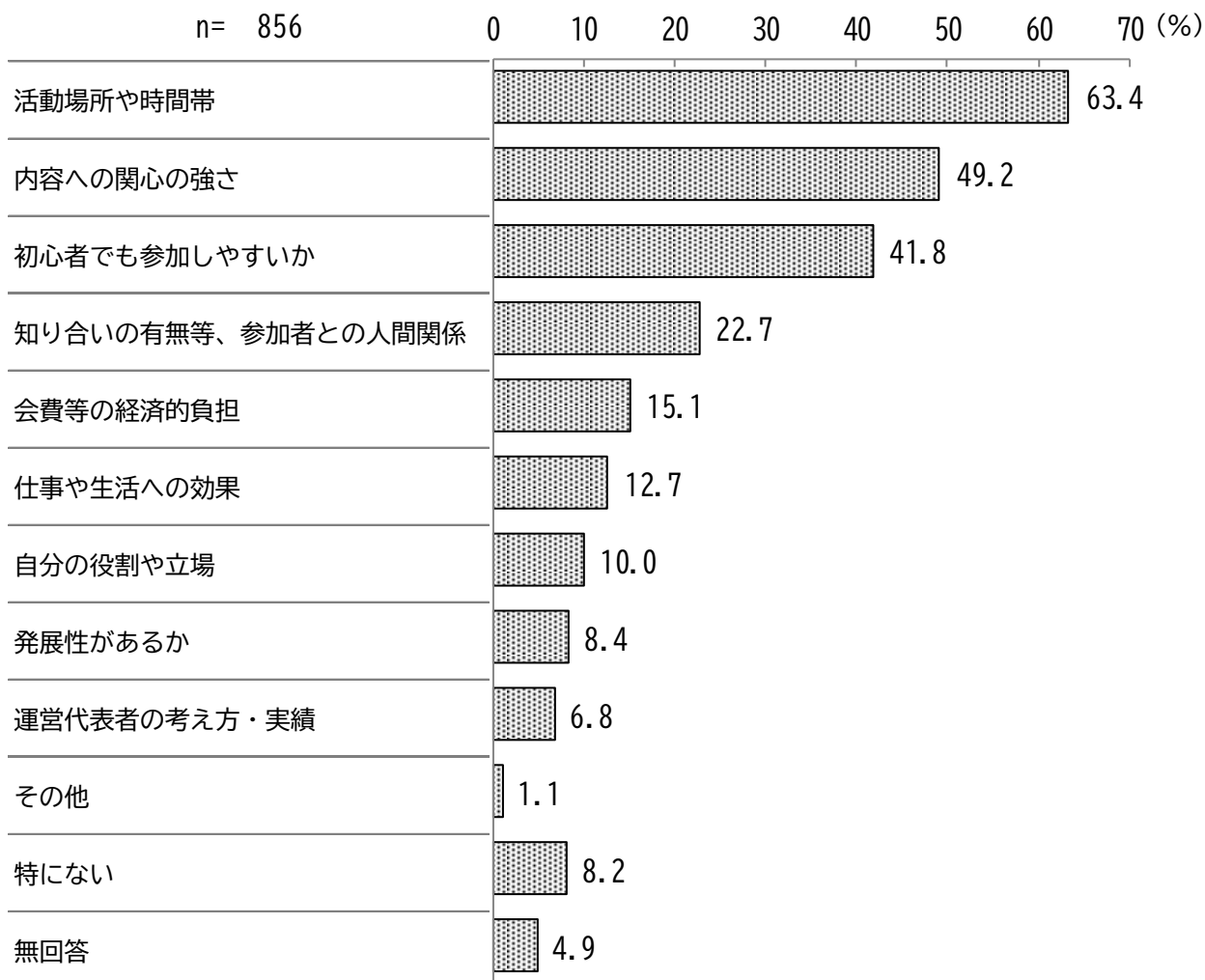
- ・強制的ではなく自由に出入りできること
- ・参加が義務化されず、また会費など負担にならない仕組みであれば
- ・健康、体力に自信があったら
- ・情報がないので、まずは情報がほしいです
- ・参加をすることでメリットがあれば

(7) コミュニティ活動参加を決めるための判断基準

◇「活動場所や時間帯」が6割台半ば近く

問42 あなたがコミュニティ活動に参加するかどうかを決める際、判断の基準となることは何ですか。ご自身に当てはまるものを3つまで選んでください。

図 13-7-1 コミュニティ活動参加を決めるための判断基準

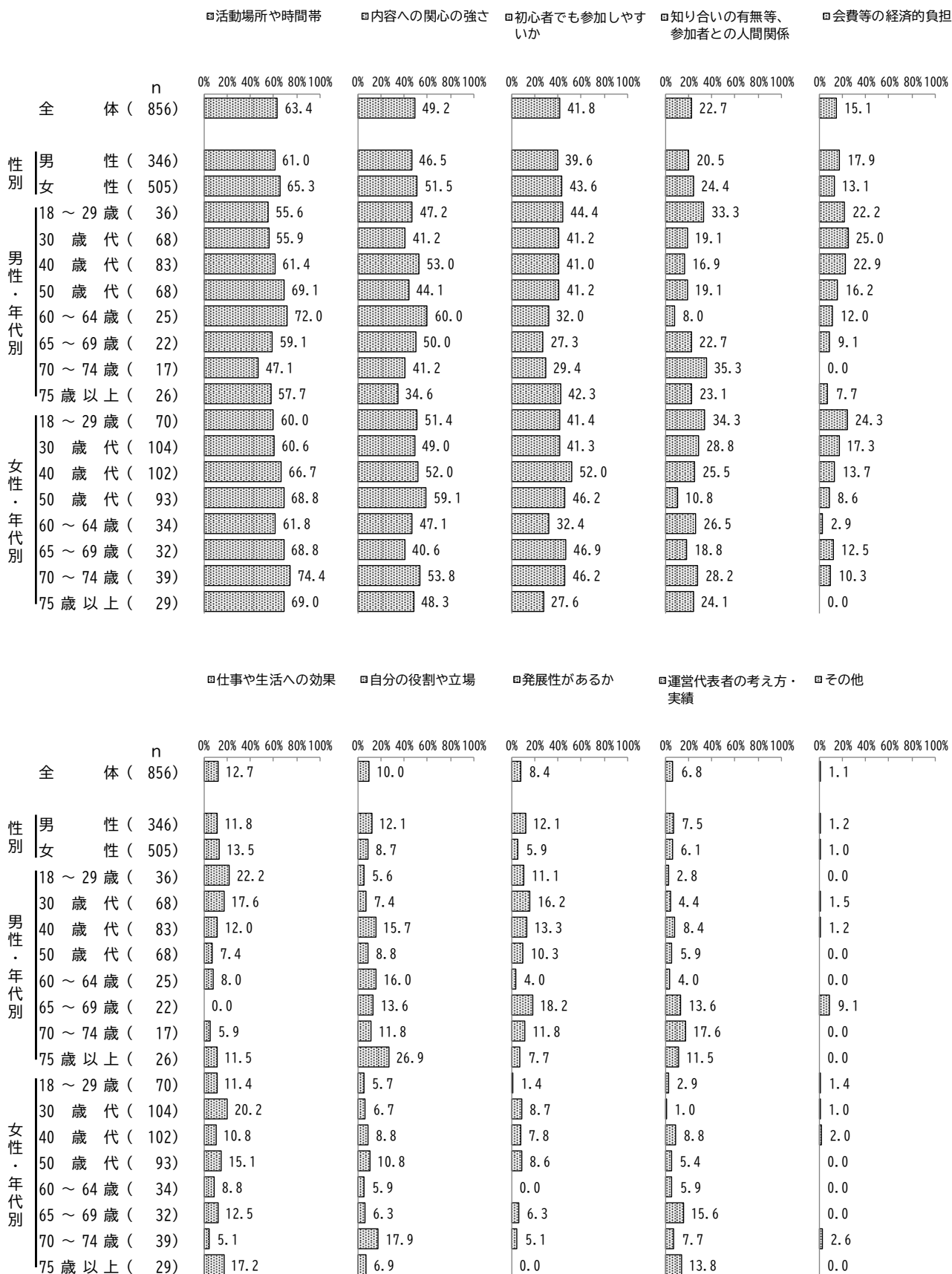


コミュニティ活動参加を決めるための判断基準について聞いたところ、「活動場所や時間帯」(63.4%)が6割台半ば近くで最も高く、次いで「内容への関心の強さ」(49.2%)、「初心者でも参加しやすいか」(41.8%)が続いている。(図 13-7-1)

その他を回答した方は9人おり、主な意見として「時間があれば」、「活動による負担」、「参加のしかたがわかりやすいか」、「オンラインでも参加できる」などが挙げられている。

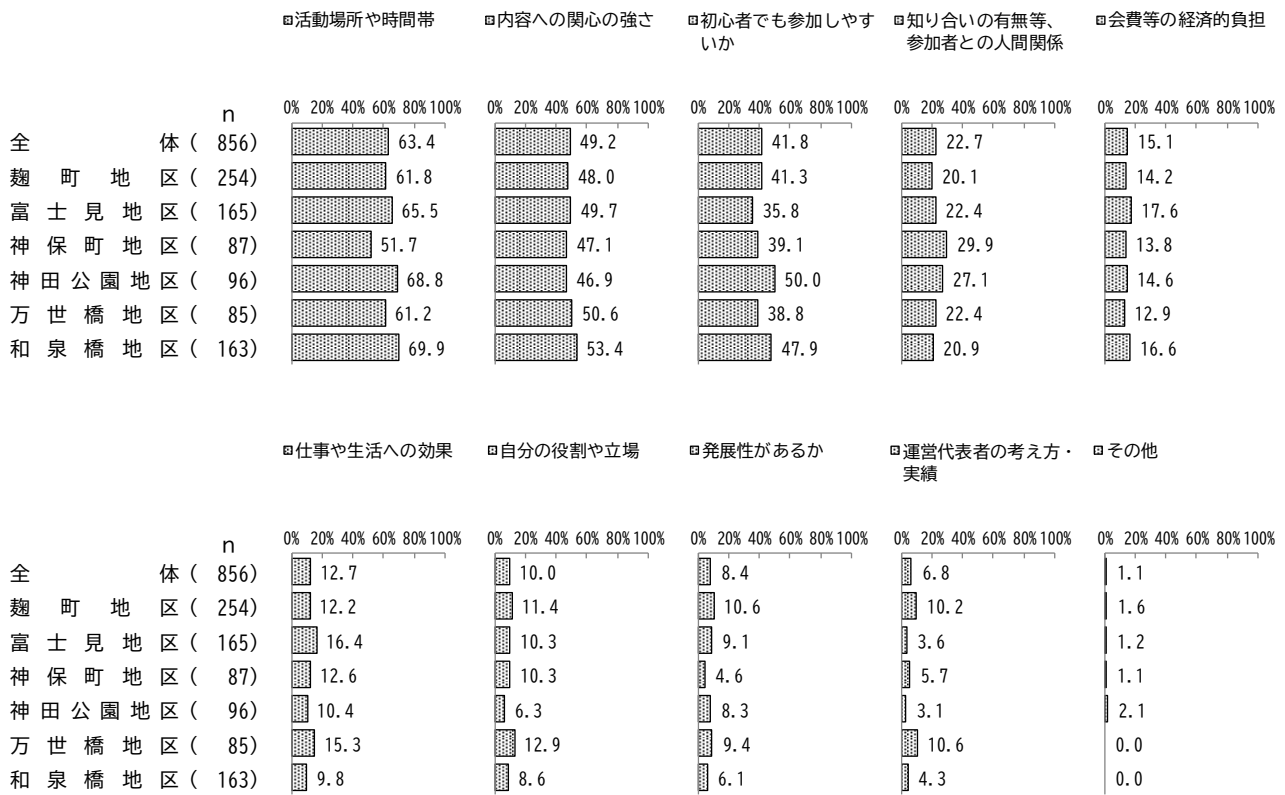
性・年代別にみると、「活動場所や時間帯」は女性 70～74 歳（74.4%）が7割台半ば近くで高くなっている。また、「内容への関心の強さ」は男性 60～64 歳（60.0%）が6割、「初心者でも参加しやすいか」は女性 40 歳代（52.0%）が5割強と高くなっている。（図 13-7-2）

図 13-7-2 コミュニティ活動参加を決めるための判断基準（性・年代別）



地区別にみると、「活動場所や時間帯」は和泉橋地区（69.9%）が7割弱で高くなっている。また、「初心者でも参加しやすいか」は神田公園地区（50.0%）が5割、「知り合いの有無等、参加者との人間関係」は神保町地区（29.9%）が3割弱と高くなっている。（図 13-7-3）

図 13-7-3 コミュニティ活動参加を決めるための判断基準（地区別）



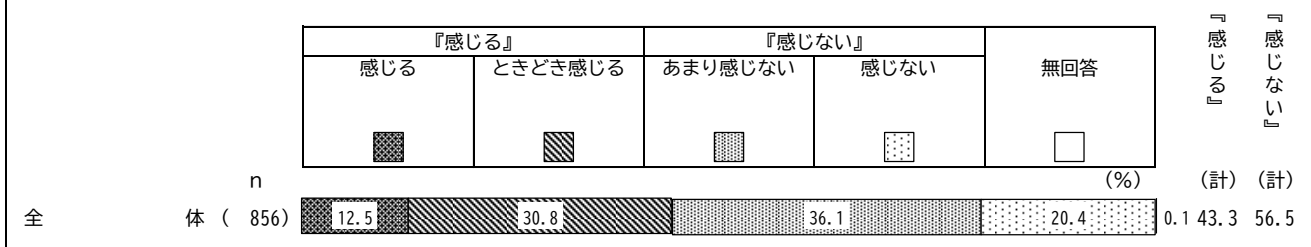
## 14. 男女平等、人権

### (1) 性別による不平等を感じることもあるか

◇性別による不平等を『感じない』が5割台半ば超え

問43 あなたは、日常生活において、「性別によって不平等がある」と感じることはありますか。  
(○は1つ)

図 14-1-1 性別による不平等を感じることもあるか

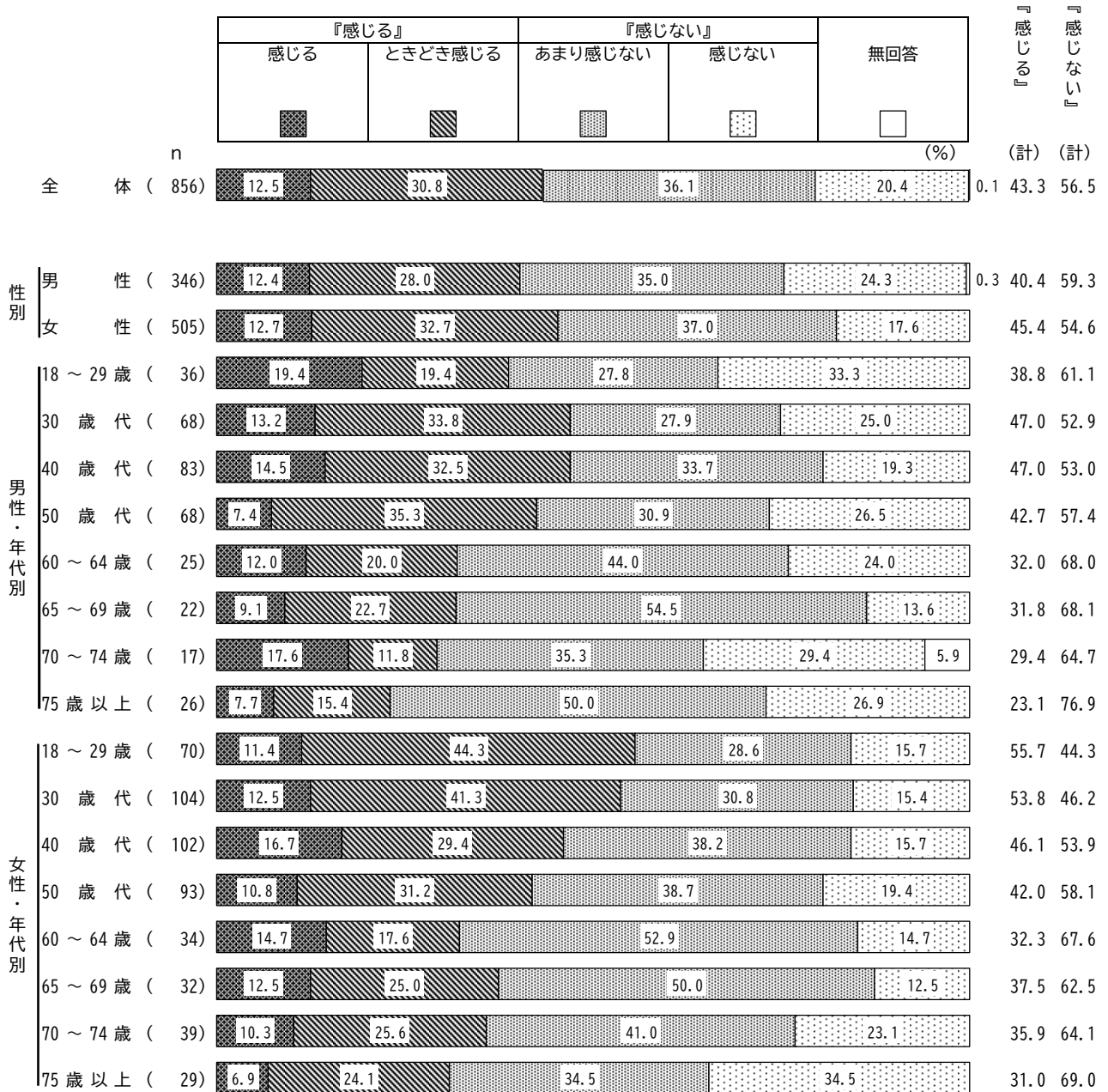


日常生活において、「性別によって不平等がある」と感じることはあるかを聞いたところ、「あまり感じない」(36.1%)が3割台半ば超えと最も高く、これに「感じない」(20.4%)を合わせた『感じない』(56.5%)は5割台半ば超えとなっている。一方、「感じる」(12.5%)と「ときどき感じる」(30.8%)を合わせた『感じる』(43.3%)は4割台半ば近くとなっている。(図 14-1-1)



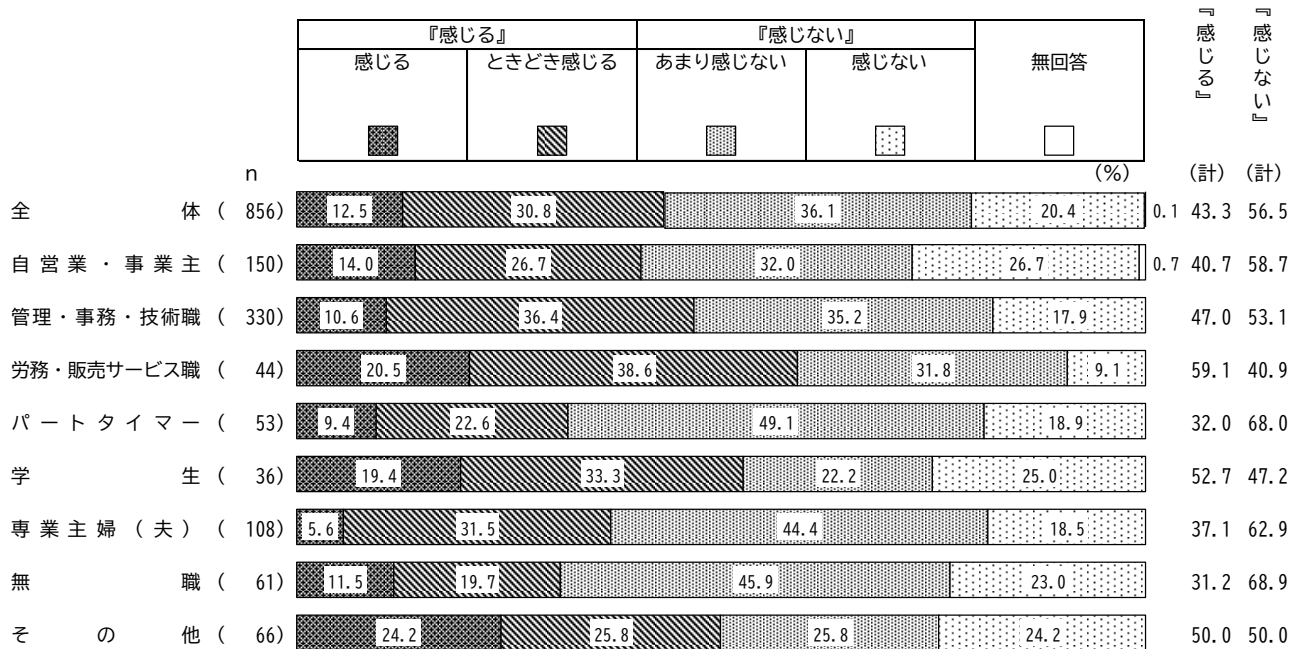
性・年代別にみると、性別による不平等を『感じる』は男性 75 歳以上 (76.9%) で7割台半ばを超えと高くなっている。一方、性別による不平等を『感じる』は女性 18~29 歳 (55.7%) で5割台半ばと高くなっている。(図 14-1-2)

図 14-1-2 性別による不平等を感じることもあるか (性・年代別)



職業別にみると、性別による不平等を『感じる』は無職（68.9%）で7割近くと高くなっている。一方、性別による不平等を『感じる』は労務・販売サービス職（59.1%）で6割弱と高くなっている。  
 (図 14-1-3)

図 14-1-3 性別による不平等を感じるかどうか（職業別）

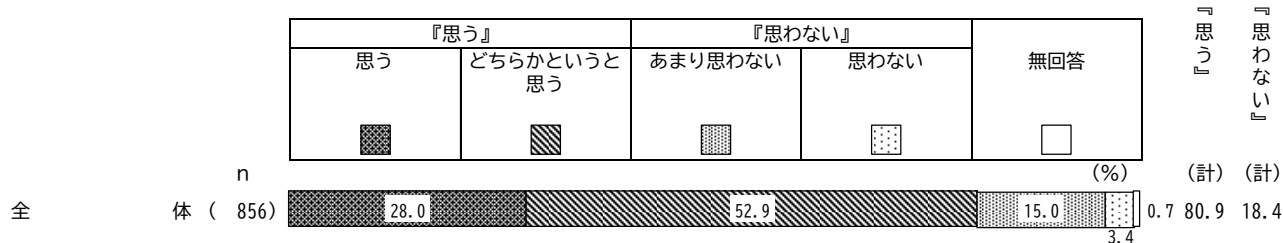


(2) 人権が尊重されている社会だと思うか

◇人権が尊重されている社会であると『思う』が約8割

問44 あなたのまわりでは、人権が尊重されている社会であると思いますか。(○は1つ)

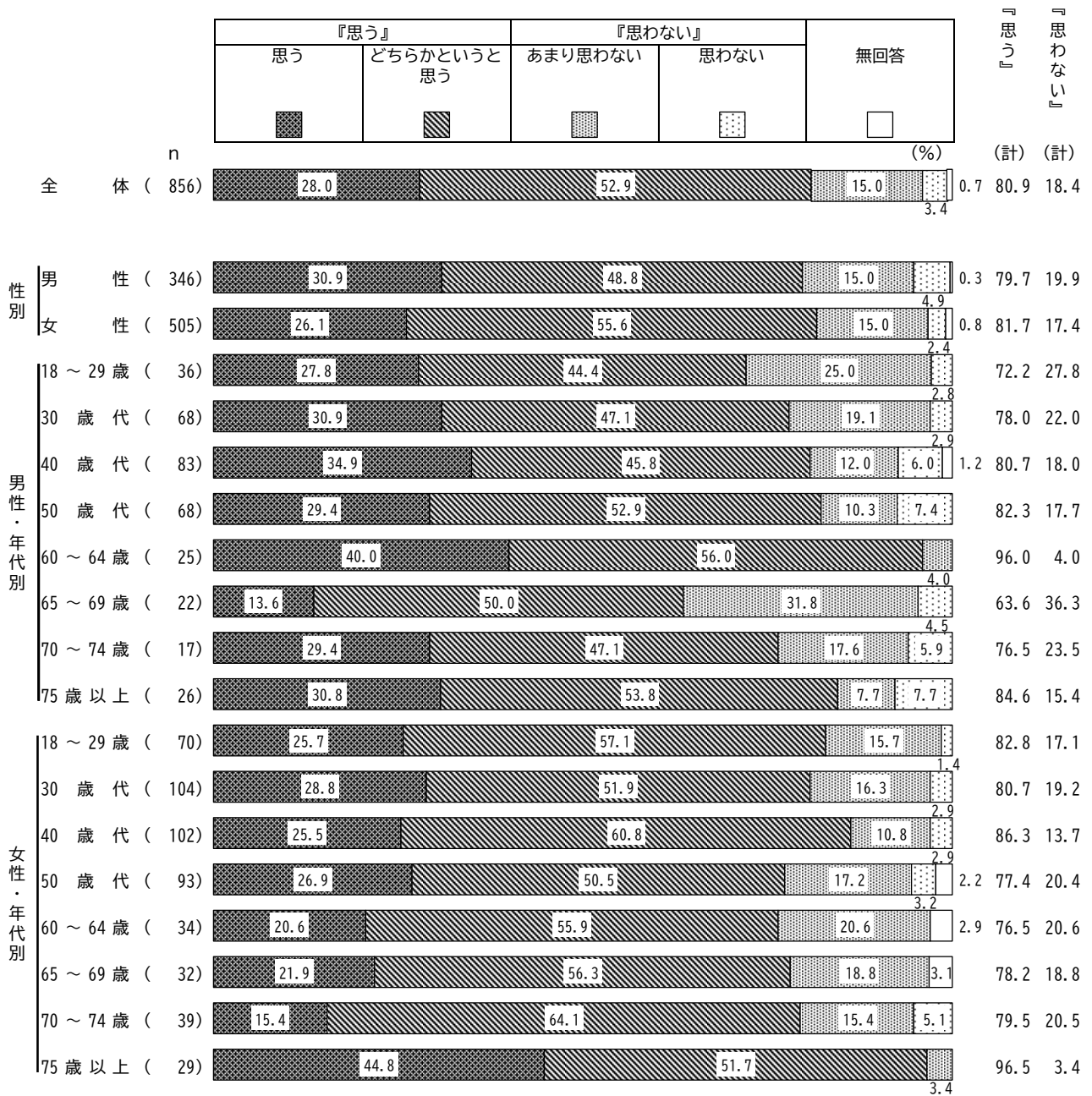
図 14-2-1 人権が尊重されている社会だと思うか



人権が尊重されている社会だと思うかを聞いたところ、「どちらかというと思う」(52.9%)が5割強と最も高く、これに「思う」(28.0%)を合わせた『思う』(80.9%)は約8割となっている。一方、「あまり思わない」(15.0%)と「思わない」(3.4%)を合わせた『思わない』(18.4%)は2割近くとなっている。(図 14-2-1)

性・年代別にみると、人権が尊重されている社会であると『思う』は女性75歳以上（96.5%）、男性60～64歳（96.0%）で9割台半ばを超えと高くなっている。一方、人権が尊重されている社会であると『思わない』は男性65～69歳（36.3%）で3割台半ばを超えと高くなっている。（図14-2-2）

図14-2-2 人権が尊重されている社会だと思うか（性・年代別）

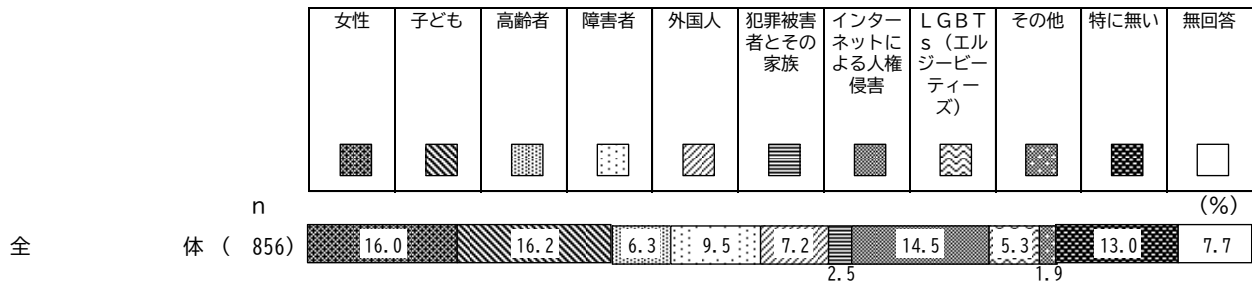


(3) 最も関心のある人権問題

◇「子ども」が1割台半ば超え

問45 人権問題で最も関心のあるものは次のうちのどれですか。(○は1つ)

図 14-3-1 最も関心のある人権問題

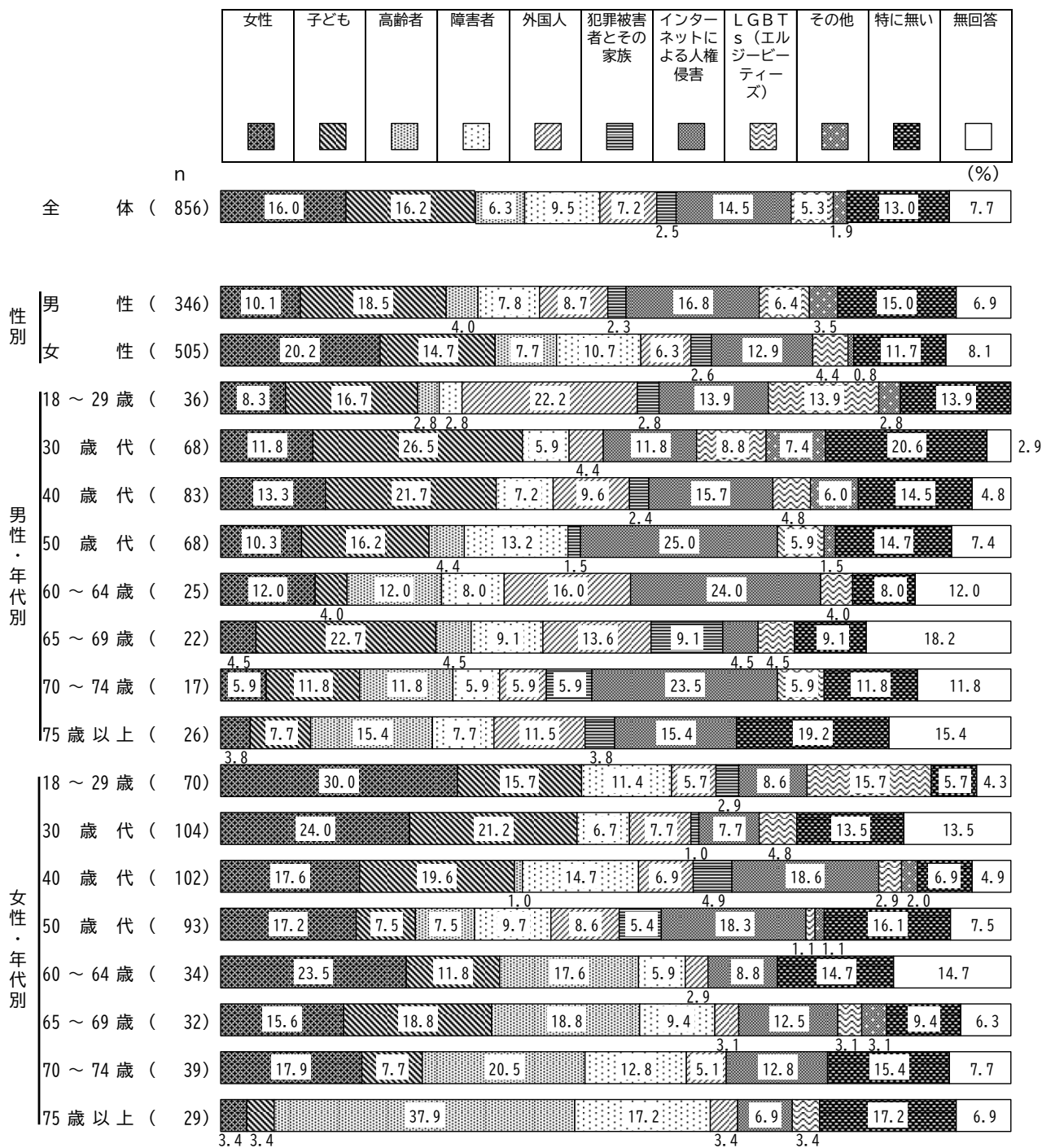


人権問題で最も関心のあるものを聞いたところ、「子ども」(16.2%)が1割台半ば超えと最も高く、次いで「女性」(16.0%)、「インターネットによる人権侵害」(14.5%)と続いている。(図 14-3-1)

その他を回答した方は16人おり、主な意見として「医療者」、「逆差別(女性優遇)」、「政策決定等の市民参画」、「社会的弱者」などが挙げられている。

性・年代別にみると、「高齢者」は女性 75 歳以上（37.9%）で3割台半ばを超えと高くなっている。また、「外国人」は男性 18～29 歳（22.2%）で2割強、「女性」は女性 18～29 歳（30.0%）で3割と高くなっている。（図 14-3-2）

図 14-3-2 最も関心のある人権問題（性・年代別）

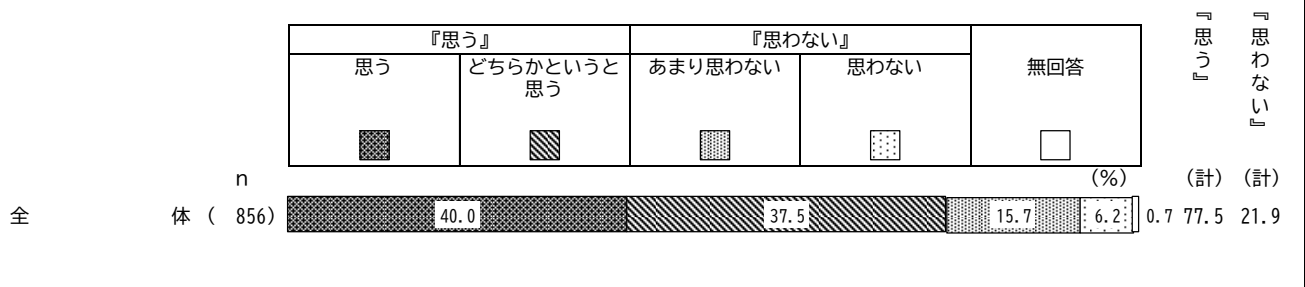


(4) LGBTsについて正しく理解したいと思うか

◇ LGBTsについて正しく理解したいと『思う』は7割台半ば超え

問46 誰もが自分らしく生きるために、あなたはLGBTs（エルジービーティーズ）について正しく理解したいと思いますか。（○は1つ）

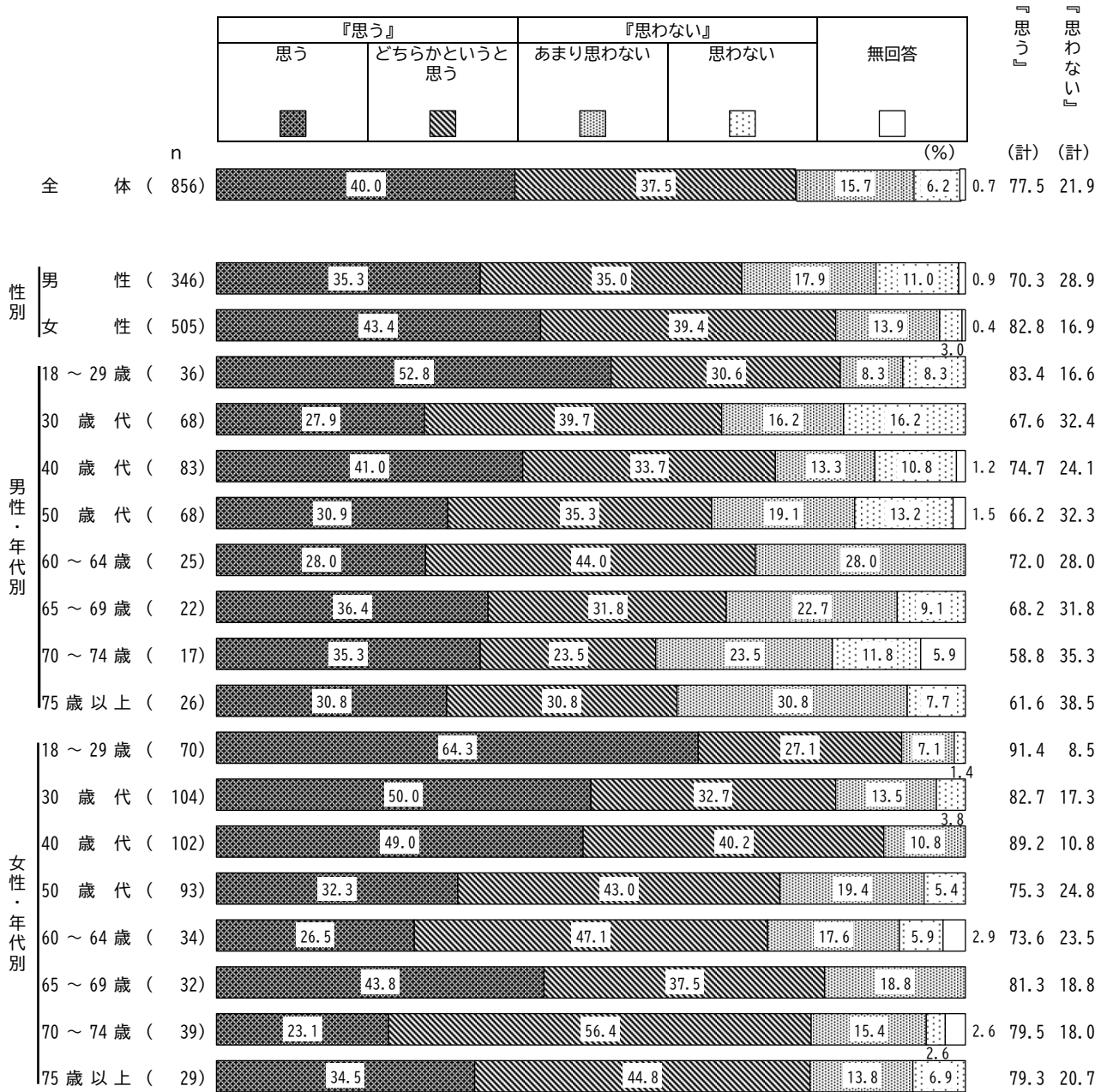
図 14-4-1 LGBTsについて正しく理解したいと思うか



LGBTsについて正しく理解したいと思うかを聞いたところ、「思う」(40.0%)が4割と最も高く、これに「どちらかというと思う」(37.5%)を合わせた『思う』(77.5%)は7割台半ば超えとなっている。一方、「あまり思わない」(15.7%)と「思わない」(6.2%)を合わせた『思わない』(21.9%)は2割強となっている。(図 14-4-1)

性・年代別にみると、LGBTsについて正しく理解したいと『思う』は女性18～29歳(91.4%)で9割強と高くなっている。一方、LGBTsについて正しく理解したいと『思わない』は男性75歳以上(38.5%)で4割近くと高くなっている。(図14-4-2)

図14-4-2 LGBTsについて正しく理解したいと思うか(性・年代別)



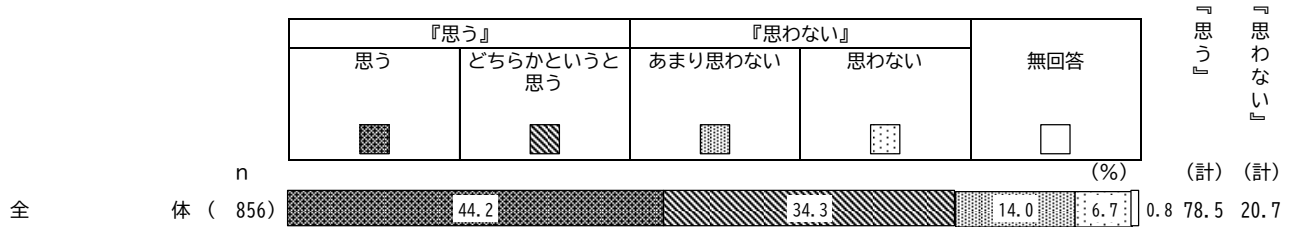


(5) 同性のパートナーの権利について

◇同性のパートナーの権利が認められるべきだと『思う』は8割近く

問47 同性のパートナーにも異性のパートナーと同等の権利が認められるべきだと思いますか。  
(○は1つ)

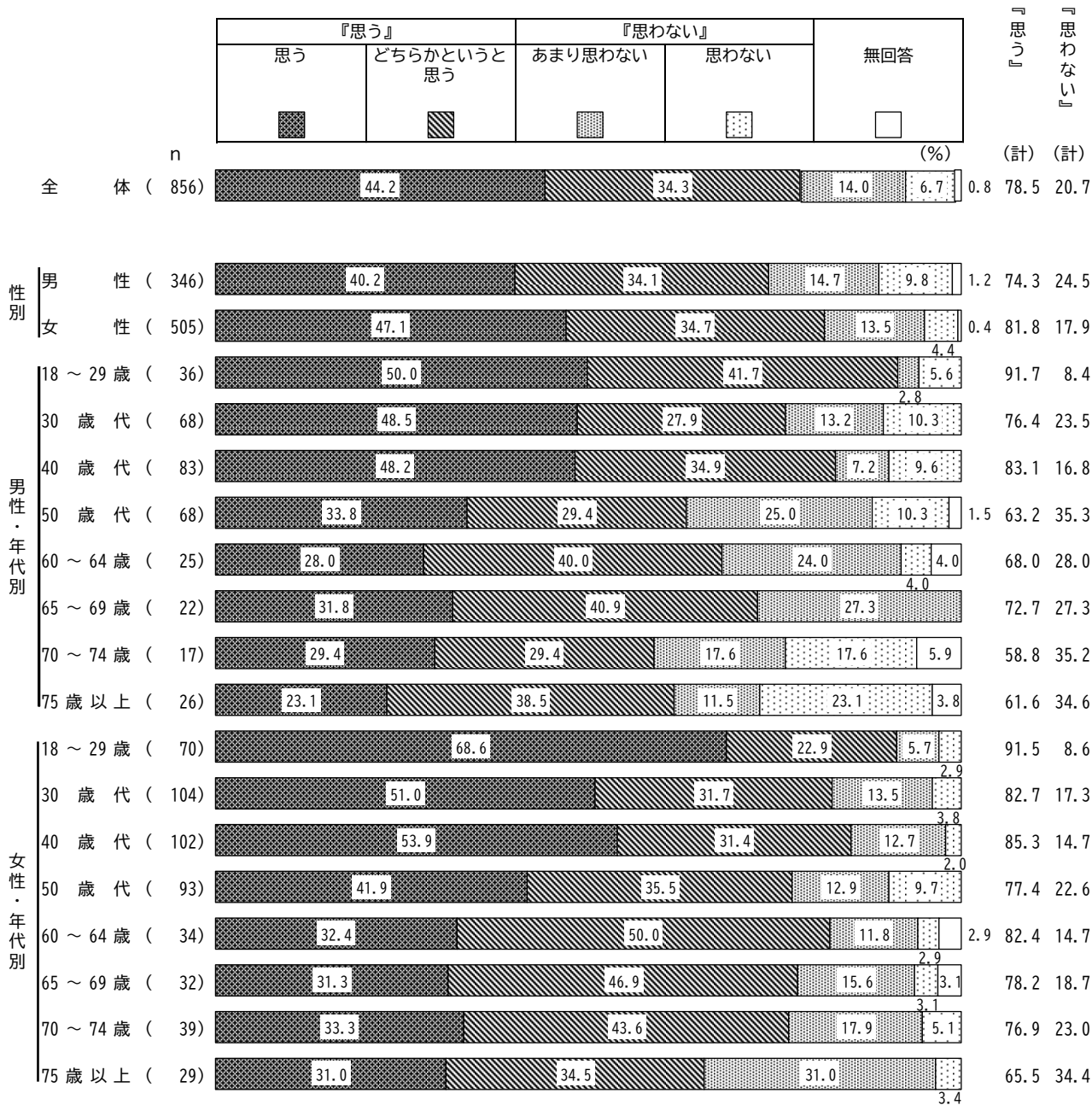
図 14-5-1 同性のパートナーの権利について



同性のパートナーにも異性のパートナーと同等の権利が認められるべきだと思うかを聞いたところ、「思う」(44.2%)が4割台半ば近くと最も高く、これに「どちらかというと思う」(34.3%)を合わせた『思う』(78.5%)は8割近くとなっている。一方、「あまり思わない」(14.0%)と「思わない」(6.7%)を合わせた『思わない』(20.7%)は約2割となっている。(図 14-5-1)

性・年代別にみると、同性のパートナーの権利が認められるべきだと『思う』は男性 18～29 歳（91.7%）、女性 18～29 歳（91.5%）で 9 割強と高くなっている。一方、同性のパートナーの権利が認められるべきだと『思わない』は男性 50 歳代（35.3%）、男性 70～74 歳（35.2%）で 3 割台半ばと高くなっている。（図 14-5-2）

図 14-5-2 同性のパートナーの権利について（性・年代別）



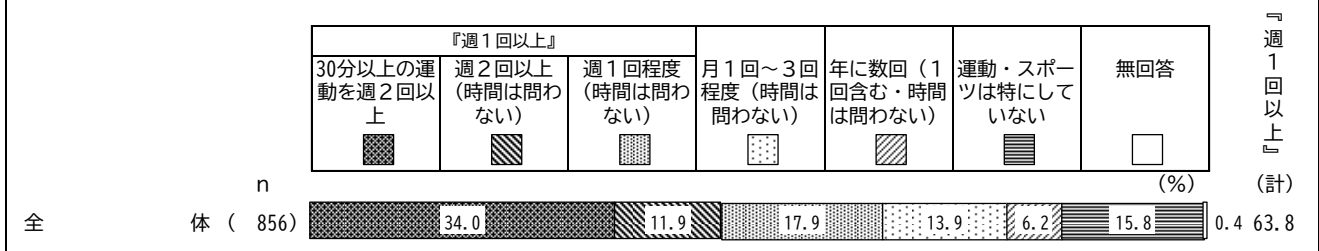
## 15. スポーツ実施率

### (1) 運動・スポーツを行う頻度

◇『週1回以上』が6割台半ば近く

問48 あなたは、この1年間で、散歩やウォーキングを含めてどの程度運動・スポーツを行いましたか。(○は1つ)

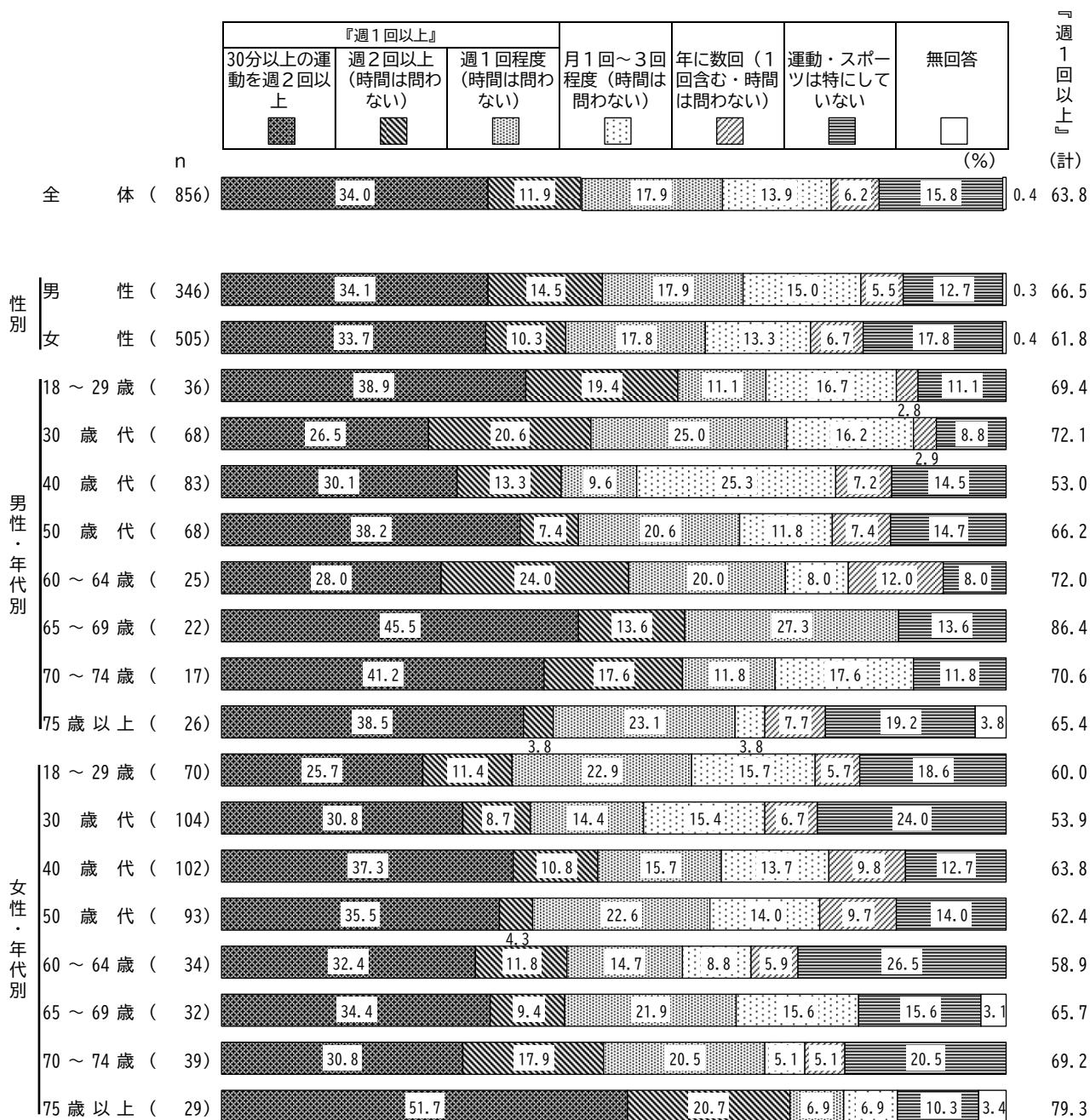
図 15-1-1 運動・スポーツを行う頻度



この1年間で、散歩やウォーキングを含めてどの程度運動・スポーツを行ったかを聞いたところ、「30分以上の運動を週2回以上」(34.0%)が3割台半ば近くと最も高く、これに「週2回以上(時間は問わない)」(11.9%)と「週1回程度(時間は問わない)」(17.9%)を合わせた『週1回以上』(63.8%)は6割台半ば近くとなっている。(図15-1-1)

性・年代別にみると、『週1回以上』は男性65～69歳（86.4%）で8割台半ばを超えと高くなっている。（図15-1-2）

図15-1-2 運動・スポーツを行う頻度（性・年代別）



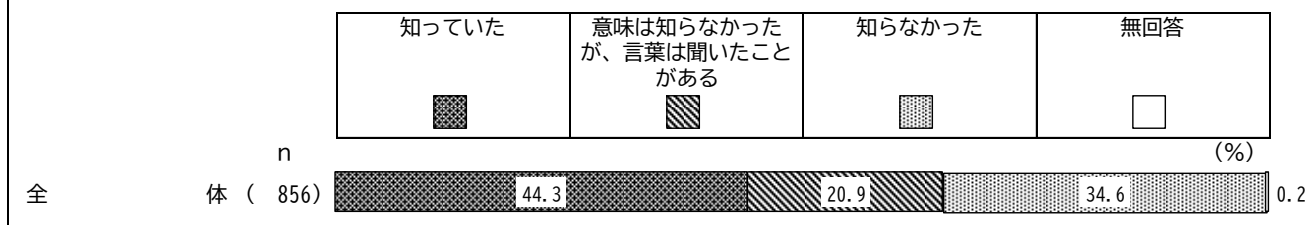
## 16. 生物多様性

### (1) 生物多様性という言葉の認知度

◇「知っていた」が4割台半ば近く

問49 あなたは、生物多様性という言葉の意味を知っていましたか。(○は1つ)

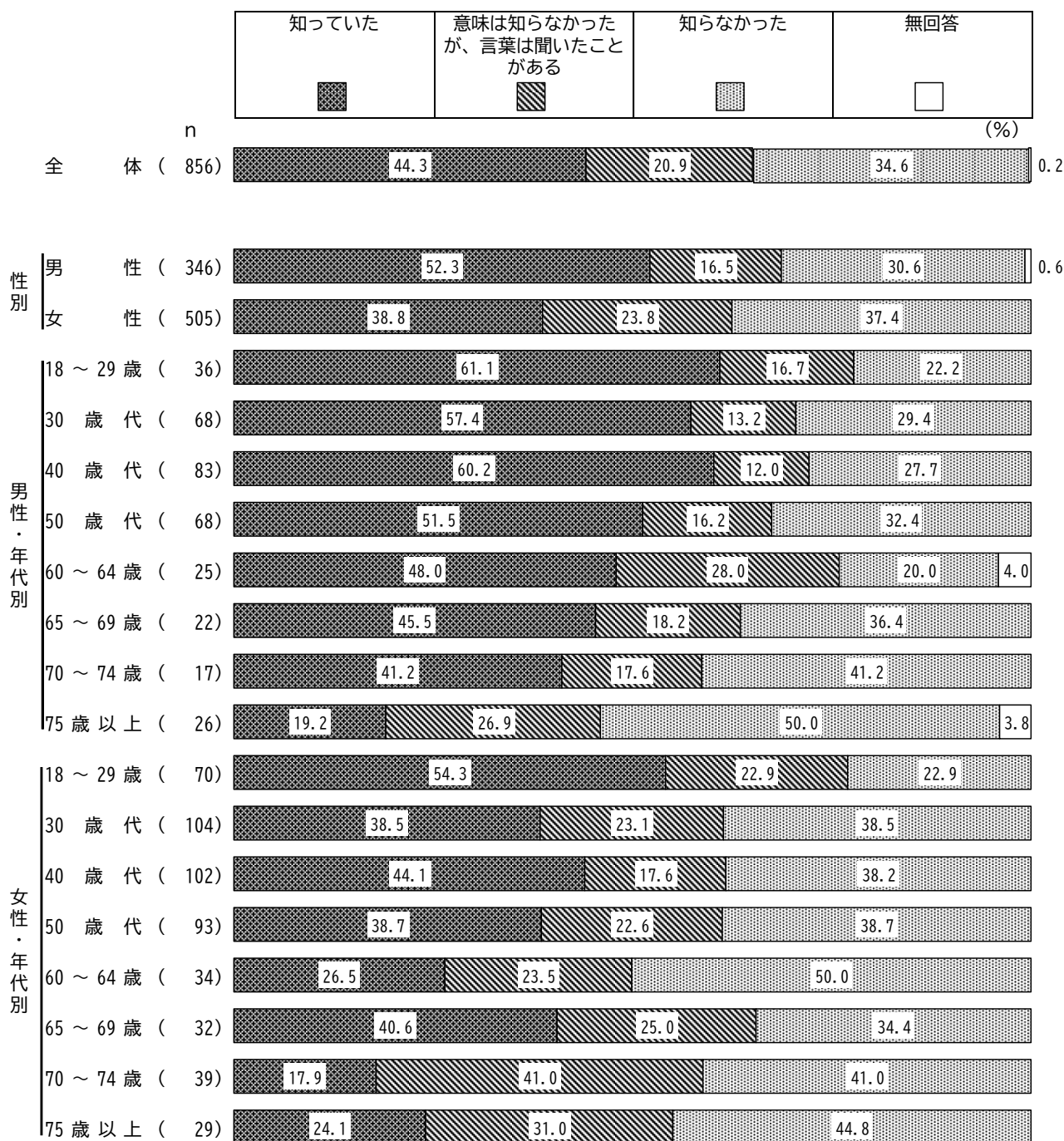
図 16-1-1 生物多様性という言葉の認知度



生物多様性という言葉の認知度について聞いたところ、「知っていた」(44.3%)が4割台半ば近くで最も高く、次いで「知らなかった」(34.6%)が3割台半ば近く、「意味は知らなかったが、言葉は聞いたことがある」(20.9%)が約2割となっている。(図 16-1-1)

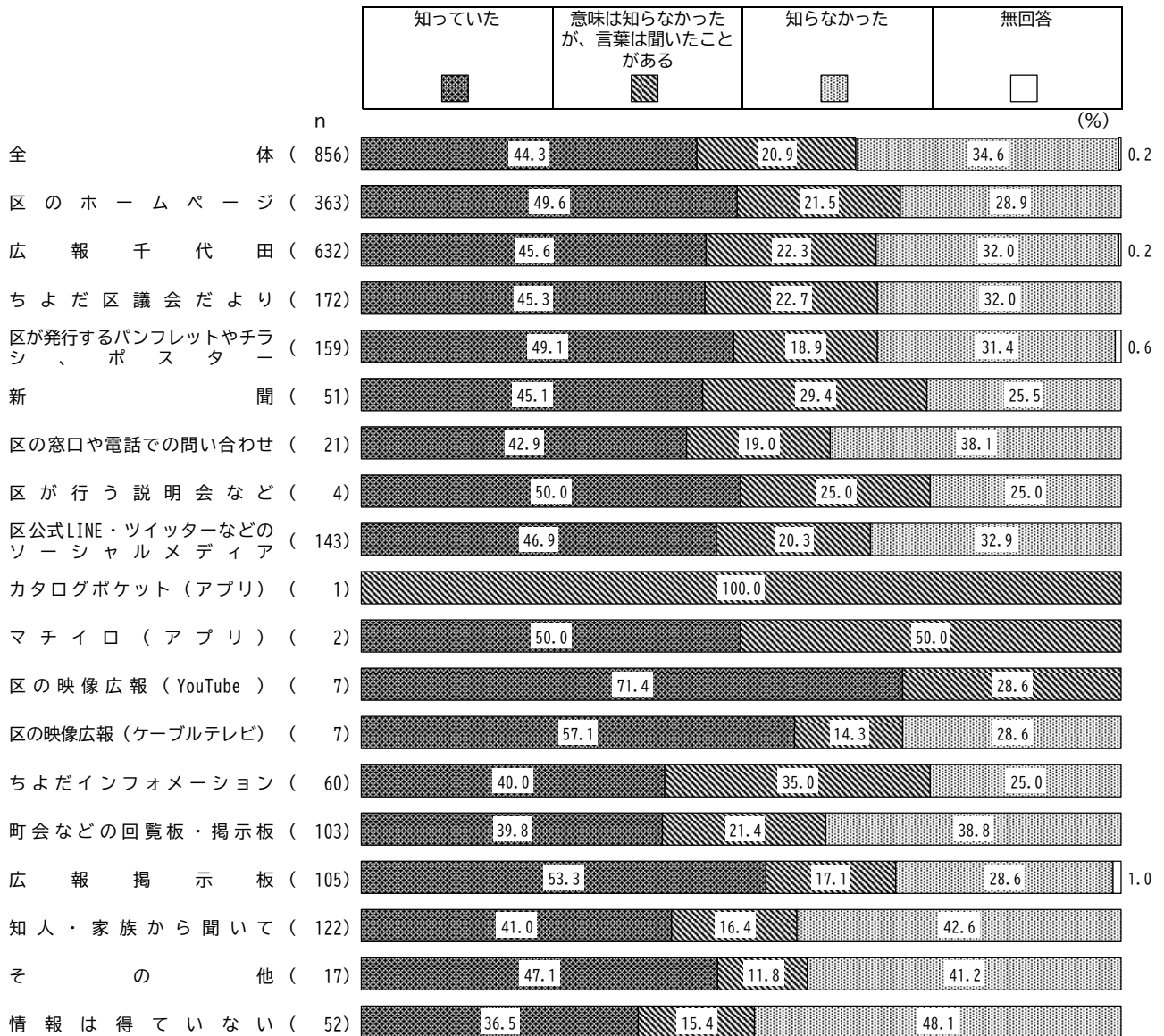
性・年代別にみると、生物多様性という言葉「知っていた」方の割合は男性 18～29 歳（61.1%）で6割強と高くなっている。一方、生物多様性という言葉「知らなかった」方の割合は男性 75 歳以上、女性 60～64 歳（50.0%）で5割と高くなっている。（図 16-1-2）

図 16-1-2 生物多様性という言葉の認知度（性・年代別）



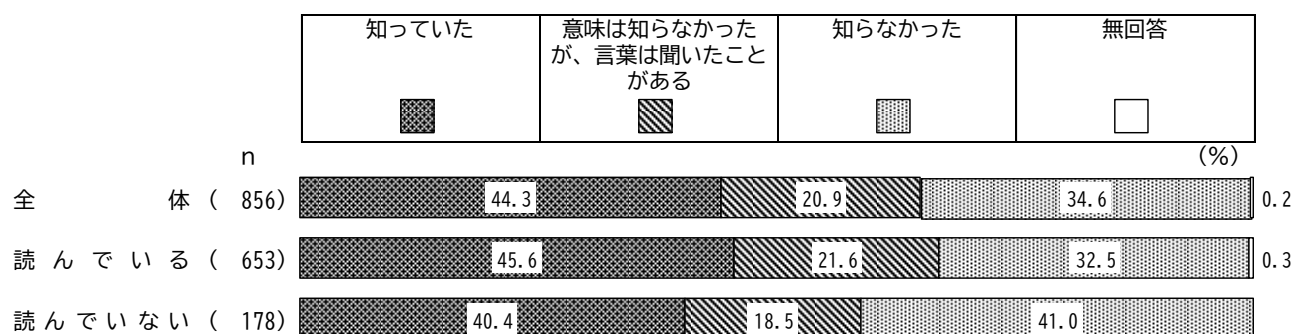
区政情報の取得媒体別にみると、生物多様性という言葉を知っていた方の割合は広報掲示板から区政情報を取得している方の中（53.3%）で5割台半ば近くと高くなっている。一方、生物多様性という言葉を知らなかった方の割合は区政に関する情報は得ていない方の中（48.1%）で5割近くと高くなっている。（図16-1-3）

図16-1-3 生物多様性という言葉の認知度（区政情報の取得媒体別）



広報千代田の閲読の有無別にみると、生物多様性という言葉を知らなかった方の割合は広報千代田を読んでいない方の中（41.0%）で4割強とやや高くなっている。（図16-1-4）

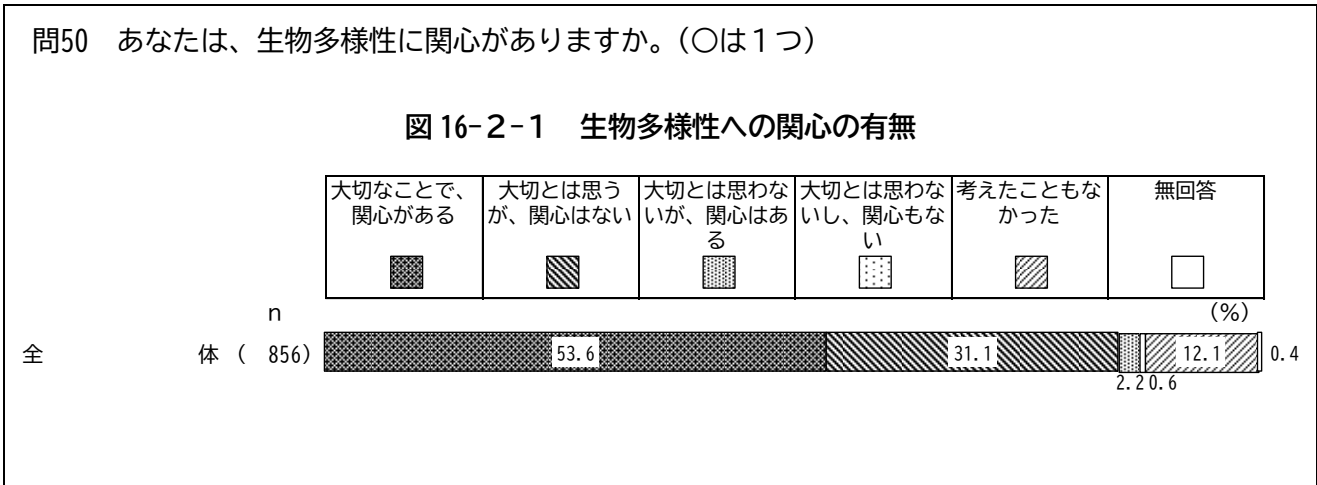
図16-1-4 生物多様性という言葉の認知度（広報千代田の閲読の有無別）





(2) 生物多様性への関心の有無

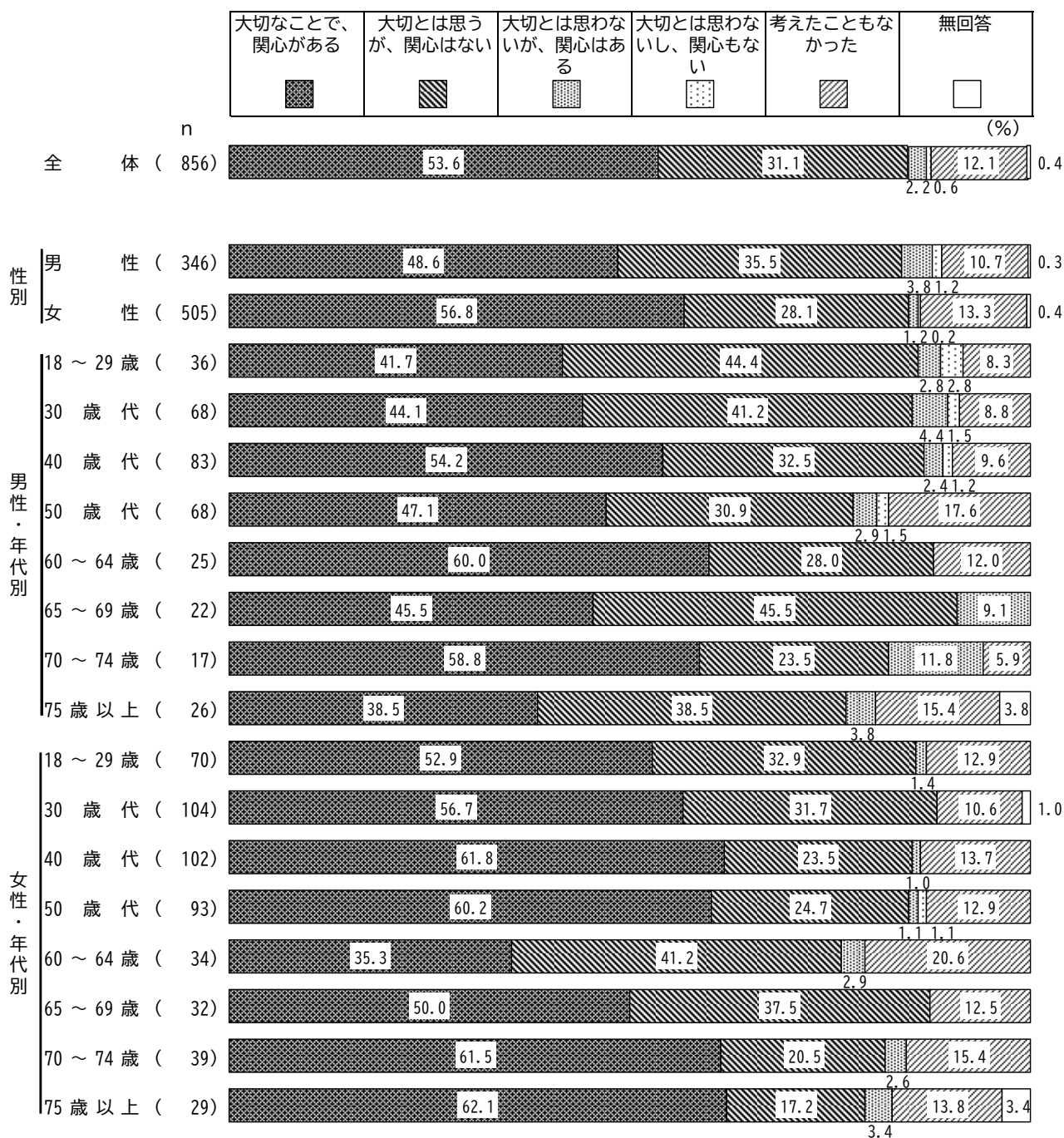
◇「大切なことで、関心がある」が5割台半ば近く



生物多様性への関心の有無について聞いたところ、「大切なことで、関心がある」(53.6%)が5割台半ば近くと最も高く、次いで「大切とは思うが、関心はない」(31.1%)が3割強、「考えたこともなかった」(12.1%)が1割強と続いている。(図 16-2-1)

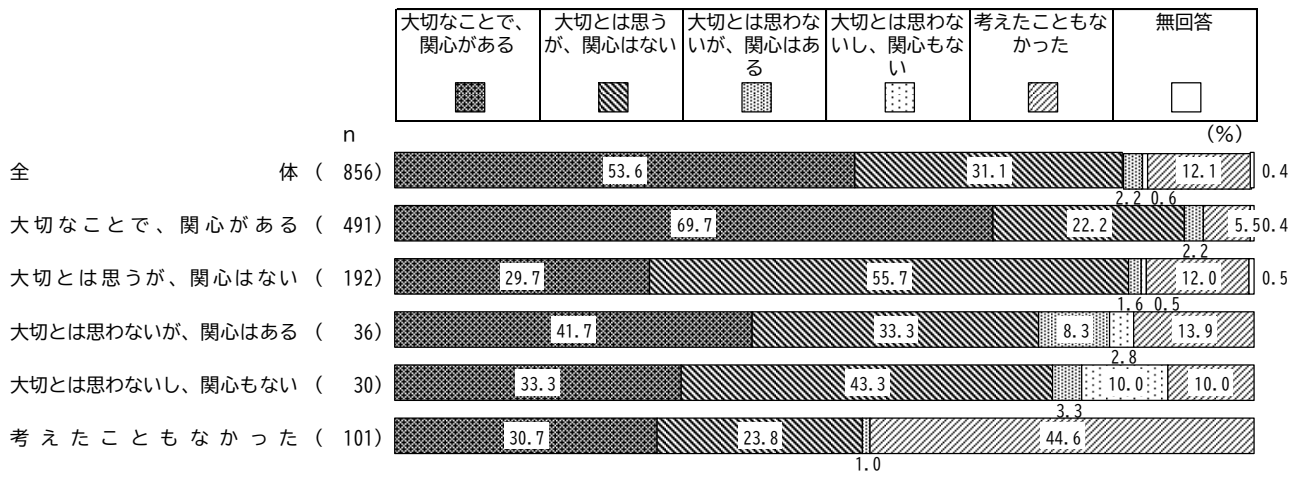
性・年代別にみると、「大切なことで、関心がある」は女性 40 歳代(61.8%)、女性 70～74 歳(61.5%)で6割強と高くなっている。(図 16-2-2)

図 16-2-2 生物多様性への関心の有無(性・年代別)



脱炭素社会への関心の有無別にみると、生物多様性について「大切なことで、関心がある」と答えた方の割合は脱炭素社会を大切なことで、関心があると答えた方（69.7%）で7割弱と高くなっている。（図 16-2-3）

図 16-2-3 生物多様性への関心の有無（脱炭素社会への関心の有無別）

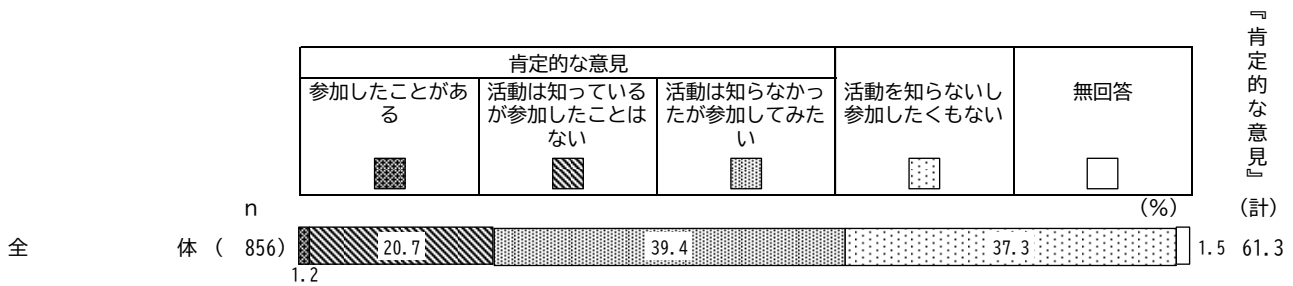


(3) 生物多様性の保全活動等への参加経験

◇『肯定的な意見』が6割強

問51 区では生物多様性の保全活動や緑地の維持管理活動に区民が積極的に参加することを推進しています。あなたは、区内の緑地の維持管理活動や生物多様性の保全活動に参加したことがありますか。参加したことがある方は、参加した活動名や場所等を具体的にご記入ください。  
(○は1つ)

図 16-3-1 生物多様性の保全活動等への参加経験

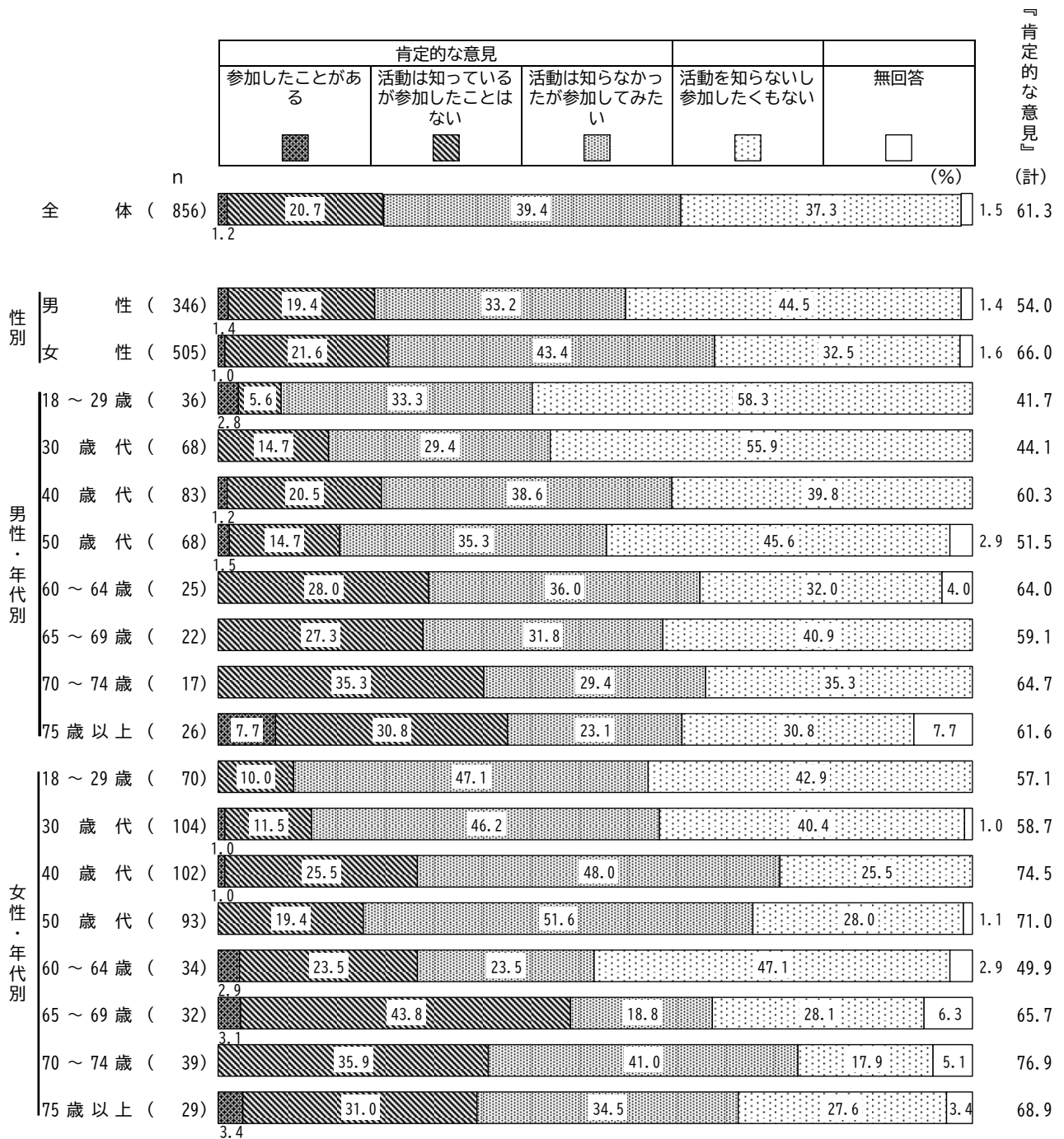


生物多様性の保全活動等への参加経験について聞いたところ、「参加したことがある」(1.2%)、「活動は知っているが参加したことはない」(20.7%)、「活動は知らなかったが参加してみたい」(39.4%)を合わせた『肯定的な意見』(61.3%)が6割強となっている。一方、「活動を知らないし参加したくない」(37.3%)は3割台半ばを超えている。(図 16-3-1)

「参加したことがある」と回答した方のうち、具体的な活動名や場所などを回答した方は6人おり、主な活動として「皇居のまわりのさくらの木の保護活動」、「ゴーヤ、ツルムラサキによる緑のカーテン」などが挙げられている。

性・年代別にみると、『肯定的な意見』は女性 70～74 歳（76.9%）、女性 40 歳代（74.5%）、女性 50 歳代（71.0%）で7割台と高くなっている。（図 16-3-2）

図 16-3-2 生物多様性の保全活動等への参加経験（性・年代別）

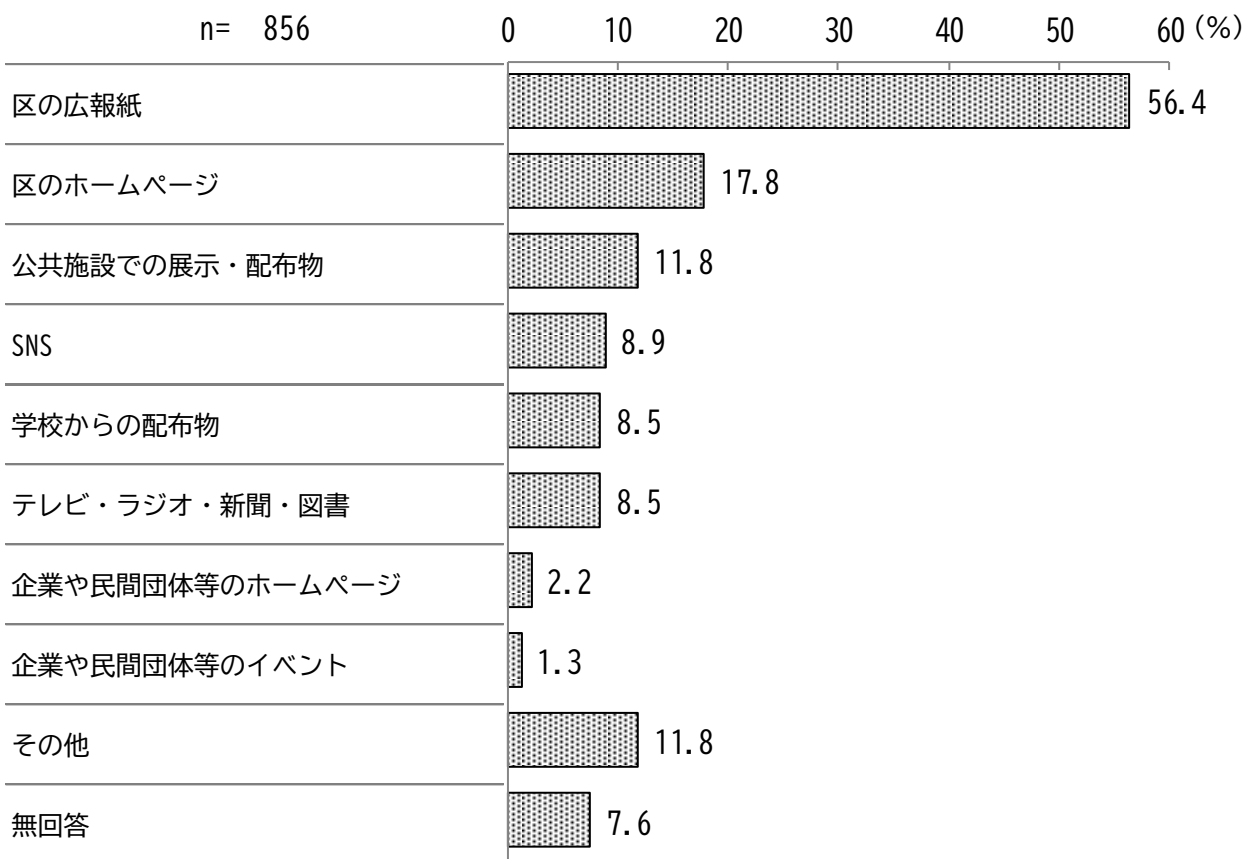


#### (4) 区内の生物多様性に関する情報の取得媒体

◇「区の広報紙」が5割台半ば超え

問52 あなたは、区内の生物多様性に関する情報（生きもの、環境イベント、取り組み・活動など）は主に何で知りますか。（○はいくつでも）

図 16-4-1 区内の生物多様性に関する情報の取得媒体



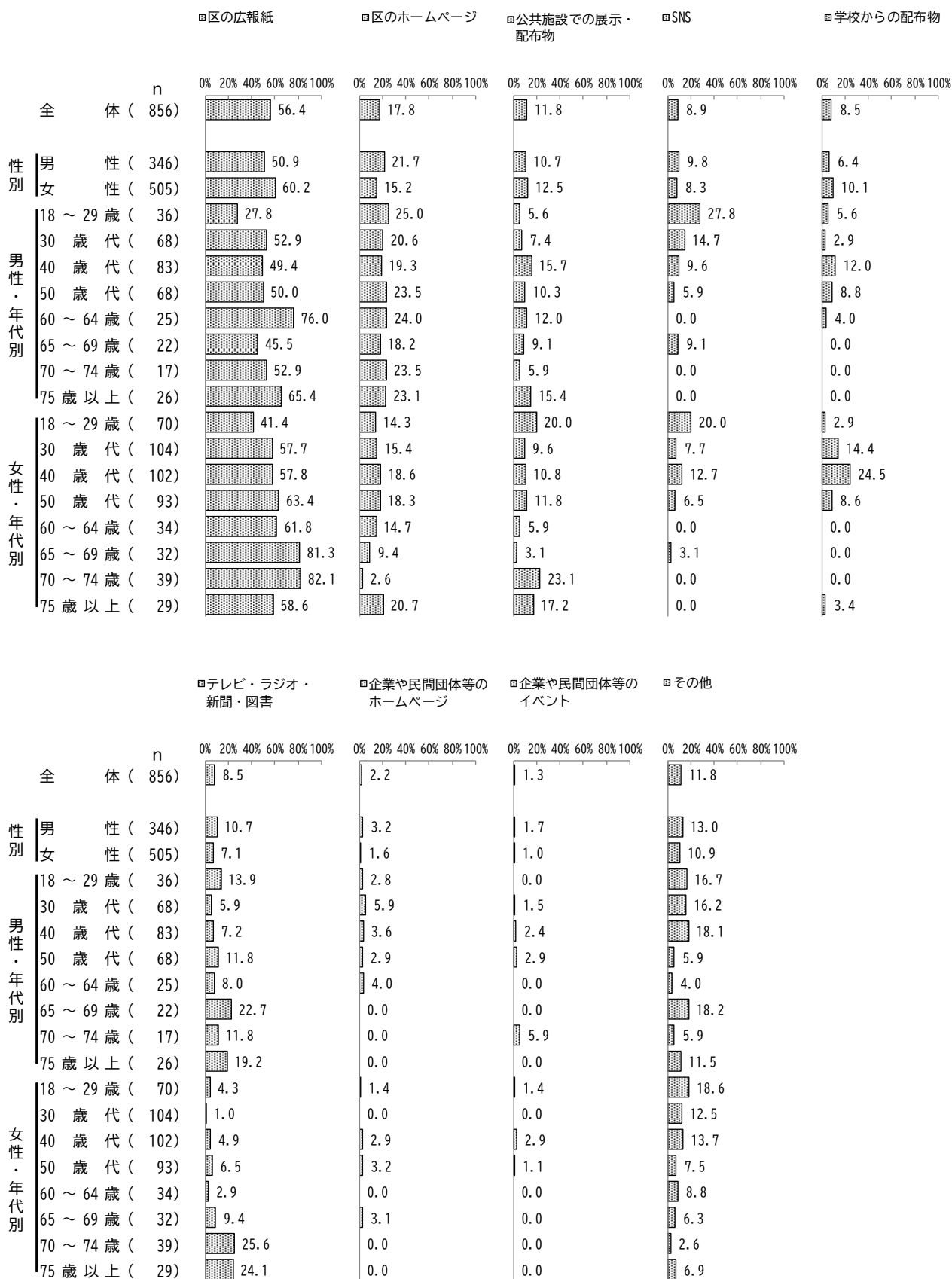
区内の生物多様性に関する情報の取得媒体について聞いたところ、「区の広報紙」（56.4%）が5割台半ば超えと最も高く、次いで「区のホームページ」（17.8%）が1割台半ば超え、「公共施設での展示・配布物」（11.8%）が1割強と続いている。（図 16-4-1）

その他を回答した方は101人おり、主な意見として「掲示板」、「家族から聞く」などが挙げられている。

性・年代別にみると、「区の広報紙」は女性70～74歳（82.1%）、女性65～69歳（81.3%）で8割強と高くなっている。また、SNSは男性18～29歳（27.8%）で2割台半ばを超えと高くなっている。

（図 16-4-2）

図 16-4-2 区内の生物多様性に関する情報の取得媒体（性・年代別）



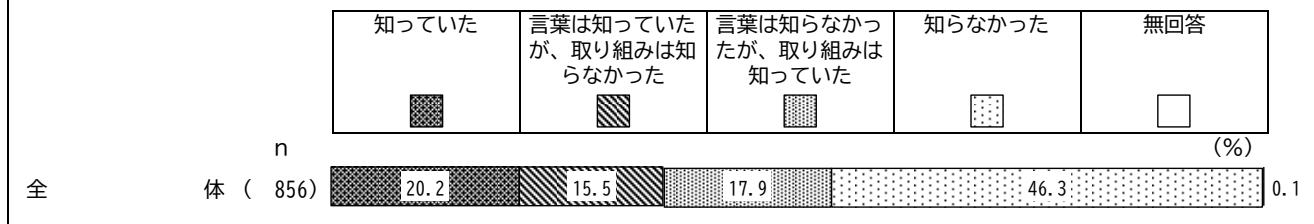
## 17. 気候変動適応

### (1) 「適応策」の認知度

◇「知らなかった」が4割台半ば超え

問53 地球温暖化の対策として、原因となる温室効果ガスの排出を抑制する取り組みを「緩和策」といい、地球温暖化により生じる影響に対処し、被害をできる限り小さくする取り組みを「適応策」といいます。あなたは、この「適応策」という言葉やその取り組みを知っていましたか。

図 17-1-1 「適応策」の認知度

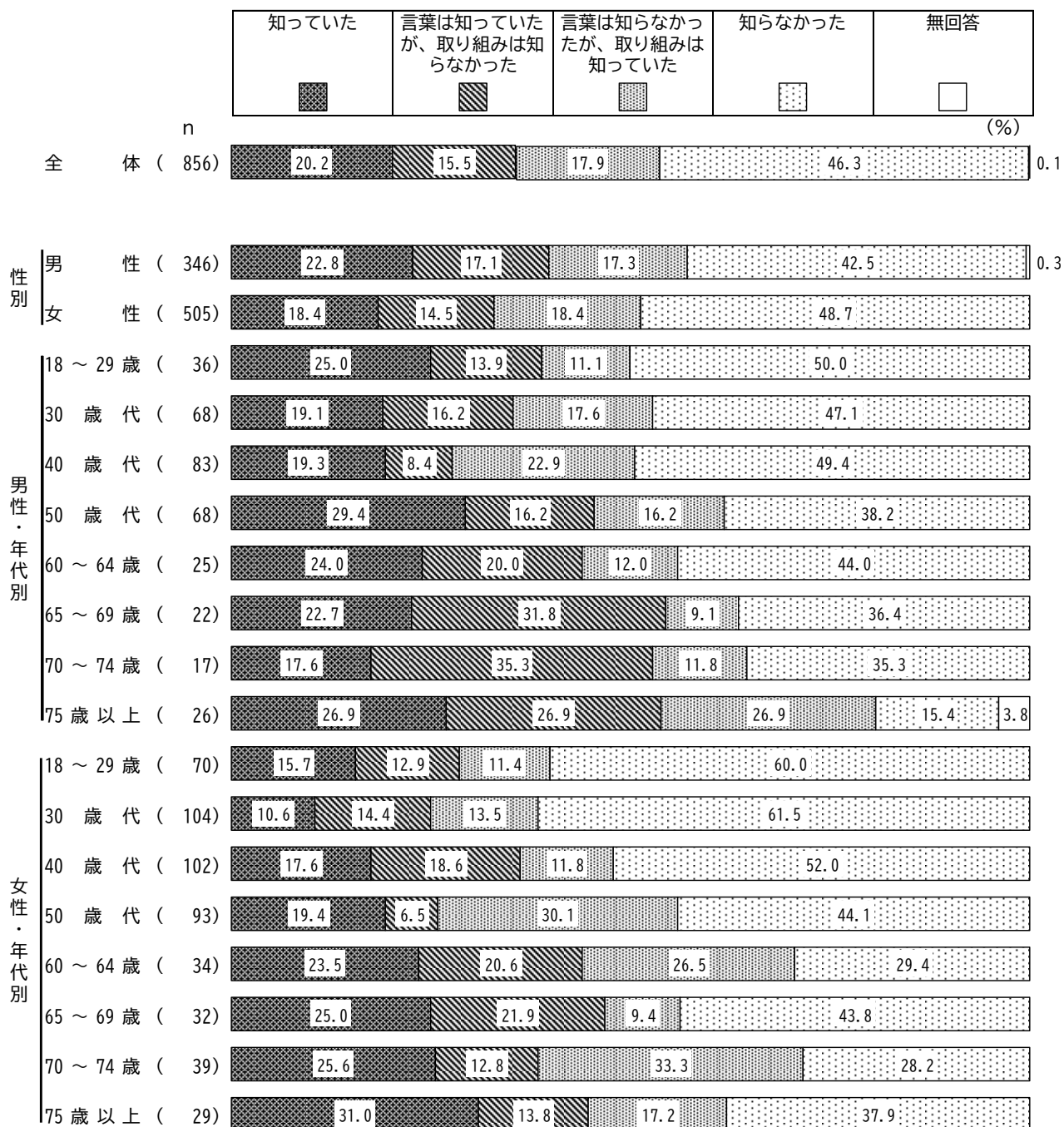


「適応策」の認知度について聞いたところ、「知らなかった」(46.3%)が4割台半ば超えと最も高く、次いで「知っていた」(20.2%)が約2割、「言葉は知らなかったが、取り組みは知っていた」(17.9%)が1割台半ば超え、「言葉は知っていたが、取り組みは知らなかった」(15.5%)が1割台半ばとなっている。(図 17-1-1)



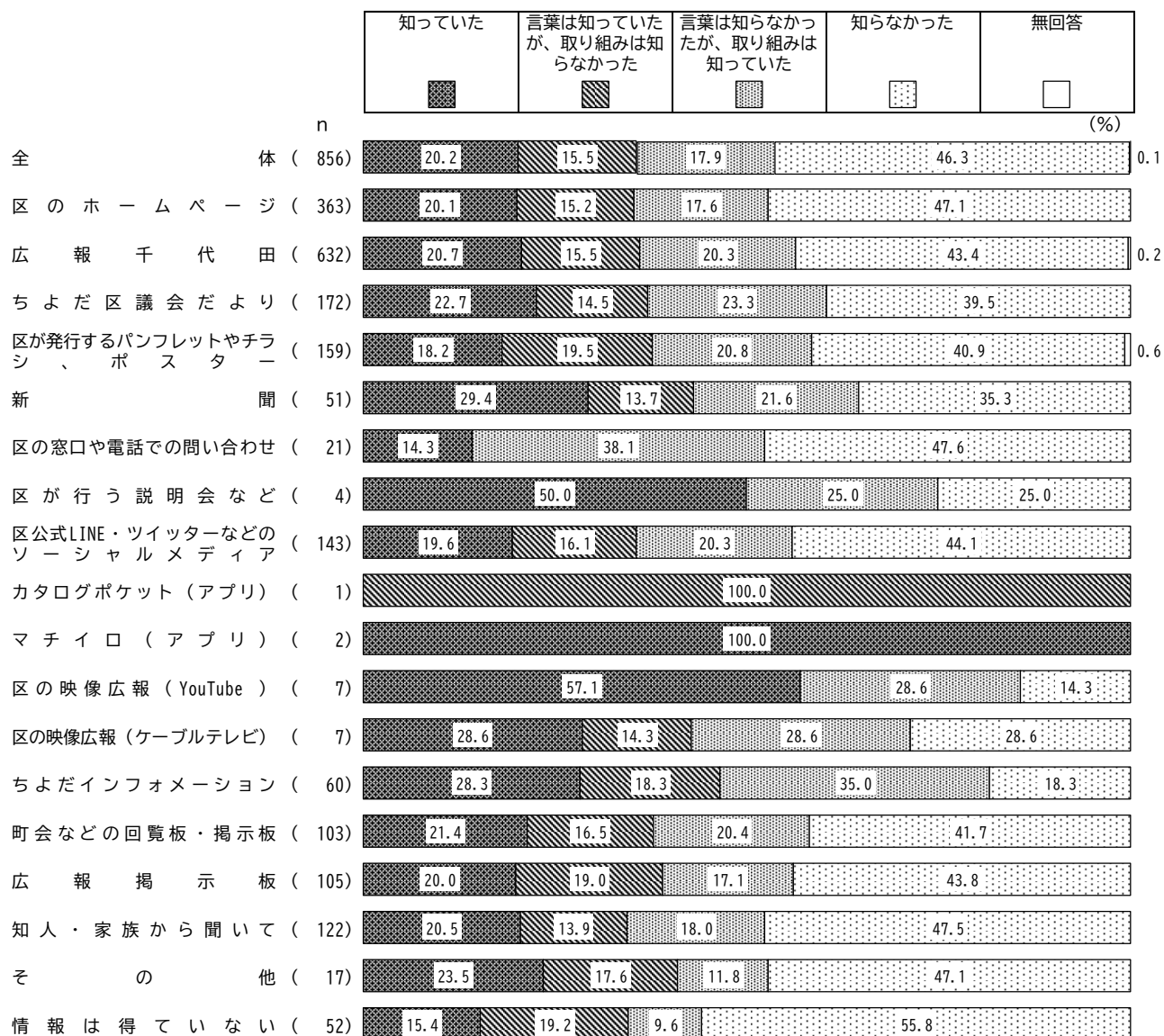
性・年代別にみると、適応策を「知らなかった」方の割合は女性 30 歳代（61.5%）で6割強と高くなっている。また、適応策を「知っていた」方の割合は女性 75 歳以上（31.0%）で3割強と高くなっている。（図 17-1-2）

図 17-1-2 「適応策」の認知度（性・年代別）



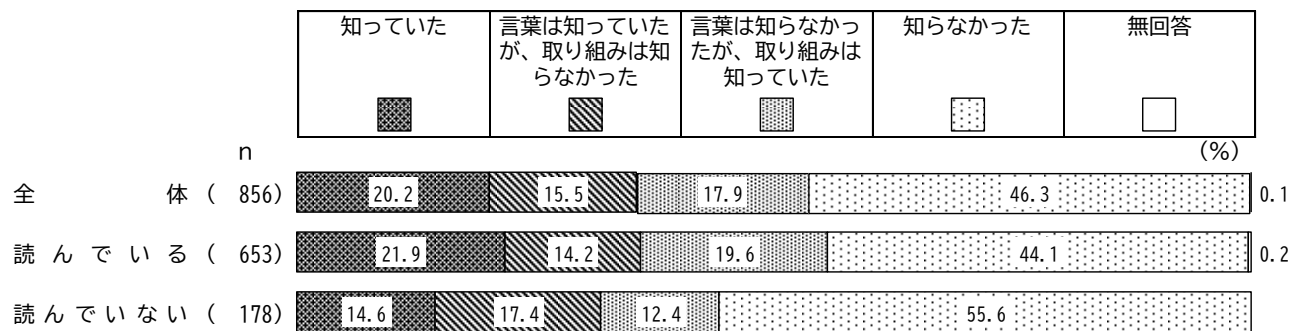
区政情報の取得媒体別にみると、適応策を「知っていた」方の割合は新聞から区政情報を取得している方の中（29.4%）で3割弱と高くなっている。（図 17-1-3）

図 17-1-3 「適応策」の認知度（区政情報の取得媒体別）



広報千代田の閲読の有無別にみると、適応策を「知らなかった」方の割合は広報千代田を読んでいない方の中（55.6%）で5割台半ばと高くなっている。（図17-1-4）

図17-1-4 「適応策」の認知度（広報千代田の閲読の有無別）

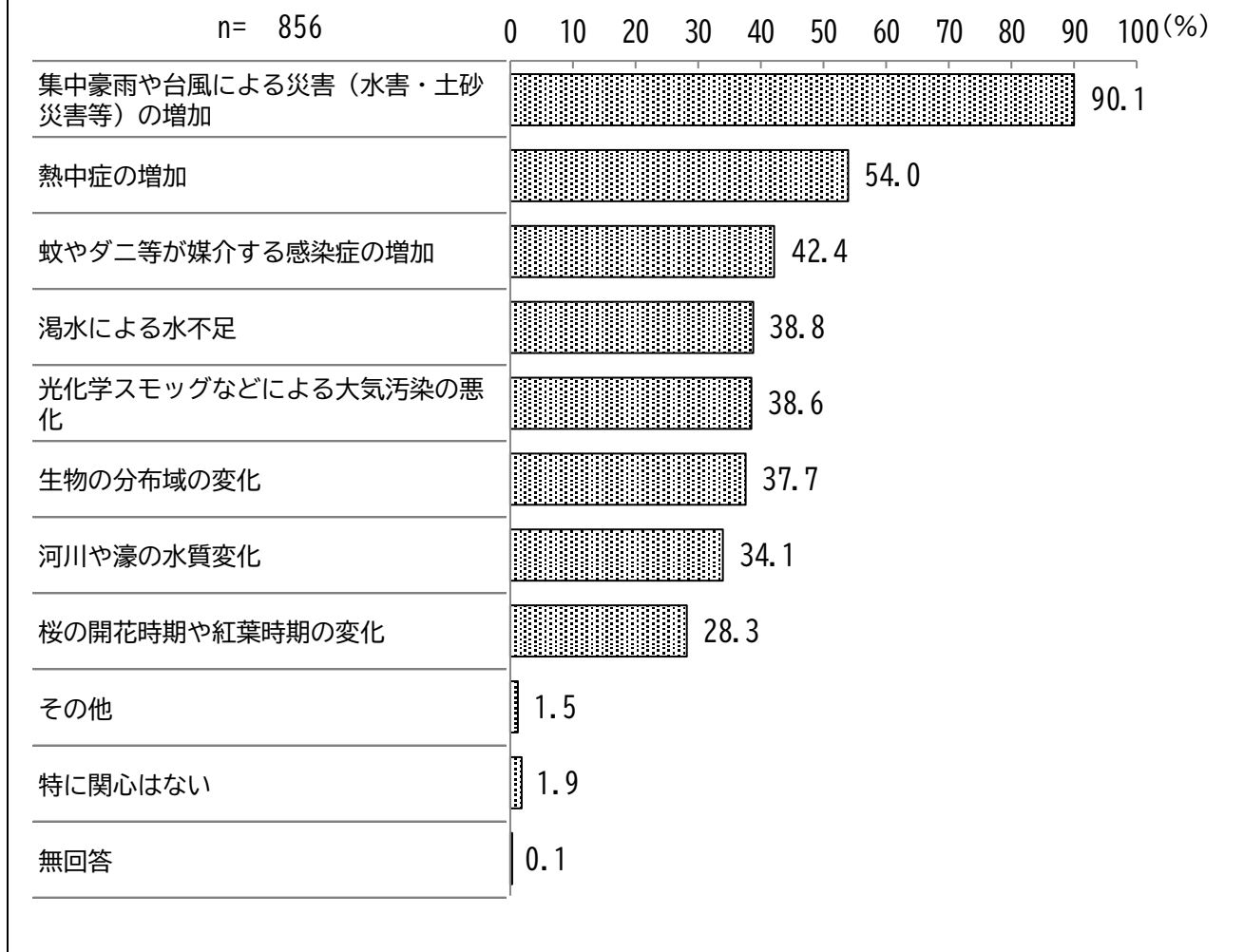


(2) 気候変動の影響について関心のあること

◇「集中豪雨や台風による災害（水害・土砂災害等）の増加」が約9割

問54 気候変動の影響について、あなたはどのようなことに関心がありますか。（○はいくつでも）

図 17-2-1 気候変動の影響について関心のあること

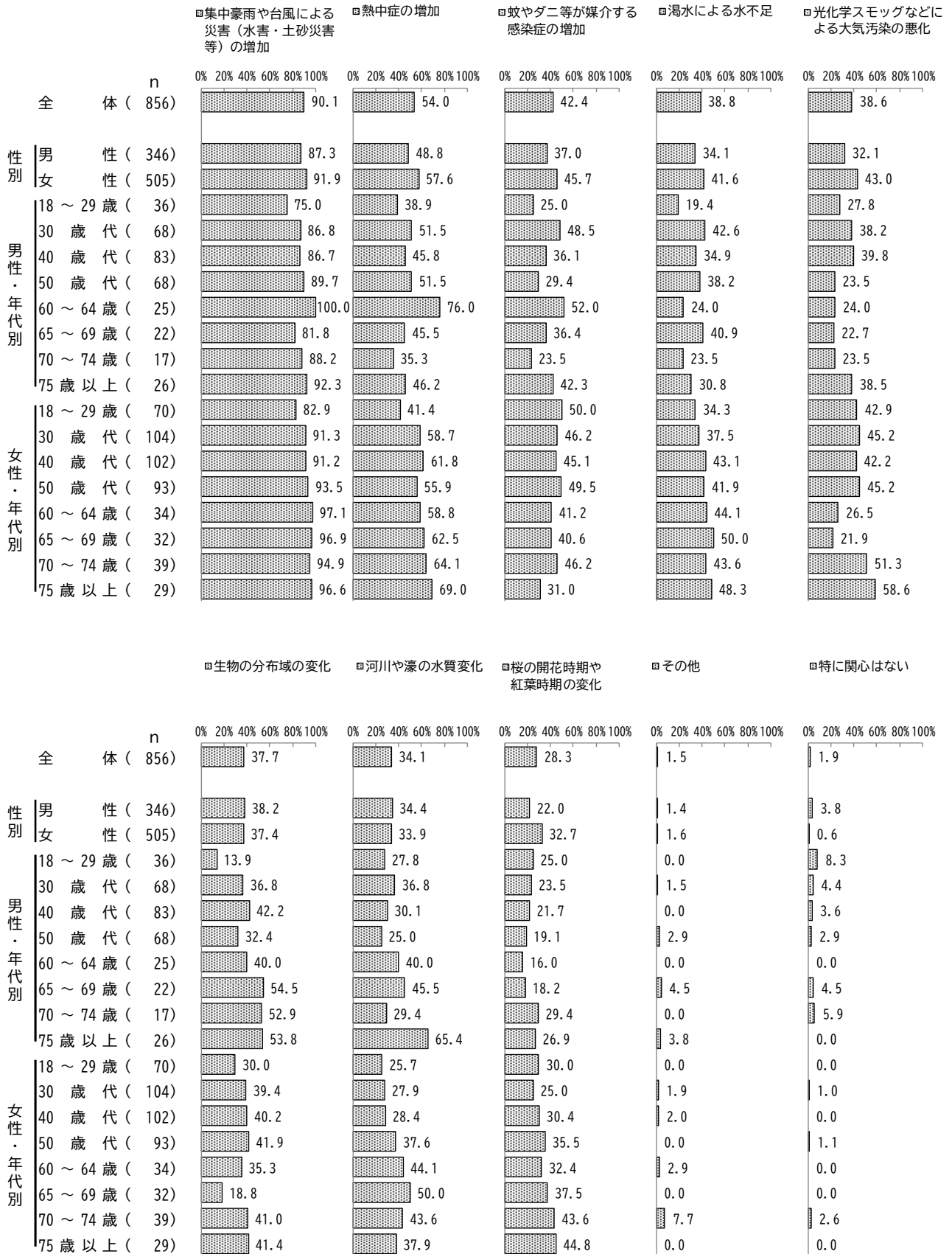


気候変動の影響について関心のあることを聞いたところ、「集中豪雨や台風による災害（水害・土砂災害等）の増加」（90.1%）が約9割と最も高く、次いで「熱中症の増加」（54.0%）が5割台半ば近く、「蚊やダニ等が媒介する感染症の増加」（42.4%）が4割強となっている。（図 17-2-1）

その他を回答した方は13人おり、主な意見として「食糧問題」、「経済活動への影響」、「海面上昇」、「人の精神面への影響（いろいろ等）」などが挙げられている。

性・年代別にみると、「熱中症の増加」は男性 60～64 歳（76.0%）で7割台半ばを超えと高くなっている。また、「渇水による水不足」は女性 65～69 歳（50.0%）で5割、「光化学スモッグなどによる大気汚染の悪化」は女性 75 歳以上（58.6%）で6割近くと高くなっている。（図 17-2-2）

図 17-2-2 気候変動の影響について関心のあること（性・年代別）

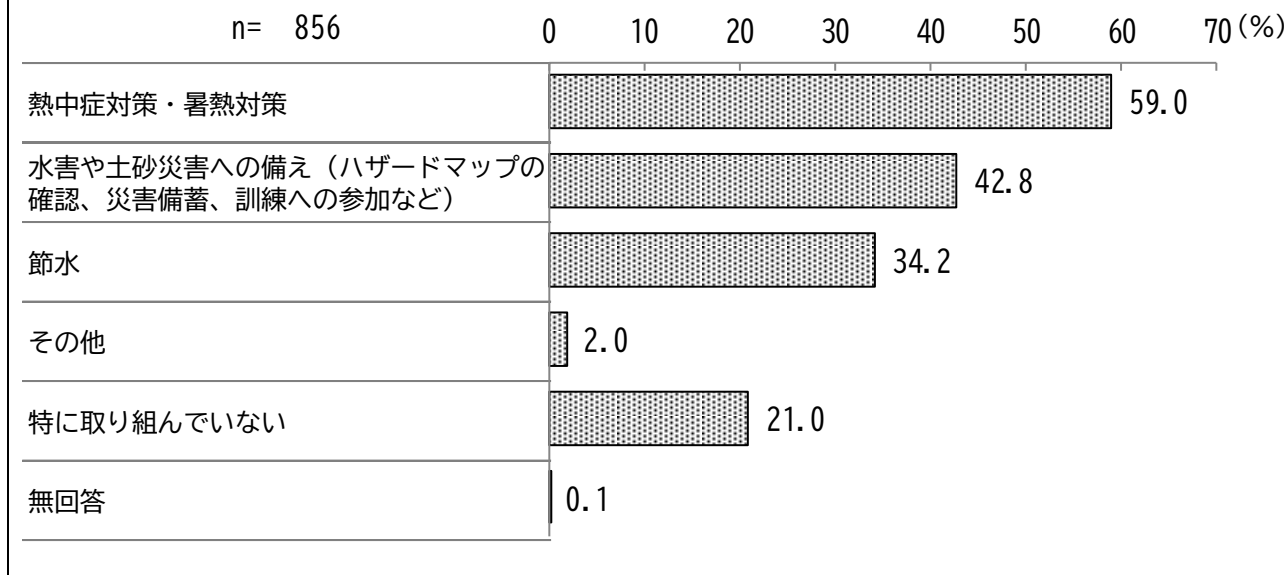


### (3) 気候変動への「適応策」で取り組んでいること

#### ◇「熱中症対策・暑熱対策」が6割弱

問55 あなたは気候変動への「適応策」にあたる行動で取り組んでいるものはありますか。  
(〇はいくつでも)

図 17-3-1 気候変動への「適応策」で取り組んでいること

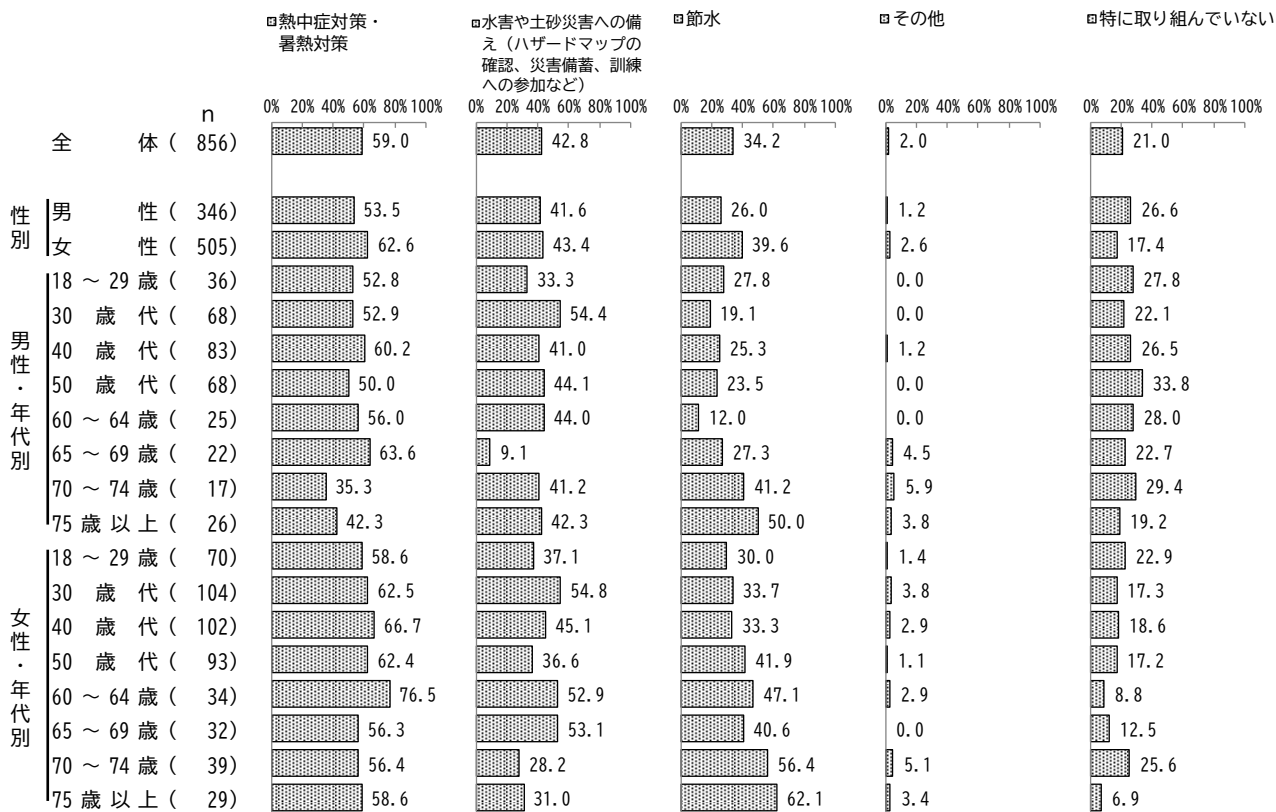


気候変動への「適応策」で取り組んでいることについて聞いたところ、「熱中症対策・暑熱対策」(59.0%)が6割弱と最も高く、次いで「水害や土砂災害への備え(ハザードマップの確認、災害備蓄、訓練への参加など)」(42.8%)、「節水」(34.2%)と続いている。一方、「特に取り組んでいない」(21.0%)は2割強となっている。(図 17-3-1)

その他を回答した方は17人おり、主な意見として「節電」、「リサイクル」、「ゴミの分別」、「レジ袋の再利用」などが挙げられている。

性・年代別にみると、「熱中症対策・暑熱対策」は女性 60～64 歳（76.5%）で7 台半ばを超えと高くなっている。また、「水害や土砂災害への備え（ハザードマップの確認、災害備蓄、訓練への参加など）」は女性 30 歳代（54.8%）、男性 30 歳代（54.4%）で5 割台半ば近く、「節水」は女性 75 歳以上（62.1%）で6 割強と高くなっている。（図 17-3-2）

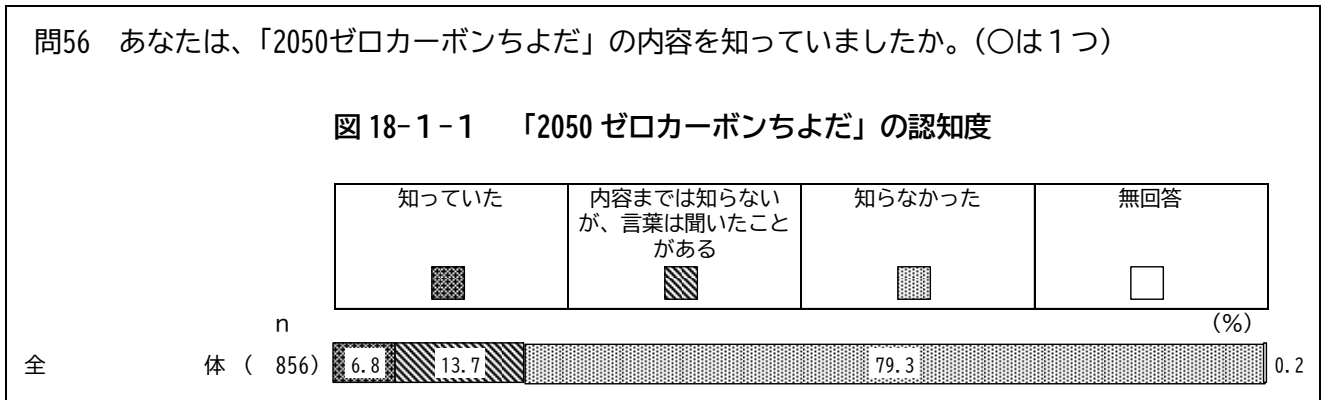
図 17-3-2 気候変動への「適応策」で取り組んでいること（性・年代別）



## 18. 2050ゼロカーボンちよだに向けた取り組み

### (1) 「2050ゼロカーボンちよだ」の認知度

◇ 「2050ゼロカーボンちよだ」の内容を「知らなかった」が8割弱



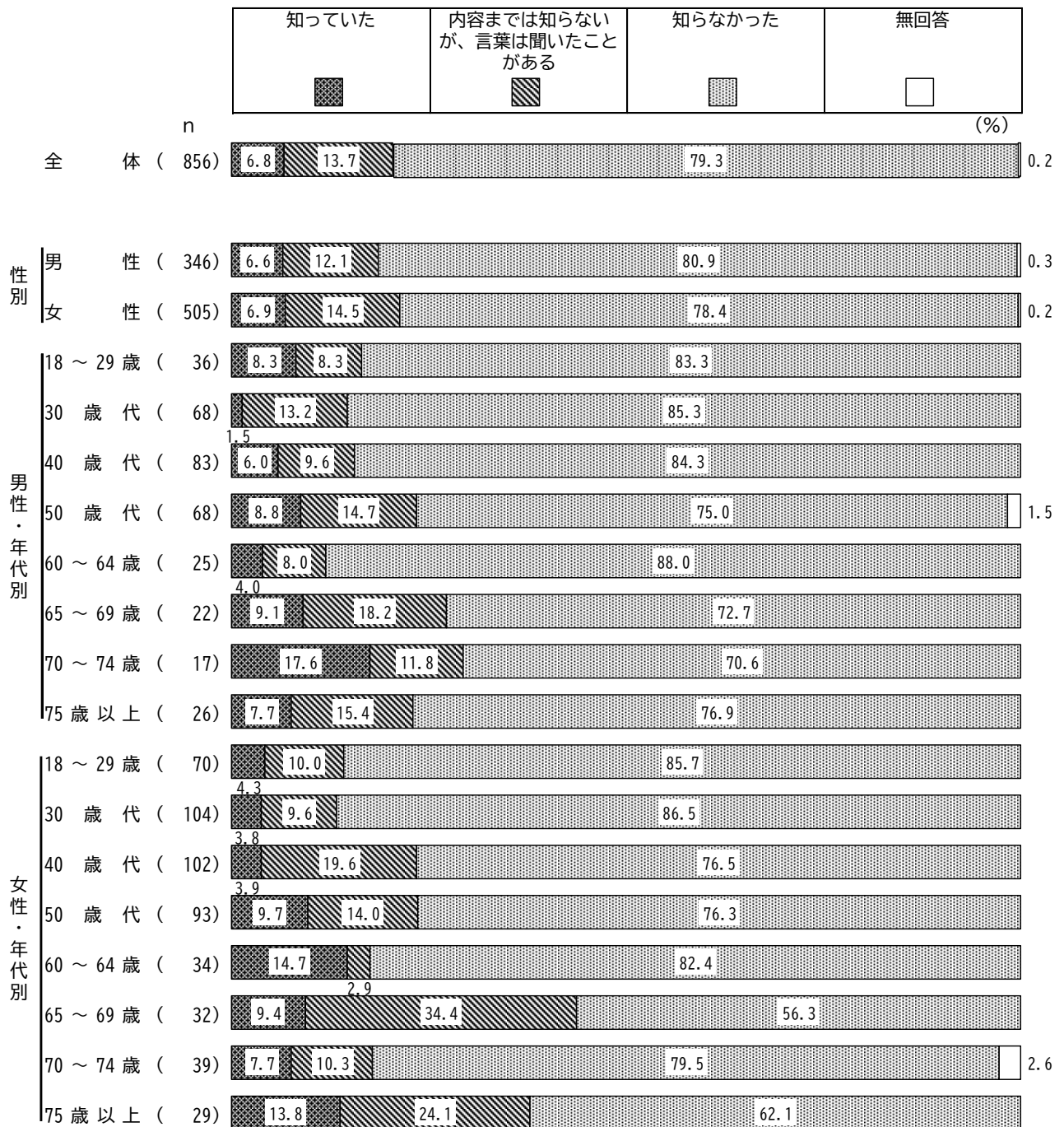
「2050ゼロカーボンちよだ」の認知度について聞いたところ、「知らなかった」(79.3%)が8割弱で最も高く、次いで「内容までは知らないが、言葉は聞いたことがある」(13.7%)、「知っていた」(6.8%)となっている。(図 18-1-1)



性・年代別にみると、「2050 ゼロカーボンちよだ」の内容を「知っていた」は男性 70～74 歳（17.6%）で 1 割台半ばを超えと高くなっている。また、「2050 ゼロカーボンちよだ」の「内容までは知らないが、言葉は聞いたことがある」は女性 65～69 歳（34.4%）で 3 割台半ば近くと高くなっている。

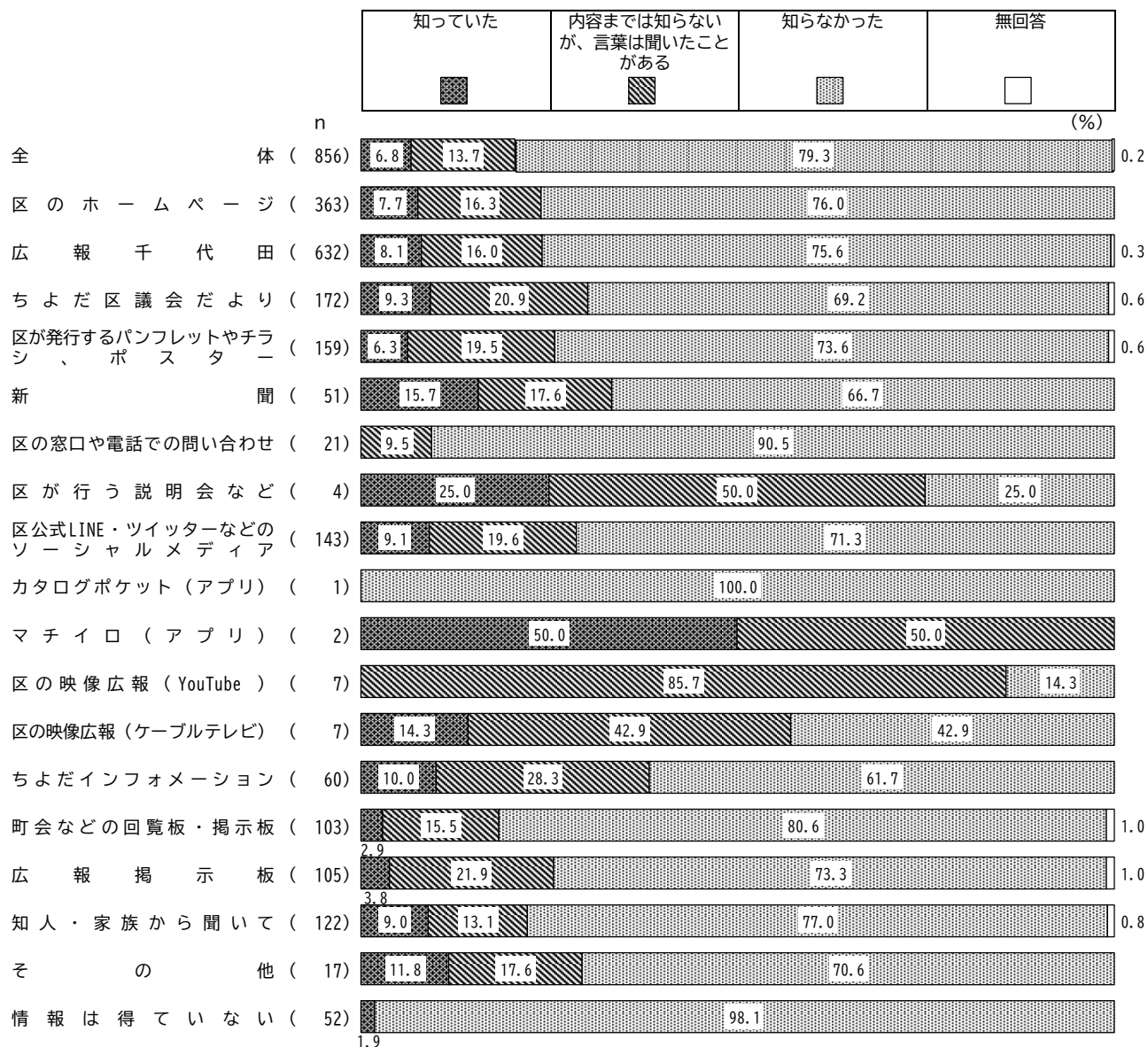
（図 18-1-2）

図 18-1-2 「2050 ゼロカーボンちよだ」の認知度（性・年代別）



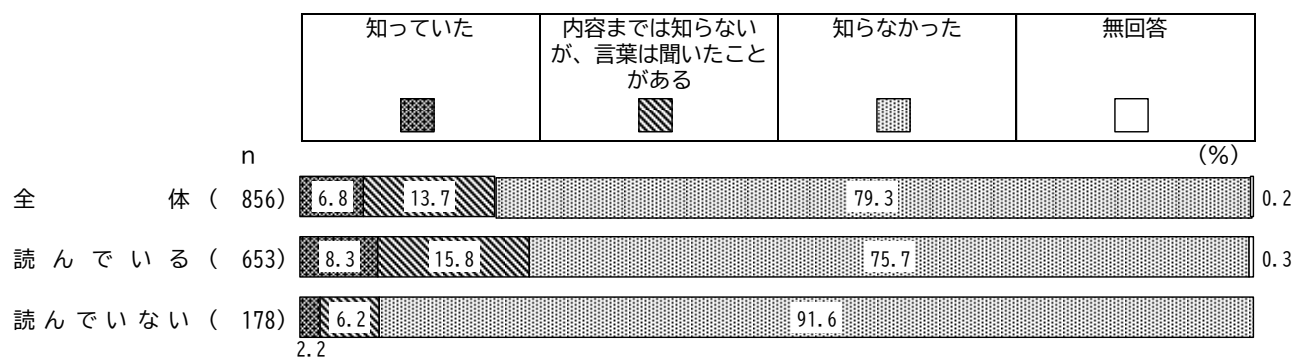
区政情報の取得媒体別にみると、「2050 ゼロカーボンちよだ」の内容を「知らなかった」と答えた方の割合は区政に関する情報は得ていない方の中（98.1%）で10割近く、区の窓口や電話での問い合わせから区政情報を取得している方の中（90.5%）で約9割と高くなっている。（図18-1-3）

図18-1-3 「2050 ゼロカーボンちよだ」の認知度（区政情報の取得媒体別）



広報千代田の閲読の有無別にみると、「2050 ゼロカーボンちよだ」の内容を「知らなかった」方の割合は広報千代田を読んでいない方の中（91.6%）で9割強と高くなっている。（図 18-1-4）

図 18-1-4 「2050 ゼロカーボンちよだ」の認知度（広報千代田の閲読の有無別）

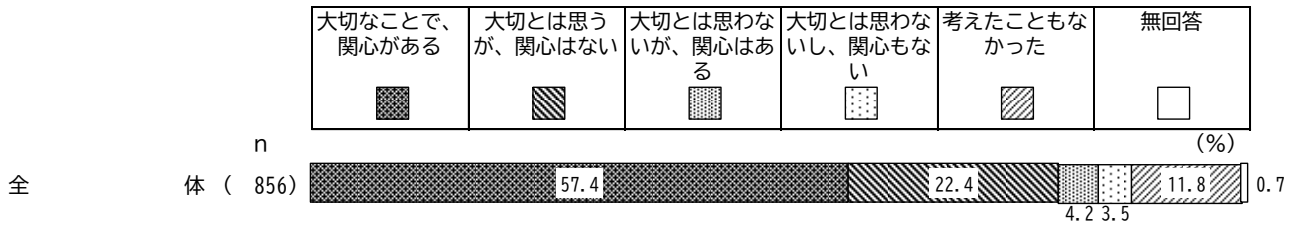


(2) 脱炭素社会への関心の有無

◇「大切なことで、関心がある」が5割台半ば超え

問57 あなたは、脱炭素社会に関心がありますか。(○は1つ)

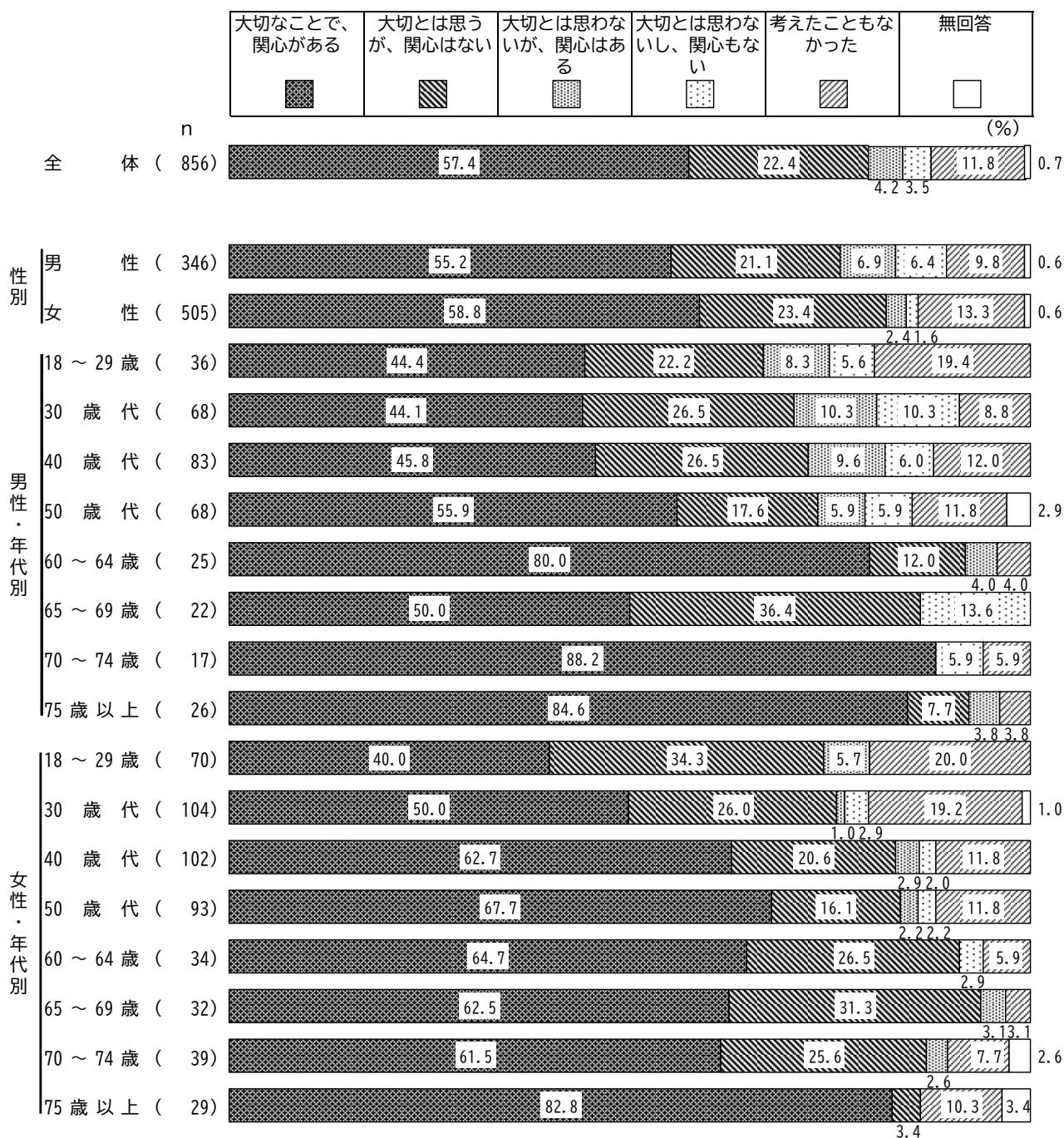
図 18-2-1 脱炭素社会への関心の有無



脱炭素社会への関心の有無について聞いたところ、「大切なことで、関心がある」(57.4%)が5割台半ば超えと最も高く、次いで「大切とは思いますが、関心はない」(22.4%)が2割強、「考えたこともなかった」(11.8%)が1割強と続いている。(図 18-2-1)

性・年代別にみると、「大切なことで、関心がある」は男性 70～74 歳（88.2%）で 9 割近くと高くなっている。（図 18-2-2）

図 18-2-2 脱炭素社会への関心の有無（性・年代別）

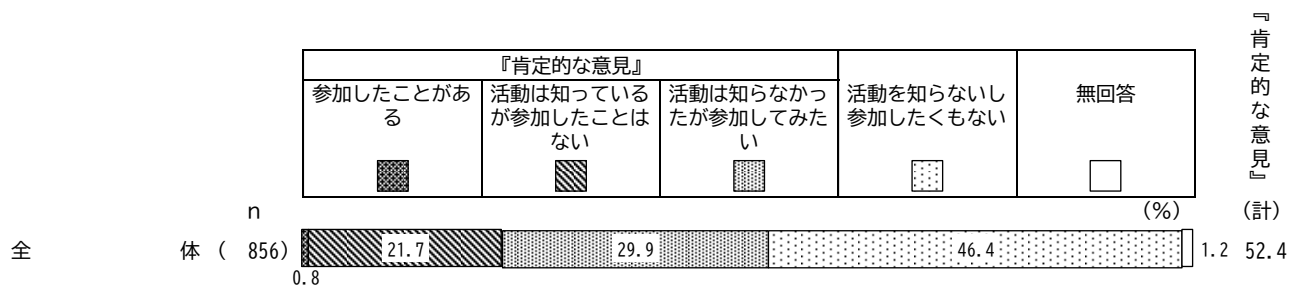


### (3) 環境保全イベントや活動への参加経験

◇『肯定的な意見』が5割強

問58 区では脱炭素社会の実現を促進するための取り組みを推進しています。あなたは、環境保全イベントや活動に参加したことがありますか。参加したことがある方は、参加した活動名や場所等を具体的にご記入ください。(〇は1つ)

図 18-3-1 環境保全イベントや活動への参加経験



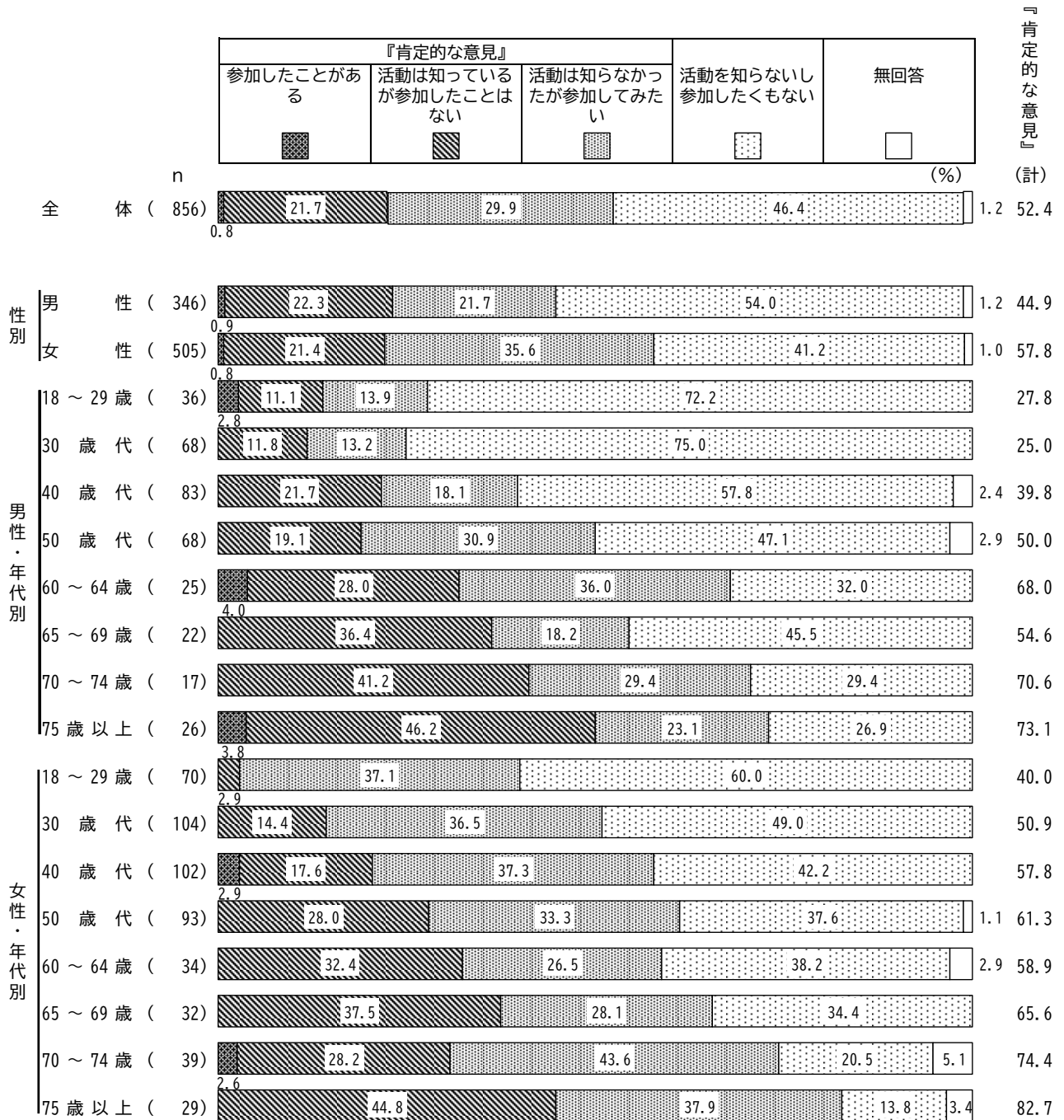
環境保全イベントや活動への参加経験について聞いたところ、「参加したことがある」(0.8%)、「活動は知っているが参加したことはない」(21.7%)、「活動は知らなかったが参加してみたい」(29.9%)を合わせた『肯定的な意見』(52.4%)が5割強となっている。一方、「活動を知らないし参加したくない」(46.4%)は4割台半ばを超えている。(図 18-3-1)

「参加したことがある」と回答した方は7人おり、主な意見として「地域のゴミ拾い。大学周辺」、「埋立処分場の見学会に参加」などが挙げられている。

性・年代別にみると、『肯定的な意見』は女性75歳以上(82.7%)で8割強と高くなっている。一方、「活動を知らないし参加したくもない」は男性30歳代(75.0%)で7割台半ばと高くなっている。

(図 18-3-2)

図 18-3-2 環境保全イベントや活動への参加経験(性・年代別)

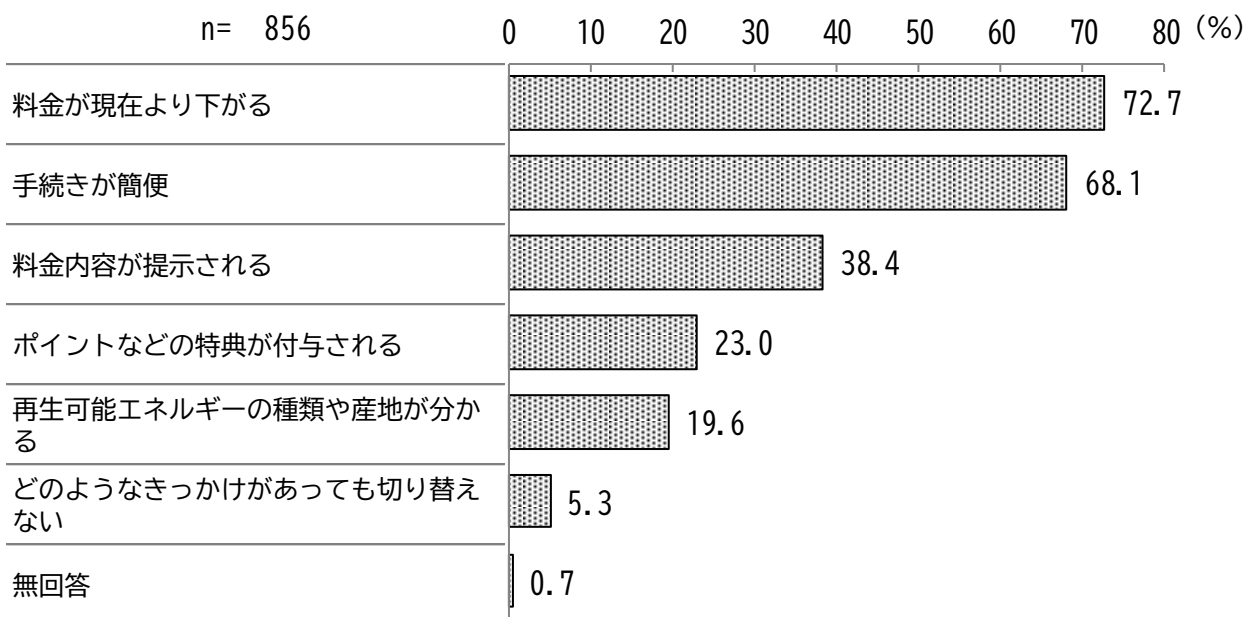


#### (4) 再生可能エネルギー電力に切り替えるきっかけ

◇「料金が現在より下がる」は7割強

問59 区では家庭や区内事業所の契約電力を再生可能エネルギー電力へ切り替えることを推進しています。あなたは、どのようなきっかけがあれば、契約電力を再生可能エネルギー電力に切り替えますか。(〇はいくつでも)

図 18-4-1 再生可能エネルギー電力に切り替えるきっかけ

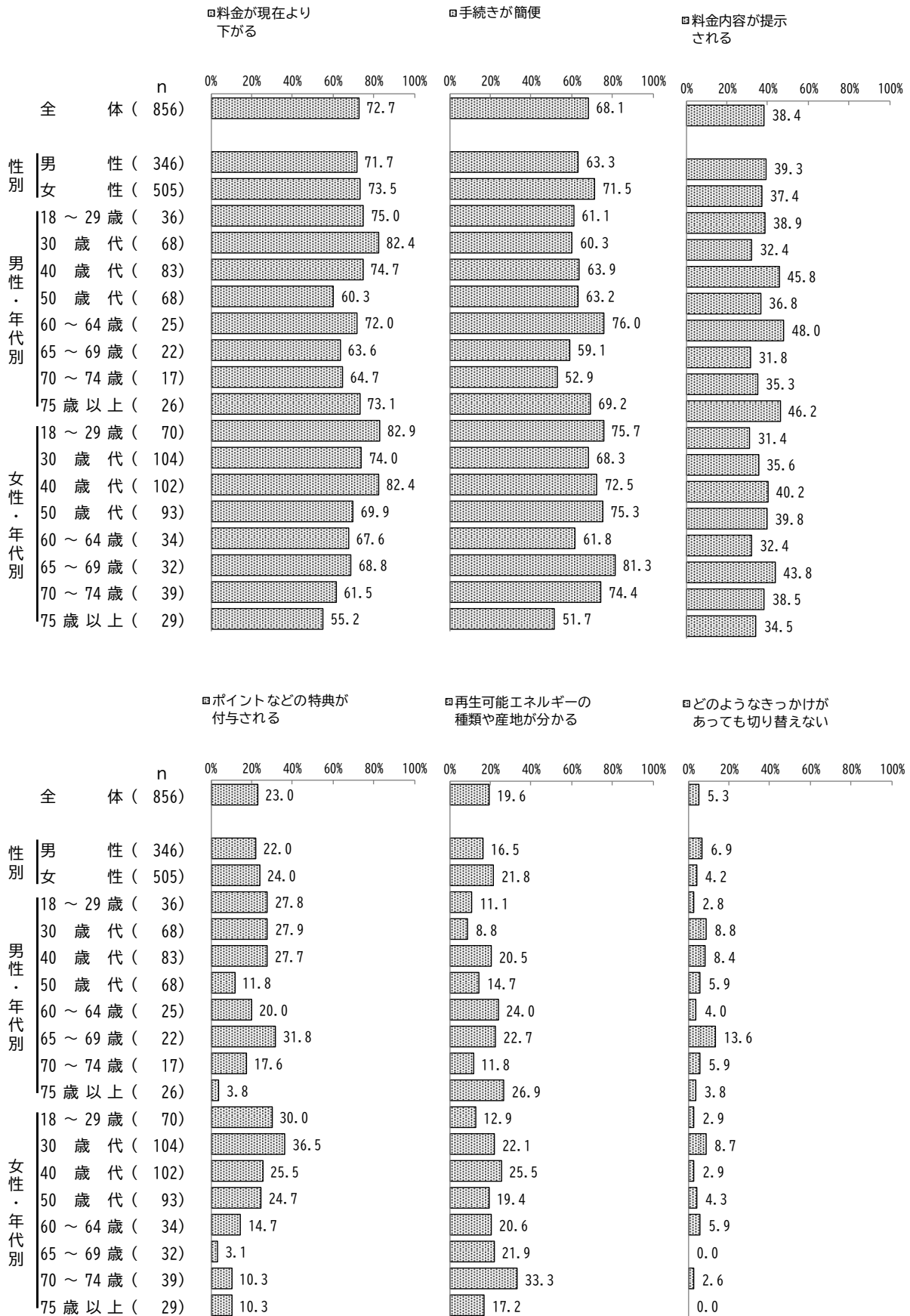


再生可能エネルギー電力に切り替えるきっかけについて聞いたところ、「料金が現在より下がる」(72.7%)が7割強と最も高く、次いで「手続きが簡便」(68.1%)が7割近く、「料金内容が提示される」(38.4%)が4割近くと続いている。(図 18-4-1)



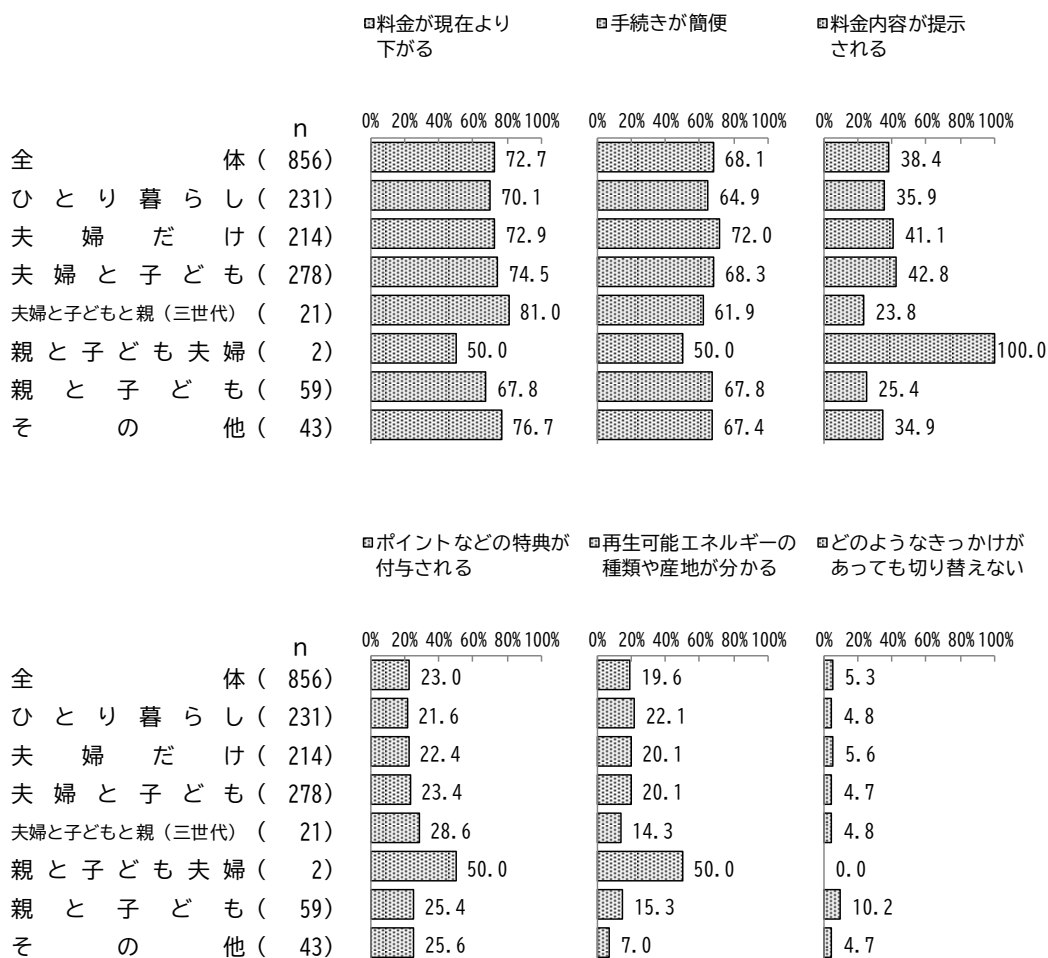
性・年代別にみると、「料金が現在より下がる」は女性 18～29 歳（82.9%）、男性 30 歳代・女性 40 歳代（82.4%）で 8 割強と高くなっている。また、「手続きが簡便」は女性 65～69 歳（81.3%）で 8 割強と高くなっている。（図 18-4-2）

図 18-4-2 再生可能エネルギー電力に切り替えるきっかけ（性・年代別）



世帯構成別にみると、「料金が現在より下がる」は夫婦と子どもと親（三世代）の世帯（81.0%）で8割台強と高くなっている。（図 18-4-3）

図 18-4-3 再生可能エネルギー電力に切り替えるきっかけ（世帯構成別）

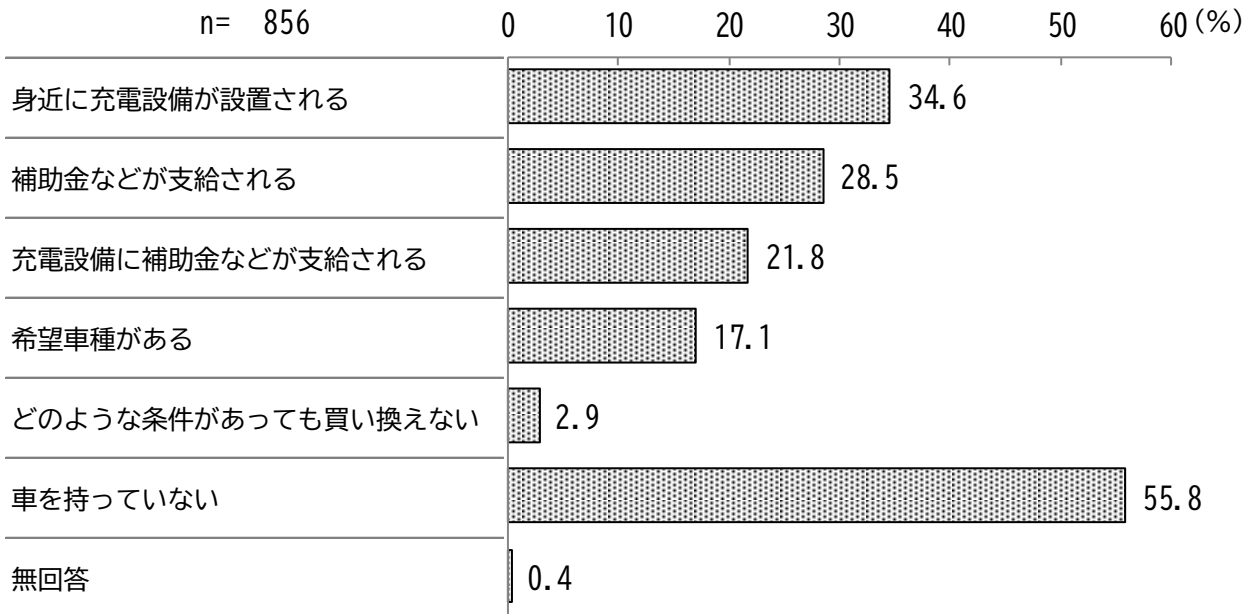


(5) 電気自動車等に買い換えるきっかけ

◇「車を持っていない」が5割台半ば

問60 区では電気自動車等の導入を推進しています。あなたは、どのような条件があれば、電気自動車等に買い換えますか。(〇はいくつでも)

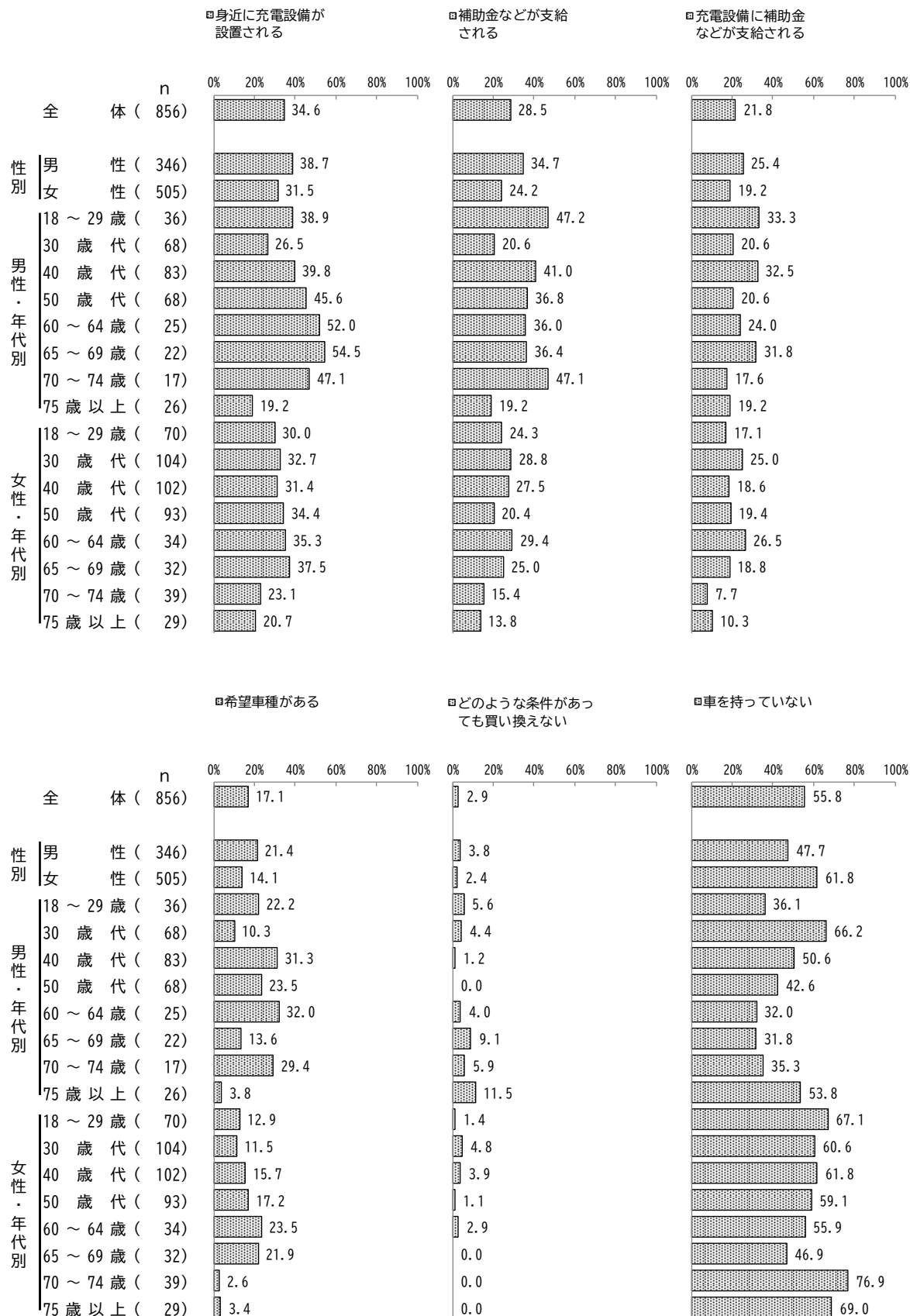
図 18-5-1 電気自動車等に買い換えるきっかけ



電気自動車等に買い換えるきっかけについて聞いたところ、「車を持っていない」(55.8%)が5割台半ばと最も高く、次いで「身近に充電設備が設置される」(34.6%)が3割台半ば近く、「補助金などが支給される」(28.5%)が3割近くと続いている。(図 18-5-1)

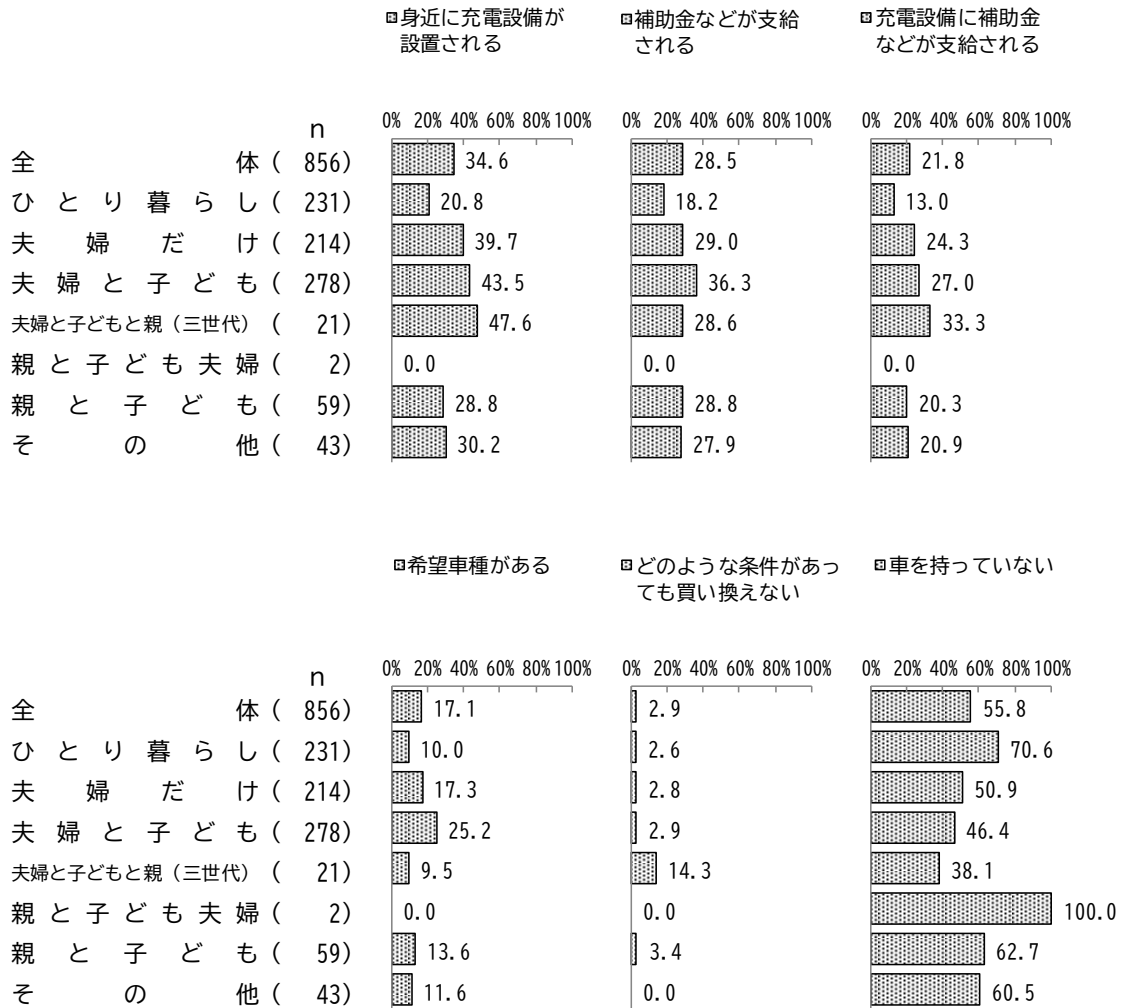
性・年代別にみると、「身近に充電設備が設置される」は男性 65～69 歳（54.5%）で 5 割台半ば近くと高くなっている。また、「補助金などが支給される」は男性 18～29 歳（47.2%）、男性 70～74 歳（47.1%）で 4 割台半ば超え、「充電設備に補助金などが支給される」は男性 18～29 歳（33.3%）で 3 割台半ば近くと高くなっている。（図 18-5-2）

図 18-5-2 電気自動車等買い換えるきっかけ（性・年代別）



世帯構成別にみると、夫婦と子どもと親(三世代)の世帯で「身近に充電設備が設置される」(47.6%)が4割台半ば超え、「充電設備に補助金などが支給される」(33.3%)が3割台半ば近くと高くなっている。(図 18-5-3)

図 18-5-3 電気自動車等買い換えるきっかけ(世帯構成別)



(6) 区内の温暖化対策や脱炭素に関する情報の取得媒体

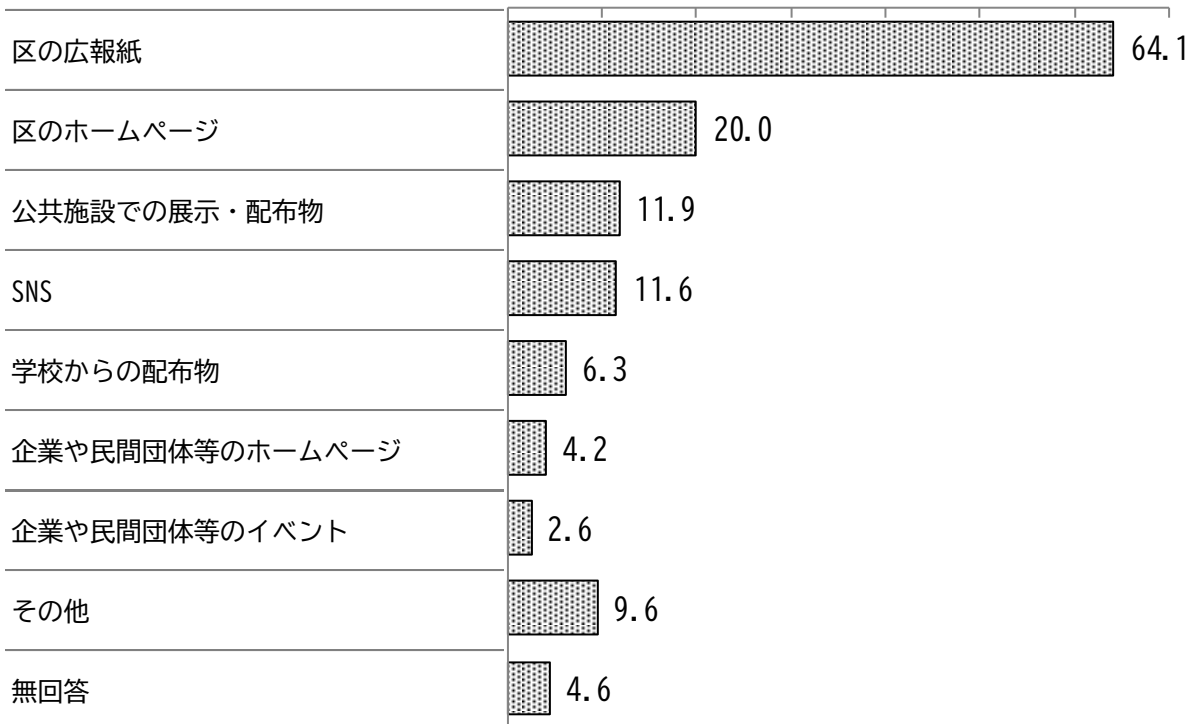
◇「区の広報紙」は6割台半ば近く

問61 あなたは、区内の温暖化対策や脱炭素に関する情報を主に何で知りますか。(○はいくつでも)

図 18-6-1 区内の温暖化対策や脱炭素に関する情報の取得媒体

n= 856

0 10 20 30 40 50 60 70 (%)



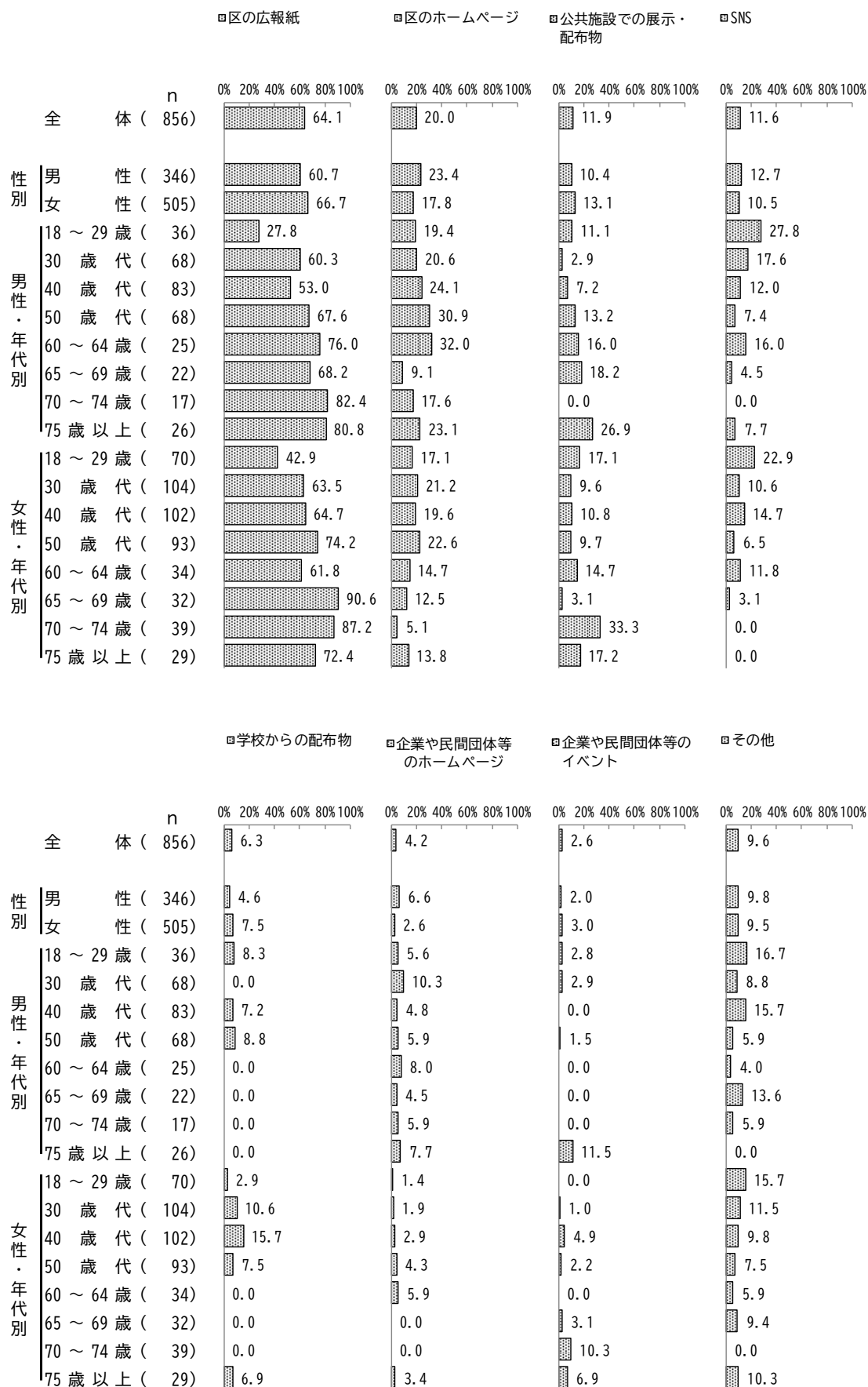
区内の温暖化対策や脱炭素に関する情報の取得媒体について聞いたところ、「区の広報紙」(64.1%)が6割台半ば近くと最も高く、次いで「区のホームページ」(20.0%)が2割と続いている。

(図 18-6-1)

その他を回答した方は 82 人おり、主な意見として「新聞」、「テレビ」、「家族から聞く」などが挙げられている。

性・年代別にみると、「区の広報紙」は女性 65～69 歳（90.6%）で約 9 割と高くなっている。また、「区のホームページ」は男性 60～64 歳（32.0%）で 3 割強と高くなっている。（図 18-5-2）

図 18-5-2 区内の温暖化対策や脱炭素に関する情報の取得媒体（性・年代別）



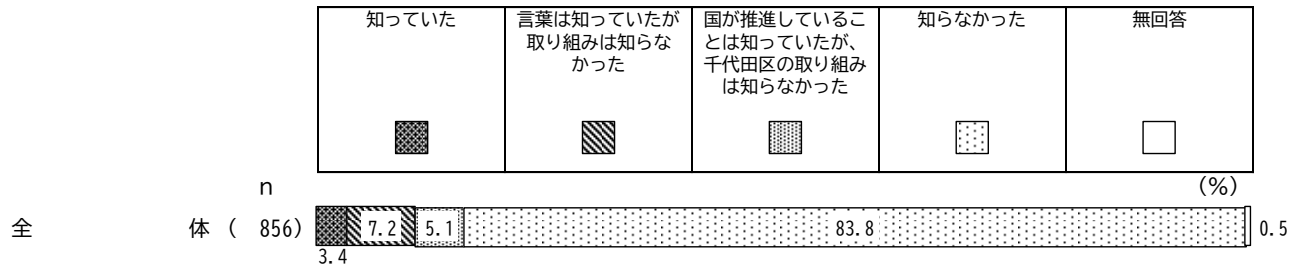
## 19. ウォークラブルなまちづくり

### (1) 千代田区のウォークラブルなまちづくりの認知度

◇千代田区のウォークラブルなまちづくりを「知らなかった」が8割台半ば近く

問62 千代田区のウォークラブルなまちづくりについて知っていましたか。(○は1つ)

図 19-1-1 千代田区のウォークラブルなまちづくりの認知度の認知度

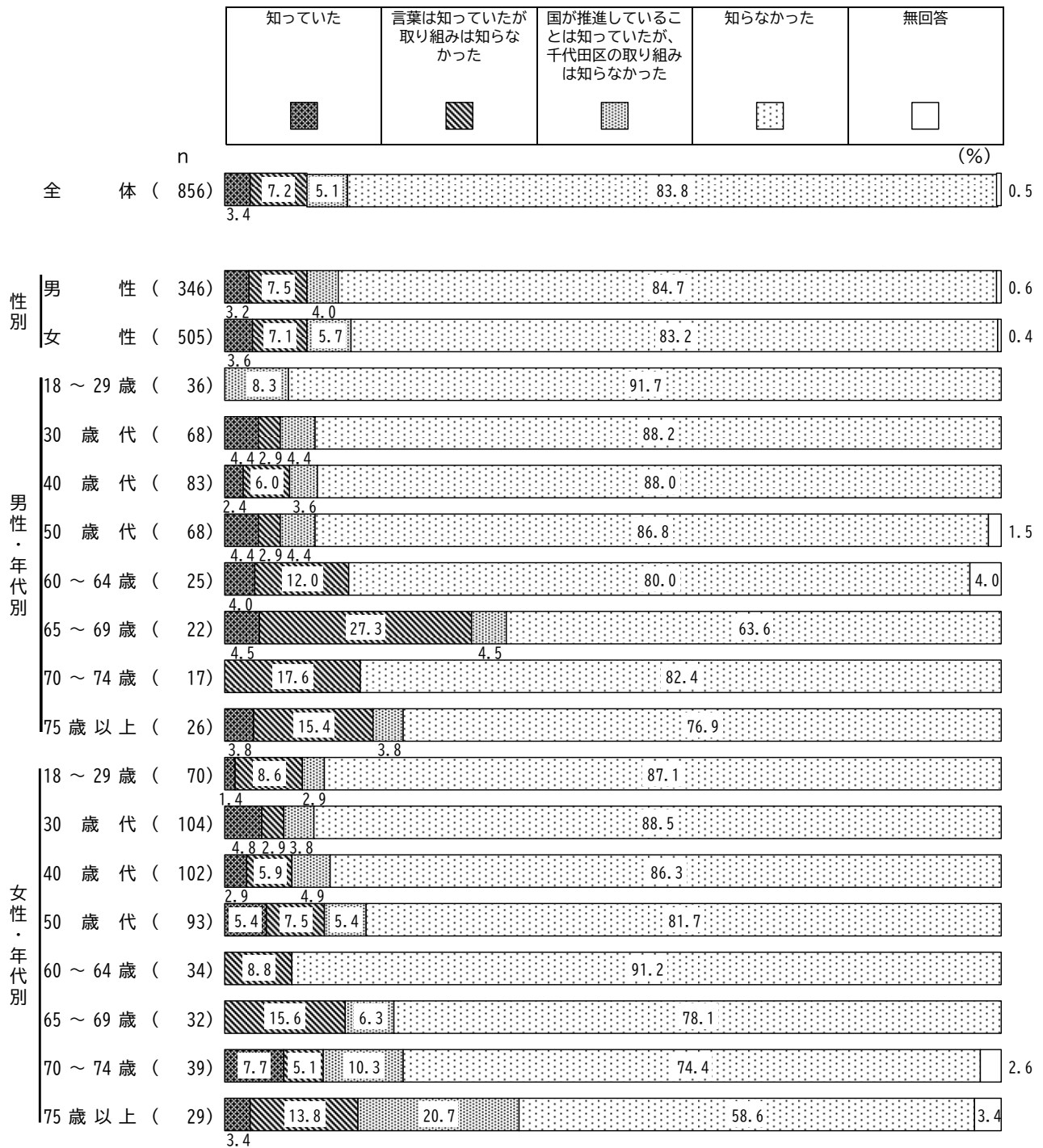


千代田区のウォークラブルなまちづくりの認知度について聞いたところ、「知らなかった」(83.8%)が8割台半ば近くで最も高く、次いで「言葉は知っていたが取り組みは知らなかった」(7.2%)、「国が推進していることは知っていたが、千代田区の取り組みは知らなかった」(5.1%)、「知っていた」(3.4%)となっている。(図 19-1-1)



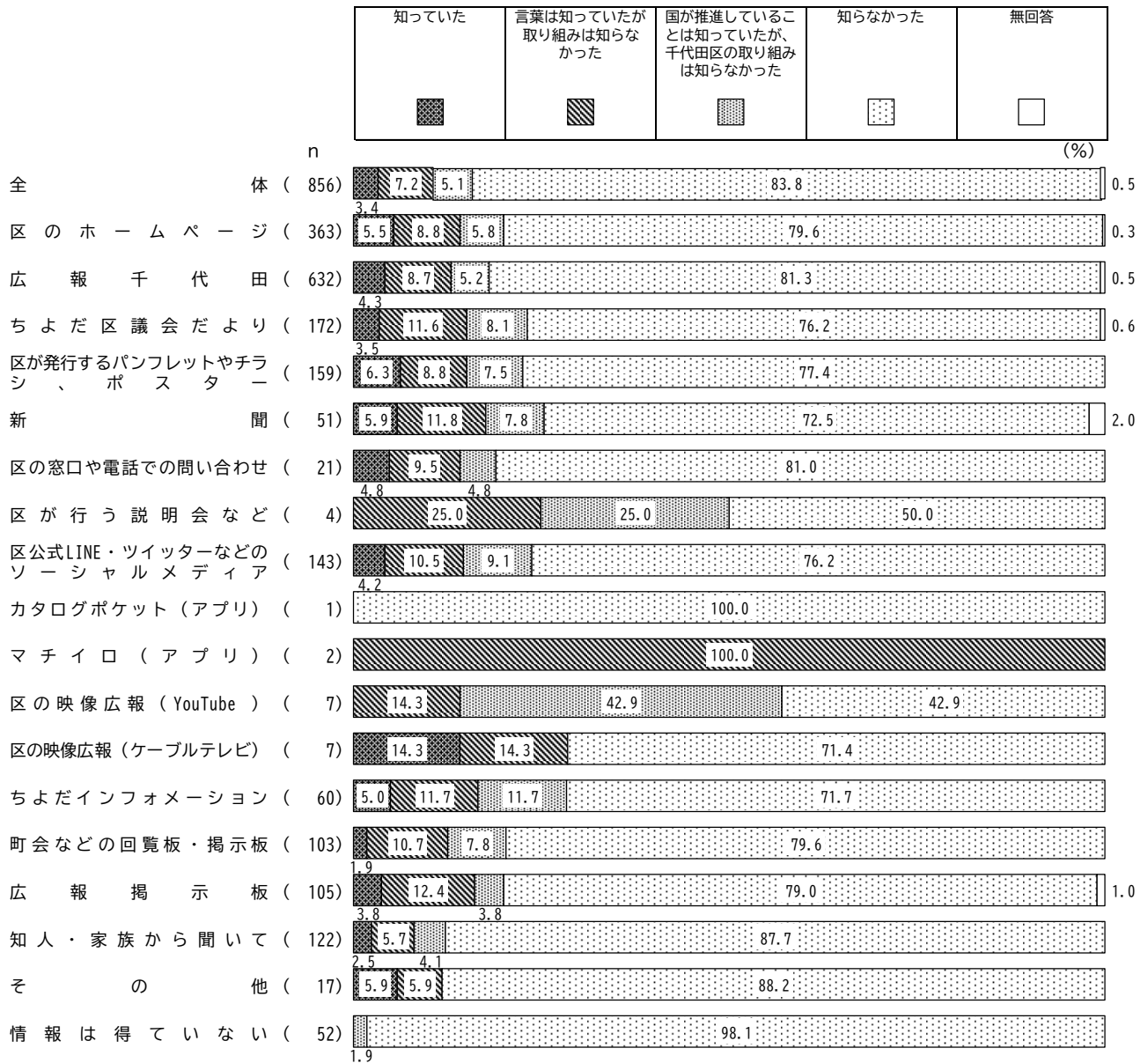
性・年代別にみると、千代田区のウォークラブルなまちづくりについて「言葉は知っていたが取り組みは知らなかった」は男性 65～69 歳（27.3%）で 2 割台半ばを超えと高くなっている。（図 19-1-2）

図 19-1-2 千代田区のウォークラブルなまちづくりの認知度（性・年代別）



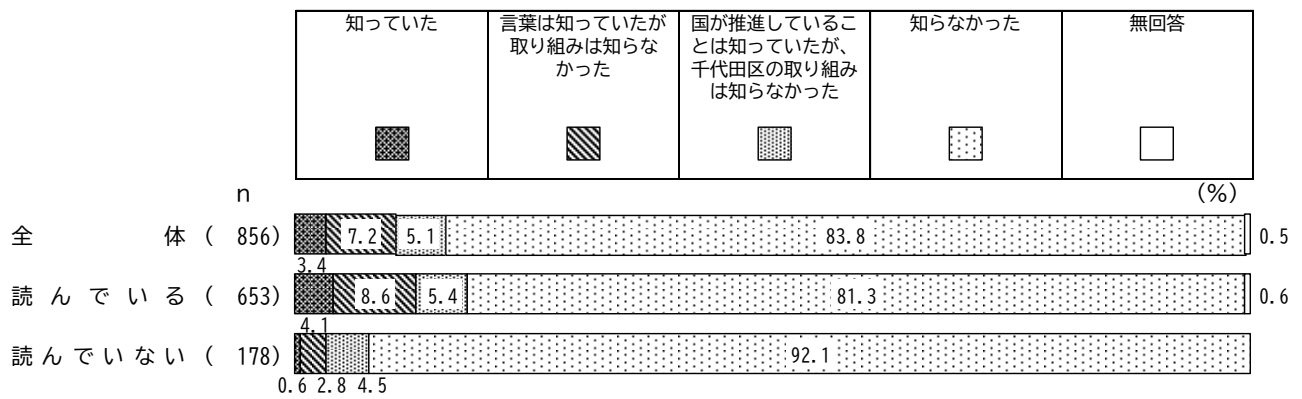
区政情報の取得媒体別にみると、千代田区のウォークラブルなまちづくりについて「知っていた」と答えた方の割合は区が発行するパンフレットやチラシ、ポスターから区政情報を取得している方の中（6.3%）で1割近くと高くなっている。（図19-1-3）

図19-1-3 千代田区のウォークラブルなまちづくりの認知度（区政情報の取得媒体別）



広報千代田の閲読の有無別にみると、千代田区のウォークアブルなまちづくりについて「知らなかった」方の割合は広報千代田を読んでいない方の中（92.1%）で9割強と高くなっている。（図 19-1-4）

図 19-1-4 千代田区のウォークアブルなまちづくりの認知度（広報千代田の閲読の有無別）

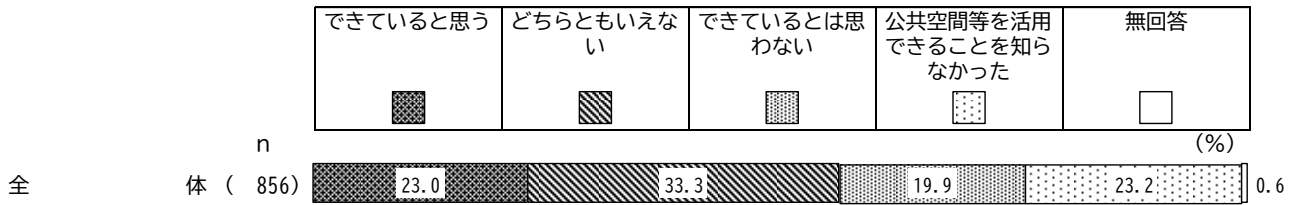


(2) 公共空間の活用

◇「どちらともいえない」が3割台半ば

問63 道路や公園等の公共空間は、地域活動やイベント等の様々な活動に活用できていると思いますか。(○は1つ)

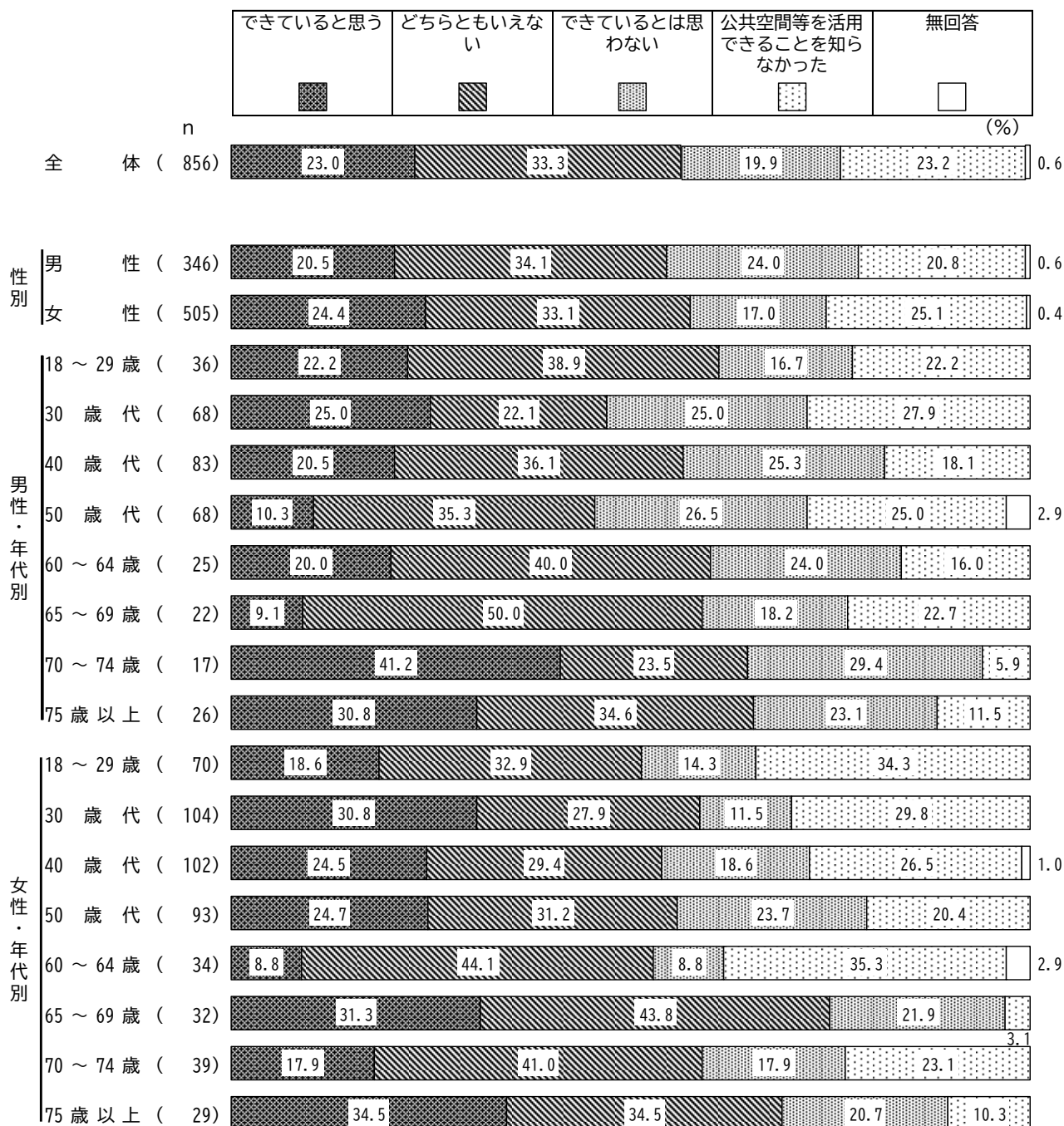
図 19-2-1 公共空間の活用



公共空間の活用について聞いたところ、「どちらともいえない」(33.3%)が3割台半ばと最も高く、次いで「公共空間等を活用できることを知らなかった」(23.2%)、「できていると思う」(23.0%)、「できているとは思わない」(19.9%)と続いている。(図 19-2-1)

性・年代別にみると、「できていると思う」は男性70～74歳（41.2%）で4割強と高くなっている。また、「公共空間等を利用できることを知らなかった」は女性60～64歳（35.3%）で3割台半ばと高くなっている。（図19-2-2）

図19-2-2 公共空間の利用（性・年代別）



(3) 公共空間等を活用したイベントの主催意向

◇公共空間等を活用したイベントを主催「したいとは思わない」が6割半ば近く

問64 公共空間等を活用して地域活動やイベントを主催してみたいと思いますか。(○は1つ)

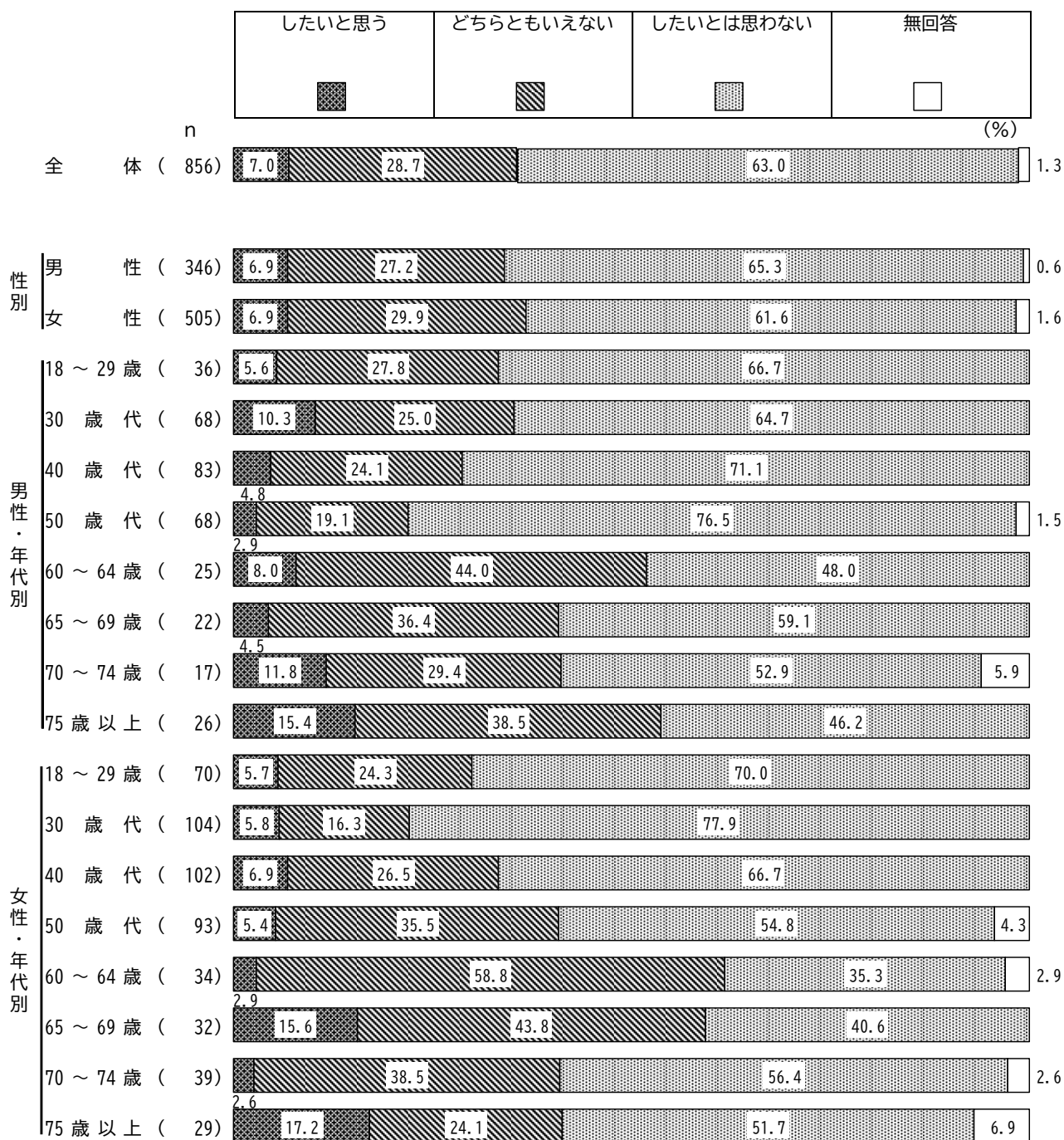
図 19-3-1 公共空間等を活用したイベントの主催意向



公共空間等を活用したイベントの主催意向について聞いたところ、「したいとは思わない」(63.0%)が6割台半ば近くと最も高く、次いで「どちらともいえない」(28.7%)、「したいと思う」(7.0%)となっている。(図 19-3-1)

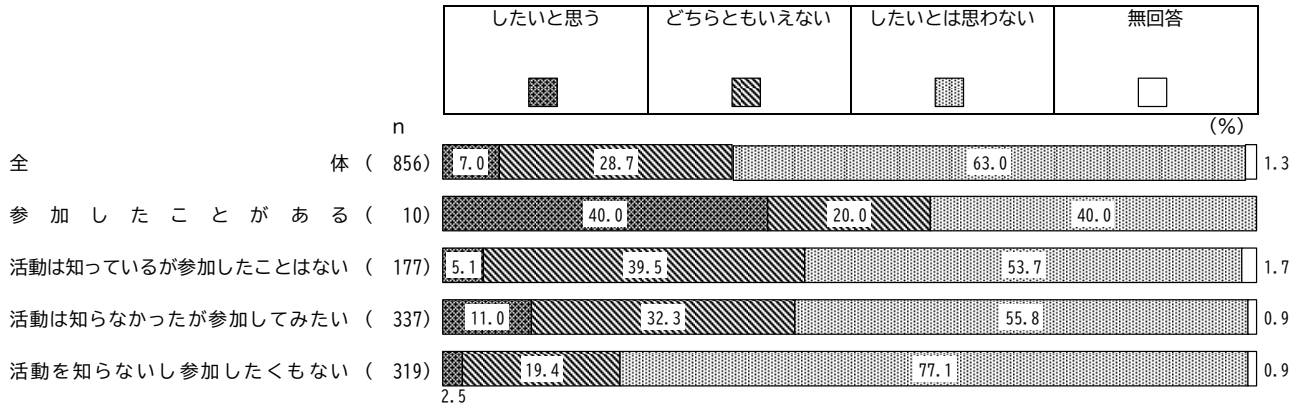
性・年代別にみると、公共空間等を活用したイベントを主催「したいと思う」は女性75歳以上(17.2%)で1割台半ばを超えと高くなっている。一方、公共空間等を活用したイベントを主催「したいとは思わない」は女性30歳代(77.9%)で7割台半ばを超えと高くなっている。(図19-3-2)

図19-3-2 公共空間等を利用したイベントの主催意向(性・年代別)



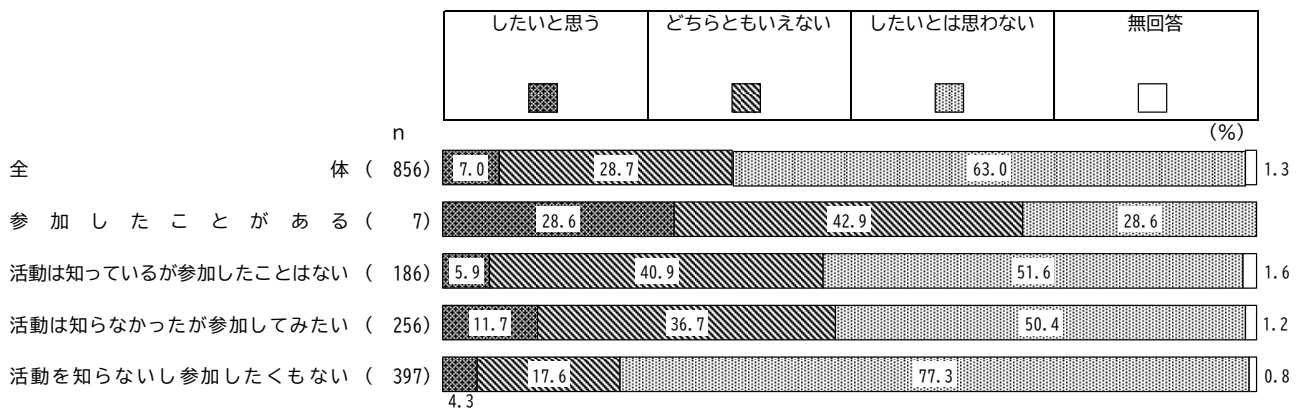
生物多様性の保全活動等への参加経験別にみると、公共空間等を活用したイベントを主催「したいと思う」と答えた方の中で生物多様性の保全活動等に参加したことがあると答えた方（40.0%）は4割と高くなっている。（図 19-3-3）

図 19-3-3 公共空間等を利用したイベントの主催意向（生物多様性の保全活動等への参加経験別）



環境保全イベントや活動への参加経験別にみると、公共空間等を活用したイベントを主催「したいと思う」と答えた方の中で環境保全イベントや活動は知らなかったが参加してみたいと答えた方（11.7%）は1割強とやや高くなっている。（図 19-3-4）

図 19-3-4 公共空間等を利用したイベントの主催意向（環境保全イベントや活動への参加経験別）





### (3-1) 主催してみたい活動

(問64で「1. したいと思う」とお答えの方に)

問64-1 どのような活動をしてみたいですか。(ご自由にご記入ください)

公共空間等を利用したイベントの主催意向について「したいと思う」とお答えの方に、どのような活動をしてみたいかを聞いたところ、43人(50件)の記入があった。記入された主な意見は以下のとおりである。

#### 1. 運動系(10件)

- ・小さな運動会、走ったり、ドッチボールをしたりする
- ・マラソン大会
- ・ヨガ

#### 2. 文科系イベント(8件)

- ・子供達の発表や実験学習のイベント等
- ・アートの作品展や、イベント
- ・環境イベント(資源ゴミのポイントで買えるマルシェとか)

#### 3. 祭りなど(7件)

- ・町会行事(祭・縁日・盆踊り等)
- ・お祭りやカレーグランプリ
- ・祭りなど

#### 4. フリーマーケットなど(7件)

- ・ガレージセール
- ・フリーマーケットバザー朝市
- ・リサイクルショップ

#### 5. 子どもと参加できるもの(5件)

- ・子供たちとふれあいたい
- ・子どもを対象としたドローンの体験教室
- ・子供達とできる活動

#### 6. その他(13件)

- ・人間と動植物の共存
- ・外国人との交流
- ・パソコン教室

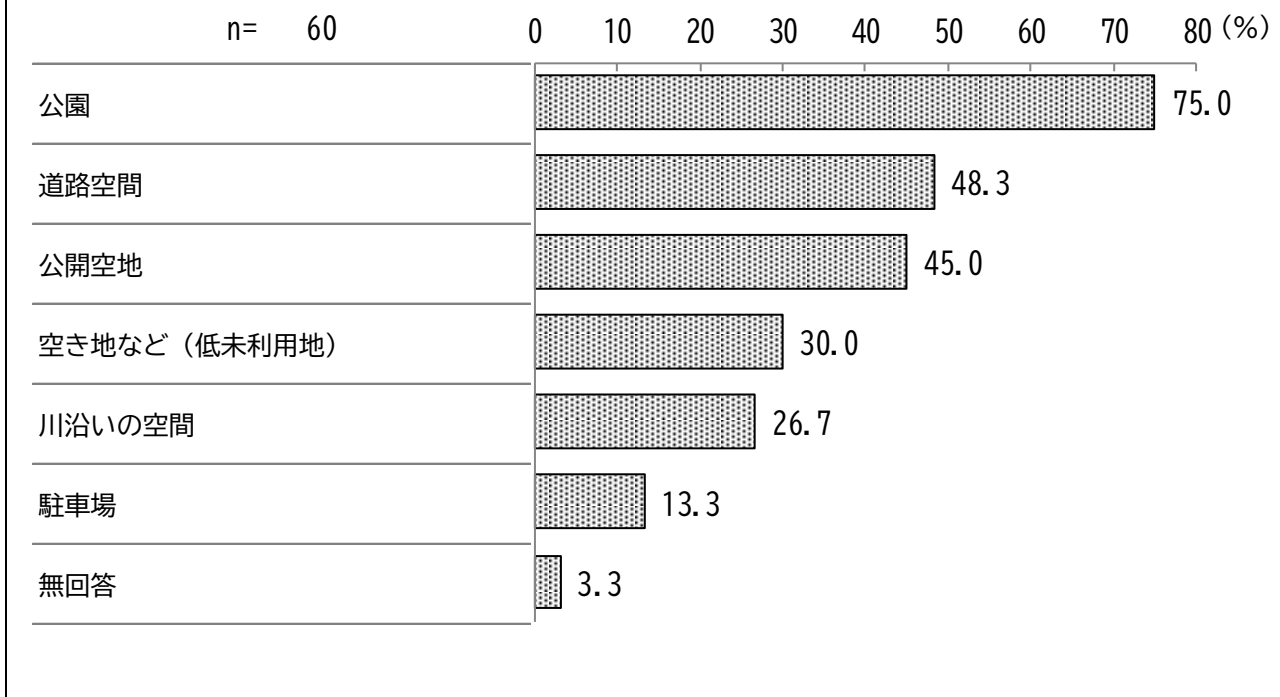
(3-2) 使用できるとよいと思う場所

◇「公園」が7割台半ば

(問64で「1. したいと思う」とお答えの方に)

問64-2 どのような場所が使用できるとよいと思いますか。(〇はいくつでも)

図 19-3-5 使用できるとよいと思う場所



使用できるとよいと思う場所について聞いたところ、「公園」(75.0%)が7割台半ばで最も高く、次いで「道路空間」(48.3%)、「公開空地」(45.0%)と続いている。(図 19-3-5)

### (3-3) 主催したくない理由

(問64で「3. したいとは思わない」とお答えの方に)  
問64-3 そう思う理由をお聞かせください。(ご自由にご記入ください)

公共空間等を利用したイベントの主催意向について「したいとは思わない」とお答えの方に、主催したくない理由を聞いたところ、292人(303件)の記入があった。記入された主な意見は以下のとおりである。

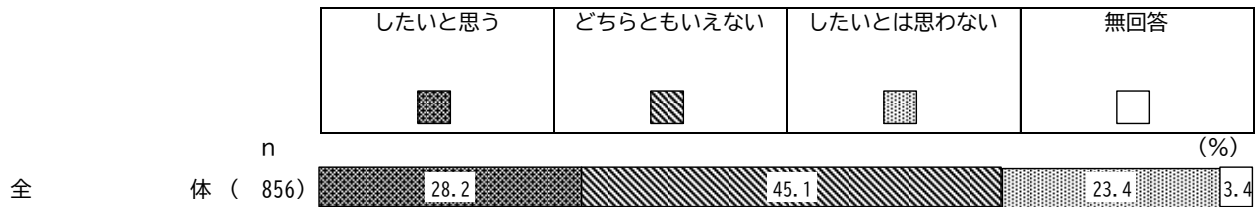
1. 主催はやりたくない(できない)(61件)
  - ・主催するスキル、経験がない
  - ・表立ってイベントの中心人物となることに抵抗がある
2. 時間に余裕がない(54件)
  - ・時間がないです。子育て中なので
  - ・時間的に主催する余裕がない
  - ・多くの労力や時間が必要になると思われるため
3. 主催したいイベントがない(50件)
  - ・そうしたいと思う内容のイベントがないから
  - ・何を主催したら良いのか分からないので
  - ・イベントを主催するほど、協力者等はいないし、行いたいと思う内容はないので
4. 主催するのは大変(面倒)(23件)
  - ・主催するのは大変そうだから
  - ・イベント企画や手続きが大変
  - ・面倒くさい
5. 興味・関心がない(23件)
  - ・地域活動にあまり関心がない
  - ・イベントがあれば参加してみたいが、主催には関心がない
  - ・興味が無いから
6. 健康面、年齢面で無理(15件)
  - ・高齢のため
  - ・年令的な事を考えると、気力、体力がありません
  - ・身体が不自由
7. その他(77件)
  - ・地域活動やイベントに人が集まらないしつづける事がむずかしい
  - ・個人の自立した生活の確立に努めているので、それ以外の交流は負担と感じる
  - ・する理由や目的がない

(4) 公共空間等を活用した地域活動やイベントへの参加意向

◇「どちらともいえない」が4割台半ば

問65 公共空間等を活用した地域活動やイベントに参加してみたいと思いますか。(○は1つ)

図 19-4-1 公共空間等を活用した地域活動やイベントへの参加意向

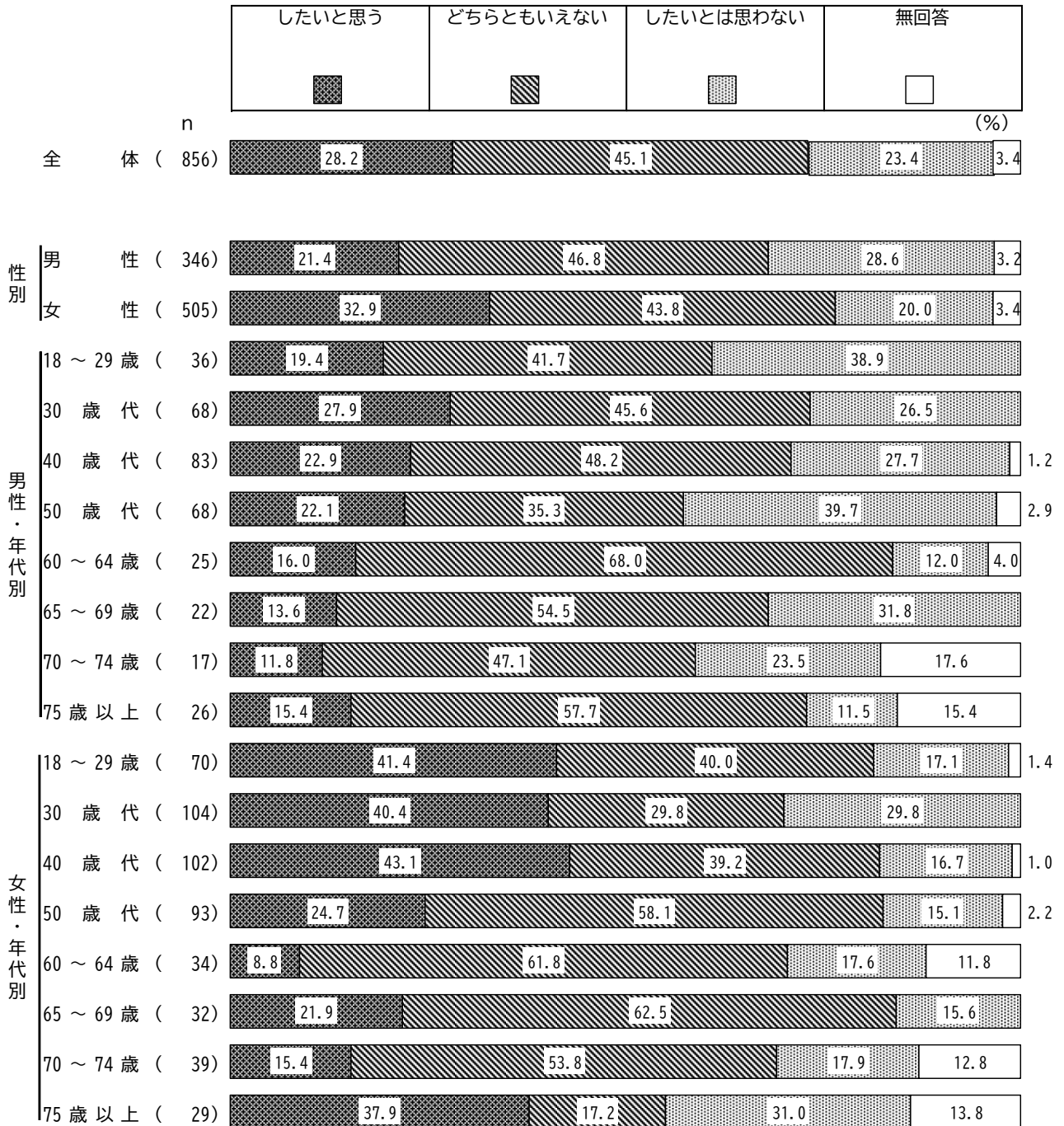


公共空間等を活用した地域活動やイベントへの参加意向について聞いたところ、「どちらともいえない」(45.1%)が4割台半ばと最も高く、次いで「したいと思う」(28.2%)、「したいとは思わない」(23.4%)となっている。(図 19-4-1)

性・年代別にみると、公共空間等を活用した地域活動やイベントに参加「したいと思う」は女性40歳代（43.1%）で4割台半ば近くと高くなっている。一方、公共空間等を活用した地域活動やイベントに参加「したいとは思わない」は男性50歳代（39.7%）で4割弱と高くなっている。

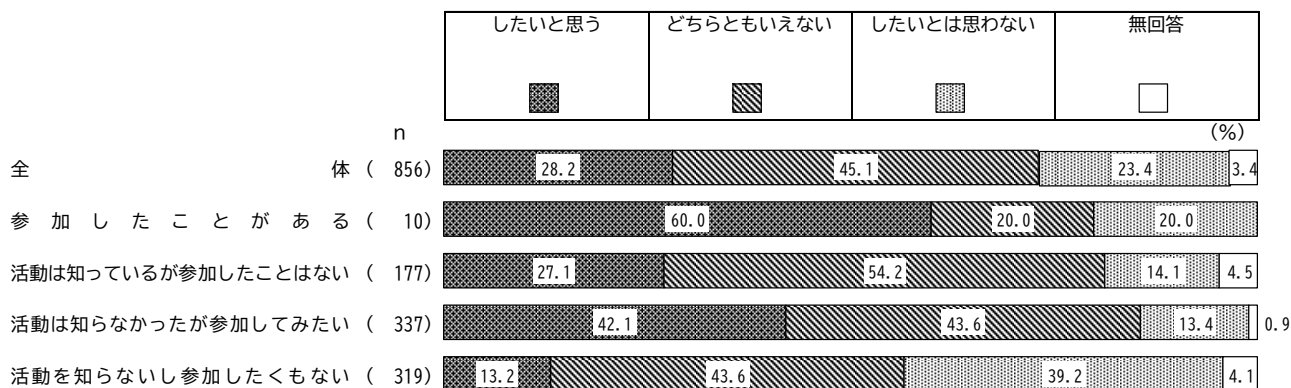
（図19-4-2）

図19-4-2 公共空間等を活用した地域活動やイベントへの参加意向（性・年代別）



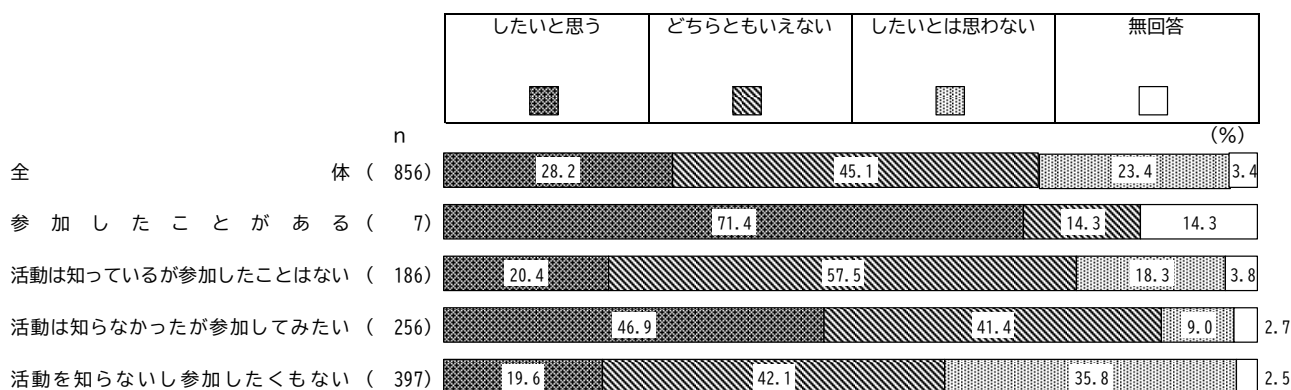
生物多様性の保全活動等への参加経験別にみると、公共空間等を活用した地域活動やイベントに参加「したいと思う」と答えた方の中で生物多様性の保全活動等に参加したことがあると答えた方（60.0%）は6割と高くなっている。一方、公共空間等を活用した地域活動やイベントに参加「したいとは思わない」と答えた方の中で生物多様性の保全活動等の活動を知らないし参加したくもないと答えた方（39.2%）は4割弱と高くなっている。（図 19-4-3）

図 19-4-3 公共空間等を活用した地域活動やイベントへの参加意向  
（生物多様性の保全活動等への参加経験別）



環境保全イベントや活動への参加経験別にみると、公共空間等を活用した地域活動やイベントに参加「したいと思う」と答えた方の中で環境保全イベントや活動は知らなかったが参加してみたいと答えた方（46.9%）は4割台半ばを超えと高くなっている。一方、公共空間等を活用した地域活動やイベントに参加「したいとは思わない」と答えた方の中で環境保全イベントや活動を知らないし参加したくもないと答えた方（35.8%）は3割台半ばと高くなっている。（図 19-4-4）

図 19-4-4 公共空間等を活用した地域活動やイベントへの参加意向  
（環境保全イベントや活動への参加経験別）



## (4-1) 参加してみたい活動

(問65で「1. したいと思う」とお答えの方に)

問65-1 どのような活動をしてみたいです。 (ご自由にご記入ください)

公共空間等を活用した地域活動やイベントへの参加意向について「したいと思う」とお答えの方に、どのような活動をしてみたいかを聞いたところ、150人(172件)の記入があった。記入された主な意見は以下のとおりである。

### 1. 祭り・イベント (63件)

- ・アートイベント
- ・花火大会(他区のような大会がないので) 野外コンサート、野外映画上映会
- ・SDGsに関連したイベント等
- ・海外の文化、食文化など幅広く広められる様なイベントなど

### 2. 子どもと参加できるもの (26件)

- ・子どもが楽しめるイベントや活動
- ・子どもが休日にあそべるようなイベント
- ・子どもと大学生が関わる「遊び体験」(ボランティアで行う)
- ・子供向け野外あそび体験会等

### 3. 運動系 (23件)

- ・スポーツ(ヨガなど)
- ・ウォーキング
- ・ラジオ体操、太極拳
- ・みんなで気軽にできるスポーツ大会など(ゆるスポーツ)

### 4. フリーマーケットなど (13件)

- ・リサイクルマーケット
- ・蚤の市のようなフリーマーケット
- ・フリーマーケット等への出品など、簡単にできて人と交流できるイベントへの参加
- ・自宅にある品物をほしい人に使ってもらったりゆずってもらえる交換の場所

### 5. その他 (47件)

- ・面白そうであれば何でも
- ・草花の手入れ
- ・千代田区民の交流 商店との交流
- ・区内にいる生物の生態をプロジェクションマッピングで見せる

## (4-2) 参加したくない理由

(問65で「3. したいとは思わない」とお答えの方に)  
問65-2 そう思う理由をお聞かせください。(ご自由にご記入ください)

公共空間等を活用した地域活動やイベントへの参加意向について「したいとは思わない」とお答えの方に、参加したくない理由を聞いたところ、105人(106件)の記入があった。記入された主な意見は以下のとおりである。

1. 時間がない(24件)
  - ・時間とバイタリティがない
  - ・休日に行われることが多いのでゆっくり休みたい
  - ・時間的な余裕もなく 時間があれば 身体を休めたい
  - ・毎月が趣味で忙しい為
2. 興味・関心がない(19件)
  - ・イベントごとにあまり関心がないため
  - ・全く興味がない
  - ・人との交流に興味がないから
  - ・参加したい内容次第であってイベントその活動そのものには興味でません
3. 人付き合いの面(13件)
  - ・感染予防のため他人とかかわりたくない
  - ・人と交流するのが嫌いだから
  - ・コロナが完全終息するまではイベントなどに参加するつもりは無い
  - ・個人の自立した生活の確立に努めているので、それ以外の交流は負担と感じる
4. 健康・年齢面(7件)
  - ・年令的に無理です
  - ・足が悪いため
  - ・高齢で膝の痛み等がある為
  - ・体力に自信がないから
5. その他(43件)
  - ・いつも人が集まらない
  - ・動機がない
  - ・一緒に行く人がいないため
  - ・内容がわからないから

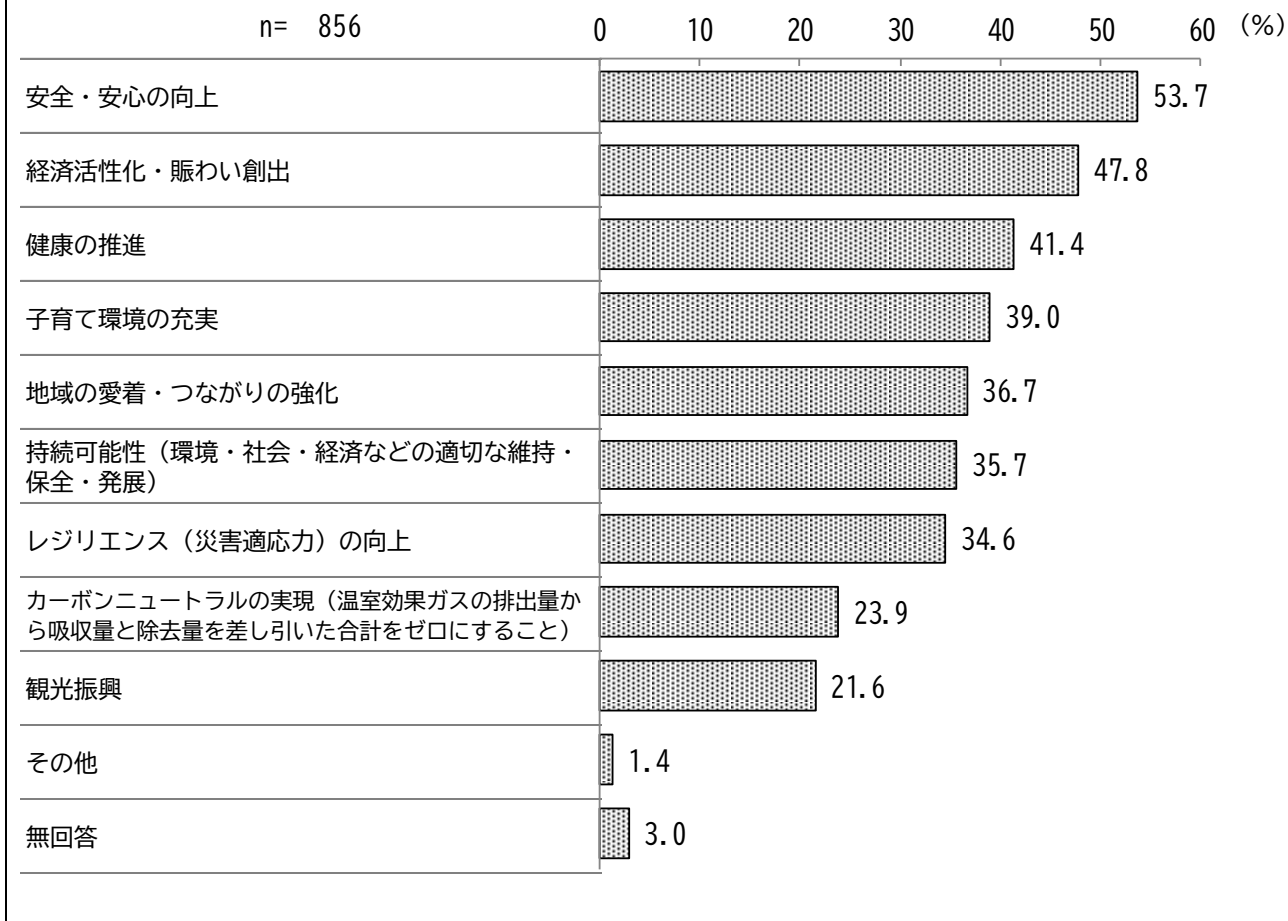


(5) ウォーカブルなまちづくりを通じて豊かになってほしいこと

◇「安全・安心の向上」は5割台半ば近く

問66 ウォーカブルなまちづくりを通じて、どのように生活が豊かになればよいと思いますか。  
(〇はいくつでも)

図 19-5-1 ウォーカブルなまちづくりを通じて豊かになってほしいこと

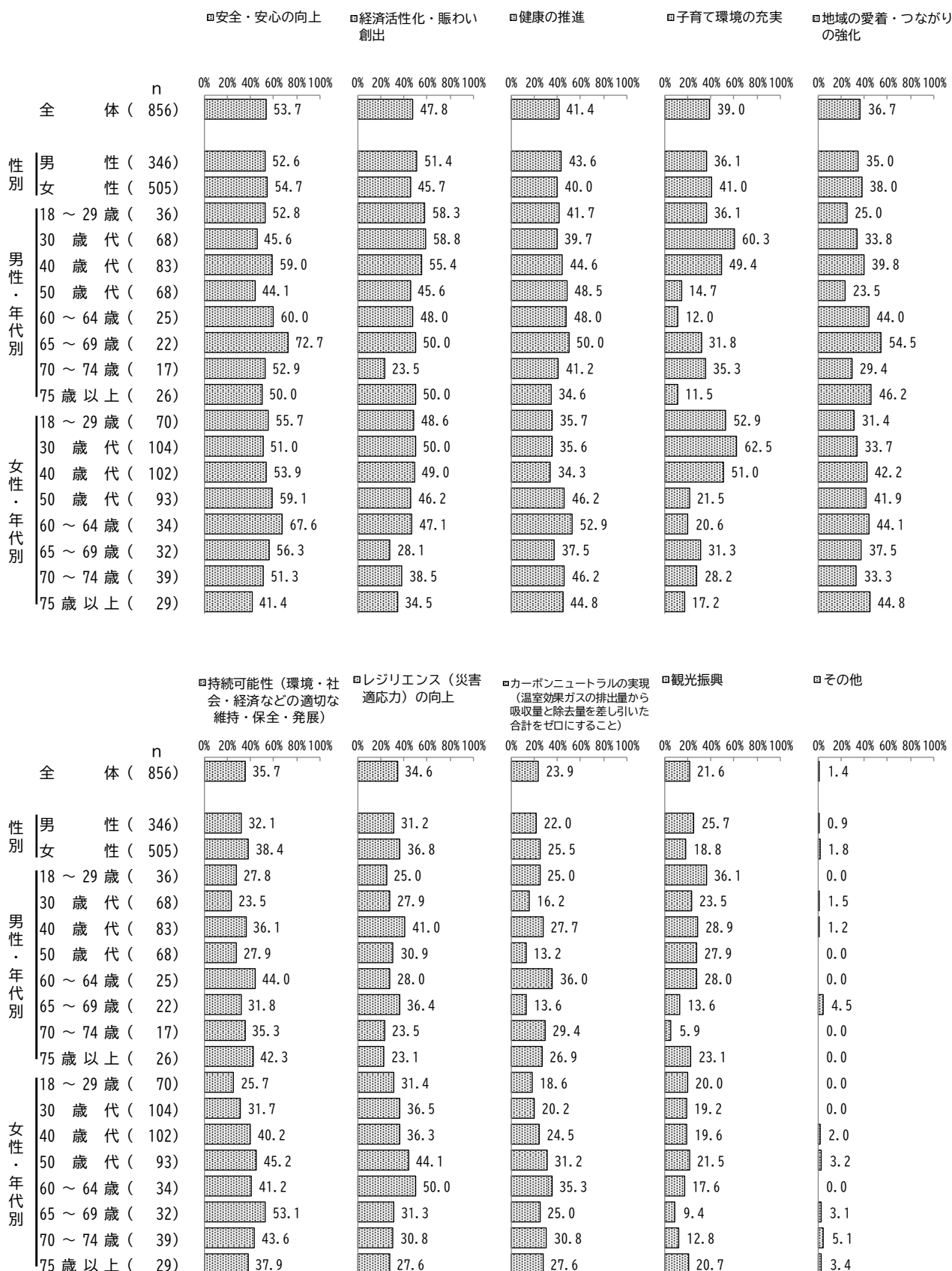


ウォーカブルなまちづくりを通じて豊かになってほしいことについて聞いたところ、「安全・安心の向上」（53.7%）が5割台半ば近くと最も高く、次いで「経済活性化・賑わい創出」（47.8%）、「健康の推進」（41.4%）、「子育て環境の充実」（39.0%）が続いている。（図 19-5-1）

その他を回答した方は12人おり、主な意見として「住民間の交流の向上」、「このままでOKです」、「町が清潔になること」、「賑わいは必要ないです」などが挙げられている。

性・年代別にみると、「安全・安心の向上」は男性 65～69 歳（72.7%）で7割強と高くなっている。また、「経済活性化・賑わい創出」は男性 30 歳代（58.8%）、男性 18～29 歳（58.3%）で6割近く、「健康の推進」は女性 60～64 歳（52.9%）で5割強と高くなっている。（図 19-5-2）

図 19-5-2 ウォーカブルなまちづくりを通じて豊かになってほしいこと（性・年代別）



世帯構成別にみると、「子育て環境の充実」は夫婦と子ども（59.4%）の世帯で6割弱と高くなっている。（図 19-5-3）

図 19-5-3 ウォーカブルなまちづくりを通じて豊かになってほしいこと（世帯構成別）

